

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		学部/学科の設置							
フリガナ 設置者		カッポリホリジン ナムリサンギョウカクエン 学校法人中村産業学園							
フリガナ 大学の名称		キョウシュウサンギョウカク 九州産業大学							
大学本部の位置		福岡県福岡市東区松香台二丁目3番1号							
大学の目的		九州産業大学は、教育基本法に則り、学校教育法の定めるところに従って大学教育を施し学術の理論及び応用を研究、教授すべく、建学の理想を「産学一如」と定め、この建学の理想のもとに、建学の理念として「市民的自覚と中道精神の振興」及び「実践的な学風の確立」を掲げている。この建学の理想と理念のもと、広く産業界の期待に応えられる“実践力”“熱意”“豊かな人間性”を持った心身共に健全な国際的教養人を育成することを目的とする。							
新設学部等の目的		工学の素養を基盤に、社会との繋がりを意識し、関連する分野の知識と技術を融合・活用できる人材を養成する。AIやデジタル技術などの先端技術を用いながら、情報に付加価値を加えてわかりやすく発信する力を備え、企業や社会のニーズに応じた高付加価値のアウトプットを生み出す能力を重視する。さらに、協働を促進するコミュニケーション力を高めることにより、多文化・多分野の環境にも柔軟に対応できる人材を養成する。プロジェクトを円滑に管理・運営し、その成果を社会実装へと導くことで、複雑化する社会に貢献する技術者や専門職の輩出を目指す。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次人	人			年 月 第 年次	
	理工学部								福岡県福岡市東区松香台二丁目3番1号
	スマートコミュニケーション工学科	4	50	—	200	学士(工学)	工学関係	令和8年4月第1年次	
	計		50	—	200				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		九州産業大学 理工学部 機械電気創造工学科 (135) (令和7年4月届出済み) 理工学部 機械工学科(廃止) (△ 130) 電気工学科(廃止) (△ 100) ※令和8年4月学生募集停止 地域共創学部 地域づくり学科〔定員増〕 (10) (令和8年4月) 人間科学部 臨床心理学科〔定員増〕 (15) (令和8年4月) スポーツ健康科学科〔定員増〕 (20) (令和8年4月) 九州産業大学大学院 令和7年4月 収容定員の変更に係る学則変更届出済み 経済・ビジネス研究科現代ビジネス専攻博士前期課程〔定員減〕 (△9) (令和7年4月届出済み) 芸術研究科造形表現専攻博士前期課程〔定員増〕 (11) (令和7年4月届出済み) 国際文化研究科国際文化専攻博士前期課程〔定員増〕 (3) (令和7年4月届出済み) 情報科学研究科情報科学専攻博士前期課程〔定員減〕 (△5) (令和7年4月届出済み)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	理工学部 スマートコミュニケーション工学科	200科目	51科目	11科目	262科目	124単位			

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設	理工学部 スマートコミュニケーション工学科	人	人	人	人	人	人	人	
		5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	1 (1)	282 (282)	
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)		大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		小計（a～b）	5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)		
		c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		計（a～d）	5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)		
	理工学部 機械電気創造工学科	8 (8)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	14 (14)	1 (1)	290 (290)	
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	14 (14)		大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 8人 令和7年4月 届出済み
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		小計（a～b）	8 (8)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	14 (14)		
		c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		計（a～d）	8 (8)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	14 (14)		
	計	13 (13)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	22 (22)	2 (2)	－ －	
既存	経済学部 経済学科	15 (15)	7 (7)	6 (6)	2 (2)	30 (30)	0 (0)	216 (216)	
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	15 (15)	7 (7)	6 (6)	2 (2)	30 (30)		大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 15人
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		小計（a～b）	15 (15)	7 (7)	6 (6)	2 (2)	30 (30)		
		c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		計（a～d）	15 (15)	7 (7)	6 (6)	2 (2)	30 (30)		
	商学部 経営・流通学科	22 (22)	13 (13)	1 (1)	0 (0)	36 (36)	0 (0)	217 (217)	
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	22 (22)	13 (13)	1 (1)	0 (0)	36 (36)		大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 18人
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		小計（a～b）	22 (22)	13 (13)	1 (1)	0 (0)	36 (36)		
		c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		計（a～d）	22 (22)	13 (13)	1 (1)	0 (0)	36 (36)		

既 設
--

既 設
--

既 設
--

既 設 <

既 設 <

既 設 <

既 設 分	その他			1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 —人	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)						
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	計（a～d）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)						
	計			158 (158)	76 (76)	59 (59)	8 (8)	301 (301)	22 (22)	－ －		
	合 計			171 (171)	81 (81)	62 (62)	9 (9)	323 (323)	24 (24)	－ －		
	職 種			専 属			その他			計		
事務職員			173 (173)			138 (138)			311 (311)			
技術職員			1 (1)			9 (9)			10 (10)			
図書館職員			5 (5)			10 (10)			15 (15)			
その他の職員			0 (0)			0 (0)			0 (0)			
指導補助者			0 (0)			0 (0)			0 (0)			
計			179 (179)			157 (157)			336 (336)			
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		九州産業大 学造形短期 大学部 （必要面積 3,000㎡） と共用	
	校 舎 敷 地		0㎡		149,041.07㎡		2,098.00㎡		151,139.07㎡			
	そ の 他		0㎡		272,116.11㎡		0㎡		272,116.11㎡			
	合 計		0㎡		421,157.18㎡		2,098.00㎡		423,255.18㎡			
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		九州産業大 学造形短期 大学部 （必要面積 3,000㎡） と共用	
			176,634.78㎡ （ 176,634.78㎡）		1,633.00㎡ （ 1,633.00㎡）		4,618.64㎡ （ 4,618.64㎡）		182,886.42㎡ （ 182,886.42㎡）			
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		171室		教 員 研 究 室		377室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		電子図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点		機械・器具 点	標本 点
	理工学部 スマートコミュニ ケーション工学科		77,690 [20,067] (76,690 [19,967])		1,006 [5] (656 [5])		851 [561] (851 [561])		67 [57] (67 [57])		8,062 (7,594)	0 (0)
	計		77,690 [20,067] (76,690 [19,967])		1,006 [5] (656 [5])		851 [561] (851 [561])		67 [57] (67 [57])		8,062 (7,594)	0 (0)
	スポーツ施設等			スポーツ施設 5,545.51㎡		講堂 0㎡		厚生補導施設 28,220.48㎡				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費 の見 積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には 電子ジャー ナル・デー タベースの 整備費（運 用コスト含 む）を含む		
		教員1人当り研究費等		350千円	350千円	350千円	350千円					
		共同研究費等		2,600千円	5,200千円	7,800千円	10,400千円					
		図 書 購 入 費	1,410千円	1,410千円	1,410千円	1,410千円	1,410千円					
		設 備 購 入 費		5,200千円	10,300千円	15,400千円	20,500千円					
	学生1人当り 納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
			1,590千円	1,390千円	1,390千円	1,390千円						
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資金運用収入、雑収入、寄付金									

	大 学 等 の 名 称	九州産業大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地	
既 設 大 学 等 の 状 況	経済学部 経済学科	年	人	年次 人	人		1.06 1.06	平成5年度	福岡県福岡市東区松 香台二丁目3番1号	
	商学部 経営・流通学科	4	400	—	1,600	学士（経済学）	1.07 1.07	平成30年度	同 上	※令和6年度 入学定員減 (30人)
	地域共創学部 観光学科	4	150	—	600	学士（観光学）	1.05 1.02	平成30年度	同 上	※令和6年度 入学定員増 (10人)
	地域づくり学科	4	140	—	540	学士（地域学）	1.08	平成30年度	同 上	
	理工学部 情報科学科	4	140	—	560	学士（情報科学）	0.91 1.07	平成29年度	同 上	
	機械工学科	4	130	—	520	学士（工学）	0.80	平成29年度	同 上	
	電気工学科	4	100	—	400	学士（工学）	0.83	平成29年度	同 上	
	生命科学部 生命科学科	4	110	—	440	学士（工学）	1.01 1.01	平成29年度	同 上	
	建築都市工学部 建築学科	4	75	—	300	学士（工学）	0.98 1.04	平成29年度	同 上	
	住居・インテリア学科	4	65	—	260	学士（工学）	1.02	平成29年度	同 上	
	都市デザイン工学科	4	60	—	240	学士（工学）	0.88	平成29年度	同 上	
	芸術学部 芸術表現学科	4	70	—	265	学士（芸術）	1.08 1.15	平成28年度	同 上	※令和7年度 入学定員増 (5人)
	写真・映像メディア学科	4	55	—	205	学士（芸術）	1.16	平成28年度	同 上	※令和7年度 入学定員増 (5人)
	ビジュアルデザイン学科	4	75	—	300	学士（芸術）	1.12	平成28年度	同 上	
	生活環境デザイン学科	4	55	—	265	学士（芸術）	0.83	平成28年度	同 上	※令和7年度 入学定員減 (15人)
	ソーシャルデザイン学科	4	45	—	165	学士（芸術）	1.16	平成28年度	同 上	※令和7年度 入学定員増 (5人)
	国際文化学部 国際文化学科	4	80	—	320	学士（国際文化）	1.15 1.18	平成6年度	同 上	
	日本文化学科	4	60	—	240	学士（国際文化）	1.11	平成6年度	同 上	
	人間科学部 臨床心理学科	4	70	—	280	学士（人間科学）	1.06 1.10	平成30年度	同 上	
	子ども教育学科	4	80	—	320	学士（人間科学）	1.02	平成30年度	同 上	
	スポーツ健康科学科	4	100	—	360	学士（人間科学）	1.06	平成30年度	同 上	※令和6年度 入学定員増 (20人)

既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称	九州産業大学 大学院							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地
		年	人	年次 人	人		倍		
	経済・ビジネス研究科 経済学専攻 (博士前期課程)	2	7	—	14	修士 (経済学) 修士 (地域学)	0.64	平成21年度	福岡県福岡市東区松 香台二丁目3番1号
	現代ビジネス専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士 (商学) 修士 (経営学)	0.25	平成21年度	同 上
	経済・ビジネス専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (経済学) 博士 (商学) 博士 (経営学)	0.46	平成21年度	同 上
	工学研究科 産業技術デザイン専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士 (工学)	0.52	平成23年度	同 上
	産業技術デザイン専攻 (博士後期課程)	3	4	—	12	博士 (工学)	0.16	平成23年度	同 上
	芸術研究科 造形表現専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士 (芸術)	1.92	平成24年度	同 上
	造形表現専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (芸術)	0.88	平成11年度	同 上
	国際文化研究科 国際文化専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (文学)	0.93	平成10年度	同 上
	国際文化専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (文学)	0.86	平成10年度	同 上
	情報科学研究科 情報科学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士 (情報科学)	0.47	平成16年度	同 上
	情報科学専攻 (博士後期課程)	3	4	—	12	博士 (情報科学)	0.00	平成16年度	同 上
既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称	九州産業大学造形短期大学部							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地
		年	人	年次 人	人		倍		
	造形芸術学科	2	150	—	300	短期大学士 (芸術)	1.09	平成19年度	福岡県福岡市東区松 香台二丁目3番1号
附属施設の概要		名 称 : 大楠アリーナ2020 目 的 : 講義(実技・実験・実習)及びサークル活動での使用 所 在 地 : 福岡県福岡市松香台二丁目3番1号(大学敷地内) 設置年月 : 2020年3月 規 模 等 : 土地 6,516.39㎡、建物 16,234.38㎡							

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																			
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員			
基礎教育科目	科 導 目 入	大学スタディスキル	1前	○		2			○		5	2	1						
	学 修 基 礎 科 目	実用国語（文章力）	1前・後		2			○									12		
		実用国語（伝達力）	2前・後		2			○									2		
		実用数学（計算力）A	1①・③		1			○									7		
		実用数学（計算力）B	1②・④		1			○									7		
		実用数学（活用力）	2①・②・③・④		1			○									1		
		くらしの中の数学A	1①・③		1			○									1		
		くらしの中の数学B	1②・④		1			○									1		
		AI導入	1①・②・③・④		1			○									2		
		プログラミング導入	1①・②・③・④		1			○									1		
		データリテラシー	1①・③		1			○									1		
		データサイエンス基礎	1②・④		1			○									1		
	データサイエンス実践演習	1③・④		1				○								1			
	キ ャ リ ア 科 目	キャリア形成基礎論	1前		2			○									2		
		キャリア開発論	2前		2			○									1		
		キャリア形成戦略	3後		2			○									2		
		主権者リテラシー	1前		2			○									1		
		消費者リテラシー	1前		2			○									1		
		九産大力	1後		2			○									1		
		学生サポーター	1休		2				○								1	標準外	
		学生ボランティア入門	1前・後		2				○								1		
	文 理 芸 融 合 科 目	クロス科目	実践クロス講座	1前・後・休		2		○									6	標準外（一部）	
		コ ラ ボ 科 目	実践クロス演習	1前・後		2			○		1	1	1				5		
			実践力育成演習	1後		2			○								3		
			課題解決演習	1後		2			○								1		
			教養講座	1前・後・休		2			○		1						5	標準外（一部）	
	実践コラボ講座		1後		2			○								2			
	実践コラボ演習	1前・後		2				○							2				
	人 文 科 学 科 目	日本の歴史A	1①・③		1			○									2		
		日本の歴史B	1②・④		1			○									2		
		世界の歴史A	1①・③		1			○									4		
		世界の歴史B	1②・④		1			○									4		
		哲学の世界A	1①・③		1			○									3		
		哲学の世界B	1②・④		1			○									3		
		文学の世界A	1①・③		1			○									4		
		文学の世界B	1②・④		1			○									4		
		心理学の世界A	1①・③		1			○									2		
		心理学の世界B	1②・④		1			○									2		
		文化人類学A	1①・③		1			○									2		
		文化人類学B	1②・④		1			○									2		
		美学・美術史A	1①・③		1			○									1		
		美学・美術史B	1②・④		1			○									1		
		芸術の世界A	1③・休		1			○									1	標準外（一部）	
		芸術の世界B	1④・休		1			○									1	標準外（一部）	
		人文科学の世界	1前・後		2			○									3		
		社 会 科 学 科 目	法学A	1①・③		1			○									6	
			法学B	1②・④		1			○									6	
			日本国憲法A	1①・③		1			○									2	
			日本国憲法B	1②・④		1			○									2	
			現代の政治A	1①・③		1			○									5	
			現代の政治B	1②・④		1			○									5	
			地理の世界A	1①・③		1			○									1	
			地理の世界B	1②・④		1			○									1	
			人権・同和問題A	1①・③		1			○									2	
			人権・同和問題B	1②・④		1			○									2	
			ジェンダーと社会A	1①・③		1			○									2	
			ジェンダーと社会B	1②・④		1			○									2	
			社会科学の世界A	1①・③		1			○									1	
			社会科学の世界B	1②・④		1			○									1	
			自 然 科 学 科 目	科学の世界A	1①・③		1			○			1						1
		科学の世界B		1②・④		1			○			1						1	
	地球環境A	1①・③			1			○									2		
	地球環境B	1②・④			1			○									2		
	生物の世界A	1①			1			○									1		
	生物の世界B	1②			1			○									1		
	自然科学の世界A	1①			1			○									1		
	自然科学の世界B	1②			1			○									1		
	の 心 健 と 康 身 体 科 目	スポーツ科学演習A	1①・③		1				○								10		
		スポーツ科学演習B	1②・④		1				○								10		
		心と身体の健康A	1①・③		1			○									6		
		心と身体の健康B	1②・④		1			○									6		
小計(71科目)		—	—	0	90	0	—	—	—	5	2	1	0	—	95	—			

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹（助 手以 外の 教員		
外国語科目	共通英語科目	Reading & Writing I	1前			1		○								50		
		Reading & Writing II	1後			1		○								51		
		Reading & Writing III	2前			1		○								46		
		Reading & Writing IV	2後			1		○								14		
		Listening & Speaking I	1前			1		○								43		
		Listening & Speaking II	1後			1		○								42		
		Listening & Speaking III	2前			1		○								43		
		Listening & Speaking IV	2後			1		○								19		
		English Plus A	3①・③			1		○								1		
		English Plus B	3②・④			1		○								1		
		English Expressions A	3①・③			1		○								7		
		English Expressions B	3②・④			1		○								7		
	キャリア アイ ン グ リ ッ シ ュ ブ ロ グ ラ ム	Four Skills I	1①・③・④			1		○									17	
		Four Skills II	1②・③・④			1		○									17	
		TOEIC Basic A	1①・③			1		○									16	
		TOEIC Basic B	1②・④			1		○									16	
		Domestic Job Training	1後			4				○							1	
		Overseas Job Training	1後			4				○							1	
		TOEIC Plus A	1①・③			1		○									1	
		TOEIC Plus B	1②・④			1		○									1	
		Reading Focus A	1③			1		○									5	
		Reading Focus B	1④			1		○									5	
		Writing Focus A	1③			1		○									5	
		Writing Focus B	1④			1		○									5	
		Business English A	1③			1		○									6	
		Business English B	1④			1		○									6	
		English Pronunciation A	1①			1		○									1	
		English Pronunciation B	1②			1		○									1	
		Introduction to Translation A	1①			1		○									1	
		Introduction to Translation B	1②			1		○									1	
		Global Perspectives A	1①			1		○									1	
		Global Perspectives B	1②			1		○									1	
	初修外国語科目	ドイツ語Ⅰ	1前・後			1		○									6	
		ドイツ語Ⅱ	1前・後			1		○									4	
		ドイツ語Ⅲ	2前			1		○									2	
		ドイツ語Ⅳ	2後			1		○									1	
		ドイツ語会話Ⅰ	1前・後			1		○									4	
		ドイツ語会話Ⅱ	1前・後			1		○									4	
		ドイツ語会話Ⅲ	2前			1		○									1	
		ドイツ語会話Ⅳ	2後			1		○									1	
		フランス語Ⅰ	1前・後			1		○									5	
		フランス語Ⅱ	1前・後			1		○									5	
		フランス語Ⅲ	2前			1		○									1	
		フランス語Ⅳ	2後			1		○									1	
		フランス語会話Ⅰ	1前・後			1		○									5	
		フランス語会話Ⅱ	1前・後			1		○									5	
		フランス語会話Ⅲ	2前			1		○									1	
		フランス語会話Ⅳ	2後			1		○									1	
		韓国語Ⅰ	1前・後			1		○									15	
		韓国語Ⅱ	1前・後			1		○									11	
		韓国語Ⅲ	2前			1		○									2	
		韓国語Ⅳ	2後			1		○									1	
		韓国語会話Ⅰ	1前・後			1		○									12	
		韓国語会話Ⅱ	1前・後			1		○									9	
		韓国語会話Ⅲ	2前			1		○									1	
		韓国語会話Ⅳ	2後			1		○									1	
		実用韓国語	3前			1		○									1	
		上級韓国語	3後			1		○									1	
		中国語Ⅰ	1前・後			1		○									13	
		中国語Ⅱ	1前・後			1		○									8	
		中国語Ⅲ	2前			1		○									1	
		中国語Ⅳ	2後			1		○									1	
		中国語会話Ⅰ	1前・後			1		○									12	
		中国語会話Ⅱ	1前・後			1		○									9	
		中国語会話Ⅲ	2前			1		○									1	
		中国語会話Ⅳ	2後			1		○									1	
		実用中国語	3前			1		○									1	
		上級中国語	3後			1		○									1	
小計(68科目)		—	—	0	74	0	—	—	—	0	0	0	0		149	—		

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助 手 以 外 の 教 員）	
留学生に 関する科目	日本語	アカデミック日本語Ⅰ（読む・書く）	1前			1		○								5	
		アカデミック日本語Ⅱ（読む・書く）	1後			1		○								4	
		アカデミック日本語Ⅰ（聞く・話す）	1前			1		○								4	
		アカデミック日本語Ⅱ（聞く・話す）	1後			1		○								4	
		実践アカデミック日本語（読む・書く）	2前			1		○								2	
		実践アカデミック日本語（聞く・話す）	2前			1		○								1	
		ビジネス日本語	2後			1		○								1	
		グローバル日本語	3前			1		○								1	
	日本 事情	日本の歴史ⅠA	1①			1		○								1	
		日本の歴史ⅠB	1②			1		○								1	
		日本の歴史ⅡA	1③			1		○								1	
		日本の歴史ⅡB	1④			1		○								1	
		日本の文化ⅠA	1①			1		○								1	
		日本の文化ⅠB	1②			1		○								1	
		日本の文化ⅡA	1③			1		○								1	
		日本の文化ⅡB	1④			1		○								1	
		日本の政治経済ⅠA	1①			1		○								1	
		日本の政治経済ⅠB	1②			1		○								1	
		日本の政治経済ⅡA	1③			1		○								1	
		日本の政治経済ⅡB	1④			1		○								1	
		一般日本事情ⅠA	1①			1		○								1	
		一般日本事情ⅠB	1②			1		○								1	
		一般日本事情ⅡA	1③			1		○								1	
		一般日本事情ⅡB	1④			1		○								1	
		小計(24科目)		—	—	0	24	0	—			0	0	0	0		10

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く）教員	
P B L	プロジェクト基礎	1前	○	2			○			5	2	1				共同 共同 共同 共同 共同
	PBL入門	1後	○	2				○		5	2	1				
	PBL基礎Ⅰ	2前	○	2				○		5	2	1				
	PBL基礎Ⅱ	2後	○	2				○		5	2	1				
	PBL応用Ⅰ	3前	○	2				○		5	2	1				
	PBL応用Ⅱ	3後	○	2				○		5	2	1				
	事例研究	4前	○	2					○	5	2	1				
	社会実装ラボ	4後			4				○	5	2	1				
	小計（8科目）	－	－	14	4	0		－		5	2	1	0		0	
学 部 共 通	プログラミング入門	1前			2			○							1	標準外
	情報リテラシー	1前	○	2				○							1	
	基礎数学	1前	○	2				○							1	
	プログラミング基礎Ⅰ	1後			2			○		1					1	
	基礎物理	1後			2			○								
	技術者倫理	1後	○	2				○		1						
	微分積分Ⅰ	2前			2			○							1	
	線形代数Ⅰ	2前			2			○							1	
	微分積分Ⅱ	2前			2			○							2	
	知的財産権	2前			2			○							1	
	微分方程式	2後			2			○							2	
	線形代数Ⅱ	2後			2			○							2	
	インターンシップ	3通			2				○	1						
	小計（13科目）	－	－	6	20	0		－		3	0	0	0		6	
専 門 科 目	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 系	コンピュータ概論	1後		2		○			1						
		デジタルものづくり	2前		2				○	1						
		テクニカルライティング	2前		2				○		1					
		AIコミュニケーションツール	2前		2				○	1						
		ロボットデザインⅠ	2後		2		○			1						
		創造設計演習	2後		2			○		1						
		情報セキュリティ	3前		2				○		1					
		モバイルコミュニケーション	3前		2		○				1					
		ロボットデザインⅡ	3前		2		○			1						
		科学技術英語	3後		2		○				1					
		グローバルコミュニケーション	4前		2			○							1	
	社 会 課 題 実 装 系	カーボンニュートラル概論	1後		2		○			1						オムニバス
		国際社会課題・SDGs	2前		2		○			5	2	1				

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(理工学部機械工学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 (助手を除く) 以外の 教員	
基礎教育科目	科 導 目 入	大学スタディスキル	1前	○		2			○		7	2	2				
	学 修 基 礎 科 目	実用国語（文章力）	1前・後			2		○								12	
		実用国語（伝達力）	2前・後			2		○								2	
		実用数学（計算力）A	1①・③			1		○								7	
		実用数学（計算力）B	1②・④			1		○								7	
		実用数学（活用力）	2①・②・③・④			1		○								1	
		くらしの中の数学A	1①・③			1		○								1	
		くらしの中の数学B	1②・④			1		○								1	
		AI導入	1①・②・③・④			1		○								2	
		プログラミング導入	1①・②・③・④			1		○								1	
		データリテラシー	1①・③			1		○								1	
		データサイエンス基礎	1②・④			1		○								1	
		データサイエンス実践演習	1③・④			1			○							1	
	キ ャ リ ア 科 目	キャリア形成基礎論	1前			2		○								2	
		キャリア開発論	2前			2		○								1	
		キャリア形成戦略	3後			2		○								2	
		主権者リテラシー	1前			2		○								1	
		消費者リテラシー	1前			2		○								1	
		九産大力	1後			2		○								1	
		学生サポーター	1休			2			○							1	標準外
		学生ボランティア入門	1前・後			2			○							1	
	文 理 芸 融 合 科 目	実践クロス講座	1前・後・休			2		○								6	標準外（一部）
		実践クロス演習	1前・後			2			○		1		1			6	
		実践力育成演習	1後			2			○							3	
		課題解決演習	1後			2			○							1	
		教養講座	1前・後・休			2		○			1					5	標準外（一部）
	コ ラ ボ	実践コラボ講座	1後			2		○								2	
		実践コラボ演習	1前・後			2			○							2	
	基礎教育科目	人 文 科 学 科 目	日本の歴史A			1		○								2	
			日本の歴史B			1		○								2	
			世界の歴史A			1		○								4	
			世界の歴史B			1		○								4	
			哲学の世界A			1		○								3	
			哲学の世界B			1		○								3	
			文学の世界A			1		○								4	
			文学の世界B			1		○								4	
			心理学の世界A			1		○								2	
			心理学の世界B			1		○								2	
			文化人類学A			1		○								2	
			文化人類学B			1		○								2	
			美学・美術史A			1		○								1	
			美学・美術史B			1		○								1	
			芸術の世界A			1		○								1	標準外（一部）
			芸術の世界B			1		○								1	標準外（一部）
			人文科学の世界			2		○								3	
	教 養 科 目	社 会 科 学 科 目	法学A			1		○								6	
			法学B			1		○								6	
			日本国憲法A			1		○								2	
			日本国憲法B			1		○								2	
			現代の政治A			1		○								5	
			現代の政治B			1		○								5	
			地理の世界A			1		○								1	
			地理の世界B			1		○								1	
			人権・同和問題A			1		○								2	
			人権・同和問題B			1		○								2	
			ジェンダーと社会A			1		○								2	
			ジェンダーと社会B			1		○								2	
			社会科学の世界A			1		○								1	
			社会科学の世界B			1		○								1	
	自 然 科 学 科 目		科学の世界A			1		○								2	
			科学の世界B			1		○								2	
			地球環境A			1		○								2	
			地球環境B			1		○								2	
			生物の世界A			1		○								1	
			生物の世界B			1		○								1	
			自然科学の世界A			1		○								1	
			自然科学の世界B			1		○								1	
	心 と 身 体 の 健 康 科 目		スポーツ科学演習A			1			○							10	
			スポーツ科学演習B			1			○							10	
			心と身体の健康A			1		○								6	
			心と身体の健康B			1		○								6	
小計(71科目)			—	—	0	90	0	—			8	2	2			97	—

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 （ 助 手 を 除 く ） 以外 の 教 員	
外国語科目	共通英語科目	Reading & Writing I	1前			1		○								50	
		Reading & Writing II	1後			1		○								51	
		Reading & Writing III	2前			1		○								46	
		Reading & Writing IV	2後			1		○								14	
		Listening & Speaking I	1前			1		○								43	
		Listening & Speaking II	1後			1		○								42	
		Listening & Speaking III	2前			1		○								43	
		Listening & Speaking IV	2後			1		○								19	
		English Plus A	3①・③			1		○								1	
		English Plus B	3②・④			1		○								1	
		English Expressions A	3①・③			1		○								7	
		English Expressions B	3②・④			1		○								7	
	キャリア アイ ン グ リ ッ シ ュ ブ ロ グ ラ ム	Four Skills I	1①・③・④			1		○								17	
		Four Skills II	1②・③・④			1		○								17	
		TOEIC Basic A	1①・③			1		○								16	
		TOEIC Basic B	1②・④			1		○								16	
		Domestic Job Training	1後			4			○							1	
		Overseas Job Training	1後			4			○							1	
		TOEIC Plus A	1①・③			1		○								1	
		TOEIC Plus B	1②・④			1		○								1	
		Reading Focus A	1③			1		○								5	
		Reading Focus B	1④			1		○								5	
		Writing Focus A	1③			1		○								5	
		Writing Focus B	1④			1		○								5	
		Business English A	1③			1		○								6	
		Business English B	1④			1		○								6	
		English Pronunciation A	1①			1		○								1	
		English Pronunciation B	1②			1		○								1	
		Introduction to Translation A	1①			1		○								1	
		Introduction to Translation B	1②			1		○								1	
		Global Perspectives A	1①			1		○								1	
		Global Perspectives B	1②			1		○								1	
	初修外国語科目	ドイツ語 I	1前・後			1		○								6	
		ドイツ語 II	1前・後			1		○								4	
		ドイツ語 III	2前			1		○								2	
		ドイツ語 IV	2後			1		○								1	
		ドイツ語会話 I	1前・後			1		○								4	
ドイツ語会話 II		1前・後			1		○								4		
ドイツ語会話 III		2前			1		○								1		
ドイツ語会話 IV		2後			1		○								1		
フランス語 I		1前・後			1		○								5		
フランス語 II		1前・後			1		○								5		
フランス語 III		2前			1		○								1		
フランス語 IV		2後			1		○								1		
フランス語会話 I		1前・後			1		○								5		
フランス語会話 II		1前・後			1		○								5		
フランス語会話 III		2前			1		○								1		
フランス語会話 IV		2後			1		○								1		
韓国語 I		1前・後			1		○								15		
韓国語 II		1前・後			1		○								11		
韓国語 III		2前			1		○								2		
韓国語 IV		2後			1		○								1		
韓国語会話 I		1前・後			1		○								12		
韓国語会話 II		1前・後			1		○								9		
韓国語会話 III		2前			1		○								1		
韓国語会話 IV		2後			1		○								1		
実用韓国語		3前			1		○								1		
上級韓国語		3後			1		○								1		
中国語 I		1前・後			1		○								13		
中国語 II		1前・後			1		○								8		
中国語 III		2前			1		○								1		
中国語 IV		2後			1		○								1		
中国語会話 I		1前・後			1		○								12		
中国語会話 II		1前・後			1		○								9		
中国語会話 III		2前			1		○								1		
中国語会話 IV		2後			1		○								1		
実用中国語		3前			1		○								1		
上級中国語	3後			1		○								1			
小計(68科目)		—	—	0	74	0	—			0	0	0	0		149	—	

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 （助手を 除く） 以外の の	
留学生に 関する科目	日本 語	アカデミック日本語Ⅰ（読む・書く）	1前			1		○								5	
		アカデミック日本語Ⅱ（読む・書く）	1後			1		○								4	
		アカデミック日本語Ⅰ（聞く・話す）	1前			1		○								4	
		アカデミック日本語Ⅱ（聞く・話す）	1後			1		○								4	
		実践アカデミック日本語（読む・書く）	2前			1		○								2	
		実践アカデミック日本語（聞く・話す）	2前			1		○								1	
		ビジネス日本語	2後			1		○								1	
		グローバル日本語	3前			1		○								1	
	日本 事情	日本の歴史ⅠA	1①			1		○								1	
		日本の歴史ⅠB	1②			1		○								1	
		日本の歴史ⅡA	1③			1		○								1	
		日本の歴史ⅡB	1④			1		○								1	
		日本の文化ⅠA	1①			1		○								1	
		日本の文化ⅠB	1②			1		○								1	
		日本の文化ⅡA	1③			1		○								1	
		日本の文化ⅡB	1④			1		○								1	
		日本の政治経済ⅠA	1①			1		○								1	
		日本の政治経済ⅠB	1②			1		○								1	
		日本の政治経済ⅡA	1③			1		○								1	
		日本の政治経済ⅡB	1④			1		○								1	
		一般日本事情ⅠA	1①			1		○								1	
		一般日本事情ⅠB	1②			1		○								1	
		一般日本事情ⅡA	1③			1		○								1	
		一般日本事情ⅡB	1④			1		○								1	
	小計(24科目)		—	—	0	24	0	—			0	0	0	0		10	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 （ 助 手 を 除 く ）	
専 門 科 目	学 部 共 通	基礎数学	1前	○	2		○			1					4	標準外 共同
		基礎物理	1前	○	2		○			1					4	
		線形代数Ⅰ	1前	○	2		○			1					2	
		微分積分Ⅰ	1後	○	2		○			1					2	
		線形代数Ⅱ	1後	○		2	○			1					1	
		プログラミング入門	1②		2		○								1	
		プログラミング基礎Ⅰ	1③		2		○								1	
		情報リテラシー	1前	○	2		○					2				
		技術者倫理	1③・④	○	2		○			1						
		微分積分Ⅱ	2前	○	2		○			1					2	
		微分方程式	2後	○	2		○			1					2	
		知的財産権	2前		2		○			1					1	
		インターンシップ	3通	○	2			○		1						
		プロジェクトデザイン管理	3前	○	4			○		1		1				
		小計（14科目）	—	—	12	18	0	—		4	0	2	0		13	—
	S M A r t F u s i o n	融合理工学導入	1休		1				○	2					3	共同・標準外
		融合理工学基礎A	1③		1				○						3	
		融合理工学基礎B	1④		1				○	2					2	
		融合理工学応用A	2①		1				○						3	
		融合理工学応用B	2②		1				○	2					2	
		融合プロジェクトⅠ	2③		2			○		2					3	
		融合プロジェクトⅡ	2④		2			○		2					3	
		融合プロジェクトⅢ	3通		4			○		1					1	
		デザインエンジニアリング	1後		2		○								1	
		プロダクトデザイン基礎	2①		1			○							1	
		プロダクトデザイン演習	2②		1			○							1	
		人間中心設計	1④		1		○								1	
		WEBデザイン	2①		1		○								1	
		アプリデザイン	2②		1		○								1	
		映像表現	1④		1		○								1	
		メディアアート	1④		1		○								1	
		コンピュータグラフィックス基礎	2後		2			○							1	
		コンピュータグラフィックス応用	3前		2			○							1	
		小計（18科目）	—	—	0	26	0	—		3	0	0	0		9	—
	実 践 力 育 成・資 格	エンジニアスキルⅠ	1休		2		○			1	1				1	共同・標準外 共同
		エンジニアスキルⅡ	1後		2		○			1	1					
		工業概論	2前		2		○									
		材料加工	2休		2			○		1						
		生物育成	2休		2			○		1						
		エンジニアリング演習Ⅰ	3②		1			○		3	1				1	標準外 標準外 オムニバス オムニバス
		エンジニアリング演習Ⅱ	3③		1			○		1	1	1				
		機械工学探究	3後	○	2			○		8	2	2				
		職業指導	3通		4		○									
		卒業研究	4通	○	6				○	8	2	2			1	
		小計（10科目）	—	—	8	16	0	—		8	2	2	0		2	—
	学 科 共 通	コンピュータリテラシー	1②	○	2		○			1	1	1			8	共同
		物理実験	1前	○	2				○	1						
		微分積分演習	1後		2			○		1					2	
		解析幾何学	1後		2		○								2	
		工業数学	1前		2		○			1	1					
		物理学	2後		2		○			1						共同 共同
		機械工学実験A	3③	○	1				○	4		2				
		機械工学実験B	3④	○	1				○	4						
		品質管理Ⅰ	3前		2		○								1	
		品質管理Ⅱ	3後		2		○								1	
		小計（10科目）	—	—	6	12	0	—		8	1	2	0		13	—
	情 報 メ カ ト ロ ニ ク ス	電気電子工学概論	1前		2		○								11	オムニバス
		プログラミング	1④	○	2		○			2						
		電気工学基礎	1①		2		○			1						
		メカトロニクス	2①	○	2		○			1		1				
		ロボティクス	2③		2		○			2						
		AⅠプログラミング演習	2前		2			○							1	
		制御工学A	3①	○	1		○			1		1				
		制御工学B	3②	○	1		○			1		1				
		計算機システム	3前		2		○			1						
		AⅠリテラシー	3③		2		○			1						
		小計（10科目）	—	—	6	12	0	—		6	0	1	0		12	—

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 (助手を除く) 以外の 教員	
専門科目	機械系	工業力学	1①	○	2			○			3						
		材料力学Ⅰ	1③	○	2			○			2	1					
		機械力学Ⅰ	2②	○	2			○			1		1				
		機械力学Ⅱ	2④			2		○			1						
		材料力学Ⅱ	2①	○	2			○			2						
		熱力学Ⅰ	2①	○	2			○			1		1				
		熱力学Ⅱ	2③	○	2			○			1		1				
		熱力学演習	2④			2			○		1		1				
		流体力学Ⅰ	2②	○	2			○			1		1				
		流体力学Ⅱ	2④			2		○			1						
		流体力学演習	2③			2			○		1						
		材料力学Ⅲ	3前			2		○			1						
		伝熱工学	3①			2		○			1		1				
		熱機関	3③			2		○			1						
		流体機械	3②			2		○			1						
	小計（15科目）		—	—	14	16	0	—			6	1	2	0		0	—
	生産技術系	機械製図	1前	○	2					○	1	1					共同 共同
		機械材料	1後	○	2			○			1	1					
		機械C A DⅠ	2前	○	2					○		1	1			1	
		機械C A DⅡ	2③			2				○		1	1				
		機械加工学	2①	○	2			○				2					
		機械工作法	2③			2		○				1					
		機械加工実習	2前	○	2					○	1	1					
		機械・ロボット設計	3前	○	2			○			2						
		機械工学シミュレーション	3後			2		○			1	1					
		工作機械	3後			2		○				1					
		機構学	3後			2		○			1						
		設計製図	3後	○	2					○	1	1					
		小計（12科目）		—	—	14	10	0	—			3	2	1	0		1
合計（252科目）			—	—	60	298	0	—			10	2	2	0		291	—
学位又は称号		学士（工学）			学位又は学科の分野					工学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
必修科目60単位、専門科目の選択科目から40単位以上、基礎教育科目から14単位以上(導入科目2単位を含む)、外国語科目から英語6単位以上、さらに専門科目、基礎教育科目、外国語科目から4単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 ※留学生に関する科目は留学生のみ履修可能 ※履修科目の登録の上限:44単位(年間)								1学年の学期区分				4学期					
								1学期の授業期間				7週					
								1時限の授業の標準時間				100分					

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(理工学部電気工学科)																			
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 (助手を除く) 以外の 教員			
基礎教育科目	科 導 目 入	大学スタディスキル	1前	○		2			○			6	3	1	1				
	学 修 基 礎 科 目	実用国語（文章力）	1前・後			2			○								12		
		実用国語（伝達力）	2前・後			2			○								2		
		実用数学（計算力）A	1①・③			1			○								7		
		実用数学（計算力）B	1②・④			1			○								7		
		実用数学（活用力）	2①・②・③・④			1			○								1		
		くらしの中の数学A	1①・③			1			○								1		
		くらしの中の数学B	1②・④			1			○								1		
		AI導入	1①・②・③・④			1			○								2		
		プログラミング導入	1①・②・③・④			1			○								1		
		データリテラシー	1①・③			1			○								1		
		データサイエンス基礎	1②・④			1			○								1		
		データサイエンス実践演習	1③・④			1				○							1		
	キ ャ リ ア 科 目	キャリア形成基礎論	1前			2			○								2		
		キャリア開発論	2前			2			○								1		
		キャリア形成戦略	3後			2			○								2		
		主権者リテラシー	1前			2			○								1		
		消費者リテラシー	1前			2			○								1		
		九産大力	1後			2			○								1		
		学生サポーター	1休			2				○							1	標準外	
		学生ボランティア入門	1前・後			2				○							1		
	文 理 芸 融 合 科 目	クロス科目	実践クロス講座	1前・後・休		2			○								6	標準外（一部）	
		コ ラ ボ	実践クロス演習	1前・後		2				○			1					7	標準外（一部）
			実践力育成演習	1後		2				○							3		
			課題解決演習	1後		2				○							1		
	教養講座		1前・後・休		2				○							6			
	基礎教育科目	人 文 科 学 科 目	実践コラボ講座	1後		2			○								2		
			実践コラボ演習	1前・後		2				○							2		
			日本の歴史A	1①・③			1			○							2		
			日本の歴史B	1②・④			1			○							2		
			世界の歴史A	1①・③			1			○							4		
			世界の歴史B	1②・④			1			○							4		
			哲学の世界A	1①・③			1			○							3		
			哲学の世界B	1②・④			1			○							3		
			文学の世界A	1①・③			1			○							4		
			文学の世界B	1②・④			1			○							4		
			心理学の世界A	1①・③			1			○							2		
			心理学の世界B	1②・④			1			○							2		
			文化人類学A	1①・③			1			○							2		
			文化人類学B	1②・④			1			○							2		
			美学・美術史A	1①・③			1			○							1		
			美学・美術史B	1②・④			1			○							1		
			芸術の世界A	1③・休			1			○							1	標準外（一部）	
		芸術の世界B	1④・休			1			○							1	標準外（一部）		
		人文科学の世界	1前・後			2			○							3			
		社 会 科 学 科 目	法学A	1①・③			1			○							6		
			法学B	1②・④			1			○							6		
			日本国憲法A	1①・③			1			○							2		
			日本国憲法B	1②・④			1			○							2		
			現代の政治A	1①・③			1			○							5		
			現代の政治B	1②・④			1			○							5		
			地理の世界A	1①・③			1			○							1		
			地理の世界B	1②・④			1			○							1		
			人権・同和問題A	1①・③			1			○							2		
			人権・同和問題B	1②・④			1			○							2		
			ジェンダーと社会A	1①・③			1			○							2		
			ジェンダーと社会B	1②・④			1			○							2		
			社会科学の世界A	1①・③			1			○							1		
			社会科学の世界B	1②・④			1			○							1		
		自 然 科 学 科 目	科学の世界A	1①・③			1			○			1				1		
			科学の世界B	1②・④			1			○			1				1		
			地球環境A	1①・③			1			○							2		
			地球環境B	1②・④			1			○							2		
			生物の世界A	1①			1			○							1		
			生物の世界B	1②			1			○							1		
			自然科学の世界A	1①			1			○							1		
	自然科学の世界B		1②			1			○							1			
	心 と 身 体 の 健 康 科 目	スポーツ科学演習A	1①・③			1				○						10			
		スポーツ科学演習B	1②・④			1				○						10			
		心と身体の健康A	1①・③			1			○							6			
		心と身体の健康B	1②・④			1			○							6			
小計(71科目)			—	—	0	90	0	—			6	3	2	1		97	—		

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 (助手を除く) の 数	
外国語科目	共通英語科目	Reading & Writing I	1前			1		○								50	
		Reading & Writing II	1後			1		○								51	
		Reading & Writing III	2前			1		○								46	
		Reading & Writing IV	2後			1		○								14	
		Listening & Speaking I	1前			1		○								43	
		Listening & Speaking II	1後			1		○								42	
		Listening & Speaking III	2前			1		○								43	
		Listening & Speaking IV	2後			1		○								19	
		English Plus A	3①・③			1		○								1	
		English Plus B	3②・④			1		○								1	
		English Expressions A	3①・③			1		○								7	
		English Expressions B	3②・④			1		○								7	
	キャリア アイ ン グ リ ッ シ ュ ブ ロ グ ラ ム	Four Skills I	1①・③・④			1		○								17	
		Four Skills II	1②・③・④			1		○								17	
		TOEIC Basic A	1①・③			1		○								16	
		TOEIC Basic B	1②・④			1		○								16	
		Domestic Job Training	1後			4			○							1	
		Overseas Job Training	1後			4			○							1	
		TOEIC Plus A	1①・③			1		○								1	
		TOEIC Plus B	1②・④			1		○								1	
		Reading Focus A	1③			1		○								5	
		Reading Focus B	1④			1		○								5	
		Writing Focus A	1③			1		○								5	
		Writing Focus B	1④			1		○								5	
		Business English A	1③			1		○								6	
		Business English B	1④			1		○								6	
		English Pronunciation A	1①			1		○								1	
		English Pronunciation B	1②			1		○								1	
		Introduction to Translation A	1①			1		○								1	
		Introduction to Translation B	1②			1		○								1	
		Global Perspectives A	1①			1		○								1	
		Global Perspectives B	1②			1		○								1	
	初修外国語科目	ドイツ語 I	1前・後			1		○								6	
		ドイツ語 II	1前・後			1		○								4	
		ドイツ語 III	2前			1		○								2	
		ドイツ語 IV	2後			1		○								1	
		ドイツ語会話 I	1前・後			1		○								4	
ドイツ語会話 II		1前・後			1		○								4		
ドイツ語会話 III		2前			1		○								1		
ドイツ語会話 IV		2後			1		○								1		
フランス語 I		1前・後			1		○								5		
フランス語 II		1前・後			1		○								5		
フランス語 III		2前			1		○								1		
フランス語 IV		2後			1		○								1		
フランス語会話 I		1前・後			1		○								5		
フランス語会話 II		1前・後			1		○								5		
フランス語会話 III		2前			1		○								1		
フランス語会話 IV		2後			1		○								1		
韓国語 I		1前・後			1		○								15		
韓国語 II		1前・後			1		○								11		
韓国語 III		2前			1		○								2		
韓国語 IV		2後			1		○								1		
韓国語会話 I		1前・後			1		○								12		
韓国語会話 II		1前・後			1		○								9		
韓国語会話 III		2前			1		○								1		
韓国語会話 IV		2後			1		○								1		
実用韓国語		3前			1		○								1		
上級韓国語		3後			1		○								1		
中国語 I		1前・後			1		○								13		
中国語 II		1前・後			1		○								8		
中国語 III		2前			1		○								1		
中国語 IV		2後			1		○								1		
中国語会話 I		1前・後			1		○								12		
中国語会話 II		1前・後			1		○								9		
中国語会話 III		2前			1		○								1		
中国語会話 IV		2後			1		○								1		
実用中国語	3前			1		○								1			
上級中国語	3後			1		○								1			
小計(68科目)		—	—	0	74	0	—			0	0	0	0		149	—	

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 (助手を 除く) 以外の の	
留学生に 関する科目	日本 語	アカデミック日本語Ⅰ（読む・書く）	1前			1		○								5	
		アカデミック日本語Ⅱ（読む・書く）	1後			1		○								4	
		アカデミック日本語Ⅰ（聞く・話す）	1前			1		○								4	
		アカデミック日本語Ⅱ（聞く・話す）	1後			1		○								4	
		実践アカデミック日本語（読む・書く）	2前			1		○								2	
		実践アカデミック日本語（聞く・話す）	2前			1		○								1	
		ビジネス日本語	2後			1		○								1	
		グローバル日本語	3前			1		○								1	
	日本 事情	日本の歴史ⅠA	1①			1		○								1	
		日本の歴史ⅠB	1②			1		○								1	
		日本の歴史ⅡA	1③			1		○								1	
		日本の歴史ⅡB	1④			1		○								1	
		日本の文化ⅠA	1①			1		○								1	
		日本の文化ⅠB	1②			1		○								1	
		日本の文化ⅡA	1③			1		○								1	
		日本の文化ⅡB	1④			1		○								1	
		日本の政治経済ⅠA	1①			1		○								1	
		日本の政治経済ⅠB	1②			1		○								1	
		日本の政治経済ⅡA	1③			1		○								1	
		日本の政治経済ⅡB	1④			1		○								1	
		一般日本事情ⅠA	1①			1		○								1	
		一般日本事情ⅠB	1②			1		○								1	
		一般日本事情ⅡA	1③			1		○								1	
		一般日本事情ⅡB	1④			1		○								1	
	小計(24科目)		—	—	0	24	0	—			0	0	0	0		10	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 （ 助 手 を 除 く 以 外 の 教 員	
専門科目	学部共通	線形代数Ⅰ	1前	○	2		○								2	標準外・共同 標準外
		基礎数学	1前	○	2		○								5	
		基礎物理	1前	○	2		○			1					4	
		情報リテラシー	1①	○	2		○								1	
		プログラミング入門	1②	○	2		○								1	
		微分積分Ⅰ	1後	○	2		○								2	
		線形代数Ⅱ	1後	○		2	○								2	
		プログラミング基礎Ⅰ	1③	○		2	○								1	
		微分積分Ⅱ	2前	○		2	○								2	
		微分方程式	2前	○		2	○								2	
		プロジェクトデザイン管理	3休	○		4		○		1	2					
		インターンシップ	3通	○		2		○		1						
		知的財産権	3後			2	○								1	
		技術者倫理	3前	○		2	○								1	
	小計（14科目）		—	—	12	18	0	—		3	2	0	0		14	—
	S M A r t F u s i o n	融合理工学導入	1休			1			○			1	1		3	標準外・共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同
		融合理工学基礎A	1③			1			○			1	1		1	
		融合理工学基礎B	1④			1			○			1	1		2	
		融合理工学応用A	2①			1			○			1	1		1	
		融合理工学応用B	2②			1			○			1	1		2	
		融合プロジェクトⅠ	2③			2		○				1			4	
		融合プロジェクトⅡ	2④			2		○				1			4	
		融合プロジェクトⅢ	3通			4		○				1			1	
		デザインエンジニアリング	1後			2	○								1	
		プロダクトデザイン基礎	2①			1		○							1	
		プロダクトデザイン演習	2②			1		○							1	
		人間中心設計	1④			1	○								1	
		WEBデザイン	2①			1	○								1	
		アプリデザイン	2②			1	○								1	
		映像表現	1④			1	○								1	
		メディアアート	1④			1	○								1	
		コンピュータグラフィックス基礎	2後			2		○							1	
		コンピュータグラフィックス応用	3前			2		○							1	
	小計（18科目）		—	—	0	26	0	—		0	0	1	1		10	—
	実践力 育成・資 格	電気電子工学導入演習	1後	○	2			○			1					標準外 標準外
		電気電子工学演習	2前			2		○				1				
		工業概論	2前			2	○								1	
		生物育成	2休			2		○							1	
		材料加工	2休			2		○							1	
		電気工事実習	2後			2			○			1				
		電気電子工学探求	3後	○	2			○		6	3	1	1			
		職業指導	3通			4	○								1	
		デジタル通信工学演習	3前			2		○		1						
		電験総合演習	3前			2		○		1						
		卒業研究	4通	○	6				○	6	3	1	1			
	小計（11科目）		—	—	10	18	0	—		6	3	1	1		4	—
	学科 共通（理 工学基 礎）	電気電子工学基礎	1前	○	2		○			6	3	1	1			オムニバス 共同 オムニバス
		電気電子数学	1後	○	2		○				1					
		物理学ⅠA	1③			1	○			1						
		物理学ⅠB	1④			1	○			1						
		物理実験	1後			2			○	1					5	
		機械工学概論	1後			2	○								4	
		物理学ⅡA	2①			1	○			1						
		物理学ⅡB	2②			1	○			1						
	小計（8科目）		—	—	4	8	0	—		6	3	1	1		9	—
	学科 共通（電 気電子）	電気回路Ⅰ	1後・休	○	2		○					1				標準外（一部） 共同 共同
		AI入門	1④	○	2		○				1					
		電気CAD	1後			2			○			1				
		電気回路Ⅱ	2前	○	2		○			1						
		電子回路Ⅰ	2前	○	2		○			1						
		電磁気学Ⅰ	2前	○	2		○				1					
		電気電子基礎実験Ⅰ	2前	○	2				○		1		1			
		電磁気学Ⅱ	2後	○	2		○				1					
		電気電子計測Ⅰ	2後	○	2		○						1			
		制御工学Ⅰ	2後	○	2		○			1						
		論理回路	2後	○	2		○			1						
		電気電子基礎実験Ⅱ	2前	○	2				○	2						
		デジタルシステム概論	2前			2	○				1					
		AI応用	2前			2	○				1					
		電子回路Ⅱ	2後			2	○			1						
		電気回路Ⅲ	2後			2	○			1						
		電気電子計測Ⅱ	3前			2	○						1			
		制御工学Ⅱ	3前			2	○			1						
		電磁気学Ⅲ	3後			2	○			1						
		シミュレーション工学	3後			2	○				1					
	小計（20科目）		—	—	22	18	0	—		4	3	1	1		0	—

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 (助 手 を 除 く 以 外 の 教 員)		
専門科目	電 気 エ ネ ル ギ ー	電気エネルギー概論	2後	○	2			○			2						共同	
		電気機器Ⅰ	3前			2		○			1							
		電力発生変換工学	3②			2		○			1							
		電力システム工学	3②			2		○			1							
		高電圧工学	3前			2		○			1						1	
		電気機器Ⅱ	3後			2		○			1							
		電気法規及び施設管理	3後			2		○										
		電気工学実験	3①	○		2				○	2							共同
	小計（8科目）		—	—	2	14	0	—			2	0	0	0		1	—	
	電 気 エ ネ ル ギ ー 共 通 バ ル ギ ー ・ ス	パワーエレクトロニクス	3後			2		○									1	
		小計（1科目）		—	—	0	2	0	—			0	0	0	0		1	—
	電 子 半 導 体 バ イ ・ ス	電子物性Ⅰ	2後	○	2			○			1						共同	
		超伝導工学	3前			2		○			1							
		電子物性Ⅱ	3前			2		○			1							
		半導体デバイス工学Ⅰ	3①			2		○			1							
		半導体デバイス工学Ⅱ	3③			2		○					1	1				
		電子デバイス工学実験	3③・④	○		2				○	1	1						
		デジタル回路	3②			1		○					1					
	集積回路	3④			1		○					1						
	小計（8科目）		—	—	2	12	0	—			2	1	1	1		0	—	
	電 子 情 報 通 信 ・ 共 通 バ イ ス	光通信システム工学	3③			2		○			1							
		小計（1科目）		—	—	0	2	0	—			1	0	0	0		0	—
	電 子 情 報 通 信	通信理論	2後	○	2			○					1				1	
		デジタル信号処理	3後			2		○										
		通信システム工学	3①			2		○										
		情報ネットワーク	3前			2		○					1					
電磁波工学		3前			2		○					1						
通信法規及び施設管理		3後			2		○					1						
無線通信工学		3④			2		○					1						
情報通信工学実験		3前	○		2				○		1				1	共同		
小計（8科目）		—	—	2	14	0				1	2	0	0		1	—		
合計（260科目）		—	—	54	320	0				7	3	1	1		287	—		
学位又は称号		学士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係										
卒業要件及び履修方法									授業期間等									
専門科目から必修科目54単位、選択必修科目2単位以上、選択科目24単位以上、基礎教育科目から14単位以上、外国語科目から英語6単位以上、さらに専門科目、基礎教育科目、外国語科目から24単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。 ※留学生に関する科目は留学生のみ履修可能 ※履修科目の登録の上限:44単位(年間)									1学年の学期区分			4学期						
									1学期の授業期間			7週						
									1時限の授業の標準時間			100分						

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学部 スマートコミュニケーション工学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎教育科目	導入科目	大学スタディスキル	○ この授業では、新入生を各クラスに分け、少人数グループで学修を進める。まずは、大学での目標を明確に定めるための個別指導を行う。その後、大学での学修マナー、キャリアガイダンス、専門教育等を受講する上で必要となる基礎知識について、討論や、レポートの作成、プレゼンテーション、外部講師の講演、施設見学等とおして身につけ、大学生活の目標を明確にしていく。 また受講生は様々な経験、他の学生との交流により、コミュニケーション能力を高めるとともに、調査、分析、討論を行う能力、自主的な学修姿勢、多様な価値観を理解する能力を身につけることを到達目標とする。	
	学修基礎科目	実用国語（文章力）	この授業は、大学で学ぶ上で必要となる文章力及び国語力の基盤を養成することを目指す。大学では、自身の考えや研究した結果を文章に書き表すことが求められる。また、適切に相手に伝えたり、相手が伝えようとすることを正確に理解したりする、確実な国語力も必要である。なお、それらは社会に出てからも求められる能力となる。そこでこの授業では、文章力・国語力の基盤を養成すると同時に、これらを学び続ける上で重要となる、効果的な勉強の仕方や、目標達成に向けた取り組み方についても体得していく。	
		実用国語（伝達力）	就職活動を開始したら、まず「履歴書」や「エントリーシート」を志望先に送る必要がある。それらの提出書類には、「学生時代に力を注いだこと」や「自己PR」などの作文を書く欄がある。書類選考を通過するためには、文章で自分の長所を存分にアピールし、送付状も添えなければならない。そこで、この授業では、改まった場面での言葉の使い方や、①誤字脱字・ねじれない作文を一通り書くことができる、②自分で一通り正式な書き方に則った手紙を書くことができる、をこの授業の目標とする。	
		実用数学（計算力）A	実社会において、数学を用いて解決すべき問題は式で与えられるのではなく、文章や事象を分析、定式化することで解くことが出来る。この授業では各テーマの問題に対し、数学的な考察方法を学修する。学修状況に応じて内容は変更する場合がある。この授業の目標はSPIで必要となる高校1年生までに学ぶ基礎的な計算と関数について振り返りを行い、各問題に対し、数学的考察により定式化及び図式化を使って解法を導くことが出来るようになることである。	
		実用数学（計算力）B	実社会において数学を用いて解決すべき問題は、式で与えられるのではなく、文章や事象を分析、定式化することで解くことが出来る。そのため、就職活動の際によく使われるSPIの非言語分野及び公務員試験、教員採用試験など多くの試験では文章問題が圧倒的に多い。この授業では各テーマの問題に対し、数学的な考察方法を学修する。実用数学（計算力）Aの内容は修得しているものとして授業を進めるので注意すること。なお、学修状況に応じて内容は変更する場合がある。	
		実用数学（活用力）	公務員の国家二種試験、地方上級試験やその他のさまざまな資格試験では数的推理・判断推理などの数学的能力が要求されることになる。この授業では、資格試験問題を解くために必要とされる数学を学修していく。数学が、ある程度得意で、資格の習得に興味ある学生を対象として進めていく。実用数学（計算力）A、実用数学（計算力）Bの内容は理解しているものとして授業を進めていくことにより、より高度な数学の知識修得を目指す。	
		くらしの中の数学A	主に社会や暮らしに関連した話題を取り上げながら、数学について学んでいく。この授業で登場する数学は、割合など、基本的なものが多い。一方で、この授業では多様な話題を扱うので、履修者には社会の様々なことに関心を持つことが求められる。具体的には、スポーツ、選挙、買い物などに関連した話題を扱う。そして、大学生や社会人に必要な数学の基礎学力や論理的思考力を身に付けるとともに、社会や暮らしに関連した話題について、数学を用いて考察できるようになることを目標とする。授業は講義形式で行うが、学生が自分で考えながら問題を解くことも大切なので、適時、問題を解く時間も設ける。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎教育科目	学修基礎科目	くらしの中の数学B		主に社会や暮らしに関連した話題を取り上げながら、数学について学んでいく。本科目では多様な話題を扱うので、履修者には社会の様々なことに興味を持つことが求められる。例えば、感染症の検査に関することや金利に関することなどを扱う。数学の単位としては、確率や数列などを扱う。最終的に、大学生や社会人に必要な数学の基礎学力や論理的思考力を身に付けるとともに、社会や暮らしに関連した話題について、数学を用いて考察できるようになることを目標とする。授業は講義形式で行うが、学生が自分で考えながら問題を解くことも大切なので、適時、問題を解く時間も設ける。	
		A I 導入		科学技術の進歩発達により、今まで人が手作業で行っていた業務が人工知能（AI）システムへ代替可能となってきた。また、人間に実現できなかったことがAIによって実現可能となるなど、これからは新たなAIが作成され、社会が変化することが予想できる。この変化する社会に対応していくには、AIとは何か、また、AIによって何を解決できるのかを理解する必要がある。この授業では、AIが社会に与える影響を学び、AIを作成する上での必要なデータリテラシー、AIの技術的な仕組みについて学ぶ。	
		プログラミング導入		近年、データサイエンスや人工知能（AI）の急速な発展に伴い、それらを活用できるデジタル人材の重要性が増している。デジタル技術を真に活用するためには、プログラミング技術の理解と応用が不可欠であり、単にツールを使うだけでなく、その仕組みを深く理解することが求められる。この授業では、プログラミングの制御構文である、条件分岐、繰り返しを学習する。その後、オブジェクト指向の基礎を学習する。この授業の目的は、プログラミングに関する基礎知識を深め、受講者のプログラミング学習を促進することである。	
		データリテラシー		この授業では、高度な数理的分析を行う前提となる、データの読み方や考え方に関する基本的事項について、社会調査や心理測定等の観点から学ぶ。調査研究における調査設計やデータ収集・分析の位置づけ、母集団と標本との関係、信頼性と妥当性、調査・分析に関わる様々なバイアス、過剰な測定・評価の弊害等について、具体的例とともに学んでいく。調査の企画、実施、データの収集、分析、報告等の際に陥りやすい誤謬を理解し、回避できることを目指す。	
		データサイエンス基礎		この授業では、高度な数理的分析を行う前提となる、データの読み方や考え方に関する基本的事項について、特に記述統計学を中心に学ぶ。データの種類、尺度（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）、それらに応じた様々な整理方法（図表の描き方など）、平均値や分散などの初歩的な統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析、クロス集計の方法などを学び、データに応じた集計・要約の方法を自分で選択できるようになることを目指す。	
		データサイエンス実践演習		データサイエンスとそれに基づくAIの基礎と応用を理解するには、データを統計として扱う知識と技術が求められる。この授業では計算機環境を用いて、社会や自然などのさまざまなデータを統計的に処理し、その特徴を理解するためのプログラミングをMATLAB及びPythonにより行う。データ分析の基礎として代表値と散布度、相関係数、相関と因果、分散分析、回帰分析、共分散分析、尺度の信頼性と妥当性などといった統計の基本的事項を、データと計算を通して理解できるようにする。	
キャリア科目		キャリア形成基礎論		この授業は、学生が九州産業大学で勉学を始めるにあたり、改めて自分自身を見つめ直し、自己の適性や能力を知る手掛かりを得るとともに、将来を見据えた学生生活をデザインしていくことを目的とする。将来を考えるということが、その人の生き方を模索するものであるならば、就職（活動）に限らず、長期的な視座に立ち、多様な視点から物事を考えることが求められる。この授業では、そうした基礎能力となる「自分で情報を集める力」、「集めた情報を吟味する力」、「文章にまとめる力」の育成も視野に入れる。	
		キャリア開発論		この授業は、学生が賢明な職業選択と決定ができるように、そして悔いのない職業生活が送れるようサポートすることを目的として開設する。この授業を通して賢明な職業選択の在り方を学び、大学生活の充実を図り、希望する職業へ就職ができるように、外部から様々な分野の企業経営者や進路支援の専門家を講師として迎え、キャリア開発に関する実践的情報（社会や企業の雇用動向や職業生活の実態等）を提供し、多面的な授業を展開する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎教育科目	キャリア科目	キャリア形成戦略		就職活動を成功させるためにはセオリーが存在する。各種の選考とその対処、活動スケジュールと無駄のない動き、これらを理解せずに自己流で失敗する学生が後を絶たない。この授業では就活の諸局面で必要となる知識はもちろんのこと、エントリーシートや面接、グループディスカッションの実践などを通じて、無駄なく無理なく就活に臨める態勢を身につけることを目標とする。あわせて職業観、社会観も提示し、その後の社会人生活に必須の考え方の体得も目指す。	
		主権者リテラシー		2015年6月、改正公職選挙法が成立し、選挙権年齢が「20歳以上」から「18歳以上」へと引き下げられた。10代（18、19歳）の有権者の積極的な政治参加（投票）が期待されたものの、2016年の参院選をはじめ、各種の地方選挙において、10代の有権者の投票率は、全体投票率を下回る傾向にある。そこで、この授業では、主権者教育を内容とした授業を行うことにより、主権者として、主体的に政治や行政を見る眼を養うことを目的としている。 まず、「国民主権と参政権」、「外国の議会制度と選挙」に関する基本的事項について学習した後に、しばしば、「私たちにとって最も身近な」と形容される「地方議会」について、事例を交えて解説する。そして、「選挙と投票」に関して、投票率向上に向けた各種取り組み事例を紹介したうえで、模擬投票を行う。	
		消費者リテラシー		この授業は、消費者問題に関する基本的概念の修得を目指す。具体的には、現在生じている消費者問題を理解し、どのような対応ができるのかについて学ぶ。そこでは、消費者トラブルの発端は契約についてのことが多いことから、契約がどのように成立するのかなど契約の概念を理解した上で、民法・消費者契約法・特定商取引法などの消費者法についても学んでいく。さらに、この授業の特殊性は2つある。1つ目は、消費者問題は、日々新しい類型が生じることから、福岡県弁護士会の消費者委員会に所属している弁護士や消費生活専門相談員などを招き、現在生じている福岡の消費者問題を学ぶことである。2つ目は、授業で学んだことをどのように活かすのかを理解するために、悪質商法のゲームを通じて、理解を深めていくことにある。	
		九産大力		この授業は、学生諸君が九産大を知り、慣れ親しむことによって、「九産大生」としてのアイデンティティを構築し、その自覚と誇りに基づいた責任ある行動を取るようになるために開設した科目である。授業を通じて、九産大の歴史や建学の理念・理想を知り、人間力（生きる力）を身につけ、「九産大アイデンティティ」（＝九産大生らしさ）を発見する。その上で、自己アイデンティティ（自分らしさ）を醸成し有意義な学生生活を送ること、また、自己を成長させ、社会で生きていくために必要な力を身につけることを目的とする。	
		学生サポーター		この授業は、福岡市教育委員会とタイアップし、公立小中学校や幼稚園等の教育現場で教育補助業務に従事することを主たる内容とする教育ボランティア及びインターンシップの両要素を併せ持つ実習的科目である。 授業の補助業務のほか、遠足や運動会等の学校行事、さらに昼休みの図書の読み聞かせや放課後のクラブ活動等での指導を担当・体験することになるが、具体的内容は履修者と派遣先学校との調整によって決定される。 事前研修、現地活動、中間報告会等を経て、最終的に活動報告書を提出する。	
		学生ボランティア入門		この授業は、これから本格的にボランティア活動を行おうと考えている学生に対する事前学修＝「ボランティアのはじめの一步」に相当するものである。実際に学校外でボランティア活動を行うことを成績評価・単位認定の要件にするのではなく、将来ボランティア活動に従事することに備えての学修プログラムと位置づけており、ボランティア活動を始めるうえで事前に理解しておくべき内容についての授業そして大学構内でできるプチボランティア演習を行う。また、実際にボランティア活動を行っている活動家等の講演・演習を3回程度計画している。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎教育科目	文理芸融合科目	クロス科目	実践クロス講座		本学は、文系学部、理工系学部、芸術学部を有する総合大学であり、その特色を生かした「文理芸融合」の教育を推進している。 ここでは、講義を中心に、社会で活躍する女性を外部講師に招いて、女性ならではの問題と向き合いながら、どのように社会で生きてきたのかを学生に伝えていただく授業やアントレプレナーシップの概論を学び、起業に向けた心構えを育成する授業など、複数のテーマを設定して、学部学科の垣根を越えて、学生の将来に向けたキャリア意識を向上させるための授業を実施する。	
			実践クロス演習		本学は、文系学部、理工系学部、芸術学部を有する総合大学であり、その特色を生かした「文理芸融合」の教育を推進している。 ここでは、演習を中心に、スマートフォンのアプリ開発や地域の方々と連携して学園祭に出店するマルシェの企画・運営、実践的なデザイン思考、グループワークを中心にしたファシリテーションなど、複数のテーマを設定して、学部学科の垣根を越えて、学生の将来に向けたキャリア意識を向上させるための授業を実施する。	
			実践力育成演習		本学は、文系学部、理工系学部、芸術学部を有する総合大学であり、その特色を生かした「文理芸融合」の教育を推進している。 ここでは、福岡県土地家屋調査士会の協力を得て、土地家屋調査士の業務を実際の調査士が対話型、グループワーク形式で演習を行い、実践力を養う授業や大手の通信事業者である株式会社QTnetの協力を得て、サイバー攻撃や光ファイバーケーブルの接続方法を学ぶセキュリティ関連の演習を行うなど、複数のテーマを設定して、学部学科の垣根を越えて、将来に向けて身に付けておいて欲しい知識・技能を身に付けるための授業を実施する。	
			課題解決演習		この授業は、「21世紀の生き方」をテーマに、時代・社会の変化・実態・ニーズを理解し、日本国内だけでなく、世界のどこでも誰とでも学びあい、仕事をするにはどうしたいのかを考察することを目標とする。さらに、実務家をゲストスピーカーとして招聘し、どのように実践し取り組んだのかを紹介していただき、総合的討論を行う。 なお、受講生は、以下の力を身に付けることを到達目標とする。 1) 語る力 2) 情報力と課題発見・解決能力 3) 人間力 4) グローカル力 5) 異文化社会で生きる力	
			教養講座		本学は、文系学部、理工系学部、芸術学部を有する総合大学であり、その特色を生かした「文理芸融合」の教育を推進している。 ここでは、本学が取り組んでいる「柿右衛門様式陶芸研究」の成果をフィードバックする授業や、戦略的思考を養うための囲碁講座、地元福岡の歴史文化を学ぶ授業等、複数のテーマを設定して、学部学科の垣根を越えて、学生の皆さんが、将来役に立てることができる、教養を身に付けるための授業を実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎教育科目	文理芸融合科目	コラボ科目	実践コラボ講座		本学は、文系学部、理工系学部、芸術学部を有する総合大学であり、その特色を生かした「文理芸融合」の教育を推進している。 ここでは、文理芸各分野の協力の下、複数のテーマを設定して授業を行う。 本学の魅力を対外的に広報する「学生広報キャスター」の育成を目的とする授業では、現役の新聞記者や広告業界の方などに説明をしてもらい、情報収集、まとめ、報告（発表）する学習を継続して行う。 また、ダイバーシティをテーマにした授業では、本学が掲げる方針を念頭に、現代社会で知っておくべき事項について、学生が幅広い視野を獲得できるよう、様々な視点から講義を行う。	
			実践コラボ演習		本学は、文系学部、理工系学部、芸術学部を有する総合大学であり、その特色を生かした「文理芸融合」の教育を推進している。 ここでは、文理芸各分野の協力の下、複数のテーマを設定して授業を行う。 本学の魅力を対外的に広報する「学生広報キャスター」の授業では、実際に学生が、入試説明会等に出向き、生徒や保護者の前でプレゼンを行う。学生は、人に情報を伝えるための資料の作り方や話し方を実践的に学ぶ。 また、SDGsをテーマにした授業では、本学に設置する学部の専門的な事項がSDGsにどう関わるのかについて、グループワークやSDGsカードゲームを使って演習形式で学んでいく。	
	教養科目	人文科学科目	日本の歴史A		この授業は、日本史の基礎的な知識を修得し、原始から室町時代までの歴史の大局的な流れを理解し、歴史的な視点で物事を考えられるようになることを目的とする。具体的には各時代の基礎的かつ重要な事項を多方面（政治・経済・社会など）から講述し、トピックスとなる事件・事項を取り上げて説明する。また、過去の歴史を通して、現在の社会状況について歴史的な視点で考える訓練を行う。日本の歴史を理解し、歴史の大きな流れの中で物事が考えられるようになることを目標とする。	
			日本の歴史B		この授業は、日本史の基礎的な知識を修得し、戦国時代から現代までの歴史の大局的な流れを理解し、歴史的な視点で物事を考えられるようになることを目的とする。具体的には各時代の基礎的かつ重要な事項を多方面（政治・経済・社会など）から講述し、トピックスとなる事件・事項を取り上げて説明する。また、過去の歴史を通して、現在の社会状況について歴史的な視点で考える訓練を行う。日本の歴史を理解し、歴史の大きな流れの中で物事が考えられるようになることを目標とする。	
			世界の歴史A		この授業は、アメリカ合衆国史をテーマに据えて、オーソドックスな講義形式で開講される科目である。具体的には、植民地時代から19世紀中葉までの（アメリカ南北戦争前後までの）アメリカ合衆国史を、出来得る限り太いコンテキスト（文脈）の中において解題、解説する。往々にして、アメリカ合衆国史は、第二次世界大戦終結以降の「アメリカ現代史」として語られる傾向が見受けられ、植民地時代から19世紀末・20世紀初頭までのアメリカ合衆国史は、相対的に「序論的」な位置に置かれがちである。しかしながら、本科目で取り扱う時代に表出した、様々な出来事を関知することは、今日におけるアメリカ合衆国の「在り方」を観察、理解するうえでの、有益な視座、ヒントを与えてくれるはずである。	
			世界の歴史B		この授業は、アメリカ合衆国史をテーマに据えて、オーソドックスな講義形式で開講される科目である。具体的には、19世紀中葉から（アメリカ南北戦争勃発から）19世紀末・20世紀初頭までのアメリカ合衆国史を、出来得る限り太いコンテキスト（文脈）の中において解題、解説する。往々にして、アメリカ合衆国史は、第二次世界大戦終結以降の「アメリカ現代史」として語られる傾向が見受けられ、植民地時代から19世紀末・20世紀初頭までのアメリカ合衆国史は、相対的に「序論的」な位置に置かれがちである。しかしながら、本科目で取り扱う時代に表出した、様々な出来事を関知することは、今日におけるアメリカ合衆国の「在り方」を観察、理解するうえでの、有益な視座、ヒントを与えてくれるはずである。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 教育 科目	教 養 科 目	人 文 科 学 科 目	哲学の世界A		この授業では、中世哲学と宗教哲学に関する基本的な知識と考え方を学ぶ。哲学は物事の根本原理を探究する学問であり、既存の知識に依存せず独自の視点で物事を考察することが求められる。この授業では、特に宗教と哲学の交差点を深く理解し、哲学的思考法の基礎を身につけることを目的とする。難解とされがちな哲学的思考の魅力を探るとともに、それを通じて現代の問題に対する新たな視座を培う機会を提供する。哲学初心者にも理解しやすい内容を重視する。	
			哲学の世界B		この授業では、西洋哲学の中心的存在であるアリストテレスの思想を学ぶ。彼が提唱した論理学や形而上学、倫理学などは、多様な学問の基盤を築き、現在もなお学問の指針として影響を与えている。この講義では、アリストテレスの生涯と著作に触れるとともに、彼が掲げた学問論や倫理観の実践的意義を探っていく。アリストテレスを通じて論理的思考や学問的探究の重要性を体得し、主体的に考察する力を養成する。幅広い知識を身につける助けとなる内容となっている。	
			文学の世界A		福岡県は、現存する我が国最古の和歌集『萬葉集』と非常に関わりの深い土地である。この授業では、『萬葉集』に収載された福岡県にまつわる歌を取り上げ、その読解を通して、福岡県に残る文化資源について講義形式で学ぶ。なお、①『萬葉集』の基礎知識について理解し、古代と現代の言語の違いについて正しい日本語で説明することができる、②福岡県の地域的特性を理解し、その文化資源の活用方法を考えることができる、をこの授業の目標とする。	
			文学の世界B		奈良時代に編纂された我が国最古の和歌集『萬葉集』には、各地の景や、伝説・由縁（エピソード）を詠んだ歌が散見される。この授業では、それらの歌の読解を通して、各地に残る自然・文化資源について講義形式で学ぶ。なお、この授業は、①福岡県に残る神功皇后伝説について理解し、地域振興のための活用方法を考えることができる、②奈良時代の人々の、過去の人物や畿外の地域に対する関心の持ち方について考察し、自分の考えを持つことができる、を目標とする。	
			心理学の世界A		この授業では、心理学の基本概念や理論を体系的に学ぶ。心理学とは何か、どのように発展してきたかを歴史的背景と共に理解し、さらに心理学研究の主要な手法を具体例と共に紹介する。その後、脳や生理心理学、知覚と認知のメカニズム、学習・記憶の基礎を学び、人間の心理活動の基盤を理解していく。また、発達心理学を通じてライフスパンにおける人の心の成長とそれぞれの時期に抱えやすい課題を学び、感情と動機づけに注目して人間の行動の原動力を探索する。	
			心理学の世界B		この授業は、心理学の応用分野と実践的な内容を中心に進める。パーソナリティ理論を学び、人間の個性や性格について理解を深め、社会心理学を通じて人間関係や集団行動を考察する。さらに、ストレスや臨床心理学を通じて心の健康とケアについて学び、健康心理学では心と体のつながりを理解していく。産業心理学では職場や組織における心理学の役割や応用を学び、最後に心理学の未来やテクノロジーとの融合、今後の展望についてまとめ、学びを総括する。	
			文化人類学A		この授業では、文化人類学がこれまでに築き上げてきた「異文化理解」の手法を中心に学ぶ。講義では、相対主義的視点と普遍主義的視点の対立を軸に据え、文化人類学における基本的な概念を民族誌の具体的な事例を通じて解説する。特に、ジェンダーと親族の関係に焦点を当て、多様な文化的背景のもとで人間関係がどのように形成されるのかを考察する。これにより、受講生は文化の微妙な差異を捉え、それらを解釈する能力を身につけることを目指す。また、自文化にとらわれず、異文化を客観的に理解する視点を習得することで、現代社会における文化的多様性への対応力を強化する。	
			文化人類学B		この授業では、文化人類学の視点から「家族」というテーマを掘り下げ、これを通じて文化の多様性を探求する。講義では、家族に関する歴史的な学説や主要な学者の思想を平易に紹介するとともに、それらがどのように文化人類学の枠組みで発展してきたかを学ぶ。核家族や構造主義といった重要な概念に加え、核家族の枠を超えたさまざまな家族形態や親族関係の事例を取り上げ、それらを深く考察する。これにより、受講生は文化の多様な解釈方法を理解し、固定観念を打破して柔軟な思考力を養う。本講義を通して、文化の多様性に対する洞察力を深めるとともに、自文化を再評価する新たな視点を得ることを目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 教育 科目	教 養 科 目	人 文 科 学 科 目	美学・美術史A		この授業では、美的価値観を「美学」の視点から探求し、現代社会における個別の価値観の形成を理解することを目指していく。「美的価値」や「オリジナルとコピー」、「寄生の美学」などのテーマを通じて、美学的な思考の枠組みを広げる。また、授業中にディスカッションや課題を通して、自らの価値観を見直し、深める機会を提供する。本科目は、学生が自身の美的価値観を見つめ、これを形成する能力を身につけることを目的とする。	
			美学・美術史B		この授業では、西洋美術史を中心に、芸術運動とその背景を幅広く学んでいく。古代から中世、近代、現代に至るまでの美術の変遷を探り、「アールヌーボー」、「ジャポニズム」、「アールデコ」などの美術運動を深く理解する。さらに、日本のサブカルチャーや国内外の美術館の教育活動を取り上げ、文化的価値の継承と革新の意義について考察する。授業を通じて、学生が美術と文化の結びつきを理解し、豊かな視点で美術を捉える力を養う。	
			芸術の世界A		この授業では、芸術概念の歴史的な成り立ちとその社会的機能について学んでいく。情報化とグローバル化が進む現代社会では、地域や民族、文化の特異性が均質化し、感受性や感動の幅が狭まる懸念が指摘されている。このような状況において、芸術が個人の自己表現や他者との連帯をどのように促進できるのかを探っていく。また、市民社会における芸術の創造的役割について議論し、社会再生や新たな価値観の共創を視野に入れた能動的な芸術の理解を深める。これにより、受講生は芸術を通じた自己拡張や社会との関わり方について新たな視点を得ることを目指す。	
			芸術の世界B		この授業では、芸術を通じて地域や社会がどのように再生し、共創を進めることができるかを考察していく。具体的には、地域や都市におけるアートプロジェクトの実践例を分析し、それらが持つ文化的価値や社会的影響を探究する。また、サイトスペシフィックアートやオルタナティブアートといった実践的アプローチを学び、芸術が市民社会において果たす役割を理論的かつ実践的に考える。最終的に、芸術を媒介とした草の根的なcommonsの形成や、社会の課題解決に寄与する可能性を検討し、新たな創造的社會モデルを描くことを目指す。	
			人文科学の世界		科学の分類と各学部の学習分野との関係を整理した上で、人文科学を中心として個人と社会との関係について理解を深めることを目標としている。「社会で求められる能力」の中で、主としてロジカル・シンキング／ライティングやコミュニケーションに関する能力を高めるために、前半では、大学生が論理的に考えて表現する（書く）スキルを身につけ、後半は相手の話を聴き、伝えたいことを組み立て、相手を意識して表現する（話す）スキルを養う。また、個人が向き合うことになる社会の実態に関して、企業のカテゴリーや社会の仕組みを知り、社会的課題の解決方法の考え方について理解を深める。	
	社 会 科 学 科 目		法学A		法は、普段の生活では道徳や倫理などのルールと渾然一体になり、ルール全体が法と認識されていることが多い。しかし法とは社会のルールの1つである。この授業では、特に公法について、生活と法がどのように関わっているのか、法にどのような種類のものがあるのか、法的に考えるとはどのように考えることなのか、などについても学ぶ。高校までの授業ではあまり学ぶ機会がなかったと思われるため、基本的なことをわかりやすく説明する。基本的な知識や思考を身に付け、専門科目へのステップアップ、日常生活で活かせることができるようになることを目指す。	
			法学B		法は、普段の生活では道徳や倫理などのルールと渾然一体になり、ルール全体が法と認識されていることが多い。しかし法とは社会のルールの1つである。この授業では、特に私法について、生活と法がどのように関わっているのか、法にどのような種類のものがあるのか、法的に考えるとはどのように考えることなのか、などについても学ぶ。高校までの授業ではあまり学ぶ機会がなかったと思われるため、基本的なことをわかりやすく説明される。基本的な知識や思考を身に付け、専門科目へのステップアップ、日常生活で活かせることができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 教育 科目	教 養 科 目	社 会 科 学 科 目	日本国憲法A		集団的自衛権、憲法改正、生前退位などによりここ数年急激に日本国憲法に注目が集まっている。しかし、そもそも憲法は国家の基本法であり、あまり意識されることがなかったが、これらの問題以外にも私たちの日々の生活に関わりを持っている。日本国憲法Aの講義では日本国憲法の条文を知り、どのようなことが保障されているのか、どのように国家権力が制限されているのかなど、具体的な日常生活との関りを指摘しながら学んでいく。この授業では、人権規定について分かりやすく説明し、人権を身近なものとして理解することを目指す。そして、最終的に、現在の様々なルールが憲法の観点からどう考えることができるのかを疑う姿勢、論理的思考を身に付けることを目指す。	
			日本国憲法B		集団的自衛権、憲法改正、生前退位などによりここ数年急激に日本国憲法に注目が集まっている。しかし、そもそも憲法は国家の基本法であり、あまり意識されることがなかったが、これらの問題以外にも私たちの日々の生活にかかわりを持っている。日本国憲法Bの講義では日本国憲法の条文を知り、どのようなことが保障されているのか、どのように国家権力が制限されているのかなど、具体的な日常生活との関りを指摘しながら学んでいく。この授業では、統治機構について分かりやすく説明し、憲法を身近なものとして理解することを目指す。そして、最終的に、現在の様々なルールが憲法の観点からどう考えることができるのかを疑う姿勢、論理的思考を身に付けることを目指す。	
			現代の政治A		この授業では、政治の基本的な概念と現代の制度について理解を深めていく。政治の必要性やその基本的役割を再確認した上で、内閣や議会、選挙といった主要な制度の仕組みや歴史を学ぶ。特に、立法府と行政府の機能、官僚制の意義、選挙制度の進化を中心に解説する。授業を通して、現代の政治がどのように構築され、運営されているのかを体系的に学び、政治に対する理解をより深めることを目指す。これにより、社会の中での政治的課題に対する批判的視点と基礎的知識を養う。	
			現代の政治B		この授業では、戦後日本の政治の発展と現代の課題について探っていく。特に、日米関係を軸とした日本の戦後の民主化、再軍備、経済発展の歴史を振り返りながら、日本の政治構造がどのように変遷してきたかを考察する。また、「55年体制」の崩壊以降の動向を踏まえ、現代の政治的課題に対する理解を深めていく。さらに、利益集団の役割や国際的視点を交え、現在の社会における政治の重要性と市民の役割について考える機会を提供する。	
			地理の世界A		この授業では、日本の自然環境とそれに基づく地域構造を地理学的視点から学んでいく。具体的には、日本の地形や気候などの自然的特徴と、これらが農業や工業などの産業とどのように関係しているかを探求する。また、豊田市の自動車工業都市や輪島市の地場産業都市など具体例を通して、地域形成と産業の発展の仕組みを考察する。この授業を通じて、日本の自然環境が地域構造や産業に与える影響について深い理解を得ることを目指す。	
			地理の世界B		この授業では、日本の都市化とそれに伴う多様な社会的課題を総合的に学ぶ。東京における企業の集積や中心商店街の再生問題を具体例として取り上げ、日本の都市構造や経済活動の多様な特徴を詳細に分析する。また、都市の住宅や交通問題、さらに環境問題についても深く考察し、現代日本が抱える課題の原因や解決策を地理学的視点で多角的に検討していく。この授業を通じて、都市と社会の相互関係を包括的に理解し、持続可能な社会の形成について考える力を養うことを目指す。	
			人権・同和問題A		この授業では、部落差別を中心とした日本の歴史的背景と、それが現代社会にどのように影響を与えているかを考察する。中世から近世にかけての被差別身分の形成や固定化の過程、解放後の社会状況、そして水平社創立以降の部落解放運動の歴史を通じて、差別問題の根本的な構造を理解する。また、インターネット上の差別的な書き込みや結婚差別といった現代の課題を取り上げ、これらが社会の中でどのように生まれ、維持されているのかを分析する。学生は、歴史的事実と現代の事例を関連付けながら、差別の本質を学び、自身と社会との関わりを主体的に捉える力を養う。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎教育科目	教養科目	社会科学科目	人権・同和問題B		この授業では、現代社会における人権課題を多角的に考察する。性指向や性自認に関連する問題、いじめやアメリカの人種差別といった国際的事例を含む多様な視点から人権意識を深める。また、同和対策審議会答申以降の政策や部落差別解消推進法の内容を理解し、多様性を認め合う社会の実現に向けた取組みについて検討する。学生は、日常生活に潜む偏見や固定観念を自覚し、「自分らしく幸せに生きること」とは何かを問い直します。最終的には、自身が主体的に行動できる力を身に付け、差別のない社会に向けて貢献する意識を育成する。	
			ジェンダーと社会A		この授業では、ジェンダーとは何かを基本から学び、社会的・文化的に形成された「女らしさ」「男らしさ」といった概念について考察する。ジェンダーの歴史的背景を理解し、性差別やフェミニズム、性別役割分業などの社会問題を取り上げ、現代におけるその意義を検討する。さらに、法制度や職業のジェンダー的側面について学び、固定的な性別観念の影響を分析する。この授業を通して、ジェンダー視点での思考力を高め、性別にとられない柔軟な価値観を身につけることを目指す。また、時事問題を取り入れることで、現代社会におけるジェンダー問題の実態を深く理解し、自らの考えを整理し発展させる力を養う。	
			ジェンダーと社会B		この授業では、恋愛や結婚、家庭生活、職業選択といった日常生活に直結するテーマを通じて、ジェンダーの影響を分析する。「母性」「父性」という概念や家族構造の変遷、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、恋愛関係におけるデートDVの社会的背景を深く掘り下げます。また、LGBTQや性の多様性に関する課題についても学び、多様性を尊重する社会のあり方を探る。この授業では、ジェンダー問題を自身の生活や社会的選択にどう関連付けるかを考察し、自らの価値観や進路選択において主体的に活用できる力を培う。多角的な視点を養い、多様性を理解し受け入れる柔軟な思考を身につけることを目指す。	
			社会科学の世界A		経済活動は社会生活の重要な要素であり、社会科学は、人々の経済活動を研究する分野である経済学を含んでいる。この講義では、経済学を中心に社会科学の世界を解説する。経済と言うと、すぐに思い浮かぶのはお金のことかもしれませんが、お金のやり取りの背後には人々の消費生活や生産活動がある。経済とは、消費生活や生産活動を含む人々の暮らしのことである。改めて現代の経済はどのような特徴を持ち、どのような経済問題に直面しているのでしょうか。経済学は現代の経済の特徴を明らかにし、現代の経済問題に取り組んできた。本講義は、現代の経済に関する経済学の入門講義である。 現代の経済を形成している種々の要因のうち、比較的長期にわたって不変な少数の要因を経済構造と呼びましょう。人々の経済行動は特定の経済構造の中で展開される。「社会科学の世界」の前半部分として、この講義では主として経済構造を取り上げる。	
			社会科学の世界B		経済活動は社会生活の重要な要素であり、社会科学は、人々の経済活動を研究する分野である経済学を含んでいる。この講義では、経済学を中心に社会科学の世界を解説する。経済と言うと、すぐに思い浮かぶのはお金のことかもしれませんが、お金のやり取りの背後には人々の消費生活や生産活動がある。経済とは、消費生活や生産活動を含む人々の暮らしのことである。改めて現代の経済はどのような特徴を持ち、どのような経済問題に直面しているのでしょうか。経済学は現代の経済の特徴を明らかにし、現代の経済問題に取り組んできた。本講義は、現代の経済に関する経済学の入門講義である。 経済構造の中で各人は自己利益を求めて生産活動に取り組み、また消費生活を享受するが、人々の行動は、現代の経済の各所に大小の経済変動を引き起こす。「社会科学の世界」の後半部分として、この講義では主として経済変動を取り上げる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎教育科目	教養科目	自然科学科目	科学の世界A		この授業では、物理学の基本概念と法則を通じて、自然科学の視点を学ぶ。物理学は、物質や宇宙の成り立ち、そこに働く力を解明する学問であり、あらゆる自然科学の基盤として機能している。この授業では、その発展過程を振り返りながら、物理の基本的な仕組みを数式の使用を最小限に抑え、身近な例を交えて分かりやすく解説する。物理学が現代科学技術や日常生活にどのように応用されているのかを理解することで、自然現象に対する新しい視点を得ることを目指す。また、物理の基礎となる考え方を習得することで、自然科学や科学技術への関心を高め、問題発見能力や論理的思考力を養うことを目指す。	
			科学の世界B		この授業では、環境問題と科学技術の歴史的背景を考察する。21世紀において人類は、環境、食料、人口、エネルギーなどの地球規模の課題に直面している。この授業では、「生態と環境」を軸に、科学技術がどのように発展し、これらの課題解決に取り組んできたかを学ぶ。歴史的な具体例を通じて、進化論やエコロジーの発展、環境変化の過程を検討し、さらに現代の地球環境問題やSDGsの意義について議論する。これにより、受講者は科学技術の発展と社会的影響の相互関係を深く理解し、地球規模の視点で持続可能な未来を考察する力を養う。科学技術史の基礎知識とともに、自らの考えを論理的に構築する力を旨とする。	
			地球環境A		この授業では、地球という惑星の基本的な特性とその内部構造に関する理解を深める。エラトステネスの地球測定や地球の元素組成から始まり、P波・S波を活用した地球内部の構造、地磁気の役割などを学ぶ。また、プレートテクトニクスを通じて地球のダイナミックな活動について考察し、これらの知識を基に地震や火山活動のメカニズムを科学的に理解する力を養う。この授業を通じて、地球の内部動態やそれが地表に与える影響についての基礎を学ぶと同時に、現代の地学的課題に対する視座を広げる。	
			地球環境B		この授業では、地球史の大きな流れとそこでの環境変動について探求する。地層の対比や放射年代測定を用いた地球史の分析、月の起源や大気形成過程を学び、スノーボールアースやカンブリア爆発といった生命進化の重要なイベントを取り上げる。さらに、繰り返される大量絶滅や太陽系の中での地球の特異性について考察し、地球外生命や移住可能性について議論を深める。この授業を通じて、地球環境の変化とその時間的・空間的なスケールについて科学的な理解を深める。	
			生物の世界A		この授業では、生態系の多様な構造と機能について学んでいく。具体的には、環境と生物の相互作用、個体群の変動、群れや縄張り、競争、捕食や擬態、寄生、共生といったトピックを扱い、進めていく。また、生態系保全の重要性を理解するために、里山や農薬の影響、生物防除などを取り上げる。これにより、生態系の持続可能な利用と保全についての深い理解を目指す。講義を通じて、得た知識を基に論理的に考え、自分の言葉で表現する力を養う。	
			生物の世界B		この授業では、生物の多様性と分類を中心に、生物の進化や種概念、学名の意義等について学んでいく。また、生物が私たちの日常生活にどのように影響を及ぼしているのかについて、バイオメディクスなどの具体例を交えて考察する。これにより、生物の多様性が私たちの社会や環境にどのように寄与しているかを深く理解していく。さらに、講義内容をもとに、自分の視点で論理的に記述・説明する能力を伸ばしていくことを目的とする。	
			自然科学の世界A		この授業では、自然科学の基本的な考え方を学んでいく。物理、化学、生物の主要なテーマを扱い、光や音の性質、物質の変化、生物の体の仕組み、エネルギーの流れなど、日常生活に関わる自然現象をわかりやすく解説する。身近な例などを取り入れ、自然科学の仕組みを楽しく理解できるよう工夫して進める。授業の最後には、学んだ内容を振り返り、自然科学が日常や社会にどのように活用されているかを考える時間を設ける。科学初心者でも安心して参加でき、自然界を新たな視点で理解する基礎力を身に付けることができる。	
			自然科学の世界B		この授業では、現代社会と深く関わる自然科学の基礎を学ぶ。気候変動、エネルギー問題、生物多様性など、身近で注目されるテーマを中心に上げていく。具体的な事例を用いて、科学的な背景をわかりやすく説明し、科学技術がどのように社会に役立つかを考察する。簡単な事例等を通じて、科学を実生活に応用する力を養う。最後には、これまで学んだ知識を基に現代社会の課題を考える機会を設け、科学への興味を深められる内容にする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎教育科目	教養科目	心と身体 の健康 科目	スポーツ科学演習A		この授業は、身体の様子や働きを理解し、運動やスポーツを通して健康でいきいきとした生活を送るための知識を獲得することを目的とする。スポーツの基本技術の修得をする他、ゲームの楽しさの体験を通して、健康の保持・増進のための方策を立案する力を身に付ける。この授業は、スポーツ実技と講義を組み合わせた演習形式となっており、健康づくりの必要性和方法を理解することに加え、スポーツを実践するための運動技能やマナーも習得する。スポーツ実技の種目は、卓球、バドミントン、バレーボール等である。また、スポーツの実践による人間関係の新規構築や改善など、ストレスマネジメントやメンタルヘルスの維持・改善を図る能力を高めることも重視する。	
			スポーツ科学演習B		この授業は、身体の様子や働きを理解し、運動やスポーツを通して健康でいきいきとした生活を送るための知識を獲得することを目的とする。スポーツの基本技術の修得をする他、ゲームの楽しさの体験を通して、健康の保持・増進のための方策を立案する力を身に付ける。この授業は、スポーツ実技と講義を組み合わせた演習形式となっており、健康づくりの必要性和方法を理解することに加え、スポーツを実践するための運動技能やマナーも習得する。スポーツ実技の種目は、バスケットボール、フットサル、ソフトボール等である。また、スポーツの実践による人間関係の新規構築や改善など、ストレスマネジメントやメンタルヘルスの維持・改善を図る能力を高めることも重視する。	
			心と身体 の健康A		心と身体 の健康を維持・増進するためには、正しい知識と適切な生活習慣の実践が求められる。現代社会では生活環境の変化に伴って運動不足や栄養バランスの偏り、睡眠時間の減少、または過度な喫煙・飲酒など、生活習慣が乱れることが多い。そのため、心と身体 の健康に関する基礎的な知識を身に付け、健康維持のための生活習慣の改善方法や健康増進のための方策を立てることができるよう、本講義では主に以下の内容を扱う。①健康の定義と健康寿命、②現代人の健康と生活習慣病、③運動処方とトレーニング、④ストレスとメンタルヘルス	
			心と身体 の健康B		心と身体 の健康を維持・増進するためには、正しい知識と適切な生活習慣の実践が求められる。現代社会では生活環境の変化に伴って運動不足や栄養バランスの偏り、睡眠時間の減少、または過度な喫煙・飲酒など、生活習慣が乱れることが多い。そのため、心と身体 の健康に関する基礎的な知識を身に付け、健康維持のための生活習慣の改善方法や健康増進のための方策を立てることができるよう、本講義では主に以下の内容を扱う。①食生活と栄養、②社会生活と感染症、③依存症、④生活リズムと睡眠	
外国語科目	共通英語科目		Reading & Writing I		グローバル・イングリッシュプログラムでは、国際的に通用するコミュニケーション力を修得するために少人数能力別クラス編成の「Listening & Speaking」と「Reading & Writing」をそれぞれセットで受講し、KSU英語アチーブメントテストのレベル別目標達成に向けた学習をする。「Reading & Writing I」はレベル別に初・中・上級に分かれるが、全てのクラスでe-Learningの課題学習があり、英語力向上に必要な学習時間をカバーする。英語力の伸びは、KSU 英語アチーブメントテストにより測定する。授業は基本的なリーディング能力及びライティング能力の習得のため、文法の基本的項目について重点的に復習する。	
			Reading & Writing II		「Reading & Writing II」はレベル別に初・中・上級に分かれるが、全てのクラスでe-Learningの課題学習があり、英語力向上に必要な学習時間をカバーする。英語力の伸びは、KSU 英語アチーブメントテストにより測定する。 授業では、Reading & Writing I を踏まえて、リーディング能力及びWriting 能力を強化するため、短い文章を読んで理解するため、そして短い文章を表現するために必要な、基本的な語彙、構文などの必要不可欠な項目を学習していく。	
			Reading & Writing III		「Reading & Writing III」はレベル別に初・中・上級に分かれるが、全てのクラスでe-Learningの課題学習があり、英語力向上に必要な学習時間をカバーする。英語力の伸びは、KSU 英語アチーブメントテストにより測定する。 授業では、Reading & Writing II を踏まえて、発展的なリーディング能力及びWriting 能力の習得のため、ある程度まとまった文章を読んで理解するため、そしてある程度まとまった文章を表現するために必要なスキルを学習していく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	共通英語科目	Reading & WritingⅣ		「Reading & Writing Ⅳ」はレベル別に初・中・上級に分かれるが、全てのクラスでe-Learningの課題学習があり、英語力向上に必要な学習時間をカバーする。英語力の伸びは、KSU 英語アチーブメントテストにより測定する。 授業では、Reading & Writing Ⅲ を踏まえて、リーディング能力及びライティング能力の習得のため、文章全体を速く、正確に読んで理解することや、文やパラグラフを適切に構成することができることに重点を置いて学習していく。	
		Listening & Speaking I		グローバル・イングリッシュプログラムでは、国際的に通用するコミュニケーション力を修得するために少人数能力別クラス編成の「Listening & Speaking」と「Reading & Writing」をそれぞれ週1回受講し、KSU英語アチーブメントテストのレベル別目標達成に向けた学習をする。「Listening & Speaking I」はレベル別に初・中・上級に分かれるが、全てのクラスでe-Learningの課題学習があり、英語力向上に必要な学習時間をカバーする。英語力の伸びは、KSU英語アチーブメントテストにより測定する。授業は基礎的な英語のリスニングとスピーキングの流暢さを向上させることを目的とする。また、基礎的語彙及び会話に必要な表現を使いこなせるようになるために取り組む。	
		Listening & Speaking II		「Listening & SpeakingⅡ」はレベル別に初・中・上級に分かれるが、全てのクラスでe-Learningの課題学習があり、英語力向上に必要な学習時間をカバーする。英語力の伸びは、KSU英語アチーブメントテストにより測定する。 授業では、Listening & Speaking I を踏まえて、リスニング能力及びスピーキング能力を強化するため、短い会話を「聞いて」、「理解して」、「する」ために必要な、基本的な語彙、表現などの必要不可欠な項目を学習していく。	
		Listening & SpeakingⅢ		「Listening & Speaking Ⅲ」はレベル別に初・中・上級に分かれるが、全てのクラスでe-Learningの課題学習があり、英語力向上に必要な学習時間をカバーする。英語力の伸びは、KSU 英語アチーブメントテストにより測定する。 授業では、Listening & Speaking Ⅱを踏まえて、発展的なリスニング能力及びスピーキング能力の習得のため、ある程度流暢的な会話を「聞いて」、「理解して」、「する」ために必要なスキルを学習していく。	
		Listening & SpeakingⅣ		「Listening & Speaking Ⅳ」はレベル別に初・中・上級に分かれるが、全てのクラスでe-Learningの課題学習があり、英語力向上に必要な学習時間をカバーする。英語力の伸びは、KSU英語アチーブメントテストにより測定する。 授業では、Listening & Speaking Ⅲ を踏まえて、リスニング能力及びスピーキング能力の習得のため、会話を速く、正確に「聞いて」、「理解して」、「する」ことができることに重点を置いて学習していく。	
		English Plus A		この授業では、これまで学んできたコミュニケーション能力をさらに発展させ、総合的な英語能力を向上させていく。授業では様々な形態(個人、ペア、グループ)によるアクティビティーを通じて、コミュニケーション能力を向上させていく。リスニング能力やスピーキング能力のために、様々な教材を用いて、会話でのコツを学んでいく。また、まとまった文章を読む能力やある程度まとまった文章を書く能力を養うことで、英語能力を発展させていく。	
		English Plus B		この授業では、これまで学んできたコミュニケーション能力をさらに発展させ、総合的な英語能力を向上させていく。また、日常英語で使用される表現を積極的に学習していき、生きた英語を学んでいく。授業では様々な形態(個人、ペア、グループ)によるアクティビティーを通じて、コミュニケーション能力を向上させていく。リスニング能力やスピーキング能力のために、様々な教材を用いて、会話でのコツを学んでいく。また、まとまった文章を読む能力やある程度まとまった文章を書く能力を養うことで、英語能力を発展させていく。	
		English Expressions A		この授業では、英語の基礎に重点を置くとともに、様々な事柄に関する英語表現を幅広く運用する力を身につけることを目指す。授業では、英語のコミュニケーション能力向上につながる慣用句や構文、語彙など、様々な英語表現についてテキストを題材に学習していく。このためテキストの題材を理解し、テキストで取り上げられている文法項目や文章全体を理解することも必要である。受講者には授業への積極的な参加と努力を見せることが最も求められる。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	共通英語科目	English Expressions B		この授業では、英語の基礎に重点を置くとともに、様々な事柄に関する英語表現を幅広く運用する力を身につけることを目指す。授業では、英語のコミュニケーション能力向上につながる慣用句や構文、語彙など、様々な英語表現についてテキストを題材にバランスよく学習していく。また、日常のトピックに関して学生同士で簡単な意見を述べるができることを目標とする。受講者には授業への積極的な参加と努力を見せることが最も求められる。	
	キャリアイングリッシュプログラム	Four Skills I		Four Skills I は、キャリアイングリッシュプログラムの一部である。この授業では、学生が少人数のグループで授業を受け、海外や国内のビジネスですぐに使える「実践的な英語力」を身に付ける。達成度はTOEIC Listening & Reading Testで測定されます。Four Skills I では、学生はリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのスキルを総合的に伸ばしていく。授業では、グループワークや共同活動に重点を置き、学生が講師やクラスメートと交流する機会を頻繁に設け、「アクティブ・ラーニング」を促進する。学生は、日常的な様々なトピックやシチュエーションに英語で取り組むための受容技能・生産技能を身に付ける。	
		Four Skills II		Four Skills II は、キャリアイングリッシュプログラムの一部である。この授業では、学生が少人数のグループで授業を受け、海外や国内のビジネスですぐに使える「実践的な英語力」を身に付ける。達成度はTOEIC Listening & Reading Testで測定される。Four Skills I を踏まえて、Four Skills II では、日常生活や仕事に関連した様々なトピックやシチュエーションに自信を持って英語で取り組むための受容技能・生産技能を学生がさらに伸ばしていく。	
		TOEIC Basic A		TOEIC Basic A は、キャリアイングリッシュプログラムの一部である。このプログラムでは、学生が少人数のグループで授業を受け、海外や国内のビジネスですぐに使える「実践的な英語力」を身に付ける。達成度はTOEIC Listening & Reading Testで測定される。この集中TOEIC対策コースでは、TOEICにすぐに役立つ数多くの受験スキルや、テストに頻出する文法やその他の言語的特徴について学ぶ。また、TOEICに頻出するビジネス語彙を100語以上取り上げていく。	
		TOEIC Basic B		TOEIC Basic Bは、キャリアイングリッシュプログラムの一部である。この授業では、学生が少人数のグループで授業を受け、海外や国内のビジネスですぐに使える「実践的な英語力」を身に付ける。達成度はTOEIC Listening & Reading Testで測定される。TOEIC Basic A を踏まえて、このコースでは、TOEICに応用できる受験スキル、文法、その他の言語的特徴をさらに学習する。また、TOEICに頻出するビジネス語彙を100語以上取り上げ、学生のTOEIC受験能力をさらに高める。	
		Domestic Job Training		Domestic Job Trainingは、キャリアイングリッシュプログラムの一部です。この授業では、学生が少人数のグループで授業を受け、海外や国内のビジネスですぐに使える「実践的な英語力」を身に付ける。達成度はTOEIC Listening & Reading Testで測定される。Domestic Job Trainingは、本学の建学の理想である「産学一如」の精神に基づき、国際的なビジネスの現場で活きる英語力と国際感覚の習得を持つ学生を育成するため、国内での集中英語研修と企業インターンシップを行なうものである。	
		Overseas Job Training		Overseas Job Trainingは、キャリアイングリッシュプログラムの一部である。この授業では、学生が少人数のグループで授業を受け、海外や国内のビジネスですぐに使える「実践的な英語力」を身に付ける。達成度はTOEIC Listening & Reading Testで測定される。Overseas Job Trainingは、本学の建学の理想である「産学一如」の精神に基づき、国際的なビジネスの現場で活きる英語力と国際感覚の習得を持つ学生を育成するため、海外での集中英語研修と企業インターンシップを行なうものである。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	キャリア アイ ン グ リ ッ シ ュ プ ロ グ ラ ム	TOEIC Plus A		TOEIC Plus A は、キャリアディングリッシュプログラムの一部である。この授業では、学生が少人数のグループで授業を受け、海外や国内のビジネスですぐに使える「実践的な英語力」を身に付ける。達成度はTOEIC Listening & Reading Testで測定される。この集中TOEIC対策コースでは、TOEIC Listening and Reading Testで優れた成績を収めるために必要な受験戦略と言語スキルを身に付ける。TOEIC450～700点をを目指す中級レベルの学生を対象としている。学生はTOEICテストに即座に応用できる文法やその他の言語的特徴についても、また、TOEICに頻出する600語以上の語彙も学ぶ。	
		TOEIC Plus B		TOEIC Plus B は、キャリアディングリッシュプログラムの一部である。この授業では、学生が少人数のグループで授業を受け、海外や国内のビジネスですぐに使える「実践的な英語力」を身に付ける。達成度はTOEIC Listening & Reading Testで測定される。TOEIC Plus A を踏まえて、TOEIC Listening & Reading Testで優れた成績を収めるために必要な、高度な受験戦略と言語スキルを学生に提供する集中TOEIC対策コースで、TOEIC450～700点をを目指す中級レベルの学生を対象としている。学生は、TOEICテストにすぐに役立つ高度な文法や言語的特徴、TOEICに頻出する600語以上の高度な語彙も学習する。	
		Reading Focus A		この授業では、大学での学習や将来のキャリアに必要な英語の読解力と分析力を基礎から養う。多様なグローバルなテーマに関するテキストを使用し、情報の理解力や要点を抽出する力を高める。また、批判的思考を発展させ、文章の論理的な構造や意図を分析するスキルを強化する。学業や仕事、実生活との関連を意識し、学習内容を実用的に活用できる力を養っていく。学習後には振り返りを通じて理解を深め、自己の成長を実感しながら次のステップに進む準備を行う。	
		Reading Focus B		この授業では、より多様で複雑なグローバルなテーマに焦点を当て、英語の読解力と分析力を幅広く養う。複雑で多面的なテキストを通じて、情報の詳細を深く理解し、異なる視点や意図を把握する力を強化します。批判的思考を深め、テキストの背景や論理を多角的に考察するスキルを身に付ける。また、学業や仕事、実生活に直結する課題に取り組みながら、知識を実践に応用する力を高める。それぞれの学習成果を振り返り、実世界での活用を見据えたスキルを習得する。	
		Writing Focus A		この授業では、大学のライティングクラスで必要とされる基本的な英語表現を学んでいく。人物の描写、映画レビュー、道案内など、身近で実用的なテーマを取り上げた学習者によるライティング例を活用しながら、言語の「チャンク」を見つけ出し、そのパターンを理解して自分の文章を作成する方法を学ぶ。可能な限り多数の例を通じて、英語の文章作成のフォーマットや文構造を身に付け、効果的で整理されたライティングスキルを育成する。	
		Writing Focus B		この授業では、大学で求められる英語ライティングの応用力を養う。学術的なテーマや多様なライティングスタイルを扱いながら、文章構造やアイデアの整理方法を深く学んでいく。洗練された文章例を活用して、言語の「チャンク」を効果的に取り入れる方法を探り、より流暢で説得力のある文章作成スキルを高める。また、英語ライティングにおける論理性や一貫性に重点を置き、実践的な課題を通して正確で応用力のあるライティング力の習得を目指す。	
		Business English A		この授業では、ビジネスでよく使用される基本的な英語表現を学んでいく。見積もりや納期といったビジネス用語に慣れ親しむため、ビジネスシーンを模擬体験しながら理解を深める。多くのビジネスパーソンが直面するであろうシンプルな状況を題材に、コミュニケーションスキルを高める会話やスピーチの練習を行う。リスニングとリーディングではTOEIC L&R形式の問題を取り入れ、実務に即した英語表現を身につけることを目指す。	
		Business English B		この授業では、複雑で多様なビジネスシーンを題材に、より幅広い英語表現を習得していく。会議、交渉、問題解決といったシナリオを通じて、特定の状況に適応した英語スキルを練習する。会話やスピーチを詳細に分析し、より効果的なコミュニケーションの方法を学ぶ。リスニングとリーディングではTOEIC L&R形式の問題を基に、さらに高いレベルの英語運用能力を養っていく。ロールプレイを通じて、実践的で応用力のあるビジネス英語を身につけることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	キャリアイングリッシュプログラム	English Pronunciation A		English Pronunciation A は、キャリアイングリッシュプログラムの一部である。この授業では、学生が少人数のグループで授業を受け、海外や国内のビジネスですぐに使える「実践的な英語力」を身に付ける。達成度はTOEIC Listening & Reading Testで測定する。English Pronunciation A では、英語の発音で最も重要な分野を扱う。ネイティブ・スピーカーに理解されるためのイントネーション、リズム、ストレスの重要性に焦点を当てる。スピーキング練習は、発音と流暢さの両方に重点を置いている。	
		English Pronunciation B		English Pronunciation B は、キャリアイングリッシュプログラムの一部である。この授業では、学生が少人数のグループで授業を受け、海外や国内のビジネスですぐに使える「実践的な英語力」を身に付ける。達成度はTOEIC Listening & Reading Testで測定される。English Pronunciation A を踏まえ、English Pronunciation B では、有声化、帯気音(有気音)、意味のまとまりなど、より上級の発音の特徴に焦点を当てていく。スピーキング練習では、音声の聞き取りやすさを向上させることに重点を置いている。	
		Introduction to Translation A		Introduction to Translation A は、キャリアイングリッシュプログラムの一部です。この授業では、学生が少人数のグループで授業を受け、海外や国内のビジネスですぐに使える「実践的な英語力」を身に付ける。達成度はTOEIC Listening & Reading Testで測定される。Introduction to Translation A は、英日・日英翻訳の入門コースである。このコースの目的は、翻訳者が扱わなければならない最も基本的な言語パターンを学生に紹介し、様々なトピックの短文翻訳に慣れ親しんでもらうことである。	
		Introduction to Translation B		Introduction to Translation B は、キャリアイングリッシュプログラムの一部である。この授業では、学生が少人数のグループで授業を受け、海外や国内のビジネスですぐに使える「実践的な英語力」を身に付ける。達成度はTOEIC Listening & Reading Testで測定する。Introduction to Translation A を踏まえて、Introduction to Translation B では、学生の英日・日英翻訳の能力を伸ばし、プロの翻訳者として活躍するための翻訳プロジェクトに挑戦する。	
		Global Perspectives A		Global Perspectives Aは、キャリアイングリッシュプログラムの一部です。この授業では、学生が少人数のグループで授業を受け、海外や国内のビジネスですぐに使える「実践的な英語力」を身に付ける。Global Perspectives A では、学生は海外の社会、文化、経済の側面を調査し理解するために必要な英語力を養う。このコースの目標は、学生が異文化間能力、国際感覚を養い、将来グローバル化社会でのキャリアをサポートすることである。	
		Global Perspectives B		Global Perspectives B は、キャリアイングリッシュプログラムの一部です。この授業では、学生が少人数のグループで授業を受け、海外や国内のビジネスですぐに使える「実践的な英語力」を身に付ける。Global Perspectives A を踏まえて、Global Perspectives B では、学生が海外の社会、文化、経済に関する知識を自分自身のユニークな視点に適用し、そのような知識が自分の視点をどのように変えるかを評価できるようにする。	
初修外国語科目		ドイツ語 I		ドイツ語をはじめ勉強する学生を対象にドイツ語の初歩を学習する。 ゼロから学ぶ外国語であるから決して「簡単」ではない。しかし、楽しくゆっくり学習していく。教科書にそってドイツ語の基礎的な文法の初歩の初歩を学習する。ドイツ語に特徴的な発音や語順、人称変化や名詞の性別や格といった、英語ではあまり馴染みのなかった事柄を中心に取り上げる。英語が苦手な第二外国語をためらう学生も多いが、中学校の英語の知識があれば問題はない。適宜、ビデオなどを観て、実際のドイツ語に触れる。ドイツ語に慣れることを重視する。	
		ドイツ語 II		ドイツ語 I から引き続いてドイツ語の初級文法を学習する。ドイツ語 I で学習した内容の復習も十分に行った上で、ドイツ語 II では格変化の基本を中心に学び、それによって表現の幅を広げることになるが、複雑な文法規則が混乱しがちなのを考慮し、新たに学ぶ事柄は格変化に絞込み、着実な理解を図る。ドイツ語を使って基礎的な会話表現が出来ることを目標とし、進度上の状況によって、適宜ビデオなど使用し、実際のドイツ語を見聞きする機会も作る。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	初修外国語科目	ドイツ語Ⅲ		ドイツ語Ⅱから継続してドイツ語の初級文法を学習するが、それまでの学習内容の復習も十分に行った上で、能力の定着を図る。進捗を抑える代わりに、着実な理解を図る。ドイツ語Ⅱまで重点的に学習した格変化をしっかりとマスターした上で、前置詞や人称代名詞の格変化を新たに学習する。適宜ビデオなど使用し、実際のドイツ語を見聞きする機会も作りながら進める。レベル的にはドイツ語検定の５級から４級程度とする。授業だけでは検定には対応できないので、ドイツ語検定受験を考えている学生には授業以外に相談の機会を設けて対応する。	
		ドイツ語Ⅳ		ドイツ語Ⅲから引き続いてドイツ語の初級文法を学習する。適宜復習もするが、格変化の基本はマスターしていることを前提として進める。授業では助動詞、分離動詞、再帰動詞などの使い方を学習して、表現の幅を広げる。ドイツ語検定４級程度の文法事項の習得が目標である。文法が多少高度になっているため、教科書を先に進むことよりも着実な理解を図る。受講者の動向をみながら、授業の進行を調整し、適宜ビデオや音楽・映画などを用いての聞き取り練習なども取り入れる。	
		ドイツ語会話Ⅰ		日常的なシチュエーションで用いられるドイツ語を無理なく体系的に学ぶことができるように、簡単な会話パターンを中心に文法説明やドイツ語圏に関する話題をおりまぜながら、授業を行う。大学生として新たに学ぶ外国語のなかでは、ほとんどがローマ字読みで発音でき、英語との共通点も多いことを解説する。他の外国語と同様、語形変化などの点については戸惑いがあるため、丁寧に説明を行う。以降のドイツ語会話Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと学びを進めるための入口として、ドイツ語会話の基礎を理解することを目標とする。	
		ドイツ語会話Ⅱ		この授業は「ドイツ語会話Ⅰ」の授業を通して、すでにこの言語の基本が身に付いてきているものとして進める。ドイツ語会話Ⅰと同様に会話パターンの練習と体系的な文法説明とドイツ語圏の情報をおりまぜて段階的に進めるが、よりバラエティーに富んだ複雑な内容を伝えることができる高度な言い回しを学習していく。難易度は徐々に高くなるが「ドイツ語会話Ⅰ」で学んだことをその都度復習しながら、学生がドイツ語圏の国々を訪れたときに使える言語運用能力を獲得できるようになることを目標とする。	
		ドイツ語会話Ⅲ		この授業はドイツ語やドイツ語会話のⅠ・Ⅱを通して、この言語の基本がかなり身についたものとして進める。さらに学び続けてドイツ語を現地で実際に使えるようになることを目指す。ドイツ語会話Ⅲでは、Ⅰ・Ⅱと同様、会話パターンの練習と体系的な文法説明とドイツ語圏の情報をおりまぜた授業で無理なくドイツ語やドイツ文化の学習を進める。これまでに学んだことをベースに、より高度でバラエティーに富んだ内容を伝えることができる表現法を習得する。難易度は徐々に高くなるが、既習事項をその都度振り返りながら、進めていく。	
		ドイツ語会話Ⅳ		ドイツ語会話Ⅳでは過去の事柄の表現方法や複合文などを初めとしてより複雑で自然な言いまわしを学ぶ。これをクリアすればドイツ語の基本はほぼすべて学んだことになる。ドイツ語会話Ⅲと同様、会話パターンの練習と体系的な文法説明とドイツ語圏の情報をおりまぜた授業で無理なくドイツ語やドイツ文化についての学習を進める。これまでに学んだことをベースに、より高度でバラエティーに富んだ内容を伝えることができる表現法を習得し、より高度なドイツ語会話ができる能力を身につけることを目標とする。	
		フランス語Ⅰ		フランス語の基礎文法を中心に学び、「読む・聞く・書く・話す」の総合力をつけていく。 テキスト以外では、フランスの映画や音楽などを鑑賞しながら、楽しく効果的に学習を進める。楽しく安全にフランスを旅行したり、留学したりする上で必要なフランスに関する知識とフランス語の基礎力を身に付けることを目指す。規則動詞とよく使われる基本動詞の活用と意味を中心に覚えていき、毎回、習得できているかどうか記述式小テストで確認する。	
		フランス語Ⅱ		フランス語Ⅰで学んだフランス語の知識をもとに、さらにフランス語の基礎を学ぶ。「読み」「書き」「聞き」「話す」フランス語の総合的な運用能力の修得を目標に学習していく。フランス語検定５～４級合格が目標。フランスの文化面の知識も深めていく。毎回の授業では、初級文法の学習、綴り字の読み方、発音練習、グループあるいはペアでの会話練習、簡単な作文等をする。理解確認のため、小テスト、読みテスト、暗唱テスト等もする。そのようなテストを経てフランス語理解力を高めていく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	初修外国語科目	フランス語Ⅲ		テキストで学び習得するフランス語のコミュニケーション会話 が、ロシアやイタリアを始めヨーロッパ各地で活用できる。テキストでは、パリのカフェや市場、友人宅やセーヌ河観光遊覧船、またノートルダム大聖堂等のテラスから見たパリの美しい景観を紹介しながら会話表現を示し、様々なシーンでの話題と会話を展開する。そうした表現を DVD 映像を見ながら着実に学び習得していく。また、パリで展開されるDVD映像でフランス語を習得し、フランス人達の暮らし振り、その芸術と文化について学んでいく。	
		フランス語Ⅳ		フランス語Ⅲまでと同様、フランス語を学ぶ喜び、楽しさを味わう為、文法事項は簡単明瞭なもので、フランス文化に関する情報が数多く盛り込まれ、大学生が関心を持ちそうな内容を取り上げ、ビデオ映像も使った教材を使用する。ビデオ映像を見ながら、美しいフランスの地方風景と美味しい地方料理を楽しく学んでいく中からフランス生活文化に関する知識を深めていく。またフランス語の文法知識を確かなものにし、辞書があれば、フランス語の文書が読せると同時に実用的なフランス語表現力・会話力を身につけていく。	
		フランス語会話Ⅰ		基本的なフランス語日常会話を身に付けていく。挨拶から自己紹介等をフランス語で話すことができるようにする。様々な話題についてある程度フランス語で発言し、意見を述べる能力を身に付けて。フランスを初めて訪れた際に必要となるコミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。空港到着からタクシーや電車の乗り方、買い物の仕方など、基本的な場面を想定して、会話練習をする。そのための様々な動詞の活用を着実に修得していく。	
		フランス語会話Ⅱ		フランスの様々な状況での実用会話を習得していく。学生にフランス語で話すことに自信を持たせ、様々な話題について自分の意志をフランス語で発言できる能力を身につけさせる。フランス語の勉強によって、今の国際社会の中で国際意識を身に付ける。フランスに滞在する上で最低限必要な基本表現を中心に覚え、典型的なシチュエーションを設定して、覚えた表現を使ってみる。地下鉄の乗り方やカフェでの会話、マルシェでの買い物や郵便局での会話等、実用的なコミュニケーション会話を学んでいく。	
		フランス語会話Ⅲ		日常生活に必要な会話能力を習得する。学生にフランス語で話すことに自信を持たせ、様々な話題について自分の意志をフランス語で発言できる能力を身に付ける。フランス語の勉強によって、今の国際社会の中で国際意識を身に付ける。フランス語を話す自信を固め、交流の意識を持ち、留学ができる勉強をする。間違えやすい表現を中心に多様な表現を覚える。自分の言いたいことを相手に伝えるために必要な表現を習得し、隣の人や先生と会話の練習をする。	
		フランス語会話Ⅳ		フランスの友人との様々なシチュエーションでの会話表現を覚えていく。レストランでの注文や会話、デパートで買い物をする際の会話、友人宅での食事や様々な話題に関する会話表現を習得していく。また、フランスの食文化に関する知識も学んでいく。料理に関する単語や使用する多様な動詞の活用を覚え、複合過去から単純未来まで文法知識も着実に修得する。フランス留学や実用フランス語技能検定試験（仏検）の準備に対応した学習も行う。	
		韓国語Ⅰ		韓国語Ⅰでは、韓国語の発音とハングル文字に慣れ、少しずつ文字読みと筆記ができるようになること、出会いと別れの挨拶、感謝や謝罪の決まり文句を覚え、学生自身や身の回りの人々や物事を表す基本的な語彙と初歩的な文法を使って簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。あわせて、韓国の歌や映画、ドラマといった視聴覚素材を通じて文化に触れてもらい、韓国に対する関心と理解を深め、韓国語学習へのさらなる動機付けになることも目指す。	
		韓国語Ⅱ		韓国語Ⅱでは、韓国語Ⅰで習得した内容をベースに、引き続き身近な物事を表す単語や表現、基礎的な文法について学習し、それらを使って自分自身の興味関心や日常生活について文章で表現したり、これに類する文章を読解できるようになることを目指す。特に、数詞の使い分けや基本的な助詞の用法、用言の現在丁寧形の作り方を繰り返し練習するとともに、テキストの例文や本文の暗記、習った単語や文法を用いて文章を書いたり読解したりする練習を行う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	初修外国語科目	韓国語Ⅲ		韓国語Ⅲでは、韓国語Ⅰ、Ⅱで習得した文法・語彙をベースに、基本的な自己表現のためのより多様な文法・語彙・表現を習得し、韓国語の読み書きを中心とした運用力のさらなる向上を目指す。特に、身近な出来事や希望、未来の計画などについて韓国語で表現できるようになるために、用言の過去形、希望形、予定形などへの活用練習を繰り返し行い、例文や本文の暗記、辞書を引きながら文を書いたり読解したりできるよう練習を行う。	
		韓国語Ⅳ		韓国語Ⅳでは、韓国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで習得した基礎的な文法・語彙をベースにして、より発展的な文法、語彙、表現を習得することを目指す。これを通じて身近な物事だけでなく、自分の考えを発信できるようになる。 また、韓国語で書かれた韓国の国事情や日韓関係に関する文章を解説したり、そこから得られる情報を整理したりすることを通じて、韓国人の日常生活や習慣、価値観など様々な文化を理解できるようになることを目指す。	
		韓国語会話Ⅰ		韓国語会話Ⅰでは、出会いと別れの挨拶、感謝や謝罪の決まり文句を覚えながら、韓国語の発音とハングル文字に慣れ親しむことにより、学生自身や身近な物事を表す基本的な語彙と初歩的な表現を使って、教師やクラスメートと簡単なやりとりができるようになることを目指す。また、韓国の歌や映画、ドラマといった視聴覚素材を通じて文化に触れてもらい、韓国に対する関心と理解を深め、韓国語会話学習へのさらなる動機付けになることも目指す。	
		韓国語会話Ⅱ		韓国語会話Ⅱでは、韓国語会話Ⅰで習得した内容をベースに、引き続き身近な物事を表す単語や、話し言葉で頻繁に用いられる表現を学習する。 それらを使って教師やクラスメートに尋ねたり、尋ねられたことに答えたりすることで、自分と相手の所属や年齢、興味関心や日常生活についてやりとりできるようになることを目指す。この目標を達成するため、特に数詞の使い分けや基本的な助詞の用法、用言の現在丁寧形の作り方を習得する。	
		韓国語会話Ⅲ		韓国語会話Ⅲでは、韓国語会話Ⅰ、Ⅱで習得した文法・語彙をベースに、基本的な自己表現をするために、より多様な語彙・表現・文法を習得し、韓国語によるコミュニケーション能力のさらなる向上を目指す。特に、身近な出来事や希望、未来の計画などについて表現できるようになるために、用言の過去形、希望形、予定形などへの活用練習を繰り返し行い、教師やクラスメートに尋ねたり、尋ねられたことに答えたりすることができるようになるように練習を行う。	
		韓国語会話Ⅳ		韓国語会話Ⅳでは、韓国語会話Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで習得した基礎的な語彙・表現・文法をベースに、方法を探ね・答えたり、要求を伝え・応えたりするなど、多様な表現と語彙を習得して、学習者が韓国で日常会話ができるようになること、また、来日した韓国語話者に適切に対応することができるようになることを目指す。また、これらのコミュニケーション活動をスムーズに行うために、視聴覚素材を活用して韓国人の日常生活や習慣、価値観などが理解できるようにする。	
		実用韓国語		様々なあいさつ表現のみならず、指示・命令、依頼や誘いの受諾や拒否、許可の授受など様々な意図を大まかに表現でき、身近な話題ばかりではなく、親しみのある社会的出来事についても話題にできることを目指す。また、比較的長い文やまとまりを持った文章を読んだり聞いたりして、大意をつかむことができ、単語の範囲にとどまらず、連語など組合せとして用いられる表現や、使用頻度の高い慣用句や慣用表現なども理解して使用できるようになることを目指す。	
		上級韓国語		韓国での日常生活を送るために必要な会話能力や、様々な公共施設の利用、社会的、交友関係を維持するための言語能力を習得し、文章語と口語の基本的な特性を区分して理解、使用できるようになることを目指す。 また、韓国のニュースや新聞をある程度理解することができることにより、よく使われる慣用句や文法、代表的な韓国文化に対する社会・文化的な内容の文章の理解、口語につながる。これらを全て習得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	初修外国語科目	中国語Ⅰ		この授業は、初めて中国語を学習する学生を対象にしている。中国語の発音を正しく聞き取り、文語・口語できるよう、本学オリジナルのテキストを使用する。その中のドリルや音源を用い、教授者による双方向授業を実施する。 この授業では、全音節に対して、正しく発音でき、ピンインを用いて正しく表記できるようになる。 また、基本的な文法事項を理解し、身近な事項に対する質問文やそれに対する受け答えができるようになることを目標とする。	
		中国語Ⅱ		この授業では、中国語Ⅰで修得した基本的な知識を活用し、中国語の発音を正しく聞き取り、文語・口語できるようになることを目指す。本学オリジナルテキストを使用し、ドリルや音源を用い、教授者による双方向授業を実施する。この授業では、基本的な文法事項に対する理解とともに、これらを使い、表現したいことをオーラルで中国語で表現できる運用能力を身に付ける。豊富なヒアリング練習を通じ、聞いてわかる中国語が身に付く。	
		中国語Ⅲ		この授業では、中国語Ⅰ・Ⅱで1年間学習した基礎的な事項を用いて、中国語の読む、聞く、話す、書くの四つの技能について中級レベルの運用が出来るようになることを目標とする。指定テキストのドリル、音源を用いて教授者による双方向授業を実施する。例文や本文の暗記、辞書を引きながら文を書いたり読解したりできるように練習を行う。基本的な自己表現のためのより多様な文法・語彙・表現を習得し、中国語の読み書きを中心とした運用力のさらなる向上を目指す。	
		中国語Ⅳ		この授業では、中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと中国語の学習を継続した学生を対象に、中国語の読む、聞く、話す、書くの四つの技能について中級レベルの運用が出来るように、指定テキストと音源を用いて、教授者による双方向授業を実施する。また、中国語で書かれた中国のニュースや国事情などに触れ、そこから得られる情報を整理したりすることを通じて、中国人の日常生活や習慣、価値観など様々な文化を理解できるようになることを目指す。	
		中国語会話Ⅰ		この授業では、初めて中国語を学習する学生を対象にしている。中国語の発音を正しく聞いたり言えたりするために、指定テキストのドリルや音源を用い、教授者による双方向授業を実施する。基本的に、会話中心の授業のためペアワークを多く用いる。また、ペーパーもしくはオーラルの小テストを各課ごとに毎回行う。最終的には、正しく発音でき、ピンイン表記に習熟し、基本的なあいさつや叙述文、疑問文が使えるようになることを目指す。	
		中国語会話Ⅱ		この授業では、中国語会話Ⅰを学習した学生を対象にしている。中国語の発音を正しく聞いたり、話すために、指定テキストの会話文を活用し、トレーニングする。ダウンロード音源やリスニング問題を多く用い、教授者による双方向授業を実施する。 また、ペーパーもしくはオーラルの小テストを各課ごとに毎回行う。最終的には、正しく発音でき、ピンイン表記に習熟し、基本的なあいさつや叙述文、疑問文が使えるようになることを目指す。	
		中国語会話Ⅲ		この授業では、中国語会話Ⅰ・Ⅱで中国語を学習した学生を対象にしている。中国語の聞く、話す、書くの3つの能力について中級レベルの運用が出来るように、指定テキストと音源を用いて、教授者による双方向授業を実施する。また、ペーパーもしくはオーラルの小テストを各課ごとに毎回行う。最終的には、正しく聞き取り、発音でき、ピンイン表記に習熟し、叙述文、疑問文を用いて日常会話レベルまでできるようになることを目指す。	
		中国語会話Ⅳ		この授業では、中国語会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと継続して中国語を学習した学生を対象にしている。中国語の聞く、話す、書くの3つの能力について中級レベルの運用が出来るように、指定テキストと音源を用い、教授者による双方向授業を実施する。また、ペーパーもしくはオーラルの小テストを各課ごとに毎回行う。最終的には、正しく聞き取り、発音でき、ピンイン表記に習熟し、叙述文、疑問文を用いて日常会話レベルまでできるようになることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	初修外国語科目	実用中国語		この授業は、これまで中国語を学んで、さらなる中国語の語学力を付けたい学生のために開講する中級レベルの実用中国語の授業である。学習した基礎中国語を復習しつつ、徐々に「自分のこと」から「日本のこと」を中国語で伝えられるように訓練していく。中級レベルの文法項目から実用的な内容を選び、身の周りのことからSNSや社会問題まで、さまざまなシチュエーションで使える中国語の表現を、楽しむように勉強することができる。また、日本のことだけでなく、中国の地理・文化・歴史・社会・生活・習慣などについてもより深く理解し、国際化社会に適応できる人材を養成することを目標とする。	
		上級中国語		この授業は、これまでに基礎中国語を学んで、さらなる中国語の語学力を付けたい学生のために開講する上級中国語の授業です。習った基礎的な中国語を復習しつつ、徐々に「自分のこと」から「日本のこと」を中国語で伝えられるように訓練していきます。中級レベル以上の項目から、実用的な内容を選び、文法や、音読練習を繰り返して実施することで、高いレベルの中国語の読解力、作文力、リスニング力、会話力を修得することを目標とする。	
留学生に関する科目	日本語	アカデミック日本語Ⅰ (読む・書く)		この授業は、大学で学ぶために必要な日本語「アカデミック・ジャパニーズ」の特に「読む」「書く」に重点を置き、アカデミック・リーディング及びライティングの基礎を身につけることを目標としている。 「読む」においては、論文を読むための基礎となる文章の構成に関する知識や文法知識を学習しながら、大意の把握（スキミング）、必要な情報の読み取り（スキヤニング）能力を養う。「書く」においては、レポート作成や論文執筆に必要な文章表現の技術を学び、論理的な構成で600字～1000字程度のレポートを作成する。なお、この授業はレベル分けテストの結果を基に編成されたレベル別のクラスで学修を進める。	
		アカデミック日本語Ⅱ (読む・書く)		この授業では「アカデミック日本語Ⅰ（読む・書く）」に引き続き、「読む」「書く」に重点を置き、アカデミック・リーディング及びライティングの能力を養成することを目標としている。 「読む」においては、筆者の分析、考察、意見・主張などを含んだ文章を論理的構造に着目して読み、大意の把握（スキミング）、必要な情報の読み取り（スキヤニング）能力を養う。「書く」においては、レポートや論文で使用される文章表現を使い、客観的な論拠を含む論理的な構成で800字～1500字程度のレポートを作成する。なお、この授業はアカデミック日本語Ⅰ（読む・書く）に引き続き、レベル別のクラスで学修を進める。	
		アカデミック日本語Ⅰ (聞く・話す)		この授業は、大学で学ぶために必要な日本語「アカデミック・ジャパニーズ」の特に「聞く」「話す」に重点を置き、アカデミック・リスニング及びプレゼンテーションの基礎を身につけることを目標としている。 「聞く」においては、講義や発表を単に聞くだけではなく、概要をつかみ、話の構成を考えるためにメモをとったり、要約を書いたりする能力を養う。「話す」においては、テーマについてディスカッションし、発表の表現、PowerPointの使い方を学び、自分の意見をわかりやすく相手に伝える能力を養う。なお、この授業はレベル分けテストの結果を基に編成されたレベル別のクラスで学修を進める。	
		アカデミック日本語Ⅱ (聞く・話す)		この授業では「アカデミック日本語Ⅰ（聞く・話す）」に引き続き、「聞く」「話す」に重点を置き、アカデミック・リスニング及びプレゼンテーションの能力を身につけることを目標としている。 「聞く」においては、概要をつかみ、段落相互の関係、論理の展開に着目して聞き取った内容を要約・整理する能力を養う。 「話す」においては、テーマについてディスカッションし、自分の意見を整理する。そして、テーマについてwebページ等から情報を収集し、PowerPointを使って、自分の意見を論理的にわかりやすく相手に伝える能力を養う。なお、この授業はアカデミック日本語Ⅰ（聞く・話す）に引き続き、レベル別のクラスで学修を進める。	
		実践アカデミック日本語 (読む・書く)		この授業では、これまで学んだ「アカデミック日本語Ⅰ・Ⅱ（読む・書く）」に引き続き、「読む」「書く」に重点を置くが、特に、アカデミック・ライティングの能力を発展させることを目標としている。論証型のレポートを読み、文章表現、論理的な展開方法、基本的な文章表現の技術を確認する。そして、論文の構成、論点のまとめ方を学ぶ。また、データや資料を用いて具体的な論拠を示し、意見を他者に説得力をもって伝えられる論理的な構成で1500～2000字程度のレポートを作成する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
留学生に関する科目	日本語	実践アカデミック日本語 (聞く・話す)		この授業では、これまで学んだ「アカデミック日本語Ⅰ・Ⅱ（聞く・話す）」に引き続き、「聞く」「話す」に重点を置き、アカデミック・リスニング及びプレゼンテーションの能力を発展させることを目標としている。時事問題に関するニュースを聞き、構成・話の展開を理解し、整理する。テーマについてディスカッションし、意見を整理した上で、書籍、webページ等から情報を収集し、自分の意見を論理的にわかりやすく相手に伝えられるようPowerPointを使って発表する。	
		ビジネス日本語		この授業は、幅広い社会文化的能力の習得を目的とし、日本のビジネス場面で使用される表現の背景にある価値観や慣習などを理解することを目的とする。ビジネスの基礎的な知識である、文法・語彙表現、敬語表現、待遇表現、ビジネスマナー、ビジネスメールの書き方を学ぶ。そして、報連相、電話応対、メール応対、取引先訪問など、与えられた条件でのロールプレイなどによる会話練習を通して、ビジネスの基本的な場面・状況を認識し、それらの対応を学ぶ。また、実際のビジネス場面において異文化間で起こる問題について、ディスカッションすることで問題の原因を認識し、解決策を考える。	
		グローバル日本語		この授業は、グローバル人材を育成するために開講するビジネス日本語の、より実践的な科目である。与えられた課題に取り組むことで、日本語による高度なビジネスコミュニケーション能力、問題解決能力、異文化理解力を養う。「ビジネス日本語」で個別に取り上げた条件（報連相、訪問事前準備、電話でのアポイントメント取り、訪問）を総合したケースを設定し、より現実感のあるロールプレイを行う。また、与えられた課題の資料から問題点を抽出し、お客様に対して説明する際のわかりやすい資料を作成する。	
	日本事情	日本の歴史ⅠA		この授業では、留学生を対象として日本の歴史を概観する。具体的には原始・古代から中世に至るまでの日本史を取り扱う。縄文・弥生時代における狩猟採取や稲作の開始から、古墳時代の東アジアとの交流、飛鳥時代における「日本」という国名の成立、奈良時代の律令国家や平安時代の摂関政治などを学ぶ。さらに、荘園制度の発展と武士階級の誕生が中世社会にどのような影響を与えたかを考察する。史料を用いて、重要な出来事や人物の背景を理解し、それぞれの時代の特徴と因果関係を把握することを目指す。	
		日本の歴史ⅠB		この授業では、留学生を対象として日本の歴史を概観する。具体的には鎌倉時代から安土桃山時代までの歴史を掘り下げる。鎌倉幕府の成立、元寇といった歴史的事件から室町時代の南北朝の動乱や勘合貿易、さらには戦国時代の動乱と安土桃山時代の身分制度の確立までを学ぶ。特に、各時代の政治的・文化的な特徴を理解することに焦点を当てる。戦乱や貿易が社会に与えた影響を考えながら、歴史的な転換期の背景やその意義を明確にすることを目的とする。	
		日本の歴史ⅡA		この授業では、留学生を対象として日本の歴史を概観する。具体的には近世から明治維新に至る日本史を再考する。江戸時代の幕府成立、いわゆる「鎖国」政策の影響、農村の変化や幕政改革、そして開国の波が日本社会に与えた変化を学ぶ。その後、明治維新を中心に、政治・経済の近代化や自由民権運動の展開を取り上げる。重要な史料や具体例を用いながら、各時代の政治的・社会的な特徴を理解し、これらが現代日本にどのように繋がっているかを考察する。	
		日本の歴史ⅡB		この授業では、留学生を対象として日本の歴史を概観する。具体的には明治時代から現代に至る日本史を探究する。日清・日露戦争、大正デモクラシー、昭和時代の戦争と戦後改革、高度経済成長期を中心に、日本社会の変遷を辿る。また、「政治・経済」「宗教」「文化」「交易」の視点から、日本史を多角的に考察し、さらに地域史として「東北・蝦夷」や「琉球・沖縄」の歴史を取り上げる。これにより、多様な視点から日本の社会と文化への理解を深めることを目指す。	
		日本の文化ⅠA		この授業では、日本人が春という季節を通じて育んできた「伝統的な文化」を多角的に学ぶ。桜を中心とした自然観や美意識、日本の祝日や端午の節句など春に関連する行事、さらに京都の祭りといった地域特有の文化を取り上げる。講義を中心に進めつつ、映像資料や歴史的資料を用いて理解を深め、場合によっては春にまつわる行事や風習を体験する機会も提供する。この授業を通じて、日本の春の文化的背景を理解し、日本人の生活様式や精神性への洞察を深める。また、異文化理解や他者への敬意を養い、日本での生活に役立つ知識を習得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
留学生に関する科目	日本事情	日本の文化ⅠB		この授業では、日本人が夏という季節に根付かせてきた「伝統的な文化」を幅広く学ぶ。祇園祭や夏祭り、七夕の物語や風習、さらに梅雨という独特の季節感との中で育まれた生活様式や美意識を考察する。授業は講義形式を中心に進めるが、映像資料や歴史資料を活用して具体例を示し、場合によっては夏の風物詩を体験する場も設ける。この授業を通じて、日本の夏文化の特徴やその背後にある思想に触れ、日本人の精神性を理解するとともに、異文化交流や尊重する力を養う。これにより、日本での生活に役立つ知識を得ることを目指す。	
		日本の文化ⅡA		この授業では、日本の秋に特有の文化や行事をテーマに、日本人の季節感や自然観を学ぶ。「お月見」や「京都の秋祭り」など、秋の風物詩に込められた日本人の価値観や精神性を探求し、文化背景を深く理解する。また、「秋の行楽」を通じて自然との関わり方や楽しみ方を学び、紙幣に描かれた人物や風景から日本文化の象徴的要素を読み解く。講義や映像資料を活用しながら、日本独自の伝統的な生活様式や芸術性を包括的に理解する。これらの学びを通じて、異文化理解を促進し、自国文化への再認識を深める。	
		日本の文化ⅡB		この授業では、日本の冬に関連する文化や芸術を中心に、季節行事や伝統的な生活様式を学ぶ。「冬支度」や「年末年始の風習」では、寒い季節を乗り越える知恵や精神性を探求する。また、わび茶の体験を通じて日本独自の美意識を学び、『鳥獣人物戯画』やアニメ文化の紹介では、伝統と現代をつなぐ日本の芸術的感性に触れる。これらの内容を通じて、異文化理解の深化を目指すと同時に、日本文化への新たな視点を得ることを目標とする。授業内の実践的学びを通じて、理解をより具体化する機会を提供する。	
		日本の政治経済ⅠA		この授業では、日本の政治体制に関する基礎知識を学ぶ。日本国憲法、内閣、国会、官僚制の役割や政策決定の仕組みを中心に解説し、選挙制度や政党政治といった重要なテーマを扱う。さらに、地政学や政治哲学の概念も含め、政治が社会や人々の生活に与える影響を考察する。授業では、時事問題を題材に資料を使用し、政治に関連するキーワードを用いて日本語で文章を作成する練習を行う。留学生が日本の政治を体系的に理解し、時事問題を分析する力を養うことを目指す。	
		日本の政治経済ⅠB		この授業では、日本経済に関する基本的な概念と現状を学ぶ。GDP、財政政策、雇用、社会福祉、貿易など、経済を理解するためのキーワードを取り上げるとともに、少子高齢化やグローバル経済との関係といった現代的課題に焦点を当てる。授業では、経済に関連する時事問題を資料を用いて考察し、日本語で文章作成を行いながら分析力を高める。この科目を通じて、留学生が日本経済の基盤を理解し、社会の課題を経済的視点で考える能力を身に付けることを目指す。	
		日本の政治経済ⅡA		この授業では、戦後日本経済の復興と成長の過程について学ぶ。高度経済成長期からバブル崩壊までの経済史を概観し、現代日本経済の特徴を形成した背景を理解する。GDP、産業構造、租税制度の仕組み、景気対策や財政政策などの基本的なキーワードを取り上げ、現代の経済的課題に繋がる歴史的な要因を分析する。授業では、経済関連ニュースや資料を基に日本語で文章を作成する練習を行い、経済的事象の背景を正確に表現する能力を養う。	
		日本の政治経済ⅡB		この授業では、現代日本経済が直面する課題と国際経済における位置づけを学ぶ。金融政策、為替市場、アベノミクス、円安などの経済的トピックに加え、日本とASEAN、中国、アメリカとの経済関係を深く掘り下げる。国際経済との連携が日本経済に及ぼす影響を多角的に考察し、持続可能な経済運営についての理解を深める。授業では、資料を用いて経済用語を使いながら、日本語での文章作成とディスカッションを通じて、分析力と表現力を向上させる。	
		一般日本事情ⅠA		この授業では、日本社会での対人関係や生活文化について理解を深める。上下関係や親疎関係、内外関係といった対人関係の特徴を、日本特有の言葉遣いや価値観を通じて学ぶ。また、伝統的な和食や現代の食卓、衣服文化、住居の構造や住宅事情といった生活文化のテーマを取り上げ、自国との比較を行いながらその違いや背景を探る。視聴覚教材や資料を活用し、多様な文化的視点を取り入れた分析力を養い、日本での生活や学びをより深く理解することを目指す。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
留学生に 関する 科目	日本 事情	一般日本事情ⅠB		この授業では、日本の社会システムと日常生活の習慣・慣習に焦点を当てる。日本独特の買い物スタイルや教育制度をはじめ、娯楽や趣味、週末の過ごし方といった生活の一側面を取り上げる。さらに、社会生活の根底にある文化的価値観や制度の成り立ちを解説し、自国との違いや共通点を考察する。これにより、日本社会を理解する上で必要な知識を深めるとともに、異文化理解力を高め、自身の考えを論理的に発展させる力を身に付けることを目指す。	
		一般日本事情ⅡA		この授業では、日本文化や社会の多様な側面を深く理解することを目指す。毎回異なるテーマを設定し、読み物や視聴覚教材を活用して情報を収集するとともに、ディスカッションを通じて多文化的な視野を広げる。生活習慣、家族観、教育制度、宗教的慣習など、さまざまなトピックを取り上げ、日本と自国の文化を比較しながらその独自性を考察する。また、観察や分析を通じて得た知見を他者に共有し、他国の受講生の意見を受け入れる柔軟な思考力を養成する。このプロセスを通じて、異文化理解力を高め、自ら進んで情報を収集・発信する能力を育むことを目的とする。	
		一般日本事情ⅡB		この授業では、現代日本社会の諸課題とその歴史的背景を深く探求する。仕事観や家族問題、教育、宗教、歴史的制度などをテーマに、資料や視聴覚教材を用いて分析を行い、受講生同士のディスカッションを通じて視点を広げる。特に、封建制度や集団意識といった歴史的テーマでは、日本社会の根底にある価値観を考察し、自国文化との相違点を見出す。また、ディスカッションを重ねることで、批判的思考力や論理的な意見表明のスキルを伸ばすと同時に、他者の視点を理解し、受け入れる姿勢を養う。これにより、グローバルな課題解決に必要な多角的な思考力を育むことを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	PBL	プロジェクト基礎	○	この授業では、学科の主軸となる問題解決型学習（PBL）を推進していく上で重要となるプロジェクトの概要について解説し、プロジェクトを遂行するリーダーシップ、コミュニケーション、ファシリテーション、モチベーション、スケジュールプランニング、等についてそれらの基礎を学ぶ。授業においては、新たな価値をもつシステムあるいはアイデアを創造しデザインするために、未知の分野に挑戦する基本的な考え方を身に付けることを目標とする。工学の分野において複数の人間が協力し合って課題を解決するプロセスを理解する。	共同
		PBL入門	○	この授業では、プロジェクト基礎で学んだプロジェクトの進め方に基づき、身近な、例えば学内の課題を調査、発見、アイデアの提案、課題解決手法の提案までを演習形式で学ぶ。学生らはチーム活動によって共通のゴールを目指し、プロジェクト課題に取り組みながら実践に結びつけることで、プロジェクトの組み立てや推進していく能力を身につける。演習として課題解決に取り組みながら、グループでのプレゼンや相互評価を行いながら今後も使えるスキルとしての理解を深める。	共同
		PBL基礎Ⅰ	○	この授業では、プロジェクト基礎で学んだプロジェクトの進め方に基づき、「福岡・九州地域の問題を解決する」というミッションを達成することを目標とするプロジェクト活動を実践する。学生らは地域の問題に対して共感し、現在、専攻において学んでいる工学的な知識と創造的なアイデア、さらにチームメンバーとの協力を通じて解決を行うことを学ぶ。プロジェクト思考の方法論に基づいて、地域調査、問題解決の機会発見、アイデアの発展を行いながら新たな可能性を創出するためのアプローチの提案を目標とする。	共同
		PBL基礎Ⅱ	○	この授業では、AI・データサイエンスなどの情報技術を活用しながら、各教員の専門分野について未来の課題を探索し考察を実践する。問題発見型学習において、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現、の一連の過程を繰り返し事項することで実践的に探究心を深めることを目標とする。探究の過程を繰り返すことで、チーム活動や他のグループとの意見交換によって、新たな融合や新しい発見を経験的に身につけることを実践する。	共同
		PBL応用Ⅰ	○	この授業では、後学期のPBL応用Ⅱと連続させ、年間を通して各教員の研究分野とそれに関連する社会課題をリンクさせ、デザイン思考にもとづくプロジェクト中心の問題解決型教育を実践する。このPBL応用Ⅰでは、中間目標として、プロジェクト計画の立案、解決に向けたアイデアの提案及びプロジェクト活動、結果に基づく改善の提案までを実施する。工学的な技術にこだわるのではなく、問題そのものを理解し、その問題の周囲の環境を理解することで、問題解決のプロセスを作ることを目標とする。	共同
		PBL応用Ⅱ	○	この授業では、前学期のPBL応用Ⅰと連続させ、年間を通して各教員の研究分野とそれに関連する社会課題をリンクさせ、デザイン思考にもとづくプロジェクト中心の問題解決型教育を実践する。このPBL応用Ⅱでは、前学期に実施したPBL応用Ⅰの結果に基づき、プロジェクト活動の実施から最終プレゼンまでを実施する。複数のプロジェクトを融合させることで、新たな結果を生み出すことにもチャレンジを行い、最終結果として報告と相互討論を目標とする。	共同
		事例研究	○	脱炭素社会への移行など、日本国内に限らず世界のさまざまな問題を根本的に解決し、持続可能な社会を目指すためには、工学的な視点から物事を捉えるだけでなく、文理芸融合による新たな視点からの問題発見と解決策の提案が必要となる。この授業では、これまでに実践してきたPBLをベースとして、新たな課題を発見する探究からアイデアの提案までの活動を、教員らの専門分野や連携企業からの問題とリンクさせながら、解決策をチーム活動を通じて学ぶ。学生はチーム活動を行いながらも探究心を身につけ、社会実装のためのアイデアをまとめることを目標とする。	
		社会実装ラボ		この授業では、事例研究において探究しまとめたアイデアを社会実装するためのプロジェクト活動を実践する。学生らは、これまでのPBL活動を通して身につけた、プロジェクトを遂行するリーダーシップ、コミュニケーション、ファシリテーション、モチベーション、スケジュールプランニング、等のスキルを活用しながら、チーム活動により社会実装を試みる。課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現、の一連の過程を繰り返しながら、プレゼンによって社会実装結果を示すことを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学部共通	プログラミング入門		この授業では、コンピュータの操作やプログラミングに慣れるための導入科目として、プログラム開発とレポート作成を演習形式で体験的に学ぶ。プログラムの入力や実行といったパソコンの操作に慣れるとともに、プログラミングに関連した基本的な用語の理解を目標とする。 グラフィックスや音やアニメーションを含むプログラム開発と開発したプログラムについてのレポート作成を通して、コンピュータの基本操作やプログラムの仕組みについて理解を深める。	
		情報リテラシー	○	この授業では、今日の情報社会において安全かつ建設的に活動するために必要な知識と技能の習得を目指す。情報リテラシーとは、情報メディアを用いて情報を受信・収集・整理・分析・活用・発信といった諸活動を行うための基礎的な能力である。また、このような能力を安全かつ建設的に発揮するためには、今日の情報社会における情報管理の在り方や知的所有権に関する知識を身に付けるとともに、情報倫理について過去の事例を踏まえつつ理解することも必要である。 この授業では、資料作成などを交えながら、このような知識と技能を実践的に修得する。	
		基礎数学	○	この授業は、高校から大学への橋渡しをするための授業である。高校数学の理解が不十分であれば、今後の大学での学修に支障をきたすことになるので、その復習も兼ね、大学における専門教育に対応できる数学の基礎知識を身につけることを到達目標とする。不得意なものには、リメディアル授業の開講や基礎教育サポートセンターを設置しているので、積極的に質問を行い、基礎的内容をきちんと理解できるよう努力することが大切である。 履修目標は以下の通りである。数と式の計算が出来ること。方程式が解けること。関数のグラフが描け、その応用ができること。三角関数、指数関数、対数関数などの基本的な性質を知り、その計算と応用が出来ること。基本的な関数の微分、積分の計算とその応用が出来ること。	
		プログラミング基礎 I		この授業では、Java言語を用いてプログラミングの基本的な概念と技術を学ぶ。プログラミングの基礎的な知識の修得を目標とする。データを格納する入れ物である変数、その変数へのデータの格納である代入、様々な計算を行うための演算、基本的な処理の流れである逐次実行、条件に応じてある処理を実行する条件分岐、何度もある処理を実行する繰り返し、処理をまとめるメソッド、複数のデータを扱う配列、データと処理をまとめるクラスについて学修する。 また、競技プログラミングへの取り組み方について学ぶことで、自発的なプログラミングスキル向上のための学習方法について習得する。	
		基礎物理		この授業では力学を中心に物理学の基礎を学習する。運動の数学的記述から始めて、力学の概念、ニュートンの運動法則、運動方程式の立て方と解き方、仕事とエネルギーの概念、力学的エネルギーの保存則、運動量と力積の概念及び運動量保存則などを講義する。授業の中間と最終の段階でテストとまとめを行い、理解度の向上を図る。 大学において理工学領域の専門教育に対応できる物理の基礎的な考え方を身につけるとともに、微分・積分を力学にどのように適用するかなど、数学と物理学の関連を理解することを到達目標とする。	
		技術者倫理	○	この授業では、技術者としての社会的責任と倫理観を学び、とりわけAI技術の適正利用に焦点を当てる。講義、ケーススタディ、グループディスカッションなどを組み合わせ、受講者が倫理的判断力を身につけることを目標とする。前半では技術者倫理の基礎概念やAIに関する法規制を学修し、後半では実際の事例を分析して最終課題に取り組む。これにより、技術開発を担う立場として、持続可能な社会を実現するための責任や判断を実践できる力を育成する。	
		微分積分 I		この授業では、あらゆる分野における数理的思考の基礎となる解析学の基本概念と手法を、微分積分法を中心に修得する。適宜練習問題を解きながら講義を進め、内容の理解が深まるようにする。 初等関数（多項式関数、分数関数、対数・指数関数、三角関数、及びそれらの合成関数、逆関数）の基本的な性質を完全に理解し、微分法、積分法の計算技法を身につけることを目標とする。また、関数の増減と極値、関数のグラフの描画、面積の計算などのやさしい応用ができるようになることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学部共通	線形代数Ⅰ		この授業では、理工系の共通の基盤を構成する専門基礎科目として線形代数を学ぶ。線形代数は、解析学とともに自然科学、工学の基礎を支える数学の重要な分野であり、理工系はもちろん経済学等人文社会系でも幅広く利用されている。抽象的な理論だけでは理解しづらい面もあるので、適宜練習問題を解きながら講義を進め、理解できるようにする。 行列と数ベクトル、行列の演算と分割、一次結合、連立一次方程式の解法、正則行列と逆行列、行列式、余因子行列とクラメールの公式などについて学び、基本的な概念を理解することを目標とする。	
		微分積分Ⅱ		この授業では、「微分積分Ⅰ」に引き続き、あらゆる分野における数理的思考の基礎となる解析学の基本概念と手法を、微分積分法を中心に修得する。微分積分法を、平均値の定理や区分求積法からより理論的に解釈し、テイラー展開、曲線の概形とその利用などの微分の応用、体積、曲線の長さ、広義積分などの積分の応用を学ぶ。さらに2変数関数を導入し、偏微分法、重積分法も学ぶ。適宜練習問題を解きながら講義を進め、内容の理解が深まるようにする。	
		知的財産権		知的財産権とは、著作権、特許権、商標権、意匠権、実用新案権、育成者権等を意味する。この授業では、社会人、特に技術系社会人にとって必要不可欠の知識となっている知的財産権について、その全体像にとどまらず、歴史的背景や、特許などの各種権利の制度や権利の捉え方、調査の仕方まで、多数の実例を交えて講義する。なお、授業中にインターネット経由で特許庁のデータベースにアクセスして特許等を調査する講義も行う。	
		微分方程式		この授業では、「微分積分Ⅰ」で学修した関数の微分積分の延長として微分方程式を学ぶ。微分方程式は、自然現象を解析する上でなくてはならない手法であり、機械工学および電気工学の基盤を成す概念である。そこで、最初の数時間は微分積分Ⅰの内容、特に積分の概念や計算法をもう一度復習する。その後、微分方程式とは何か、どのように解けばよいのかなどを順次学ぶ。対象とする微分方程式は、変数分離型及び線形微分方程式である。	
		線形代数Ⅱ		この授業では、「線形代数Ⅰ」で学んだ行列、連立一次方程式の解法、行列式などの基本的な概念に基づき、ベクトル空間、線形写像、固有値と固有ベクトル、内積空間などについて学び、基本的な概念を理解することを目標とする。線形代数は、解析学とともに自然科学、工学の基礎を支える数学の重要な分野であり、理工系はもちろん経済学等人文社会系でも幅広く利用されている。抽象的な理論だけでは理解しづらい面もあるので、適宜練習問題を解きながら講義を進め、理解できるようにする。 履修目標は以下の通りである。部分空間の基底を理解し、求めることができる。線形写像の像と核を求めることができる。固有値、固有ベクトルの定義を理解し、固有値、固有ベクトルを求めることができる。対角化の意味を理解し、行列の対角化ができる。一次独立の定義を理解し、対角化可能条件を述べることができる。	
		インターンシップ		インターンシップは、それまでに学んだ知識や判断力のもとに、社会すなわち企業や自治体で実務を体験し、その後の学修の目標をより明確にする機会である。そのチャンスを有効に活かすためには、就業先において適切に対応できるよう身に付けておくべき基本的な知識、マナーならびに習慣について十分に学習し、万全に備える必要がある。キャリア支援センターが窓口になっている各種インターンシップ及び事前、事後の説明会、研修等に参加することが望ましい。 この科目は通年開講とし、事前・事後指導に加え、夏季もしくは冬季にインターンシップに参加し、1月末までにレポートを提出する。なお、7月もしくは12月にディスカッションを目的とした対面講義を行う場合がある。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門	コミュニケーション系	コンピュータ概論		この授業では、コンピュータシステムの概論として、コンピュータシステムの基礎知識と活用方法について授業を行う。コンピュータを実際のものづくりやPBLに活用できる基礎知識や能力を身につけることで、これら学ぶデジタル技術についての基礎を形成する。 受講生は、コンピュータシステムの構成と動作原理を理解し、ハードウェアとソフトウェアの繋がり、ネットワーク技術の基礎を理解し、それらの活用技術を身につけることを目的とする。	
			デジタルものづくり		従来のものづくりでは金属や木材などの各種材料を任意の形状に加工するために工作機械が用いられてきた。工作機械は切削加工やフライス加工など目的に応じた多様な加工が行えるが、十分な加工精度を得るためには技術の熟練が求められ、その修得には一定の年月が必要であった。一方、デジタル技術の発展に伴って、加工に必要な各種作業工程に対応する数値制御により自動化するNC工作機械や、3Dデータから立体物を造形する3Dプリンタなど新たなものづくりの機材の利用が始まっている。これらのデジタル化された機材を活用してもものづくりを行う技術は今後さらに重要になると考えられる。この授業では、プログラムをベースとして目的とする加工や造形を安全、高速かつ精度よく行うデジタルものづくり技術を修得することを目的とする。	
			テクニカルライティング		文書で必要な情報を正確に伝える技術は、技術者にとって必要不可欠な技術である。この授業では、技術文書のリテラシーを養うことを目的としている。具体的には、簡潔でかつ分かりやすく、読み手に伝わりやすい文章を書く技法を学ぶ。次に、各種報告書、企画書、取扱説明書等の具体例を用いて、文書で情報をわかりやすく正確に伝える技法、そして電子メール・チャットや口頭のプレゼンテーション等のデジタルツールを活用して伝える技法について、演習を通じて学ぶ。最後に、生成AIを活用した文書作成方法や留意点について学ぶ。	
			AIコミュニケーションツール		この授業では、AI技術を用いた新たなコミュニケーション手段を習得し、社会や産業界で活躍するための実践力を高めることを目的とする。授業では、音声アシスタントや自動翻訳、チャットボットなどの基礎理論を学び、それらがもたらす社会的・倫理的影響についても考察する。さらに、プログラミングやオンライン開発ツールを用いて簡易的なAIチャットシステムを構築し、ユーザビリティ評価や情報セキュリティの観点から検証を行う。グループワークを通じて、実際の企業や公共機関での活用事例を調査し、課題設定から設計・提案までのプロセスを体験的に学ぶ。これにより、スマートコミュニケーション工学科として、技術面と社会面の双方からAI活用に取り組める力を育成する。	
			ロボットデザインⅠ		ロボットにとってセンサは目となり耳となる重要な構成要素であり、ビジョンセンサや音響センサのほか、力センサや距離センサなど多種多様なセンサが使用されている。この授業では、ロボットの開発を行うために必要となるセンサに関する実際の知識の修得を目標とする。具体的には、ロボットで使用されているセンサについて、その動作原理、構造、使用方法について学ぶ。また、センサ出力を取得するための電子回路や信号処理の方法及びセンサを利用したメカトロニクス機器についても学ぶ。センサに関する実際の知識を修得することを目標とする。	
			創造設計演習		マイコンは処理速度は限定的であるものの多様な入出力機能を持ち、省サイズ、低コストであるなど多くの利点がある。この利点を活かして、センサやアクチュエータなどのメカトロニクス機器を制御するための入出力インターフェースとして産業機械やロボットなどで広く利用されており、近年のものづくりにおいて欠かせない構成要素となっている。この授業ではまず、マイコンと各種メカトロニクス機器を組み合わせたマイコンシステムの設計開発技術を学ぶ。その上で、指定されたテーマに沿ったマイコンシステムを自由に創造し、その設計開発を行う。演習を通してマイコンを用いた設計開発能力を身に付けることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門	コミュニケーション系	情報セキュリティ		この授業では、現代の情報システムにおけるセキュリティの重要性を理解し、セキュリティの設計と実装に必要な技術を学び、セキュリティ脅威、攻撃手法、対策技術についての知識への理解を深める。コンピュータネットワークの知識、情報セキュリティの基本概念や重要性から始め、暗号化技術、認証とアクセス制御に使われるツールや手法、最新の動向までをカバーし、実践的なセキュリティスキルを身につけることを目標とする。実習を通じて、現実的なセキュリティ問題に取り組む。	
			モバイルコミュニケーション		人と人、人とモノの間をつなぐ通信技術を活用したアプリケーションは、現在の豊かな生活を支える基盤になっている。この授業では、多数の端末が同時に情報をやり取りできる仕組みを理解することを目的とする。具体的には、送信される情報と送信信号の関係、信号の特長、高速通信及び同時数接続を支える技術について学ぶとともに、相互接続を実現できる仕組みを学ぶ。さらに、携帯電話等で情報伝送を担う電波の特徴について学び、モバイル通信を実現するための要素技術と特長について学ぶ。	
			ロボットデザインⅡ		この授業では、ロボットを設計する際に必要な基礎知識と考え方、代表的な機械要素の設計における基本的な事項について学ぶ。ロボットは特定の使用目的を達成するように作られたものであり、数多くの部材、部品など、いわゆる機械要素によって構成されている。ロボットデザインは、外観や色彩だけではなく、安全性、経済性、製作性、メンテナンス性やリサイクル性など、多くの制限条件を考慮した上で行われる「総合設計」である。受講生は、与えられた仕様に基づいて機械要素や簡単なロボットを設計する能力を身につけることを目標とする。	
			科学技術英語		技術者や研究者の間での技術情報の共有のために、英語が共通言語として用いられている。近年のグローバル化の進展に伴い、従来の学術論文等の最先端の技術だけでなく、プログラミング開発環境、ソフトウェアや電子機器のマニュアル等でも文書の英語化が進められており、現場で働く技術者も英語に触れる機会が増えてきている。この授業では、情報・機械・電気の分野を対象として、英語の技術文書を正確に読み書きできるようになることを目的とする。そのために、事例等を用いて技術文書で用いられる英文法について学び、英文の構成の特徴について学ぶとともに、練習問題等を通じて実際に英文を書くことにより、ライティング力を身につける。	
			グローバルコミュニケーション		この授業では、多文化環境でのコミュニケーションスキルを修得し、グローバル人材として必要な視点と行動力を養うことを目標とする。主にグループワークやディスカッション、ロールプレイなどのアクティブラーニングを取り入れ、異文化間の価値観や行動様式を理解し、柔軟に対応する力を身につける。英語でのプレゼンテーションや交渉スキルなども取り扱い、国際社会においてリーダーシップを発揮できる総合的なコミュニケーション能力を育成する。	
	社会課題実装系		カーボンニュートラル概論		この授業では、現在の温暖化ガス排出削減やカーボンニュートラル社会の実現に向けた政策等について学び、社会や個人として今後どのように取り組むべきかについて提案できるようになることを目的とする。授業形態は講義中心に行うが、実践的な学びを深めることができるよう進める。授業計画は、1)カーボンニュートラルの基礎知識、2)温暖化ガスの排出源と削減技術、3)政府や企業の取り組み、4)個人の役割と行動に関する内容で構成されており、最終的にはカーボンニュートラル達成のための具体策を学生自身に提案してもらう。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門	社会課題実装系	国際社会課題・SDGs		(概要) この授業では、日本・世界の現状と国際社会が取り組むべき目標と課題について、工学の視点から身近な取り組み事例をオムニバス形式でわかりやすく解説し、プロジェクト活動として取り組むべき課題を考察する。 (オムニバス方式／全14回) (1 牛見 宣博／2回) 農業従事者の現状と食糧問題・スマート農業への課題～ (4 鶴田 和寛／2回) 軍事衝突や安全保障の現状と課題～ (2 村上 剛司／2回) 医療介護施設におけるニーズと課題～ (3 橋口 卓平／1回) 持続可能な社会を目指す中で直面するエネルギー政策上の課題～ (7 緒方 将人／2回) ネットワーク技術の進展とサイバーセキュリティの課題～ (5 鴈野 重之／2回) 地球環境と宇宙環境：宇宙で起こる現象に起因した地球環境及び人間社会への影響の課題～ (6 松岡 剛志／2回) モバイルコミュニケーションの普及・開発状況と課題及び電磁波の生体への影響～ (8 小代 哲也／1回) 工場・製造業の人手不足の現状と課題～	オムニバス
			電力グリッド工学Ⅰ		この授業では電力グリッドの構造や働きを理解し、小規模の電力グリッドをシミュレーション上で動作させることができるようになることを目的とする。学習した内容をシミュレーションで実現することにより理解度を深める。授業計画は、1) 発電、送電、配電、負荷のそれぞれの働きと特徴、2) 需給バランスと周波数、3) 電力と電圧、4) 電力グリッドの安定性に関する内容で構成されており、最終的には指定された電力グリッドをシミュレーション上に再現し、動作させる。	
			電力グリッド工学Ⅱ		この授業では、電力グリッドのシミュレーションデータや実際の計測データを用いて電力グリッドの解析を行い、諸現象について理解できることを目的とする。学習した内容のシミュレーションデータや実測データの解析結果を検討・考察することで理解度を深める。授業計画は、1) 電力データの統計的信号解析、2) 電力データの周波数解析、3) 電力データの時間-周波数解析、4) 電力データの統計的信号解析に関する内容で構成されており、最終的には実際の電力グリッドの様々な課題について説明できるようになる。	
			地球環境学		この授業では、地球環境がいかにしてもたらされたのかを学ぶとともに、地球環境がどのように変化しているかを学習する。地球環境は様々な要因によって変化するが、その変化の歴史をたどることで、地球システムがいかにして自身の安定性を獲得しているかを紹介する。特に、近年の地球温暖化がいかにして進んできており、それが自然環境及び人間社会にどのような影響を与えるかを外観する。授業内容を通じて、地球という惑星の特異性と、その恵まれた環境の脆弱性についての理解を深める。	
			エネルギーマネジメント工学Ⅰ		この授業では、HEMS、CEMS、FEMS、VPP、マイクログリッド、スマートグリッド等の様々な電力グリッドとそれに関するエネルギーマネジメントシステムの特徴や働きについて学び、基礎的な制御システムをシミュレーション上に実装できるようになることを目的とする。学習した内容をシミュレーションで実現することにより理解度を深める。授業計画は、1) 各種モデルの設計、2) 各種モデルの推定、3) コントローラーの設計、4) コントローラーの実装に関する内容で構成されており、最終的には様々なデータから制御システムを構築できるようになることを目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門	社会課題実装系	エネルギーマネジメント工学Ⅱ		この講義では、エネルギーマネジメントシステム（EMS）に必要な各種予測手法や最適制御手法について学び、基礎的なEMSをシミュレーション上に実現できるようになることを目的とする。学習した内容をシミュレーションで実現することにより理解度を深める。授業計画は、1）エネルギー管理と法規制・政策、2）電力需要や太陽光発電出力、風力発電出力の予測手法、3）安定性や経済性、環境性、制約条件等を考慮した最適化手法、4）EMSの設計に関する内容で構成されており、最終的には実際に模擬したEMSが構築できるようになることを目的とする。	
			システムインテグレーション		この授業では、ロボットデザインに基づき、トータルバランスを考えながら、ロボットを正しく実用的に運用するために必要な組み合わせとシステムの実現について学ぶ。複雑化する人間、社会、人工物に関わる様々なシステムの俯瞰的インテグレーションを可能とする工学的能力を高めることを目標とする。 特に、現代の社会課題をテーマに対してロボットを具体的な題材として、センサシステムやネットワーク技術、エネルギー等を組み合わせることで、実用に耐え、利便性の高いシステム構築の応用力を身につける。	
			防災工学		この授業は、自然災害や人為的災害に対する理解を深め、被害を最小限に抑えるための技術や計画手法を学ぶ授業である。演習を中心に、地震・洪水・津波などの災害メカニズム、過去の災害事例の分析、最新のICTを活用した予測・警戒システムの設計などを扱う。後半では、小グループでの防災計画立案を通じ、災害対応力や課題解決力の向上を図る。スマートコミュニケーション工学科の専門性を活かし、地域社会や産業現場と連携した防災対策を検討し、持続可能な社会の構築に貢献できる力を育成する。	
			人間工学		この授業ではものづくりの現場やデザインをする上で必要となる「人間工学」を学ぶ。近年、ものづくりの現場では、消費者の使いやすさに注目したいいわゆる人間尊重の製品開発が行われている。これらの開発には、「人間工学」の知識が必要である。そのため、この授業では「人間工学」の観点を持った技術者の育成を目指す。「人間工学」の基本的な内容やデザインについて学習を行う。また、学生にはレポートの作成や実際に学生自身がデザインした物を作成する実習を行う。	
	学科共通		データサイエンス基礎	○	この授業は、ビッグデータ時代に求められる分析視点と技術を修得するための導入科目である。データの収集・整理から基礎統計、機械学習の初歩的手法までを体系的に学ぶ。Pythonなどを用いたプログラミング演習を通じ、実際のデータセットを可視化・分析し、簡易なモデルを構築する経験を積む。さらに、得られた結果を根拠に基づいてわかりやすく伝えるコミュニケーションスキルを身につけることを重視する。スマートコミュニケーション工学科として、多文化・多分野との連携や社会実装を意識したアプローチを学びつつ、データを基軸とした論理的かつ創造的な問題解決力を培うことを最終的な目標とする。	
			科学コミュニケーション	○	学術論文をはじめとする科学技術に関連する情報は、テクニカルタームや多くの前提知識、独特の表現などを含み、正しく内容理解するためには経験が必要となる。科学技術に関する文章やイラストレーション、動画などから必要な情報を適切に読み取り、正しく内容を理解するための技能を習得することを目指す。また、理解した内容を文章やプレゼンテーションとして適切に相手に伝えるように表現することも必要である。この授業では科学技術に関する情報をインプットし、理解したうえで、付加価値をつけアウトプットしていくための技術を身につけることを目的とし、そのための基礎的な訓練を行う。	
			CAD入門	○	この授業では、はじめてのものづくり活動として、日本産業規格（JIS）に基づき設計（デザイン）から工作に至る一連の過程を体験的に学ぶ。 ものづくりでは、必ず図面が必要になる。作りたい部品形状を、正しく、はっきりと図面に表すことで、自分自身がどのようなものを作りたいかだけでなく、他人に伝えるための能力として図面を作る能力を身に付ける。授業では、CADを利用して適切な図面を描く方法を身につけ、簡単な部品製作を3Dプリンタなどを活用して実践する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科共通	機械工学概論	○	機械工学は社会及び産業界のあらゆるところに深く関わっている。この授業では、これまでに機械工学を専門としていない受講生を対象に、機械工学の基礎について解説を行うことで、社会問題等に対して、機械工学の知識を活用することで、工学的な視点から様々な課題の解決につながる手法を学ぶ。 主に、機械工学の概念、ロボットなどに使われる要素部品の基礎、部品の加工・工作法、力学の基礎、さらにもものづくりで必要となる材料学について授業を行い、知識を身につける。	
		電気工学概論	○	電気工学は便利で快適な生活を営む上で不可欠であり、現代社会の基盤を支える重要な分野である。この授業では、電気工学を専門としていない初心者を対象に、その基礎をわかりやすく解説する。また、電気工学の視点から、エネルギー問題や持続可能な社会の実現など、社会的課題への取り組み方や解決手法についても学ぶ。この授業では、電気の流れ、モータの仕組み、電気信号を用いた情報伝送技術（電話やインターネット）、発電所や再生可能エネルギーによる発電方法などについて学ぶ。これらを通じて、電気工学の基礎知識を身につける。	
		デジタルコミュニケーションプログラミング	○	スマートフォンやコンピュータなどのデジタル機器は現代におけるコミュニケーションを支える社会基盤の1つであり、その関連技術修得の重要性が高まっている。デジタル機器で任意の機能を実現するためには対応するプログラムの作成が必要となる。プログラムはデジタル機器への指示書であり、それらが理解できる形式で計算式などの指示内容とその実行順を記述したものである。この授業では、プログラムの作成に必要な基本的な知識と技術を演習を通して修得することを目指す。具体的には、プログラミング環境の構築を始めとして、プログラムの実行順を規定する制御構造、基本的なプログラム関数や変数、配列、入出力インタフェースなどについて学ぶ。	
		科学実験	○	この授業は理工系の学問に必要な実践力を身につけることを目的とする。科学に関する基礎的な実験を通して、工学分野の基礎となる自然現象について理解を深める。同時に、基礎的な測定技術、結果の評価方法と誤差の見積もり、グラフの描き方、適切な単位の利用、有効数字の概念、レポートの書き方、プレゼンテーションなどの技術の習得を目指す。複数のテーマの実験を、グループに分かれて実施することで、チームでの協調性、実践力も身につける。	
		品質管理 I	○	この授業では、組織で仕事をするにあたって品質管理の基本を含めて企業活動の基本常識を理解し、企業などで行われている改善活動について学ぶ。 授業では、品質優先の考え方、管理活動（維持・改善）、QC7つ道具であるバレット図・特性要因図・ヒストグラム・グラフ・管理図・チェックシート・散布図・層別、新QC7つ道具である、親和図法・連関図法・系統図法・マトリックス図法・アローダイアグラム法・PDPC法・マトリックスデータ解析法、さらに解析ツール、及び、企業におけるKAIZEN活動の紹介により、品質管理についての基礎を身につける。	
		電気回路入門	○	この授業は、電気回路の基本的な理論やシミュレーションツールの使用法を学び、回路の解析ができる能力を養う。電圧、電流、抵抗、インピーダンス、キャパシタンス、インダクタンスなど、電気回路を構成する基本的な要素や合成抵抗、合成インピーダンス、等価電源の定理などの解析法について理解する。具体的には、LTspiceやMultisimのシミュレーションツールの使い方を学ぶ。実践的な演習を行い、理解しやすく、かつ応用力を養うことを目標とする。	
		シミュレーションプログラミング	○	この授業では、物体の運動やモータの動作等についての知識とシミュレーションを行うプログラミングスキルを習得することを目指す。機械力学分野の基礎的な事項である運動方程式の導出から学習を行い、物体の運動の考え方等を身につける。そして自由落下運動や円運動等の物体の運動や産業界で多用されている回転モータや直動モータ等の動作について学習する。プログラミングでは、MATLAB/Simulinkを用いて行い、学習した物体の運動やモータの動作についてのシミュレーションを行う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科共通	デジタルコントロール	○	この講義では、古典制御理論の基礎となる内容について学習を行い、学習した内容について実際にMATLABを用いて演習を行う。具体的には、運動方程式などの微分方程式とラプラス変換の関係、ラプラス変換表及び微分値のラプラス変換など有用な公式の使い方、ラプラス変換を用いた伝達関数の定義と求め方、伝達関数を用いた応答の求め方、ブロック線図の描き方と基本結合及び等価変換、閉ループ系の極及び一巡伝達関数と安定性の関係について学習する。これにより、1入力1出力の線形システムについて、その動特性を伝達関数により表現し、基本的な解析を行う能力を身に付けることを目標とする。	
		データ解析		この授業では、実世界に存在する多様な課題に対して適切な分析手法を選択し、効果的に活用できる能力を養うことを目標とする。統計解析や機械学習などを学ぶだけでなく、プログラミング演習を通じて実際のデータを可視化・モデル化し、その精度や限界を検証するプロセスを体験する。具体的には、回帰分析やクラスタリング、決定木などのアルゴリズムを取り上げ、各手法の特性や適用範囲を理解するとともに、解析結果を根拠ある形で提示し、意思決定に結びつける力を身につける。さらに、グループワークにより実際の課題に取り組み、多様な分野との連携やコミュニケーションを通じてデータ解析の有用性と限界を学ぶことで、総合的な問題解決能力を高める。	
		AIアシスタントプログラミング		生成AI技術の発展により、プログラムを自動生成するサービスの提供が始まっている。人が日常のコミュニケーションで使用する言語である自然言語を入力とし、プログラムコードを出力として得ることができる。このサービスを利用することでプログラミングにかかる時間などのコストを大幅に低減できるが、その一方で目的に合ったプログラムコードを得るためには適切な指示を自然言語で与える必要がある。どのようなデータを使用してどのような結果が欲しいのかなど、プログラムの作成に必要な情報を不足無く適切に記述しなければならない。また、得られたプログラムコードが目的に合うように作成されているかをテストし、必要に応じて指示を修正していく必要もある。この授業では、生成AIを利用したプログラミングに関する知識と技術を演習を通して修得することを目指す。	
		品質管理Ⅱ		この授業では、組織で仕事をするにあたって品質管理の基本を含めて企業活動の基本常識を理解し、企業などで行われている改善活動について学ぶ。 授業では、工程とプロセス、母集団とサンプル、サンプルのとり方、データのまとめ方、事実とデータに基づく判断、重点指向・標準化・検査、QC検定、報告連絡相談、5W1H・三現主義・5ゲン主義・マナー、5S・安全衛生活動、及び、製品づくりのための心構えと行動を身に付ける。	
		ロボット学入門	○	現代社会において、伸びが著しいロボットの分野は、工場などの自動化が進んでいる産業用ロボットに加えて、サービス分野でもロボット活用が飛躍的に伸びてきており、今後が有望視される。この授業ではロボットの技術について、工学的な視点だけでなく、社会実装の観点からロボット技術の基礎を学ぶことを目標とする。ロボットに必要とされる3つの要素である、感覚（センサ）、思考（コンピュータ）、行動（アクチュエータ）、及び、近年のAI技術の利用について身につける。	
		FAシステム		この授業は、工場の生産工程の自動化であるいわゆるファクトリーオートメーション（FA）についての現状とその構成システムについて学習を行う。また、授業では産業用装置自体の構成やシーケンス制御を用いた論理回路やタイムチャートの作成を行う。演習ではラダープログラムを使ったプログラミングを行い自動生産ラインの設計を行う。この講義では、学生が産業用装置の知識を身に付け、論理的に課題に取り組むことができるようになることを目指す。	
		電子回路入門	○	電子回路の基本的な理論やシミュレーションツールの使用法を学び、理論的な知識と実践的な技術の両方を提供し、回路設計と実装における理解を深めることを目標とする。電気回路の振り返りから始め、ダイオード、トランジスタ、オペアンプなどの電子素子の特性、これらの素子を利用する整流回路、増幅回路、アクティブフィルタやアナログ・デジタル信号の変換回路の動作を学ぶ。また、LTspiceやMultisimのツールを使った、実際の回路のシミュレーションを通じて設計に必要なスキルを身につけることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科共通	応用データ解析		計測技術及び情報通信技術の発展により、ネットワーク上に蓄積された多量かつ多様なデータを利用できるようになってきた。この授業では、これらのデータのうち音声や各種センサー等で取得したデータを解析し、そのデータの特性評価及びデータを推定できるようになることを目的とする。具体的には、実際のデジタル信号の周波数特性、時系列データのトレンドや推定等を直感的・視覚的理解できるように数値計算ソフトウェアを用いた演習により学ぶ。さらに現在の時系列データの有効活用事例についても学ぶ。	
		力学発展		この授業では理工系の学問に必要な力学的知識を学ぶ。力やモーメントの釣り合いからはじめ、剛体の運動や振動など、発展的な力学の内容を学ぶ。演習等を取り入れ、経験的に物理学の本質を理解することを目指す。物理学の理解とともに、専門的な工学系分野とのつながりも意識したテーマを取り入れて進めていく。具体的には機構学やロボット工学、電気回路や電磁波工学、量子力学を学ぶ上で必要となる知識を身に付けることを目的とする。	
		電気電子計測	○	近年、様々な分野でエレクトロニクスを利用した計測に基づいて機能的に動作する、いわゆる電子制御機器が利用されている。電子機器を適切に制御するためには、電気・電子技術を用いた計測技術が重要となる。本講義では、電気信号を観測する測定器の測定原理を理解し、測定器により取得したデータを適切に処理できるようになることを目的とする。まず測定における誤差及び測定量の統計処理について学ぶ。次に、実際に測定器で電気信号を観測しながら各種測定器の測定原理及び取り扱い方について学ぶ。さらにコンピュータを利用した計測事例及び実際の現場での測定器の利用事例について学ぶ。	
		デジタル回路	○	デジタル回路の基本原則と基本的な論理回路の解析と設計を学び、高度な設計手法やシステムの設計やシミュレーションを通して実践的な知識を習得する。論理代数、真理値表、ブール代数のデジタル回路の基本原則を理解し、基本的な論理回路である論理ゲートやフリップフロップ、カウンタ、レジスタなどのデジタル回路素子の動作を解析、設計し、実際のデジタルシステム設計の基礎を学び、応用できるスキルを身につけることを目標とする。	
		創造グループ基礎演習		この講義は、学生複数人のグループで、社会問題を背景に新しいロボットやメカトロデザインのアイディアを考える。近年、少子高齢社会を背景に、ユニバーサルなデザインや人に優しい技術が益々求められており、これまで以上に柔軟な発想のできる技術者の育成が期待されている。そこで工学、デザイン、社会科学の視点から新しいロボット・メカトロデザインについてグループで考える。考えたアイディアについては、レポートの作成及び授業中に発表を行う。グループワークを行うことで、コミュニケーション能力が高く、より実践的な考え方ができる技術者の育成を目指す。	
		AIリテラシー		AIに関する技術は、デジタル時代へ向けたこれからの社会変化（第4次産業革命、Society 5.0等）に深く関係しており、私たちの生活の中で広く活用が進められている。このような社会の変化に対応した技術者となるためには、多様なデータに対してAI技術を適用できる基礎的な知識と能力を修得することが求められる。この授業では技術者が身に付けておくべきAI技術の基礎知識と活用能力を修得することを目指す。まず、AI技術の活用領域や活用事例を学び、AI技術が日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ることを理解する。その上で、AI技術を活用するための基礎的なプログラミング技術を修得する。	
		創造グループ応用演習		この授業は、「創造グループ基礎演習」にて挙げたアイディアを基に実際に実物の制作を学生複数人のグループで行っていく授業である。基礎演習で身に付けた実践的な考え方が基礎となるが、制作を進めていく際には、3DCAD等の製図能力、加工技術、使用者を考慮したデザイン能力等が必要になってくる。そのため、この授業では、先に挙げたこれらの能力をグループワークでも発揮できる会社や社会で通用する技術者の育成を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科共通	現代自然科学		20世紀以降、自然科学は急速な発展を遂げてきている。アインシュタインによる相対性理論の完成、量子論の発展とエレクトロニクス技術への応用、素粒子理論の深化、地球と宇宙についての理解の進展など、過去100年間で人類の自然に対する理解は飛躍的に進んできた。同時に、これら科学的知識は我々の実社会にも実装が進んでおり、コンピューターをはじめとする様々な面で我々の生活インフラを支えている。この授業では科学技術のカッティングエッジを学ぶことを通して、社会的課題を解決するための糸口を発見する方法を考えていく。	
	関連科目	デザイン思考	○	デザイン思考は、GoogleやAdobeなどの世界的な企業でも積極的に取り入れられており、答えのない問題にアプローチしていく思考法である。この授業では、「デザイン思考とはなにか」といった基本概念を理解することから始まり、実践事例を通じた学習を進めていく。事例では現実生じている課題に対し、デザイン思考の手法を用いながら解決策を模索していく。デザイン思考を実際に学び、各種の問題に柔軟で創造的なアプローチをしていくスキルを身に付けることで、理論だけではなく解決やイノベーションを起こしていくための基本的なスキルを養う。	
		平面構成		この授業では、平面（2次元）上での簡明な図形の配置（構成）と配色を学ぶ。 構成の3要素（エレメント）から入り、イメージ構成へとレッスンを発展させる。平面デザインの基礎科目であり、ビジュアル領域を目指す場合の基礎ともなる科目である。平面構成について、エレメント、モチーフ構成・製作、イメージ構成を演習形式で学び、平面（2次元）の制約の中でのデザインの基礎を理解し、多彩な表現ができるようになることを目標とする。	
		デザイン概論		この授業では、「デザイン」とは、どんな広がりの中にあるのか、どのように多様な活動が行われているのか、多種多様なデザイン領域の概説を通じて理解する。また、同時に、デザインのあるべき姿を考察し、新たな可能性に向けて示唆を得る機会とする。授業は、講義、ワークショップ、グループワークの形式で進められる。 多様な側面を併せ持つ「デザイン」に対する広い視野を獲得し、「デザイン」の新たな可能性を探ることで、さまざまな視点から「デザイン」で自分なりの答えがもてること、答えをつくる力を育むことを目的とする。	
		立体構成		立体物の構成には「材料を加工する技術」「構造の設計力」「構想の編集力」が必要である。この授業では、演習を通して構成方法を学び、上述した力を身につける。 授業では、面材を使って構成する、素材を活かして構成する、をテーマに、立方体の制作、紙のオブジェクトの制作、紙の装身具の制作などを行いながら、グループワークによる素材特性の発見、構想等も実施する。課題ごとの目的と条件をふまえて、美しさと独創的な表現を両立させた立体物を制作することができることを目標とする。	
		美術概論		この授業では、美術に関わる基本的でその根本とも言える諸問題について、その基本的前提を学ぶ。美術における絶対的な本質は捉えがたく、時代や状況といった背景との関係において考察されていくものである点を踏まえ、基本的前提に対する受講者の皆さんの思索を、ワークシートやディスカッション等で吸い上げ、現代的な論理へ展開していく手掛かりを獲得することを身につける。美術領域全般に対する基礎知識の獲得、及び、現代的な論理へ展開していく手掛かりを獲得することを目標とする。	
		ユニバーサルデザイン論		この授業では、ユニバーサルデザインが生まれた背景や理念、普及から発展に至る経緯、それを取り巻くインダストリアルデザインの分野との関連を解説する。また、身体に障がいがある人の視点での街づくりやモノづくりを考える講義や課題を通して、ユニバーサルデザインへの理解を深める。ユニバーサルデザインの背景や要件などの基礎知識を理解し、ユニバーサルデザインを実践するための考え方や方法を理解、加えて、障がいの疑似体験を通して、生活環境の中の課題を理解することを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	関連科目	デザイン科目	色彩学		私達の生活は心身ともに色彩の影響を大きく受けている。デザインの基礎として色彩に着目し、色彩と脳の関係性や配色を論理的に捉えていく。この授業では、色彩による心理的、生理的効果や影響力について、主観性と客観性の視点を持ち、分析、統計を交え総合的に理解できるように学ぶ。グラフィック、プロダクト、環境計画、店舗設計、ファッション等、どの分野においても色彩の基礎知識は社会に出てから即戦力となり活躍できることを理解し、色彩の基礎知識と技術を習得することで、デザインやクリエイティブな現場で即戦力となることを目標とする。また、色彩心理学や生理学をベースに論理的な裏付けを持った配色技法や配色計画が出来るようになること、第三者に伝わるような客観性を持ったプレゼンテーション能力、更に言葉を視覚化する新たなコミュニケーション能力を培う。	
		社会科学科目	ビジネス開発入門		この授業では、ビジネスの基礎知識と開発プロセスを体系的に学ぶ。企業戦略、マーケティング、財務、組織論などの主要なビジネス領域を学習し、実際のビジネスケースを通じて理論と実践を結びつける。特に、事業の立ち上げや新規事業開発に必要な思考法、問題解決能力を養うことを重視し、ディスカッションやケーススタディを通じて、チームでの協力とリーダーシップを実践し、創造的かつ戦略的なアプローチを習得することを目指す。また、現代のビジネス環境における課題や機会を理解し、柔軟に対応する能力を養うことを目指す。	
			マーケティング入門		マーケティングというのは簡単に言うと、「モノが売れる仕組み」のことである。マーケティングを企業活動と考えると、私たちから遠い存在のように思えてしまうかもしれないが、ホントはもっと身近なところでマーケティングは行われている。この授業では、「マーケティングの考え方を身につけよう」というテーマで学ぶ。 あなたが「買う」ときに、その逆には必ず「売る人」がいる。マーケティングを自分の身の回りから学んでいき、「なぜこの商品を買ったのか?」「なぜこの店で買ったのか?」「なぜこのようなセールストークにしたのか」と考える。マーケティングは現実の生きた世界と深く関わっている。この授業では、「偶然」だと思った現実を「マーケティングの考え方」を持って考えることができるようになることを目標とする。	
			流通入門		私たちは日常生活を営む上で必要な多種多様の商品を消費している。しかしながら、これらの商品が誰によって生産され、どのように方法で私たちの手元に届くのかについては知らないことが多い。生産者によって生産された商品を私たちが消費できるのは、生産と消費との間に介在する流通が機能しているためである。 この授業では、流通の基礎知識を身に付けることを目的とし、流通の基礎的な知識の習得、日本における流通の現状と課題を把握、流通・マーケティングの理解を深めることを目標とする。	
			ベンチャービジネス論		この授業では、ベンチャー企業の経営者を中心としたゲストスピーカーによって進められる。このことによって、実践的なベンチャー企業経営についての内容把握が可能になる。この授業はこのような意図の下、実践的な経営を学習し、アントレプレナーシップ（企業家精神）を身につけることを目的とする。 授業では、ベンチャー企業とはなにか、創業の動機、起業のしかた、ピンチの到来、事業展開の転換点、事業の成長、地域産業について、若者へのメッセージ、などをテーマに、ゲストスピーカーの話から起業意識とリーダーシップを身につける。	
			国際経営戦略論		この授業では、海外進出企業のグローバル戦略を取り扱う。まずは経営戦略とは何かを具体的な事例を引用しながら講義を進める。そして、経営戦略とは何かを学んだ後に、企業成長の重要な戦略ツールとしての海外戦略を多角的な視点から講義する。多角的な視点とは、企業の海外戦略行動をマーケティング戦略、イノベーション戦略、競争戦略、組織間マネジメント戦略などの異なった視点から捉えることである。このような多角的な視点から海外戦略を捉えることで、論理的に思考力を育成する。 この授業では、新しい事例も積極的に取り入れながら、理論と現実の対応関係を明らかにしていくことが狙いである。講義では各テーマごとに対応する企業のケース分析を積極的に取り入れていく予定である。ケース分析を通じて、問題発見力や分析力、さらには、課題解決能力を高める。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	関連科目	社会科学科目	技術経営論		技術経営論の対象範囲は大変広く、関連する技術は私達の身の回りの様々な場面で用いられている。しかし、他の工学（例えば機械工学など）と異なり、直接「モノ（ハード）」を取り扱わない。その代わり、経営をInput/Outputシステムとして捉えた時、システムの構成要素それぞれがスムーズに、全体最適で作用するような「モノゴトの間にある仕組み（ソフト）」を取り扱う。仕組みはシステムの内部に隠れてしまい、私達の目には映りづらく縁の下の力持的な学問分野であり、ある意味でインタンジブルな工学とも言える。この授業では、エッセンスを身近な例を取り上げながらわかりやすく解説していきます。特に、生産管理やCRMに関しては、コンサルタントとしてのシステム開発やデータ分析の実務経験を活かし、事例紹介等を交えて解説を行います。	
			広告論		近年はデジタル分野での広告コミュニケーションが拡大して激変期にある。環境が変化するタイミングは、これから社会に参加する人たちにとって大きなチャンスでもある。新旧メディアの両方のロジックと連動の仕方も理解すれば、どちらか片方だけの人たちよりも強いスキルを身につけることが可能となる。この授業では、担当教員の経験してきた実践と広告の理論を踏まえて、マス広告と新しいデジタルマーケティングについて学ぶ。企業活動における広告の基本的な役割を説明でき、広告の各開発領域の基本を理解し、広告計画、表現と媒体設計の基本的なスキルを身につける。	
	S M A r t F u s i o n		融合理工学導入		SMartFusionプログラムは、理工学部(情報科学科、機械電気創造工学科、スマートコミュニケーション工学科)の専門分野を広く学び、さらに、デザイン思考などのアート&デザインに関する知識を身に付けることで実社会で活躍する複合的スキルを身に付けるための理芸融合型人材育成プログラムである。 融合理工学導入では、各学科の基礎としてプログラミング入門、電気電子工学入門、機械設計入門といった内容を実習を通じて学ぶ。学びを実践するために3学科の学生が共同共創する課題解決型の取り組みを実施する。	共同
			融合理工学基礎A		この授業では、ソフトウェアとハードウェアの関係性を理解するために、プログラミング及びマイコンについての基礎実験に取り組む。具体的には、Arduinoなどのマイコン制御で必須となるC言語について学ぶ。マイコン実習では、マイコンの仕組みを学び、スイッチやLEDを使用するための入出力制御、シリアル通信などの通信手法、センサーの活用、モータ制御についてグループワーク形式で学ぶ。これにより、ソフトウェア(プログラミング)とハードウェア(電子回路や機構)との関係性を理解し、発展させることができる基礎を習得する。	共同
			融合理工学基礎B		この授業では、ものづくりの基礎である材料力学や電気電子回路について実習を通じて学ぶ。材料力学の基礎では、ある部材が外力を受けたとき、どのくらいの力が部材の内部にかかり、どの程度部材が変形するのか学ぶ。梁などに加わる応力やひずみを計測するためにセンサーとしてひずみゲージを用いる。センサーを利用するための電気電子回路の基礎を学ぶ。実習では、梁の設計製作、電気電子回路設計製作を行う実習を通じて機械工学と電気電子工学の関係性の理解を深める。	共同
			融合理工学応用A		この授業では、ロボットや組込み機器において欠かすことのできないコンピュータソフトウェアの開発、Webブラウザ経由でのマイコンとの通信制御、データベース及びデータ解析について学ぶ。具体的には、ArduinoやM5Stackのマイコン及び通信モジュールを組合せたWi-Fiなどの無線通信実習、ロボットアームなどの機械機構を用いた実習、ロボット制御や情報についてのセンシング手法について習得することを目的とする。	共同
			融合理工学応用B		この授業では、エッジAI技術を用いた物体認識や音声認識などに関する知識やスキルを身に付けることが目的である。具体的には、エッジコンピューティング及びDeep learning入門、畳み込みニューラルネットワーク入門などのAI技術を学ぶ。基礎を実践するためにRaspberry Piなどのエッジコンピュータとカメラを用いた物体認識などの実習に取り組む。そして、3学科の学生から成るグループを形成し、エッジAIに関するアイデア作品の作製にチャレンジする。	共同

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	S M A r t F u s i o n	融合プロジェクトⅠ		この授業では、理工学部と芸術学部で行っているテクノアートプロジェクトへの参加に向けて、ブレテクノアートプロジェクトとして実施する。各学科の学生から成るグループを作る。ブレテクノアートプロジェクトの課題に対して、アイデア出し、企画、進捗管理を行いながらものづくり活動を実施する。また、作品の実演や発表会を開催し、各学科の先生や他のグループの学生からの質問や意見などのフィードバックを行う。そして、専門分野及び他分野の理解度の向上、プレゼンテーション能力を鍛え、次の融合プロジェクトⅡへ繋げる。	共同
		融合プロジェクトⅡ		この授業では、理工学部と芸術学部で取り組んでいるテクノアートプロジェクトに関して芸術学部の学生とチームを組んでもものづくり活動を行う。毎年出されるテーマに沿ったアイデアやコンセプトを芸術学部の学生が企画し、それらを理工学部の学生が形にするプロジェクトである。専門性だけでなく、このプロジェクトを通じて、芸術と理工学の考え方の違いやプロジェクトの進捗管理、コミュニケーション、プレゼンテーションなども学ぶことができる。	共同
		融合プロジェクトⅢ		この授業では、これまでに履修した融合理工学導入、融合理工学基礎や応用、融合プロジェクトⅠ・Ⅱで学んだ知識や経験をベースに、SMArtFusionプログラムの集大成として学内外の課題を解決するプロジェクト活動に取り組む。特に、企業や地域コミュニティとの連携プロジェクト、複数の専門分野に跨った研究活動を通じて、これからの社会で必要とされるクリエイティビティな技術者や研究者への素養を鍛えることを目的とする。	共同
		デザインエンジニアリング		この授業では、デザインエンジニアリングの基礎として、デザイン思考やデザインの考え方を学ぶ。 デザインとエンジニアリングの両方の領域を組み合わせたものや、プロダクトデザインの事例を通じてデザインの統合力や直感的訴求力を学ぶ。体験型の製品やメディア芸術などの事例を通して、双方性操作があるコンテンツやプロダクトがどのように設計され実現されているかを理解する。これらを基盤として他科目の「人間中心設計」、「プロダクトデザイン基礎」、「プロダクトデザイン演習」に展開していく。	
		プロダクトデザイン基礎		プロダクトデザインは、私たちの暮らしに関わる様々な生活用品、道具・機器・設備などの製品を使用者と使用環境から考えて、製品を生み出す分野である。この授業では、プロダクトデザインやプロダクトデザイナーの社会的な役割や基礎的な知識を学習し、演習で他分野において応用可能なプロダクトデザイン手法を用いた製品開発（コンセプト立案・アイデア展開・モデリング・プレゼン）の基礎修得を目指す。 1. プロダクトデザイン、デザイナーの社会的な役割、概念 2. プロダクトデザインの基本プロセス 3. プロダクトデザイン手法を用いた企画力 上記を理解し、学生の専門領域がプロダクトデザインとの関わりの中でどのように活かせるかなど、新たな知見を得ることを目指す。	
		プロダクトデザイン演習		今日、私たちを取り巻く環境は、多方面に及ぶ技術革新や、生活の多様化により、従来のモノの在り方が根本から変わろうとしています。例えば、ガソリンを燃料とした自動車は、電気や水素をエネルギーとして、人工知（AI: Artificial Intelligence）やモノのインターネット化（IoT: Internet of Things）の発展により、運転の自動化といったイノベーションの波が起こりつつあります。これからのプロダクトデザイナーは、このような技術革新や多様化のインサイトを得て、それまで誰も気づかなかったモノの在り方提案するUXデザイン力が求められます。この演習では、基礎で学習したプロダクトデザインのプロセスや方法、アイデアを可視化するスケッチやモデリング等の技術を活用して、近い将来の工業製品のUXデザインに取り組みます。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	S M A r t F u s i o n	人間中心設計		インターネットや情報通信技術（ICT）の発展によって、新しい商品、情報機器やサービスが日々開発され、登場している。しかし、その多くが使いづらい、わかりづらいなどの問題が指摘されている。一方、商品やサービスの企画、開発の立場からは、他社との差別化が難しくなっており、使いやすく、魅力的な機器やサービスの提供が難しくなっている。これらを解決するために利用者視点の取り組みが重視されており、人間中心設計（HCD）、ユーザー中心設計（UCD）という考え方が非常に重要になっている。2010年にISO 9241-210というHCDの規格が改訂・発行され、HCDは、ユーザビリティだけでなく、よりよいユーザーエクスペリエンスを実現するためのプロセス、手法のフレームワークとして国際的にも認知された。人間中心設計の考え方やプロセス、それを実現するための手法など最新事例を交えた講義を行う。	
		WEBデザイン		日常生活でよく目にするWebページやブログ、SNSなどの画面は、見た目の美しさやオリジナリティだけではなく、使いやすいうようにデザインされている。優れたデザインにはセンスのみならず、利用者にとって使いやすくするためのロジカルな要素が重要である。この授業では、Webデザインの重要な要素であるレイアウト、色彩配色、文字のデザイン、PCとスマートフォンでのデザイン手法の違いなどについて学習し、その良し悪しを評価できるスキルを身に付けることを目標とする。	
		アプリデザイン		すべてのデジタルなインターフェース（Web及びモバイルアプリケーション、車のダッシュボード、工作機械の操作盤など）は、問題を解決するため、または私たちの生活をより良く、より簡単に、より成功させるために設計されている。 この授業では、アプリのUI/UXデザイナーとして、UIとUXデザインの実例からその重要性を認識し、ユーザーの立場にたったUIの設計と意図した顧客体験の創出を可能にすることを目的とします。そのために、UI/UXデザインに向けた実践的な知識やスキルを多様な専門領域を持つ受講生と互いに学び合いながら獲得し、評価を得てより良いUI/UXデザインについても探究し続ける姿勢を身に付ける。	
		映像表現		映像メディアは従来、マスメディアと紐づいて考えられていたが、近年ではインターネット及びコンピューターの技術的發展に伴い、必ずしも大企業だけではなく個人がみずから発信することができる媒体となった。またゲーム、CGやVR・AR技術は人のコミュニケーションの問題や、個人情報と連動した広告、デジタルコピーの著作権、ニコニコ動画などに見るCGM(Consumer Generated Media)や二次創作など従来は考えられなかった多くの可能性と混乱を生み出したと言える。 この授業では映像メディアを広義の「メディアとテクノロジー」と捉え、講師が自らの実務経験からビジネス、テクノロジー、社会環境など様々な観点からの映像メディアの現状を解説し、みなさんの今後達成していきたい分野での実践的応用を考えていく。	
		メディアアート		メディアアートとは、一般的な芸術表現とは異なり新しい表現テクノロジーを用いた芸術分野のことを指す。起源は写真発明など映像技術の黎明期にさかのぼり、現在は電子技術等を用いた芸術の総称となっている。芸術と科学の融合を指向したメディアアートの意義について論じるために、その背景となる分野全般の歴史に触れ、新しいメディアに広がる様々な表現形態とその可能性について考える。 到達目標は下記①～③の内容である。 ①知識・技能の観点 ・メディアアートの背景となる美術や音楽の歴史について理解することができる。 ②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 ・新しい表現技術を用いた芸術の意義を考えることができる。 ③主体的な態度の観点 ・多様な作品に向きあい、表現の意図を探ることができる。	
		コンピュータグラフィックス基礎		この授業では、演習形式で、図像や文字などの視覚素材を用いたビジュアルデザインの基本的な構造を理解し、メッセージを明確かつ、より魅力的に伝えることを学ぶ。ソフトウェア(PhotoshopやIllustrator)の操作方法を学びながら作品制作を通して、イラストや写真、タイポ等のビジュアルを各自が追求しながら、発想から制作・ブラッシュアップまでを実践的に行う。また、演習では、メディアコンテンツ作成及び成果報告を実施する。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	S M A r t F u s i o n	コンピュータグラフィックス応用		現在、3次元のコンピュータグラフィックスは映像やゲーム、WEBやアプリなど様々な分野で使われている。この授業では、この3次元コンピュータグラフィックスについて演習を行い、基本的なモデリング、マテリアル設定、アニメーション、レンダリングを半年で速習する。そして日々進化する技術に対応できるよう自分で学習していく方法を習得していく。また、演習形式で、コンピュータグラフィックス作品制作及び報告会を実施する。	

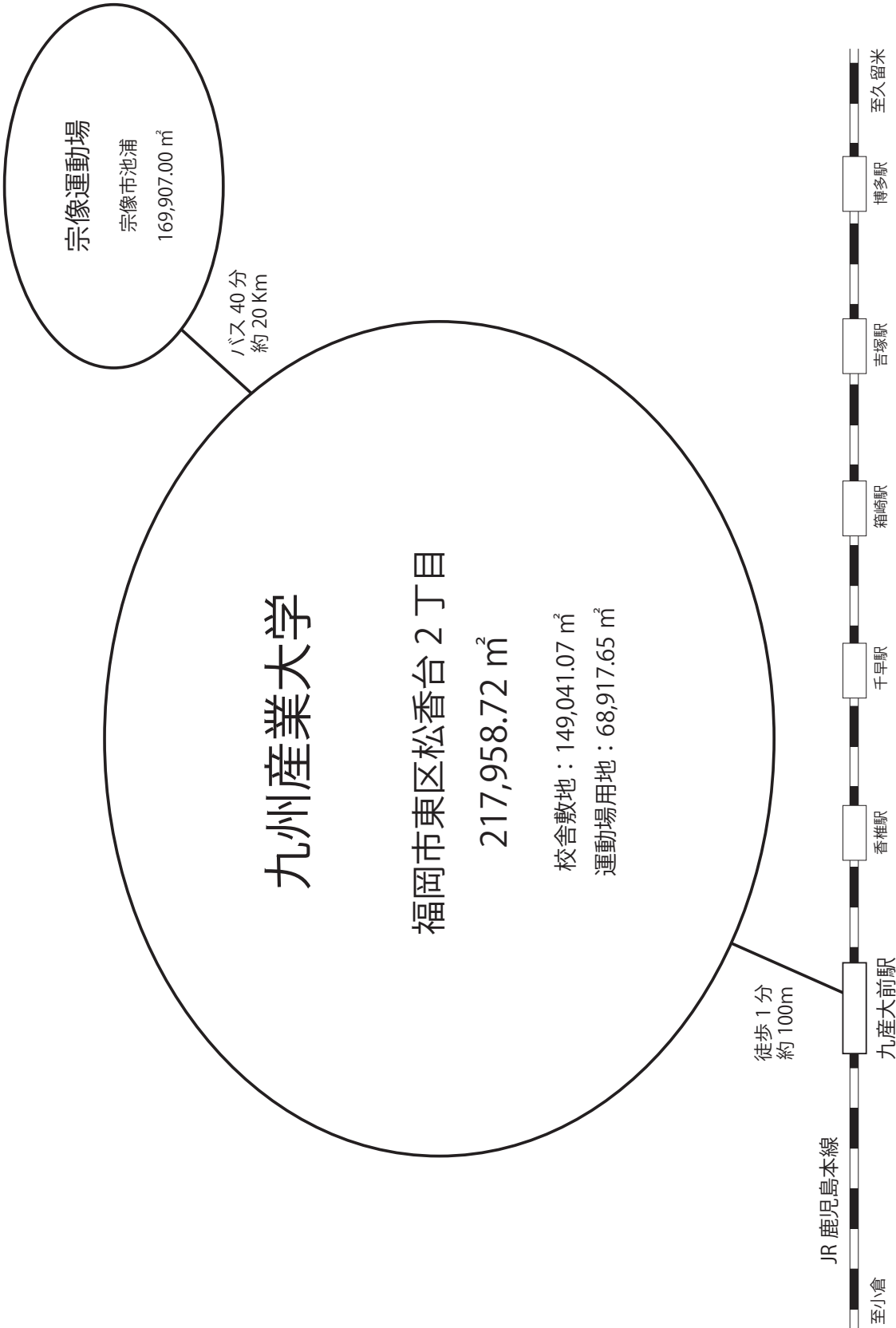
学校法人中村産業学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
九州産業大学				九州産業大学				
経済学部				経済学部				
経済学科	400	-	1,600	経済学科	400	-	1,600	
商学部				商学部				
経営・流通学科	470	-	1,880	経営・流通学科	470	-	1,880	
地域共創学部				地域共創学部				
観光学科	150	-	600	観光学科	150	-	600	
地域づくり学科	140	-	560	地域づくり学科	150	-	600	定員変更 (10)
理工学部				理工学部				
情報科学科	140	-	560	情報科学科	140	-	560	
機械工学科	130	-	520		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
電気工学科	100	-	400		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
				機械電気創造工学科	135	-	540	学科の設置 (届出)
				スマートコミュニケーション工学科	50	-	200	学科の設置 (届出)
生命科学部				生命科学部				
生命科学科	110	-	440	生命科学科	110	-	440	
建築都市工学部				建築都市工学部				
建築学科	75	-	300	建築学科	75	-	300	
住居・インテリア学科	65	-	260	住居・インテリア学科	65	-	260	
都市デザイン工学科	60	-	240	都市デザイン工学科	60	-	240	
芸術学部				芸術学部				
芸術表現学科	70	-	280	芸術表現学科	70	-	280	
写真・映像メディア学科	55	-	220	写真・映像メディア学科	55	-	220	
ビジュアルデザイン学科	75	-	300	ビジュアルデザイン学科	75	-	300	
生活環境デザイン学科	55	-	220	生活環境デザイン学科	55	-	220	
ソーシャルデザイン学科	45	-	180	ソーシャルデザイン学科	45	-	180	
国際文化学部				国際文化学部				
国際文化学科	80	-	320	国際文化学科	80	-	320	
日本文化学科	60	-	240	日本文化学科	60	-	240	
人間科学部				人間科学部				
臨床心理学科	70	-	280	臨床心理学科	85	-	340	定員変更 (15)
子ども教育学科	80	-	320	子ども教育学科	80	-	320	
スポーツ健康科学科	100	-	400	スポーツ健康科学科	120	-	480	定員変更 (20)
計	2,530	-	10,120	計	2,530	-	10,120	
九州産業大学大学院				九州産業大学大学院				
経済・ビジネス研究科				経済・ビジネス研究科				
経済学専攻(M)	7	-	14	経済学専攻(M)	7	-	14	
現代ビジネス専攻(M)	20	-	40	現代ビジネス専攻(M)	11	-	22	定員変更 (△9)
経済・ビジネス専攻(D)	5	-	15	経済・ビジネス専攻(D)	5	-	15	
工学研究科				工学研究科				
産業技術デザイン専攻(M)	35	-	70	産業技術デザイン専攻(M)	35	-	70	
産業技術デザイン専攻(D)	4	-	12	産業技術デザイン専攻(D)	4	-	12	
芸術研究科				芸術研究科				
造形表現専攻(M)	14	-	28	造形表現専攻(M)	25	-	50	定員変更 (11)
造形表現専攻(D)	6	-	18	造形表現専攻(D)	6	-	18	
国際文化研究科				国際文化研究科				
国際文化専攻(M)	15	-	30	国際文化専攻(M)	18	-	36	定員変更 (3)
国際文化専攻(D)	5	-	15	国際文化専攻(D)	5	-	15	
情報科学研究科				情報科学研究科				
情報科学専攻(M)	20	-	40	情報科学専攻(M)	15	-	30	定員変更 (△5)
情報科学専攻(D)	4	-	12	情報科学専攻(D)	4	-	12	
計	135	-	294	計	135	-	294	
九州産業大学造形短期大学部				九州産業大学造形短期大学部				
造形芸術学科	150	-	300	造形芸術学科	150	-	300	
計	150	-	300	計	150	-	300	

都道府県内における位置関係の図面

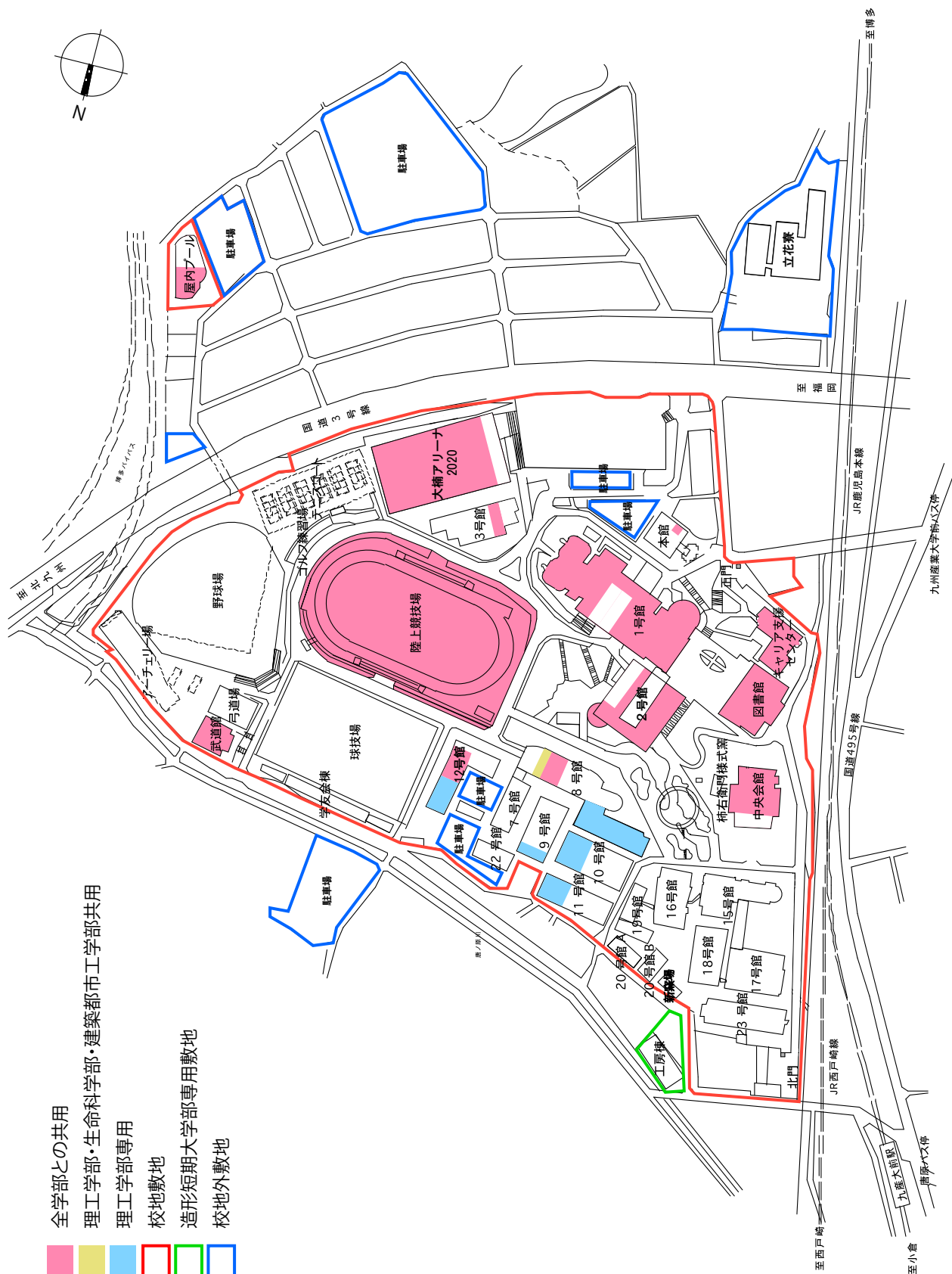


最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



校舎・運動場等の配置図

- 全学部との共用
- 理工学部・生命科学部・建築都市工学部共用
- 理工学部専用
- 校地敷地
- 造形短期大学部専用敷地
- 校地外敷地



宗像運動場

敷地面積
169,907.00 m²



九州産業大学学則

第1章 総則

（建学の理想と理念）

第1条 九州産業大学（以下「本学」という。）は、教育基本法に則り、学校教育法の定めるところに従って大学教育を施し、学術の理論及び応用を研究、教授すべく、建学の理想を「産学一如」と定めている。「産学一如」とは、産業と大学は車の両輪のように一体となって、時々の社会のニーズを満たすべきであるとの創設者の意である。
この建学の理想のもとに、建学の理念として「市民的自覚と中道精神の振興」及び「実践的な学風の確立」を掲げている。

（人材養成及び教育研究上の目的）

第1条の2 本学は、建学の理想と理念のもと、広く産業界の期待に応えられる“実践力”“熱意”“豊かな人間性”を持った心身共に健全な国際的教養人を育成することを目的とする。
2 各学部、各学科の人材養成及び教育研究上の目的は、別に定める。

（3つのポリシー）

第1条の3 本学の3つのポリシー（学位の授与方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者の受け入れ方針）は、次のとおりとする。

（学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー）

本学は、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 幅広い教養と専門的知識を備え、適切に活用できる。
2. 論理的に思考し、判断することができる。
3. 技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる。
4. グローバルな視点で多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って持続可能な社会の発展に貢献できる。
5. 広い視野を持って、主体的に他者と協力できる。
6. 情報技術を活用することができる。

（教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー）

本学は、KSU基盤教育を基礎として、各学部・各学科の専門科目の正課教育、並びに総合大学として特色あるKSUプロジェクト型教育を行う。また、サークル活動やボランティア活動といった正課外教育も行う。

1. KSU基盤教育において、幅広い教養及び総合的な判断力を培うとともに豊かな人間性をもった人材を育成する。
2. 専門教育において、特定分野を学び、知識や情報の活用を通して社会で実践できる人材を育成する。
3. KSUプロジェクト型教育及びその他の正課外活動において、様々な経験をすることにより、他者をいたわることや地域の課題解決など地域に貢献する人材を育成する。

（入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー）

本学は、次の能力・意欲をもった人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 建学の理想と理念を理解し、学習意欲が高い人。
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人。
3. 特定分野において卓越した能力をもっている人

2 各学部、各学科の3つのポリシー（学位の授与方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者の受け入れ方針）は、別に定める。

（自己点検及び評価）

第2条 本学は、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（以下「教育研究等」という。）の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。
2 前項の点検及び評価を行うに当たっては、同項の趣旨に即し適切な項目を設定するとともに、適当な体制を整えて行うものとする。
3 本学は、第1項の措置に加え、教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。
4 点検及び評価に関し必要な事項は、別に定める。

（情報の公表）

第2条の2 本学は、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする。

- (1) 本学の教育研究上の目的に関すること。
- (2) 教育研究上の基本組織に関すること。
- (3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。
- (4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
- (5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
- (6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。
- (7) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。
- (8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。
- (9) 本学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

- 2 本学は、前項各号に掲げる事項のほか、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表するものとする。
- 3 第一項の規定による情報の公表は、刊行物への掲載、インターネットの利用により広く周知を図るものとする。

第2条の3 削除

第2章 修業年限、在学年限、学年、学期及び休業日

(修業年限)

第3条 本学の修業年限は、4年とする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第3条の2 本学は、前条の規定にかかわらず、学生が、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業すること（以下「長期履修」という。）を希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

- 2 長期履修に関し必要な事項は、別に定める。

(在学年限)

第4条 学生は、8年を超えて在学することはできない。

- 2 前項の規定にかかわらず、編入学又は再入学を許可された学生は、修業すべき年数の2倍を超えて在学することはできない。

(学年及び1年間の授業期間)

第5条 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

- 2 1年間の授業を行う期間は、35週にわたることを原則とする。

(学期・クォーター)

第6条 学年を分けて次の2学期とする。

前学期 4月1日 から 9月15日まで

後学期 9月16日 から 翌年3月31日まで

- 2 学長は、前項に定める学期の開始日と終了日を臨時に変更することができる。
- 3 第1項に規定する各学期を2つの期間（以下「クォーター」という。）に分けることができる。
- 4 各クォーターの始期及び終期については、別に定める。

(休業日)

第7条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (3) 開学記念日
- (4) 春季休業 4月1日 から 4月6日まで
- (5) 夏季休業 7月28日 から 9月15日まで
- (6) 冬季休業 12月24日 から 翌年1月7日まで
- 2 学長は、必要がある場合には休業日を臨時に変更ことができ、また、臨時の休業日を定めることができる。

第3章 学部及び学科

(学部及び学科)

第8条 本学に、次の学部及び学科を置く。

経済学部	経済学科
商学部	経営・流通学科
地域共創学部	観光学科
	地域づくり学科
理工学部	情報科学科
	機械電気創造工学科
	スマートコミュニケーション工学科
生命科学部	生命科学科
建築都市工学部	建築学科
	住居・インテリア学科
	都市デザイン工学科
芸術学部	芸術表現学科
	写真・映像メディア学科
	ビジュアルデザイン学科
	生活環境デザイン学科
	ソーシャルデザイン学科
国際文化学部	国際文化学科
	日本文化学科
人間科学部	臨床心理学科
	子ども教育学科

スポーツ健康科学科

(大学院)

第9条 本学に、大学院を置く。

2 大学院に関し必要な事項は、別に定める。

第4章 図書館及び附属施設

(図書館)

第10条 本学に附属図書館を設ける。図書館は、図書、学術雑誌、電磁的方法により提供される学術情報その他の教育研究上必要な資料を収集整理し、職員及び学生の研究閲覧に供する。

2 図書館に関し必要な事項は、別に定める。

(附属施設)

第11条 本学に、次の附属施設を置く。

産業経営研究所
総合情報基盤センター
健康・スポーツ科学センター
国際交流センター
語学教育研究センター
基礎教育センター
美術館
総合機器センター

2 附属施設に関し必要な事項は、別に定める。

第5章 学部学科別入学定員及び収容定員

(入学定員及び収容定員)

第12条 本学の学部学科別入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	400	1,600
商学部	経営・流通学科	470	1,880
地域共創学部	観光学科	150	600
	地域づくり学科	150	600
理工学部	情報科学科	140	560
	機械電気創造工学科	135	540
	スマートコミュニケーション工学科	50	200
生命科学部	生命科学科	110	440
建築都市工学部	建築学科	75	300
	住居・インテリア学科	65	260
	都市デザイン工学科	60	240
芸術学部	芸術表現学科	70	280
	写真・映像メディア学科	55	220
	ビジュアルデザイン学科	75	300
	生活環境デザイン学科	55	220
	ソーシャルデザイン学科	45	180
国際文化学部	国際文化学科	80	320
	日本文化学科	60	240
人間科学部	臨床心理学科	85	340
	子ども教育学科	80	320
	スポーツ健康科学科	120	480

第6章 授業科目及び単位

(授業科目)

第13条 授業科目は、専門科目、基礎教育科目、外国語科目、留学生に関する科目、教職に関する科目、司書に関する科目、司書教諭に関する科目、博物館に関する科目、社会教育主事に関する科目及び大学院設置科目に分ける。

2 前項に規定する専門科目のうち各学部が指定する専門科目、基礎教育科目及び外国語科目をK S U基盤教育に関する授業科目とする。

3 K S U基盤教育に関し、必要な事項は別に定める。

4 K S U基盤教育に関する授業科目のうち、基礎教育科目、外国語科目の種類及び単位数は、別表第1のとおりとする。

5 授業科目は、必修科目、選択科目及び自由科目に分ける。

6 各学部における専門科目、留学生に関する科目及び教職に関する科目の種類及び単位数は、別表第2から別表第9のとおりとする。

- 7 必要に応じて特殊講義を設けることができる。
- 8 自由科目として学生の習熟度を高めるための授業科目を設けることができる。
- 9 本学の特色ある教育を具現化するために、独自のプログラムを置く。
- 10 前項のプログラムに関し必要な事項は、別に定める。

(授業の方法)

第13条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行う。

- 2 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 前項により与えることができる単位数は、第15条の卒業するために必要な単位数のうち、60単位を超えないものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第13条の3 本学は、授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

- 2 本学は、指導補助者（大学設置基準第8条第3項に規定する指導補助者をいう。）に対し、必要な研修を実施するものとする。ただし、教員は除く。

第7章 寄附講座

(寄附講座)

- 第14条 本学は、企業、財団及び個人等からの寄附によって運営する講座（以下「寄附講座」という。）の授業科目を開設することができる。
- 2 寄附講座に関し必要な事項は、別に定める。

第8章 授業科目履修の方法

(卒業要件)

第15条 本学の各学部を卒業するために必要な授業科目及び単位数は、別表第10のとおりとする。

(授業科目履修の方法及び登録の上限)

第16条 授業科目の履修及び単位の修得方法については、別に定める。

- 2 外国人留学生のために設ける留学生に関する科目の履修については、別に定める。
- 3 学生は、原則として各学期の初めに履修希望の授業科目を登録しなければならない。
- 4 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、一年間又は一学期に履修科目として登録できる単位数の上限は各学部において定めることができる。なお、単位数の上限は、別に定める。
- 5 各学部が定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。
- 6 既に単位を修得した授業科目は、再履修をすることができない。

(単位の基準)

- 第17条 1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲の時間の授業をもって1単位として、各授業科目の単位数を計算するものとする。
- 2 芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって1単位とすることができる。
 - 3 卒業論文、卒業研究及び卒業制作等の授業科目については、これらに必要な学修を考慮して単位数を定めるものとする。

第9章 授業科目修了の認定

(単位の認定)

- 第18条 授業科目修了の認定は、筆記又は口述による試験その他適切な方法による。ただし、演習、実験、実習及び実技等については平常の成績により認定することができる。
- 2 授業科目修了の認定は、原則として学年末に行う。ただし、前学期で終了する授業科目については、前学期末に行うことができる。
 - 3 試験の成績は、秀、優、良、可及び不可で表し、秀、優、良及び可を合格とし、合格した授業科目には所定の単位を与える。

(GPA)

- 第18条の2 学業の成績評価基準としてグレード・ポイント・アベレージ（Grade Point Average 以下「GPA」という。）を用いることができる。
- 2 GPAについては、各学部の授業科目履修規程に定めるところによる。

(他の大学、専門職大学又は短期大学における授業科目の履修等)

- 第19条 学長が、教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学、専門職大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で、教授会の意見を聴取した上で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 2 前項の規定は、学生が外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下、同じ）又は外国の短期大学に留学する場合、外国の大学又は外国の短期大学が行う通信教育における授業科目を国内において履修する場合及び外国の大学及

び外国の短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を国内において履修する場合においても準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

- 第20条 学長が、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、教授会の意見を聴取した上で、単位を与えることができる。
- 2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(ボランティア活動等の実践学修)

- 第20条の2 学長が、教育上有益と認めるときは、ボランティア活動等の実践学修を、本学における授業科目の履修とみなし、教授会の意見を聴取した上で、単位を与えることができる。
- 2 前項により与えることができる単位数は、第19条第1項、第2項及び前条第1項により本学において修得したとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 3 ボランティア活動等の実践学修に関し必要な事項は、別に定める。

第10章 卒業及び学位の授与

(卒業及び学位の授与)

- 第21条 本学に4年以上在学し、第15条に規定する授業科目につき定められた単位を修得した者に対して、卒業を認め、学長が学士の学位を授与する。
- 2 本学に4年以上在学し、年度の前学期において第15条に規定する授業科目につき定められた単位数を修得した者に対して、9月卒業を認め、学長が学士の学位を授与する。
- (1) 学位の認定日は、当該年度の前学期末日とする。
- (2) 学長は、翌年3月まで卒業の延期を願い出た者について、教授会の意見を聴取した上で、許可することができる。
- 3 文部科学大臣の定めるところにより、本学に3年以上在学し、第15条に規定する授業科目につき定められた単位数を優秀な成績で修得した者に対して、第1項の規定にかかわらず、別に定める規程に基づき3年以上の在学中で卒業を認め、学長が学士の学位を授与することができる。
- 4 学位の授与については、別に定める。

第11章 教育職員免許状等

(教育職員免許状)

- 第22条 本学に4年以上在学し、卒業するのに必要な単位を修得して学士の学位を得、かつ、第13条別表第1から別表第9に掲げる授業科目のうちから教育職員免許法及び同法施行規則に定める授業科目及び単位数を修得した者は、その修得した授業科目及び単位数に応じ、次の種類の教育職員免許状の授与を受けるための所要資格を得ることができる。

免許状の種類	免許教科の種類	免許状授与の所要資格を得させるための課程を置く学部学科	
高等学校教諭一種免許状	商業	商学部	経営・流通学科
高等学校教諭一種免許状	工業	理工学部 建築都市工学部	機械工学科 電気工学科 建築学科 住居・インテリア学科 都市デザイン工学科
中学校教諭一種免許状	社会	経済学部 地域共創学部	経済学科 観光学科 地域づくり学科
高等学校教諭一種免許状	地理歴史	経済学部	経済学科
高等学校教諭一種免許状	公民	経済学部 地域共創学部	経済学科 地域づくり学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	理科	生命科学部	生命科学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	数学	理工学部	情報科学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	美術	芸術学部	芸術表現学科 写真・映像メディア学科 ビジュアルデザイン学科 生活環境デザイン学科 ソーシャルデザイン学科
高等学校教諭一種免許状	工芸	芸術学部	芸術表現学科(メディア芸術専攻を除く) ビジュアルデザイン学科 生活環境デザイン学科 ソーシャルデザイン学科(情報デザイン専攻を除く)
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国語	国際文化学部	日本文化学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英語	国際文化学部	国際文化学科

高等学校教諭一種免許状	情 報	商学部 理工学部	経営・流通学科 情報科学科
中学校教諭一種免許状	技 術	理工学部	機械工学科 電気工学科
幼稚園教諭一種免許状	—	人間科学部	子ども教育学科
特別支援学校教諭一種免許状	—	人間科学部	子ども教育学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	保健体育	人間科学部	スポーツ健康科学科

2 前項に定める資格を得るための授業科目の履修及び単位の修得方法については、別に定める。

（司書及び司書教諭）

第23条 図書館法第5条第1項第1号により司書の資格を得ようとする者及び学校図書館法第5条に規定する司書教諭の資格を得ようとする者については、別表第11の司書及び司書教諭に関する科目のうちから、所定の単位を修得すれば資格を得ることができる。

（学芸員）

第24条 博物館法第5条第1項第1号により学芸員の資格を得ようとする者については、別表第12の博物館に関する科目のうちから、所定の単位を修得すれば資格を得ることができる。

（社会教育主事）

第25条 社会教育法第9条の4第3号により社会教育主事の資格を得ようとする者については、別表第13の社会教育主事に関する科目のうちから、所定の単位を修得すれば資格を得ることができる。

（司書資格、司書教諭資格、学芸員資格及び社会教育主事資格の履修方法）

第26条 前3条に定める資格を得るための授業科目の履修及び単位の修得方法については、別に定める。

（日本語教員）

第26条の2 日本語教員の所要資格を得ようとする者については、別に定める日本語教員養成課程に関する授業科目のうちから、所定の単位を修得しなければならない。

2 前項に定める授業科目の履修方法及び単位の修得方法については、別に定める。

（保育士）

第26条の3 児童福祉法施行規則により、保育士の資格を得ようとする者については、人間科学部子ども教育学科に在籍し、所定の単位を修得しなければならない。

2 前項に定める授業科目の履修方法及び単位の修得方法については、別に定める。

第12章 入学、編入学及び再入学

（入学の時期）

第27条 入学の時期は、学年の始めとする。

（入学の資格）

第28条 本学に入学の資格を有する者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高専課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達した者

（出願手続）

第29条 本学に入学を志願する者は、入学願書及び所定の書類に別表第15に掲げる入学検定料を添えて提出しなければならない。

（入学者の選抜）

第30条 入学は、学力検査等によって決定する。

2 入学者の選抜方法は、別に定める。

（入学手続及び入学許可）

第31条 入学者の選抜に基づき合格通知を受けた者は、指定の期日までに保証人連署の誓約書、保証書及びその他の書類を提出するとともに、別表第15に掲げる入学金及び修学費を納付しなければならない。

2 合格通知を受けた者のうち、学力検査等で特に優秀な成績を修めた者については、前項の規定にかかわらず、修学費の

一部を免除することがある。

3 学長は、前2項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

4 第1項の規定にかかわらず、「大学等における修学の支援に関する法律」に基づき、授業料減免の対象となっている者については、修学費の納付を猶予し、入学を許可することがある。

5 前項の規定に基づき、修学費の納付を猶予された者は、別に定める期限までに、必要な修学費を納付しなければならない。

(入学前の既修得単位の認定)

第32条 学長が、教育上有益と認めるときは、編入学等を除き、第1年次に入学した学生が入学前に大学、専門職大学又は短期大学等において修得した授業科目の単位について、教授会の意見を聴取した上で、本学における授業科目の単位として認定することができる。

2 前項の規定は、第19条第2項の場合に準用する。

3 第1項による単位の認定は、第19条第1項及び第2項、第20条第1項並びに第20条の2第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えない範囲で行うものとする。

(外国人留学生)

第33条 外国人で入学を志願する者については、特別の選考により入学を許可することがある。

(編入学)

第34条 学長は、本学に編入学を志願する者の選考について教授会の意見を聴取した上で、入学を許可することがある。

2 本学に編入学の資格を有する者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 大学の2年次以上の修了者

(2) 短期大学を卒業した者

(3) 高等専門学校を卒業した者

(4) 外国において、学校教育における14年以上(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。)の課程を修了した者で、本学において前3号に準ずると認められた者

(5) 学校教育法第132条に該当する者

(6) 学校教育法施行規則附則第7条に該当する者

3 編入学者の選抜方法及び編入学年次等の必要な事項は、別に定める。

4 編入学を許可された者の既に修得した単位の認定は、学長が教授会の意見を聴取した上で決定する。

(再入学)

第35条 学長は、本学の退学者又は除籍者が再入学を願い出たときは、第40条第1号により除籍された者を除き、教授会の意見を聴取した上で、再入学を許可することがある。

2 再入学を許可された者の既に修得した単位の認定及び再入学年次については、学長が教授会の意見を聴取した上で決定する。

3 再入学を願い出る者は、別表第15に掲げる再入学選考料を納付しなければならない。

第13章 休学、復学、長期欠席、退学、除籍、転学部、転学科及び他大学受験

(休学)

第36条 休学しようとする者は、その事由を付した保証人連署の休学願を提出し、学長の許可を得て休学することができる。

2 休学は、次のとおりとする。

(1) 前学期休学 前学期全期間の休学

(2) 後学期休学 後学期全期間の休学

(3) 通年休学 4月1日から翌年3月31日までの休学

3 休学期間は、通算して3年を超えることができない。

4 休学期間は、第4条に定める在学期間に算入しない。

(復学)

第37条 休学を許可された者は、休学期間満了を以って復学するものとする。

2 復学の時期は、学年の前学期又は後学期の始めとする。なお、通年休学を許可された者において、前学期末までに休学の事由が消滅したときは、保証人連署の復学願を提出し、学長の許可を得て後学期始めの復学を認めることがある。

(長期欠席)

第38条 病気又はやむを得ない事由により、1ヵ月以上で休学期間に満たない欠席をしようとする者は、その事由を付した保証人連署の長期欠席届を教務部長に提出しなければならない。

2 1ヵ月に満たない欠席の場合は、当該授業科目担当教員に届け出なければならない。

3 長期欠席の期間は、第4条に定める在学期間に算入する。

(退学)

第39条 退学しようとする者は、その事由を付した保証人連署の退学願を提出し、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第40条 学長は、次の各号の一に該当する者を、教授会の意見を聴取した上で除籍する。

(1) 第4条に定める在学年限を超える者

(2) 修学費又は在籍料を納付しない者

- (3) 理由なく履修登録等在籍に要する手続きを履行しない者

(転学部及び転学科)

- 第41条 学長は、本学の他学部へ転学部することを志願する者の選考について関係各学部の教授会の意見を聴取した上で、許可することがある。
- 2 学長は、当該学部の他学科へ転学科することを志願する者の選考について教授会の意見を聴取した上で、許可することがある。
- 3 転学部及び転学科に関し必要な事項は、別に定める。

第42条 削除

(他大学受験)

- 第43条 本学の学生が他大学の受験を出願するときは、他大学受験許可願を教務部長に提出しなければならない。
- 2 前項の手続を怠った場合は、出願先の大学に通告することがある。

第14章 留学

(交換留学)

- 第44条 本学は、本学と交流に係る協定を締結した外国の大学又は短期大学（以下「協定校」という。）と学生を相互に交換することがある。
- 2 前項の協定により交換する学生を交換留学生という。

(交換留学生の派遣)

- 第45条 学長は、前条の規定に基づき、教授会の意見を聴取した上で協定校に交換留学生を派遣することができる。
- 2 前項の交換留学生を派遣留学生といい、派遣期間は1年を限度とし、本学の修業年限に算入することができる。
- 3 派遣留学生に関し必要な事項は、別に定める。

(交換留学生の受入れ)

- 第46条 学長は、第44条の規定に基づき、教授会の意見を聴取した上で協定校が派遣する交換留学生を受け入れることができる。
- 2 前項の交換留学生を受入れ留学生といい、受入れ期間は1年を限度とする。
- 3 受入れ留学生に関し必要な事項は、別に定める。

(認定留学)

- 第47条 本学は、本学が教育上有益と認める学位授与権を有する外国の大学（以下「認定校」という。）に、学生が留学することを認めることがある。
- 2 前項の規定により留学する学生を認定留学生という。

(認定留学生)

- 第48条 学長は、前条の規定に基づき、学生が留学を志願したときは、教授会の意見を聴取した上で、認定校に留学をさせることができる。
- 2 認定留学生の留学期間は、1年を限度とし、本学の修業年限に算入することができる。
- 3 認定留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第15章 専攻科

(目的)

- 第49条 本学に、精深な程度において特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的として、次の専攻科を置く。

芸術専攻科 美術専攻
 デザイン専攻
 写真専攻

(専攻科の入学資格)

- 第50条 専攻科に入学の資格を有する者は、大学を卒業した者又は次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (2) 文部科学大臣の指定した者
- (3) その他当該専攻科において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(専攻科の定員)

- 第51条 専攻科の定員は、次のとおりとする。

芸術専攻科 美術専攻 4名
 デザイン専攻 6名
 写真専攻 4名

(専攻科の修業年限)

- 第52条 専攻科の修業年限は、1ヵ年とする。
- 2 専攻科の学生は、2年を超えて在学することができない。

(専攻科の選考方法)

第53条 専攻科で修業することを志望するものに対しては選考の上、入学を許可する。

(専攻科の授業科目)

第54条 専攻科における授業科目は、別表第14に定める。

(専攻科の授業科目の履修方法)

第55条 専攻科の学生は、前条によって定められた授業科目を別に定める履修規程に従って履修しなければならない。

2 前項により授業科目を履修し、単位を修得すれば修了証書を授与する。

(専攻科の納付金)

第56条 専攻科の納付金は、別に定める。

第16章 修学費、受講料等及び手数料

(修学費等)

第57条 本学の学生は、指定された期日までに別表第15に掲げる修学費を納付しなければならない。

2 前項に定めるもののほか、必要に応じて別に定める受講料等及び手数料を納付するものとする。

(休学中の修学費及び在籍料)

第58条 休学を許可された者については、修学費を免除する。ただし、在籍料を納付しなければならない。

(修学費等の督促)

第59条 所定の期日までに修学費又は在籍料を納付しない者には督促し、納付しない場合は登学を停止する。登学停止後、なお納付しないときは、第40条の規定に基づき除籍する。

(納付金等の返付)

第60条 納付金等の返付の取り扱いについては、納付金及び手数料に関する規程(大学)の定めるところによる。

第17章 賞罰

(表彰)

第61条 学生として、表彰に価する行為があった者を、所定の手続きを経て、表彰する。

2 表彰に関し必要な事項は、別に定める。

(懲戒)

第62条 学長は、本学の諸規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者を、所定の手続きを経て、懲戒する。

2 懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由がなくて出席常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に著しく反した者

4 懲戒に関し必要な事項は、別に定める。

第18章 職員組織

(学長、副学長及び部所長)

第63条 本学に学長、副学長、学部長、学生部長、教務部長、入試部長、キャリア支援センター所長、図書館長、産業経営研究所長、総合情報基盤センター所長、健康・スポーツ科学センター所長、国際交流センター所長、語学教育研究センター所長、基礎教育センター所長、美術館長及び総合機器センター所長を置く。

2 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督するとともに、大学を代表する。

3 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

4 学部長は、学長を助け、学部に関する校務をつかさどる。

5 学生部長は、学長を助け、学生部に関する事項をつかさどる。

6 教務部長は、学長を助け、各学部の教務に関する事項をつかさどる。

7 入試部長は、学長を助け、入学試験に関する事項をつかさどる。

8 キャリア支援センター所長は、学長を助け、学生のキャリア支援に関する事項をつかさどる。

9 図書館長は、学長を助け、図書館を統轄する。

10 産業経営研究所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

11 総合情報基盤センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

12 健康・スポーツ科学センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

13 国際交流センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

14 語学教育研究センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

15 基礎教育センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

16 美術館長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

17 総合機器センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

(学科主任等)

第64条 各学部等に必要に応じて、学科主任等を置くことができる。

2 学科主任等は、学部長等を補佐する。

(教育職員)

第65条 本学に、教授、准教授、講師、助教及び助手を置く。

2 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

3 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

4 講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

5 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

6 助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。また、必要に応じて、授業の補助及び一部を分担して担当することができる。

(事務局)

第66条 本学の事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局に関し必要な事項は、別に定める。

(事務職員)

第67条 本学に、事務職員を置く。

2 事務職員に関し必要な事項は、別に定める。

(名誉教授)

第68条 本学に、名誉教授を置くことができる。

2 名誉教授に関し必要な事項は、別に定める。

第19章 教授会

(教授会)

第69条 本学の各学部教授会を置く。

2 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして別に定めるもの

3 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長(以下この項において「学長等」という。)がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

4 教授会の組織には、准教授その他の職員を加えることができる。

5 教授会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(センター教授会)

第70条 健康・スポーツ科学センター、語学教育研究センター及び基礎教育センターに教授会(以下「センター教授会」という。)を置く。

2 センター教授会に関し必要な事項は、別に定める。

(学部長会議)

第71条 本学に学部長会議を置く。

2 学部長会議に関し必要な事項は、別に定める。

第20章 大学寮及び厚生保健

(大学寮)

第72条 本学に、大学寮を置く。

2 大学寮に関し必要な事項は、別に定める。

(保健管理)

第73条 本学に、職員及び学生の保健衛生を管理するために、医務室を設ける。

(医務職員)

第74条 医務室に、医務職員を置く。

(健康診断)

第75条 学生は、毎年定められた時期に健康診断を受けなければならない。

第21章 研究生及び科目等履修生

(研究生)

第76条 学長は、本学又は他大学の卒業者及びこれに準ずる者で、本学専属教員指導の下に特定の事項につき研究を志願する者の選考について教授会の意見を聴取した上で、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生は、別に定める納付金及び手数料を納付しなければならない。

3 研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第77条 学長は、本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目の履修を志願する者の選考について教授会の意見を聴取した上で、在学生の学修の妨げのない限り科目等履修生として許可することがある。

2 科目等履修生を出願できる者は、第28条の規定による入学の資格を有する者又は履修に関して協定を結んだ高等学校の生徒でその高等学校長の推薦を受けた者とする。

3 科目等履修生の単位認定については、第18条の規定による。

4 科目等履修生は、別に定める選考料及び科目受講料を納付しなければならない。

5 その他科目等履修生の出願に関し必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生の期間)

第78条 科目等履修生を許可する期間は、通年又は前学期若しくは後学期とする。ただし、その都度願い出により継続することができる。

(規則の遵守)

第79条 研究生及び科目等履修生は、本学が定める諸規則を遵守しなければならない。

第2章 特待生

(特待生)

第80条 学長は、人物、学業ともに優秀な学生を、特待生として認定することがある。

2 特待生に関し必要な事項は、別に定める。

第3章 公開講座

(公開講座)

第81条 本学では適時に公開講座を設けることがある。

2 公開講座に関し必要な事項は、別に定める。

第4章 改正

(学則の改正)

第82条 学則の改正は、学長が学部長会議の意見を聴取した上で理事会に付議する。

附 則

1. 本学則は昭和35年4月1日から施行する。

2. 本学則は昭和37年4月1日商学部産業経営学科設置に伴いこれを改正施行する。

3. 本学則は昭和38年4月1日商学部経済学科及び工学部、機械工学科、電気工学科、工業化学科設置に伴いこれを改正施行する。

4. 本学則は昭和39年4月1日工学部、土木工学科、建築学科及び商学部第二部商学科、経済学科設置に伴いこれを改正施行する。

5. 本学則は昭和41年4月1日芸術学部、美術学科、デザイン学科、写真学科設置に伴いこれを改正施行する。

6. 本学則旧第12条、第15条及び第21条の一部改正に伴う昭和41年度以前に入学した学生に対する取り扱いについては(注)書の部分のほかすべて従前の規程による。

7. 本学則は昭和43年4月1日経営学部産業経営学科設置、芸術学部学生入学定員変更、図書館司書及び司書教諭関係科目設置並びに各学部授業科目名称変更、条文整備に伴いこれを改正施行する。

8. 経営学部産業経営学科設置に伴い昭和42年度以前に入学した商学部産業経営学科の学生の取り扱いについてはすべて従前の規程による。

9. 本学則は昭和44年4月1日工学部学生定員変更に伴いこれを改正施行する。

10. 本学則は昭和45年4月1日各学部授業科目変更、条文整備に伴いこれを改正施行する。

11. 本学則は昭和46年4月1日商学部及び芸術学部学生入学定員変更に伴いこれを改正施行する。

12. 本学則は昭和47年4月1日芸術専攻科増設に伴いこれを改正施行する。

13. 本学則は昭和48年4月1日各学部授業科目変更、条文整備に伴いこれを改正施行する。

14. 本学則は昭和49年4月1日各学部授業科目変更に伴いこれを改正施行する。

15. 本学則は昭和50年4月1日各学部授業科目変更、条文整備に伴いこれを改正施行する。

16. 本学則は昭和51年4月1日商学部、経営学部、工学部及び芸術学部の学生入学定員変更に伴いこれを改正施行する。

17. 本学則は昭和52年4月1日経営学部卒業単位の変更、工学部土木工学科コース制の採用、図書館司書、司書教諭科目の整備及び博物館に関する科目の設置に伴いこれを改正施行する。

18. 本学則は昭和53年4月1日工学部・芸術学部授業科目変更に伴いこれを改正施行する。

19. 本学則は昭和54年4月1日経営学部産業経営学科コース制採用に伴いこれを改正施行する。

20. 本学則は昭和55年4月1日学校教育法施行規則の一部改正に伴う入学資格の変更、商学部第二部、工学部、芸術学部の授業科目の変更、及び社会教育主事に関する科目の設置に伴いこれを改正施行する。

21. 本学則は昭和56年4月1日経営学部国際経営学科設置並びに経営学部産業経営学科学生入学定員変更に伴いこれを改正施行する。

なお、本学則第9条の学生定員数にかかわらず経営学部は次のとおりとする。

学 部	学 科	昭和56年度		昭和57年度		昭和58年度	
		入学定員	定員総数	入学定員	定員総数	入学定員	定員総数
経営学部	国際経営学科	150	150	150	300	150	450
	産業経営学科	150	750	150	700	150	650

22. 本学則は昭和57年4月1日経営学部国際経営学科に教育職員免許状（商業）認定、並びに経営学部及び工学部授業科目変更に伴いこれを改正施行する。
23. 本学則は昭和58年4月1日商学部第二部、芸術学部授業科目の変更に伴いこれを改正施行する。
24. 本学則は昭和59年4月1日商学部授業科目の変更に伴いこれを改正施行する。
25. 本学則は昭和60年4月1日学則第34条の一部改正並びに芸術学部写真学科の授業科目名称変更、及び教職専門科目新設に伴いこれを改正施行する。
26. 本学則は昭和61年4月1日商学部経済学科の授業科目新設並びに芸術学部デザイン学科の授業科目名称変更に伴いこれを改正施行する。
27. 本学則は昭和62年4月1日経営学部並びに芸術学部授業科目新設・変更に伴いこれを改正施行する。
28. 本学則は昭和63年4月1日第15条別表6の一部変更及び商学部・経営学部の学科目新設・単位数変更、工学部工業化学科のコース廃止・新設又第2外国語の増設、社会教育主事の変更に伴いこれを改正施行する。
29. 本学則は、平成元年4月1日第13条別表1から5の一部変更及び工学部電気工学科のコース名称変更並びに第47条「専攻科」、第69条「教授会」、第70条「協議会」の一部改正に伴いこれを改正施行する。
30. 本学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 第9条の規定にかかわらず、入学定員は平成3年度から平成11年度までの間は、次のとおりとする。

学 部 ・ 学 科		入学定員
商 学 部	経済学科	500
	商学科	500
商学部第二部	経済学科	150
	商学科	150
経 営 学 部	国際経営学科	250
	産業経営学科	250
工 学 部	機械工学科	130
	電気工学科	150
	工業化学科	130
	土木工学科	130
	建築学科	150
芸 術 学 部	美術学科	130
	デザイン学科	200
	写真学科	140

- 3 別表1及び別表2に掲げる授業科目のうち、高等学校教諭一種免許状「地理歴史」及び「公民」の授与をうけるために必要な科目の履修については、平成2年度入学生から適用する。

附 則

この学則は、平成3年12月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 平成3年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条、第12条、第13条及び第14条の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成5年4月1日から施行する。
- 2 平成4年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第11条、第12条、第13条、第14条、第18条及び第20条の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 商学部経済学科及び商学部第二部経済学科は、平成5年4月1日から学生募集を停止し、当該在学生の卒業を待って廃止する。
- 4 第11条の規定にかかわらず、経済学部経済学科の入学定員は平成5年度から平成11年度までの間は次のとおりとする。

学部	学 科		平成 5 年度		平成 6 年度		平成 7 年度		平成 8 年度～平成11年度	
			入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	昼間主コース	500	500	500	1,000	500	1,500	500	2,000
		夜間主コース	150	150	150	300	150	450	150	600

附 則

- この学則は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。
- 国際文化学部の収容定員については、第10条の規定にかかわらず、平成 6 年度から平成 9 年度までは、次のとおりとする。

学 部	学 科	平成 6 年度			平成 7 年度			平成 8 年度			平成 9 年度		
		入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
国際文化学部	国際文化学科	100	—	100	100	—	200	100	20	320	100	20	440
	地域文化学科	100	—	100	100	—	200	100	20	320	100	20	440

- 平成 5 年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条別表第 2 (一) (2) 及び別表第 3 (一) (2) の規定の適用については、なお従前の例による。
- 平成 4 年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条別表第 2 (五)、別表第 3 (四)、別表第 4 (四)、別表第 5 (五) 及び別表第 6 (四) の規定の適用については、なお従前の例による。
- 平成 5 年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第48条第 1 項の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- この学則は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。
- 平成 6 年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条別表第 2 (一) (2)、別表第 3 (一) (2)、別表第 6 (一) (3) 及び第48条第 1 項の規定の適用については、なお従前の例による。
- 平成 5 年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条第 3 項別表第 5 (一) の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- この学則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。
- 平成 7 年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条第 3 項別表第 2 (一) (2)、別表第 3 (一) (2)、別表第 4 (一) (1) (2) (二) (4)、別表第 6 (一) (3) 及び学則第12条別表第 8 経営学部並びに第48条第 1 項の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- この学則は、平成 8 年 6 月 25 日から施行する。
- 改正後の学則第39条の規定は、平成 7 年度に入学した学生から適用する。

附 則

- この学則は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。
- 平成 8 年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条第 3 項別表第 2 (一) (2)、別表第 3 (一) (2) 及び第52条第 1 項別表第13(3)の規定の適用については、なお従前の例による。
- 平成 8 年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第20条別表第 9 (1)、第21条別表第10及び第22条別表第11の規定の適用については、別に定めるとおりとする。

附 則

この学則は、平成 9 年 7 月 29 日から施行する。

附 則

- この学則は、平成10年 4 月 1 日から施行する。
- 平成 9 年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第 3 項別表第 2 (一) (2)、別表第 3 (一) (2)、別表第 6 (一) (3)、別表第 7 (一) (2) (ロ) 及び(二) 並びに学則第15条別表第 8 国際文化学部国際文化学科及び国際文化学部地域文化学科の規定の適用については、なお従前の例による。
- 前項の規定にかかわらず、平成 8 年度及び平成 9 年度に入学した学生に対する改正前の学則第15条別表第 8 国際文化学部地域文化学科の規定については、授業科目数及び単位数欄中専門科目 E 群生活科学部門の「同一系から 2 科目 6 単位」を削り、「48単位」を「42単位」に、「72単位」を「66単位」に、「A 群～G 群から 20 単位」を「A 群～G 群から 26 単位」に改めて適用する。

附 則

- この学則は、平成11年 4 月 1 日から施行する。
- 商学部第一部観光産業学科及び商学部第二部観光産業学科の収容定員は、第12条の規定にかかわらず、平成11年度から平成14年度までは、次のとおりとする。

学部	学科	平成11年度			平成12年度			平成13年度			平成14年度		
		入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員

商学部第一部	観光産業学科	150	—	150	150	—	300	150	15	465	150	15	630
商学部第二部	観光産業学科	50	—	50	50	—	100	50	5	155	50	5	210

- 3 平成10年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第3項別表第1(二)4(三)、別表第2(一)(二)(三)(四)、別表第3(一)(二)(三)、別表第4(一)(1)(ハ)(2)(ロ)(ハ)(二)(4)(5)(6)、別表第6(二)(4)(5)(6)(三)及び別表第7並びに学則第15条別表第8経済学部経済学科、商学部第一部商学科、商学部第二部商学科、経営学部、芸術学部、国際文化学部国際文化学科及び国際文化学部地域文化学科の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成12年4月1日から施行する。
- 2 平成11年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第1項及び第3項別表第1(五)、別表第2(1)(一)(ロ)、(五)、別表第3(1)(一)(ロ)、(四)、別表第4(五)、別表第5、別表第6(一)(1)(2)、(五)、別表第7(一)(1)(ハ)「教科に関する科目」、(一)(2)(ハ)「教科に関する科目」、(五)並びに学則第15条別表第8工学部、芸術学部美術学科及びデザイン学科の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 平成11年度以前に入学した国際文化学部地域文化学科の学生に対する改正後の学則第22条の規定の適用については、なお従前の例による。
- 4 第12条の規定にかかわらず、次の学部、学科の入学定員及び収容定員は、平成12年度から平成16年度までの間は次表のとおりとする。

学 部	学 科		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度	
			入学 定員	収 容 定 員	入学 定員	収 容 定 員	入学 定員	収 容 定 員	入学 定員	収 容 定 員	入学 定員	収 容 定 員
経 済 学 部	経済学科	昼間主コース	485	1,985	470	1,955	455	1,910	440	1,850	425	1,790
		夜間主コース	145	595	140	585	135	570	130	550	125	530
商学部第一部	商 学 科		485	1,985	470	1,955	455	1,910	440	1,850	425	1,790
商学部第二部	商 学 科		145	595	140	585	135	570	130	550	125	530
経 営 学 部	国際経営学科		240	990	230	970	220	940	210	900	200	860
	産業経営学科		240	990	230	970	220	940	210	900	200	860
工 学 部	機 械 工 学 科		127	517	124	511	121	502	118	490	115	478
	電 気 工 学 科		145	595	140	585	135	570	130	550	125	530
	工 業 化 学 科		127	517	124	511	121	502	118	490	115	478
	土 木 工 学 科		127	517	124	511	121	502	118	490	115	478
	建 築 学 科		145	595	140	585	135	570	130	550	125	530
芸 術 学 部	美 術 学 科		129	519	128	517	127	514	126	510	125	506
	デザイン学科		198	798	196	794	194	788	192	780	190	772
	写 真 学 科		138	558	136	554	134	548	132	540	130	532

附 則

- 1 この学則は、平成13年4月1日から施行する。
- 2 平成12年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第1項、第3項別表第1、別表第2(1)(2)(一)(イ)(ロ)(三)(四)(五)(六)、別表第3(1)(2)(一)(イ)(ロ)(三)(四)(五)、別表第4(一)(1)(2)(二)(1)(2)(3)(4)(5)(三)(四)、別表第6(一)(3)(二)(1)(2)(3)(4)(三)及び学則第15条別表第8経済学部、経営学部、芸術学部並びに学則第57条第1項別表第13(3)の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 平成12年度に入学した学生に対しては、改正後の学則第13条第3項別表第2(2)(一)(ハ)、別表第3(2)(一)(ハ)、別表第6芸術学部(一)(2)スペースデザインコース(ハ)、プロダクトデザインコース(ハ)を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 平成13年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第1項及び第3項別表第5(一)(2)、(五)、別表第6(一)(1)(3)(4)、(五)並びに学則第15条別表第9工学部並びに芸術学部の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 平成13年度に入学した学生に対しては、改正後の学則第13条第3項別表第4(一)(2)(ロ)、(五)を適用する。
- 4 改正後の学則第13条第3項別表第7(一)(1)(ハ)の規定は、平成12年度入学生から適用する。
- 5 学則第12条の規定にかかわらず、次の学部、学科の入学定員及び収容定員は、平成14年度から平成16年度までの間は次表のとおりとする。

学 部	学 科		平成14年度		平成15年度		平成16年度	
			入学 定員	収 容 定 員	入学 定員	収 容 定 員	入学 定員	収 容 定 員
経 済 学 部	経済学科	昼間主コース	430	1,885	415	1,800	400	1,715

		夜間主コース	100	535	100	485	100	440
商学部第一部	商	学	430	1,885	415	1,800	400	1,715
商学部第二部	商	学	100	535	100	485	100	440

経 営 学 部	国際経営学科	220	940	210	900	200	860
	産業経営学科	220	940	210	900	200	860
工 学 部	機 械 工 学 科	106	487	103	460	100	433
	電 気 工 学 科	135	570	130	550	125	530
	工 業 化 学 科	106	487	103	460	100	433
	土 木 工 学 科	106	487	103	460	100	433
	建 築 学 科	110	545	105	500	100	455
芸 術 学 部	美 術 学 科	102	489	101	460	100	431
	デザイン学科	184	778	182	760	180	742
	写 真 学 科	114	528	112	500	110	472

附 則

- この学則は、平成14年5月24日から施行する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第8(一)(1)及び(2)並びに学則第15条別表第9情報科学部の規定は、平成14年度入学生から適用する。

附 則

- この学則は、平成15年4月1日から施行する。
- 改正後の学則第13条第3項第1別表(一)(3)(ロ)7、別表第2(1)(二)、(2)(二)、別表第3(1)(二)、(2)(二)、別表第6(二)(4)及び別表第7(二)(1)(2)の規定は、平成13年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第1(二)(2)、別表第4(二)(4)及び別表第8(二)(四)(五)の規定は平成14年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第2(1)(一)(ハ)の配当科目「英検中級Ⅰ、英検中級Ⅱ、英検上級Ⅰ、英検上級Ⅱ」及び学則第13条第3項別表第2(2)(ハ)の配当科目「TOEICⅠ、TOEICⅡ、TOEICⅢ」は、平成11年度入学生から適用する。

附 則

- この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 工学部工業化学科を物質生命化学科に、工学部土木工学科を都市基盤デザイン工学科に名称を変更することに伴う改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第5(一)(3)(4)、第15条別表第9及び第22条の規定は、平成16年度に入学した学生から適用し、平成15年度以前に入学した学生に対する適用については、なお従前の例による。
- 学則第12条の規定にかかわらず国際文化学部3年次編入学定員については、平成18年度から適用する。
- 平成15年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第3項別表第1(一)(二)(三)(1)(四)(五)(六)、別表第2(1)(一)(イ)(ロ)(二)(四)(五)(六)、別表第3(1)(一)(イ)(ロ)(二)(四)(五)、(2)(一)(イ)(ロ)(二)(四)(五)、別表第4(一)(二)(四)(五)(六)、別表第5(一)(二)(四)(五)(六)、別表第6(一)(二)(1)(3)(4)(5)(四)(五)(六)、別表第7(一)(二)(四)(五)(六)、別表第8(四)、第15条別表第9経済学部、工学部、芸術学部及び国際文化学部の規定の適用については、なお従前の例による。
- 学則第18条第3項及び第18条の2の規定は、平成16年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第1(三)(2)の配当科目「外国語特講Ⅰ、外国語特講Ⅱ、外国語特講Ⅲ及び外国語特講Ⅳ」は、平成13年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第2(1)(三)(2)(三)、別表第3(1)(三)(2)(三)、別表第4(三)(イ)(ロ)、別表第5(三)、別表第6(三)及び別表第7(三)(1)(2)の配当科目「特殊講義(英語会話)」は、平成13年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第2(1)(一)(ハ)の配当科目「1級商業簿記Ⅰ、1級商業簿記Ⅱ、1級会計学Ⅰ、1級会計学Ⅱ、1級工業簿記Ⅰ、1級工業簿記Ⅱ、1級原価計算Ⅰ、1級原価計算Ⅱ、特別講義Ⅴ(学生サポーター)」は、平成13年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第2(1)(一)(ハ)の配当科目「近代流通史、eコマース論、eコマース実践論、ビジネス特講Ⅱ(職業意識)」及び別表第3(1)(一)(ハ)の配当科目「ビジネス特講Ⅱ(職業意識)」は、平成15年度入学生から適用する。

附 則

- この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 改正後の学則第13条別表第2(1)(一)(ハ)、別表第3(1)(一)(ハ)の配当科目「プロジェクトワーク」は、平成14年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条別表第2(1)(一)(ハ)、(2)(一)(ハ)、別表第3(1)(一)(ハ)、(2)(一)(ハ)の配当科目「特別講義Ⅵ(インターンシップ)」は、平成15年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条別表第5(一)(3)(イ)の配当科目「応用化学実験(コンピュータ活用を含む)」、(ロ)の配当科目「無機化学」及び「インターンシップ」は、平成16年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条別表第5(一)(4)(イ)の配当科目「地盤工学Ⅱ」、「建設CAD演習」、「建設材料実験」、「都市計画学」及び「環境水理実験」、(ハ)の配当科目「都市基盤建設施工学」、「建設材料工学演習」、「工学のための解析学」、「応

用物理学Ⅱ」、「建設マネジメント」、「コンクリート構造工学演習」、「都市基盤計画学演習」、「橋梁工学」、「工業爆薬学」、「都市基盤デザイン実習」、「都市建設施工学」及び「維持管理システム」は、平成16年度入学生から適用する。

6 改正後の学則第13条別表第7(二)(ロ)の配当科目「実践学修A(学生サポーター)」は、平成14年度入学生から適用する。

7 改正後の学則第13条別表第8(三)の配当科目「英語会話Ⅶ」及び「英語会話Ⅷ」は、平成14年度入学生から適用する。

8 改正後の学則第15条別表第9工学部都市基盤デザイン工学科は、平成16年度入学生から適用する。

附 則

この学則は、平成17年4月22日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年7月22日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則

1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。

2 改正後の学則第13条別表第2(1)(一)(ハ)の配当科目「経営分析、ビジネス特講Ⅳ」及び別表3(1)(一)(ハ)の配当科目「ビジネス特講Ⅳ」は、平成15年度入学生から適用する。

3 改正後の学則第13条別表第7(二)(1)(2)(3)の(ロ)の配当科目「実践学修B(インターンシップ)」及び別表第8(一)(1)(2)の(ハ)の配当科目「情報と職業」は、平成16年度入学生から適用する。

附 則

1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。

2 平成18年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条別表第3、別表第4、別表第5、別表第7、別表第9及び別表第14の規定の適用については、なお従前の例による。

3 改正後の学則第13条別表第2(1)(一)(ハ)の配当科目「特別講義Ⅶ(NHKメディア講座)、広告実践論及び中小企業経営論」は、平成15年度入学生から適用する。

4 改正後の学則第13条別表第2(2)(一)(ハ)の配当科目「特別講義Ⅶ(NHKメディア講座)、特別講義Ⅷ(日韓観光特講)」は、平成15年度入学生から適用する。

5 改正後の学則第13条別表第3(1)(一)(ハ)の配当科目「中小企業経営論」は、平成15年度入学生から適用する。

6 工学部電気工学科を電気情報工学科に名称変更することに伴う改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第5(一)(2)、第15条別表第9及び第22条の規定は、平成19年度に入学した学生から適用し、平成18年度以前に入学した学生に対する適用については、なお従前の例による。

7 平成18年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第12条の規定の適用については、なお従前の例による。

8 商学部第二部観光産業学科は、平成19年4月1日から学生募集を停止し、当該在学生の卒業を待って廃止する。

附 則

1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。

2 平成19年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第12条、第13条別表第1から別表第8、第15条別表第9、第22条及び第31条別表第14の規定の適用については、なお従前の例による。

3 芸術学部写真学科を写真映像学科に、国際文化学部地域文化学科を日本文化学科に名称変更することに伴う改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第6(一)(3)、別表第7(一)(2)、(二)(2)、(三)(2)、(四)(2)、第15条別表第9、第22条及び第31条別表第14の規定は、平成20年度に入学した学生から適用し、平成19年度以前に入学した学生に対する適用については、なお従前の例による。

4 改正後の学則第13条別表第1から別表第8の「基礎教育科目」の配当科目「ゼミナール・サポーター」は、平成17年度入学生から適用する。

5 芸術学部芸術工芸学科は、平成20年4月1日から学生募集を停止し、当該在学生の卒業を待って廃止する。

附 則

1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。

2 平成20年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第1から別表第8、第15条別表第9及び第22条の規定の適用については、なお従前の例による。

3 改正後の学則第13条別表第2の(2)(一)(ハ)の配当科目「観光特講Ⅰ、観光特講Ⅱ、観光特講Ⅲ及び観光特講Ⅳ」は、平成18年度入学生から適用する。

附 則

1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。

2 平成21年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第1から別表第8、第15条別表第9及び第22条の規定の適用については、なお従前の例による。

3 改正後の学則第13条別表第1の(三)(2)、別表第2の(1)(三)、(2)(三)、別表第3の(三)、別表第4の(1)(一)(ロ)、(2)(三)、別表第5の(三)、別表第6の(三)、別表第7の(三)及び別表第8の(三)の配当科目「Four SkillsⅠ」「Four SkillsⅡ」「Introduction to Online English」「Professional Writing Skills」「Introduction to Translation」「Writing for Specific Purposes」「Advanced Reading & WritingⅠ」「Advanced Reading & WritingⅡ」「Domestic Job Training」「Overseas Job Training」は、平成19年度入学生から適用する。

4 改正後の学則第13条別表第2の(2)(一)(ロ)の配当科目「観光心理学」、(ハ)の配当科目「観光行動論」及び別表第5の(3)(ハ)の配当科目「火薬工学」は、平成19年度入学生から適用し、別表第7の(3)(ロ)の配当科目「心理学基礎実験演習」は平成20年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成22年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第1、別表第2(1)商学科(2)基礎教育科目から(五)教職に関する科目、(2)観光産業学科(2)基礎教育科目から(五)教職に関する科目、別表第3から別表第8、第15条別表第9及び第22条別表第14の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第1の(2)(2)(ハ)、別表第2の(1)(2)(3)及び(2)(2)(3)、別表第3の(2)(3)、別表第4の(1)(2)(3)、別表第5の(2)(3)、別表第6の(2)(3)、別表第7の(2)(3)及び別表第8の(2)(3)の配当科目「キャリア形成戦略」は平成21年度の入学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成23年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条別表第1から別表第9の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第7の(一)(2)(ハ)〇C群(日本語日本文学コース)の配当科目「オフィスコミュニケーション」は、平成22年度別表第7の(一)(2)(ハ)〇C群(歴史・文学コース)に配当し、平成22年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成24年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条別表第1から別表第9の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第2の(1)(一)(ロ)及び別表第2の(2)(一)(ハ)の配当科目「ソーシャルスキルワーク」は、平成22年度入学生から適用する。
- 4 改正後の学則第13条別表第2の(2)(一)(ハ)の配当科目「観光韓国語Ⅲ」、「観光中国語Ⅲ」、「キャリア実践講座・中級」は、平成23年度入学生から適用する。
- 5 改正後の学則第13条別表第2の(2)(一)(ハ)の配当科目「キャリア実践講座・初級」は、平成24年度入学生から適用する。
- 6 改正後の学則第13条別表第5の(一)(7)(ロ)の配当科目「ロボット設計基礎」は、平成24年度入学生から適用する。
- 7 改正後の学則第29条別表第14の(1)イ入学検定料は、平成25年度志願者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成25年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条及び第13条別表第1から別表第15の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第2の(一)(2)の配当科目「実践企画演習Ⅰ」、「実践企画演習Ⅱ」、「実践企画演習Ⅲ」、「実践企画演習Ⅳ」については、平成23年度入学生から適用する。
- 4 改正後の学則第13条別表第3の(1)(一)(ロ)の配当科目「地域振興論」、「国内金融研修」、「地域振興プロジェクト演習」、「インターンシップ」、「キャリア開発プランニング」は、平成23年度入学生から適用する。
- 5 改正後の学則第13条別表第3の(2)(一)(ハ)の配当科目「観光振興プロジェクト演習」、「鉄道産業プロジェクト演習」は、平成23年度入学生から適用する。
- 6 改正後の学則第13条別表第4の(一)(イ)の配当科目「地域振興論」、「キャリア開発プランニング」は、平成23年度入学生から適用する。
- 7 改正後の学則第13条別表第6の(一)(3)(ロ)の配当科目「応用生物科学」及び(ハ)の配当科目「分子生物科学」は、平成23年度入学生から適用する。
- 8 改正後の学則第23条の「図書館法第5条第1項第1号により司書の資格を得ようとする者」の規定は、平成24年4月1日から適用する。
- 9 改正後の学則第29条別表第15の(1)イ入学検定料は、平成26年度入学試験の志願者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成26年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条及び第13条別表第1から別表第15の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第3の(1)(一)(ロ)の配当科目「特別講義Ⅸ」、「特別講義Ⅹ」、「特別講義Ⅺ」及び「特別講義Ⅻ」については、平成24年度入学生から適用する。
- 4 改正後の学則第13条別表第3の(2)(一)(ハ)の配当科目「特別講義Ⅸ」、「特別講義Ⅹ」、「特別講義Ⅺ」及び「特別講義Ⅻ」については、平成24年度入学生から適用する。
- 5 改正後の学則第29条別表第15の(1)イ入学検定料は平成27年度入学志願者から適用する。
- 6 九州産業大学学部長会議申し合わせは、廃止する。

附 則

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成27年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第1から別表第9、第15条別表第10、第22条及び第25条別表第13の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第29条別表第15の(1)イ入学検定料は、平成28年度入学志願者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成28年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条、第13条別表第1、別表第6、別表第8、別表第9、第15条別表第10、第22条及び第57条別表第15の規定の適用については、なお従前の例による。

- 3 改正後の学則第29条別表第15の(1)イ入学検定料は、平成29年度入学志願者から適用する。
- 4 改正後の学則第71条は、平成28年10月26日から適用する。
- 5 九州産業大学卒業取扱内規は、廃止する。

附 則

- 1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 平成29年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条、第13条別表第2から別表第9、第15条別表第10、第22条、第29条別表第15及び第42条の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 九州産業大学経済学部転主コースに関する規程は、廃止する。平成29年度以前に入学した学生に対する規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成30年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条、第13条別表第2から別表第9及び第80条の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第29条別表第15の(1)イ入学検定料は、平成31年度入学志願者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 平成31年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条別表第7及び別表第13の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第31条第4項及び第5項は、令和2年度入学志願者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 令和2年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条別表第6、別表第6の2、別表第9、第15条別表第10、第31条別表第15及び第57条別表第15の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 令和3年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第1条の3、第8条、第13条第4項別表第1、第13条第6項別表第2から別表第9、第15条別表第10、第31条別表第15及び第57条別表第15の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 令和4年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第4項別表第1、第13条第6項別表第2から別表第9、第15条別表第10、第31条別表第15及び第57条別表第15の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第29条別表第15の(1)イ入学検定料は、令和5年度入学志願者から適用する。
- 4 九州産業大学商学部第二部授業科目履修規程は、廃止する。

附 則

- 1 この学則は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 令和5年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第12条、第13条別表第2から別表第5、別表第6の2から別表第7及び別表第9の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、改正後の学則第13条の別表第3の表中「キャリア演習（実践）」、別表第5の表中「地域キャリア演習」、別表第6の3の表中「住居・インテリアキャリア形成」及び別表第7の表中「キャリア演習（実践）」の規定の適用については、令和5年度入学生から適用する。
- 4 前2項の規定にかかわらず、改正後の学則第13条別表第6の2の表中「キャリア演習（実践）」、別表第6の3の表中「総合プログラム実習Ⅰ」、「総合プログラム実習Ⅱ」、「総合プログラム特論Ⅰ」、「総合プログラム特論Ⅱ」及び「総合プログラム講座」の規定の適用については、令和4年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、令和7年4月1日から施行する。
- 2 令和6年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第12条、第13条別表第1から第9、第15条別表第10、第22条、第31条別表第15(3)及び第57条別表第15(3)の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、令和8年4月1日から施行する。
- 2 令和7年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第6及び第15条別表第10の規定の適用については、なお従前の例による。

別表第1

(一) 基礎教育科目

(1) 導入科目

大学スタディスキル	2
-----------	---

(2) 学修基礎科目

実用国語(文章力)	2	実用国語(伝達力)	2	実用数学(計算力)A	1	実用数学(計算力)B	1	実用数学(活用力)	1
くらしの中の数学A	1	くらしの中の数学B	1	AI導入	1	プログラミング導入	1	データリテラシー	1
データサイエンス基礎	1	データサイエンス実践演習	1						

(3) キャリア科目

キャリア形成基礎論	2	キャリア開発論	2	キャリア形成戦略	2	主権者リテラシー	2	消費者リテラシー	2
九産大力	2	学生サポーター	2	学生ボランティア入門	2				

(4) 文理芸術融合科目

実践クロス講座	2	実践クロス演習	2	実践力育成演習	2	課題解決演習	2	教養講座	2
実践コラボ講座	2	実践コラボ演習	2						

文理芸術融合科目は、原則として科目名に()書きで主題を付し、個別の科目として開講する。

(5) 教養科目

日本の歴史A	1	日本の歴史B	1	世界の歴史A	1	世界の歴史B	1	哲学の世界A	1
哲学の世界B	1	文学の世界A	1	文学の世界B	1	心理学の世界A	1	心理学の世界B	1
文化人類学A	1	文化人類学B	1	美学・美術史A	1	美学・美術史B	1	芸術の世界A	1
芸術の世界B	1	人文科学の世界	2	法学A	1	法学B	1	日本国憲法A	1
日本国憲法B	1	現代の政治A	1	現代の政治B	1	地理の世界A	1	地理の世界B	1
人権・同和問題A	1	人権・同和問題B	1	ジェンダーと社会A	1	ジェンダーと社会B	1	社会科学の世界A	1
社会科学の世界B	1	科学の世界A	1	科学の世界B	1	地球環境A	1	地球環境B	1
生物の世界A	1	生物の世界B	1	自然科学の世界A	1	自然科学の世界B	1	スポーツ科学演習A	1
スポーツ科学演習B	1	心と身体の健康A	1	心と身体の健康B	1				

(二) 外国語科目

Reading & Writing I	1	Reading & Writing II	1	Reading & Writing III	1	Reading & Writing IV	1	Listening & Speaking I	1
Listening & Speaking II	1	Listening & Speaking III	1	Listening & Speaking IV	1	English Plus A	1	English Plus B	1
English Expressions A	1	English Expressions B	1	Four Skills I	1	Four Skills II	1	TOEIC Basic A	1
TOEIC Basic B	1	Domestic Job Training	4	Overseas Job Training	4	TOEIC Plus A	1	TOEIC Plus B	1
Reading Focus A	1	Reading Focus B	1	Writing Focus A	1	Writing Focus B	1	Business English A	1
Business English B	1	English Pronunciation A	1	English Pronunciation B	1	Introduction to Translation A	1	Introduction to Translation B	1
Global Perspectives A	1	Global Perspectives B	1	ドイツ語 I	1	ドイツ語 II	1	ドイツ語 III	1
ドイツ語 IV	1	ドイツ語会話 I	1	ドイツ語会話 II	1	ドイツ語会話 III	1	ドイツ語会話 IV	1
フランス語 I	1	フランス語 II	1	フランス語 III	1	フランス語 IV	1	フランス語会話 I	1
フランス語会話 II	1	フランス語会話 III	1	フランス語会話 IV	1	韓国語 I	1	韓国語 II	1
韓国語 III	1	韓国語 IV	1	韓国語会話 I	1	韓国語会話 II	1	韓国語会話 III	1
韓国語会話 IV	1	実用韓国語	1	上級韓国語	1	中国語 I	1	中国語 II	1
中国語 III	1	中国語 IV	1	中国語会話 I	1	中国語会話 II	1	中国語会話 III	1
中国語会話 IV	1	実用中国語	1	上級中国語	1				

別表第2

経済学部経済学科の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 必修科目

マクロ経済学Ⅰ	2	ミクロ経済学Ⅰ	2
---------	---	---------	---

(2) 選択必修科目

九州産業論	2	経済学入門	2	経済数学入門	2	情報処理入門	2	データサイエンス入門	2
微分積分Ⅰ	2	ゼミナールⅠ	2	キャリアデザイン	2	経済原論	2	線形代数	2
微分積分Ⅱ	2	マクロ経済学Ⅱ	2	マクロ経済学Ⅲ	2	ミクロ経済学Ⅱ	2	ミクロ経済学Ⅲ	2
ゼミナールⅡ	2	ゼミナールⅢ	4	卒業研究ゼミナール	4	卒業論文ゼミナール	8		

(3) 選択科目

会計学入門	2	経済英語	2	経済史	2	国際法Ⅰ	2	情報処理演習(表計算)	2
情報処理演習(文書作成)	2	初級簿記Ⅰ	2	先端技術産業論	2	地域研究概説	2	統計学Ⅰ	2
公務員基礎演習(言語)	2	公務員基礎演習(非言語)	2	実践企画演習Ⅰ	4	実践キャリア演習	2	特講A	2
特講B	2	特講C	2	特講D	2	特講E	2	特講F	2
特講G	2	特講H	2	AI実践応用講座	2	AIプログラミング	2	アジア経済論	2
欧米経済論	2	外国史Ⅰ	2	外国史Ⅱ	2	開発経済学	2	金融機関論	2
金融論	2	経営学	2	経営管理論	2	経済思想史	2	経済政策	2
経済地理(欧米)	2	経済地理(日本・アジア)	2	ゲームの理論と社会	2	国際経済学	2	国際法Ⅱ	2
財政学	2	財務会計	2	自然地理学Ⅰ	2	自然地理学Ⅱ	2	社会思想史	2
社会政策	2	社会調査論Ⅰ	2	社会調査論Ⅱ	2	社会保障論	2	証券市場論	2
商法	2	情報処理論	2	初級簿記Ⅱ	2	人文地理学Ⅰ	2	人文地理学Ⅱ	2
心理学Ⅰ	2	心理学Ⅱ	2	政治学	2	西洋経済史	2	西洋史	2
地域経済論	2	地誌学Ⅰ	2	地誌学Ⅱ	2	データ分析の基礎	2	哲学Ⅰ	2
哲学Ⅱ	2	統計学Ⅱ	2	統計学Ⅲ	2	東洋史	2	日本近代史	2
日本経済史	2	日本史Ⅰ	2	日本史Ⅱ	2	農業経済学	2	貿易論	2
法学概論Ⅰ	2	法学概論Ⅱ	2	民法	2	労働経済学	2	海外研修	6
公務員対策演習Ⅰ	2	公務員対策演習Ⅱ	2	実践企画演習Ⅱ	4	環境経済学	2	企業戦略論	2
経営情報システム論	2	経済学史	2	経済データ分析	2	経済変動論Ⅰ	2	経済変動論Ⅱ	2
計量経済学	2	公共経済学	2	国際金融論	2	サービス経済論	2	産業組織論	2
社会福祉論	2	上級マクロ経済学	2	上級ミクロ経済学	2	地域開発論	2	地域調査実習	4
地方財政論	2	中小企業論	2	都市地理学	2	マーケティング論	2	リスクの経済学	2
公務員対策演習Ⅲ	2	公務員対策演習Ⅳ	2	公務員対策演習Ⅴ	2				

(二) 留学生に関する科目

(1) 日本語

アカデミック日本語Ⅰ (読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅱ (読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅰ (聞く・話す)	1	アカデミック日本語Ⅱ (聞く・話す)	1	実践アカデミック日本語 (読む・書く)	1
実践アカデミック日本語 (聞く・話す)	1	ビジネス日本語	1	グローバル日本語	1				

(2) 日本事情

日本の歴史ⅠA	1	日本の歴史ⅠB	1	日本の歴史ⅡA	1	日本の歴史ⅡB	1	日本の文化ⅠA	1
日本の文化ⅠB	1	日本の文化ⅡA	1	日本の文化ⅡB	1	日本の政治経済ⅠA	1	日本の政治経済ⅠB	1
日本の政治経済ⅡA	1	日本の政治経済ⅡB	1	一般日本事情ⅠA	1	一般日本事情ⅠB	1	一般日本事情ⅡA	1
一般日本事情ⅡB	1								

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術(情報 通信技術を含む)	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅱ	2	社会科教育法	4
地理歴史科教育法	4	公民科教育法	4	教科指導法Ⅰ(社会)	2	教科指導法Ⅰ(地理歴史)	2	教科指導法Ⅰ(公民)	2
教科指導法Ⅱ(社会)	2	学校発達心理学	2	同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2
特別な教育的ニーズの 理解とその支援	2								

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第3

商学部経営・流通学科の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

○企業経営コース

(イ) 選択必修科目

経済学入門	2	経営学入門	2	ビジネス開発入門	2	企業論	2	経営管理論	2
経営戦略論	2	生産管理論	2	人的資源管理論	2	経営史	2	ベンチャービジネス論	2

(ロ) 選択科目

情報リテラシー I	2	情報リテラシー II	2	社会情報概論	2	データ分析 I	2	プログラミング論	2
データ分析 II	2	国際ビジネス入門	2	マーケティング実践演習 I (販売士3級)	2	マーケティング実践演習 II (販売士2級)	4	ビジネス演習A(ビジネス能力検定2級)	2
中小企業診断士入門	4	初級簿記	4	中級簿記	4	上級簿記	4	工業簿記	4
ファイナンス演習A(証券外務員二種)	4	ファイナンス演習B(証券外務員一種)	4	ファイナンス演習C(FP3級)	4	ファイナンス演習D(FP2級)	4	eコマース演習(ネットショップ実務士検定)	4
情報技術基礎演習(マルチメディア検定)	4	特別講義 I A	1	特別講義 I B	1	特別講義 I C	1	特別講義 I D	1
特別講義 II A	1	特別講義 II B	1	特別講義 II C	1	特別講義 II D	1	特別講義 III A	1
特別講義 III B	1	特別講義 III C	1	特別講義 III D	1	社会情報論A	1	社会情報論B	1
社会情報論C	1	社会情報論D	1	データ分析 III	2	コンピュータ概論	2	情報ネットワーク論	2
メディア心理学	2	プログラミング演習	2	国際マーケティング論	2	国際ビジネス事情	2	国際経営論	2
在外研修	4	アジアビジネス研修A	2	アジアビジネス研修B	2	アジアビジネス研修C	2	商業概論	2
情報セキュリティ論	2	データベース論	2	マルチメディア論	2	デジタルビジネス演習A	1	デジタルビジネス演習B	1
デジタルビジネス演習C	1	デジタルビジネス演習D	1	マルチメディア演習	2	データ分析プログラミングA	2	データ分析プログラミングB	2
異文化マネジメント論	2	多国籍企業論	2	国際経営戦略論	2	国際金融論	2	職業指導	4
ゼミナール I	2	簿記特講	4	キャリア演習(入門)	2	ゼミナール II	2	キャリア演習(SPI)	2
キャリア演習(実践)	6	ゼミナール III	4	ゼミナール IV	4	卒業論文ゼミナール	8	ビジネス開発論	2
ビジネスコーチング	4	経営組織論	2	技術経営論	2	労使関係論	2	経営情報論	2
人材開発論	2	中小企業論	2	CSR論	2	ビジネス法	2	経営分析論	2
ビジネス開発演習 I	2	ビジネス開発演習 II	2	ビジネス開発演習 III	2	ビジネス開発演習 IV	2	中小企業マネジメント講座	2
簿記入門	2	簿記会計の基礎	2	ファイナンス入門	2	財務会計の基礎	2	管理会計の基礎	2
財務諸表分析	2	商業簿記演習	2	工業簿記演習	2	金融論	2	ファイナンス論	2
金融リテラシー	2	保険論	2	財務会計論	2	管理会計論	2	原価計算論	2
税務会計論	2	生活保障論	2	ベンチャーファイナンス論	2	証券市場論	2	地域金融論	2
金融機関論	2	資金調達論	2	コーポレートファイナンス論	2	企業評価論	2	リスクマネジメント論	2
実践投資演習 I	2	実践投資演習 II	2	マーケティング入門	2	流通入門	2	マーケティング論	2
マーケティング戦略論	2	マーケティングリサーチ論	2	ブランド論	2	交通論	2	流通ビジネス論	2
流通システム論	2	デジタルマーケティング論	2	広告論	2	消費者行動論	2	商品開発論	2
ロジスティクス論	2	eコマース論	2	小売マーケティング論	2	流通政策論	2	人材マネジメント論	2
流通史	2	産業リサーチ演習	2						

○会計・ファイナンスコース

(イ) 選択必修科目

経済学入門	2	簿記入門	2	簿記会計の基礎	2	ファイナンス入門	2	財務会計の基礎	2
管理会計の基礎	2	金融論	2	ファイナンス論	2	金融リテラシー	2	保険論	2

(ロ) 選択科目

情報リテラシーⅠ	2	情報リテラシーⅡ	2	社会情報概論	2	データ分析Ⅰ	2	プログラミング論	2
データ分析Ⅱ	2	国際ビジネス入門	2	マーケティング実践演習Ⅰ(販売士3級)	2	マーケティング実践演習Ⅱ(販売士2級)	4	ビジネス演習A(ビジネス能力検定2級)	2
中小企業診断士入門	4	初級簿記	4	中級簿記	4	上級簿記	4	工業簿記	4
ファイナンス演習A(証券外務員二種)	4	ファイナンス演習B(証券外務員一種)	4	ファイナンス演習C(FP3級)	4	ファイナンス演習D(FP2級)	4	eコマース演習(ネットショップ実務士検定)	4
情報技術基礎演習(マルチメディア検定)	4	特別講義ⅠA	1	特別講義ⅠB	1	特別講義ⅠC	1	特別講義ⅠD	1
特別講義ⅡA	1	特別講義ⅡB	1	特別講義ⅡC	1	特別講義ⅡD	1	特別講義ⅢA	1
特別講義ⅢB	1	特別講義ⅢC	1	特別講義ⅢD	1	社会情報論A	1	社会情報論B	1
社会情報論C	1	社会情報論D	1	データ分析Ⅲ	2	コンピュータ概論	2	情報ネットワーク論	2
メディア心理学	2	プログラミング演習	2	国際マーケティング論	2	国際ビジネス事情	2	国際経営論	2
在外研修	4	アジアビジネス研修A	2	アジアビジネス研修B	2	アジアビジネス研修C	2	商業概論	2
情報セキュリティ論	2	データベース論	2	マルチメディア論	2	デジタルビジネス演習A	1	デジタルビジネス演習B	1
デジタルビジネス演習C	1	デジタルビジネス演習D	1	マルチメディア演習	2	データ分析プログラミングA	2	データ分析プログラミングB	2
異文化マネジメント論	2	多国籍企業論	2	国際経営戦略論	2	国際金融論	2	職業指導	4
ゼミナールⅠ	2	簿記特講	4	キャリア演習(入門)	2	ゼミナールⅡ	2	キャリア演習(SPI)	2
キャリア演習(実践)	6	ゼミナールⅢ	4	ゼミナールⅣ	4	卒業論文ゼミナール	8	財務諸表分析	2
商業簿記演習	2	工業簿記演習	2	財務会計論	2	管理会計論	2	原価計算論	2
税務会計論	2	生活保障論	2	ベンチャーファイナンス論	2	証券市場論	2	地域金融論	2
金融機関論	2	資金調達論	2	コーポレートファイナンス論	2	企業評価論	2	リスクマネジメント論	2
実践投資演習Ⅰ	2	実践投資演習Ⅱ	2	経営学入門	2	ビジネス開発入門	2	企業論	2
経営管理論	2	経営戦略論	2	生産管理論	2	人的資源管理論	2	経営史	2
ベンチャービジネス論	2	ビジネス開発論	2	ビジネスコーチング	4	経営組織論	2	技術経営論	2
労使関係論	2	経営情報論	2	人材開発論	2	中小企業論	2	CSR論	2
ビジネス法	2	経営分析論	2	ビジネス開発演習Ⅰ	2	ビジネス開発演習Ⅱ	2	ビジネス開発演習Ⅲ	2
ビジネス開発演習Ⅳ	2	中小企業マネジメント講座	2	マーケティング入門	2	流通入門	2	マーケティング論	2
マーケティング戦略論	2	マーケティングリサーチ論	2	ブランド論	2	交通論	2	流通ビジネス論	2
流通システム論	2	デジタルマーケティング論	2	広告論	2	消費者行動論	2	商品開発論	2
ロジスティクス論	2	eコマース論	2	小売マーケティング論	2	流通政策論	2	人材マネジメント論	2
流通史	2	産業リサーチ演習	2						

○マーケティングコース

(イ) 選択必修科目

経済学入門	2	マーケティング入門	2	流通入門	2	マーケティング論	2	マーケティング戦略論	2
マーケティングリサーチ論	2	ブランド論	2	交通論	2	流通ビジネス論	2	流通システム論	2

(ロ) 選択科目

情報リテラシー I	2	情報リテラシー II	2	社会情報概論	2	データ分析 I	2	プログラミング論	2
データ分析 II	2	国際ビジネス入門	2	マーケティング実践演習 I (販売士3級)	2	マーケティング実践演習 II (販売士2級)	4	ビジネス演習A (ビジネス能力検定2級)	2
中小企業診断士入門	4	初級簿記	4	中級簿記	4	上級簿記	4	工業簿記	4
ファイナンス演習A(証券外務員二種)	4	ファイナンス演習B(証券外務員一種)	4	ファイナンス演習C(FP3級)	4	ファイナンス演習D(FP2級)	4	eコマース演習(ネットショップ実務士検定)	4
情報技術基礎演習(マルチメディア検定)	4	特別講義 I A	1	特別講義 I B	1	特別講義 I C	1	特別講義 I D	1
特別講義 II A	1	特別講義 II B	1	特別講義 II C	1	特別講義 II D	1	特別講義 III A	1
特別講義 III B	1	特別講義 III C	1	特別講義 III D	1	社会情報論A	1	社会情報論B	1
社会情報論C	1	社会情報論D	1	データ分析 III	2	コンピュータ概論	2	情報ネットワーク論	2
メディア心理学	2	プログラミング演習	2	国際マーケティング論	2	国際ビジネス事情	2	国際経営論	2
在外研修	4	アジアビジネス研修A	2	アジアビジネス研修B	2	アジアビジネス研修C	2	商業概論	2
情報セキュリティ論	2	データベース論	2	マルチメディア論	2	デジタルビジネス演習A	1	デジタルビジネス演習B	1
デジタルビジネス演習C	1	デジタルビジネス演習D	1	マルチメディア演習	2	データ分析プログラミングA	2	データ分析プログラミングB	2
異文化マネジメント論	2	多国籍企業論	2	国際経営戦略論	2	国際金融論	2	職業指導	4
ゼミナール I	2	簿記特講	4	キャリア演習(入門)	2	ゼミナール II	2	キャリア演習(SPI)	2
キャリア演習(実践)	6	ゼミナール III	4	ゼミナール IV	4	卒業論文ゼミナール	8	デジタルマーケティング論	2
広告論	2	消費者行動論	2	商品開発論	2	ロジスティクス論	2	eコマース論	2
小売マーケティング論	2	流通政策論	2	人材マネジメント論	2	流通史	2	産業リサーチ演習	2
経営学入門	2	ビジネス開発入門	2	企業論	2	経営管理論	2	経営戦略論	2
生産管理論	2	人的資源管理論	2	経営史	2	ベンチャービジネス論	2	ビジネス開発論	2
ビジネスコーチング	4	経営組織論	2	技術経営論	2	労使関係論	2	経営情報論	2
人材開発論	2	中小企業論	2	CSR論	2	ビジネス法	2	経営分析論	2
ビジネス開発演習 I	2	ビジネス開発演習 II	2	ビジネス開発演習 III	2	ビジネス開発演習 IV	2	中小企業マネジメント講座	2
簿記入門	2	簿記会計の基礎	2	ファイナンス入門	2	財務会計の基礎	2	管理会計の基礎	2
財務諸表分析	2	商業簿記演習	2	工業簿記演習	2	金融論	2	ファイナンス論	2
金融リテラシー	2	保険論	2	財務会計論	2	管理会計論	2	原価計算論	2
税務会計論	2	生活保障論	2	ベンチャーファイナンス論	2	証券市場論	2	地域金融論	2
金融機関論	2	資金調達論	2	コーポレートファイナンス論	2	企業評価論	2	リスクマネジメント論	2
実践投資演習 I	2	実践投資演習 II	2						

○グローバル・フードビジネス・プログラム

(イ) 必修科目

GFBの基礎	4	食と文化	2	GFBの展開・応用	4	フードシステム論	2	GFBの実践	4
食品ビジネス研究 I	4	食品ビジネス研究 II	4	卒業論文ゼミナール	8				

(ロ) 選択必修科目

PBL A	2	PBL B	2	PBL C	2	PBL D	2
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

(ハ) 選択科目

TOEIC講座A	2	TOEIC講座B	2	TOEIC講座C	2	TOEIC講座D	2	プロジェクト型インターンシップ	4
現代の経済	2	九州の食	2	海外語学研修	4	フードビジネス論	2	海外フードビジネス研修	4
情報リテラシー	2	農業経済学	2	地域マーケティング論	2	心理学概論	2	観光データサイエンス	2
広告実践論	2	ビジネスシステム論	2	コミュニティ・ビジネス論	2	地域デジタルマーケティング	2	健康心理学	2
基礎数学	2	化学 I	2	生物学 I	2	生物学 II	2	食品科学	2
食品衛生学	2	微生物学	2	6次産業化概論	2	地域食産業論	2	地域海洋産業論	2
フードツーリズム論	2	クリティカルシンキング	2	異文化コミュニケーション論	2	アジア経済論	2	実践プレゼンテーション	2
国際関係論	2	アジア文化論	2	現代アジア事情	2	住居計画	2	マルチメディア概論	2
ソーシャルデザイン概論	2	企画デザイン演習 I	4	業務系施設インテリア概論	2	住居設備	2	ブランドデザイン演習	4
Webデザイン演習	4	空間設計概論	2	企画デザイン論	2	経営学入門	2	マーケティング入門	2
ファイナンス入門	2	簿記会計の基礎	2	簿記入門	2	国際ビジネス入門	2	社会情報概論	2
流通入門	2	流通ビジネス論	2	財務諸表分析	2	マーケティング論	2	流通システム論	2
国際マーケティング論	2	国際経営論	2	国際ビジネス事情	2	ビジネス開発論	2	ベンチャービジネス論	2
経営戦略論	2	マーケティングリサーチ論	2	企業論	2	ロジスティクス論	2	マルチメディア論	2
マーケティング戦略論	2	異文化マネジメント論	2	国際経営戦略	2	eコマース論	2		

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

アカデミック日本語Ⅰ (読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅱ (読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅰ (聞く・話す)	1	アカデミック日本語Ⅱ (聞く・話す)	1	実践アカデミック日本語 (読む・書く)	1
実践アカデミック日本語 (聞く・話す)	1	ビジネス日本語	1	グローバル日本語	1				

(ロ) 日本事情

日本の歴史ⅠA	1	日本の歴史ⅠB	1	日本の歴史ⅡA	1	日本の歴史ⅡB	1	日本の文化ⅠA	1
日本の文化ⅠB	1	日本の文化ⅡA	1	日本の文化ⅡB	1	日本の政治経済ⅠA	1	日本の政治経済ⅠB	1
日本の政治経済ⅡA	1	日本の政治経済ⅡB	1	一般日本事情ⅠA	1	一般日本事情ⅠB	1	一般日本事情ⅡA	1
一般日本事情ⅡB	1								

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術(情報 通信技術を含む)	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	商業科教育法	4	情報科教育法	4
教科指導法Ⅰ(商業)	2	教科指導法Ⅰ(情報)	2	学校発達心理学	2	同和教育論	2	教育社会学	2
教職特講	2	特別な教育的ニーズの 理解とその支援	2						

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第4 削除

別表第5

地域共創学部 授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 観光学科

○ホスピタリティ・ビジネスコース

(イ) 必修科目

九州地域学	2	地域共創論	2
-------	---	-------	---

(ロ) 選択必修科目

観光学入門Ⅰ	2	観光学入門Ⅱ	2	会計学入門	2	経営学入門	2	経済学入門	2
マーケティング入門	2	観光地理学入門	2	九州産業論	2	現代社会理論	2	観光調査法	2
世界遺産論	2	中国の現代社会	2	韓国の現代社会	2				

(ハ) 選択科目

情報リテラシー	2	異文化コミュニケーション論	2	ビジネススキル	2	ロジカルライティング入門	2	クリティカルシンキング	2
観光・地域プロジェクト	2	キャリアデザイン	2	九州とアジアの文化交流	2	国際関係論	2	実践プレゼンテーション	2
グローバル研修	4	アジア経済論	2	地域社会論	2	観光・地域事業プロジェクトⅠ	2	観光・地域事業プロジェクトⅡ	2
地域共創プロジェクトⅠ	2	地域共創プロジェクトⅡ	2	観光・地域振興プロジェクトⅠ	2	観光・地域振興プロジェクトⅡ	2	観光まちづくりプロジェクトⅠ	2
観光まちづくりプロジェクトⅡ	2	特別講座	2	プレゼминаール	2	法学概論Ⅰ	2	法学概論Ⅱ(国際法を含む)	2
旅行検定講座Ⅰ	2	旅行検定講座Ⅱ	2	地域共創ゼミナールⅠ	2	地域共創ゼミナールⅡ	2	自然地理学	4
人文地理学	4	地誌学	4	日本史	4	社会学Ⅰ	2	社会学Ⅱ	2
哲学	4	旅行検定講座Ⅲ	2	旅行検定講座Ⅳ	2	観光英語	2	観光中国語	2
観光韓国語	2	TOEICⅠ	2	TOEFL	2	職業体験入門	2	国内観光研修A	2
国内観光研修B	2	国外観光研修A	4	国外観光研修B	4	卒業研究ゼミナールⅠ	4	観光データサイエンス	2
国際観光論	2	ビジネス倫理とリスクマネジメント	2	宗教と観光	2	外国史	4	日本史学特講Ⅰ	2
日本史学特講Ⅱ	2	倫理学概論	2	TOEICⅡ	2	Advanced English	2	実践韓国語	2
実践中国語	2	SPI講座	2	観光インターンシップ	6	卒業研究ゼミナールⅡ	8	観光経営論	2
旅行産業論	2	ホテルマネジメント	2	エアラインビジネス論	2	観光心理学	2	ホスピタリティ・ビジネス論	2
観光交通論	2	観光マーケティング論	2	ブライダルビジネス	2	サービスマネジメント	2	観光・地域ICT論	2
フードツーリズム論	2	交通産業論	2	観光経済論	2	観光史	2	地域マーケティング論	2
地域観光論	2	地域活性化システム論	2	まち歩き企画論	2	サステイナブルツーリズム論	2	観光社会学	2
コミュニティ・ビジネス論	2	地域インバウンドツーリズム	2	地域デジタルマーケティング	2	広告実践論	2	観光まちデザイン論	2
観光地域経済論	2								

○観光地域デザインコース

(イ) 必修科目

九州地域学	2	地域共創論	2
-------	---	-------	---

(ロ) 選択必修科目

観光学入門Ⅰ	2	観光学入門Ⅱ	2	会計学入門	2	経営学入門	2	経済学入門	2
マーケティング入門	2	観光地理学入門	2	九州産業論	2	現代社会理論	2	観光調査法	2
世界遺産論	2	中国の現代社会	2	韓国の現代社会	2				

(ハ) 選択科目

情報リテラシー	2	異文化コミュニケーション論	2	ビジネススキル	2	ロジカルライティング入門	2	クリティカルシンキング	2
観光・地域プロジェクト	2	キャリアデザイン	2	九州とアジアの文化交流	2	国際関係論	2	実践プレゼンテーション	2
グローバル研修	4	アジア経済論	2	地域社会論	2	観光・地域事業プロジェクトⅠ	2	観光・地域事業プロジェクトⅡ	2
地域共創プロジェクトⅠ	2	地域共創プロジェクトⅡ	2	観光・地域振興プロジェクトⅠ	2	観光・地域振興プロジェクトⅡ	2	観光まちづくりプロジェクトⅠ	2
観光まちづくりプロジェクトⅡ	2	特別講座	2	プレゼминаール	2	法学概論Ⅰ	2	法学概論Ⅱ(国際法を含む)	2
旅行検定講座Ⅰ	2	旅行検定講座Ⅱ	2	地域共創ゼミナールⅠ	2	地域共創ゼミナールⅡ	2	自然地理学	4
人文地理学	4	地誌学	4	日本史	4	社会学Ⅰ	2	社会学Ⅱ	2
哲学	4	旅行検定講座Ⅲ	2	旅行検定講座Ⅳ	2	観光英語	2	観光中国語	2
観光韓国語	2	TOEICⅠ	2	TOEFL	2	職業体験入門	2	国内観光研修A	2
国内観光研修B	2	国外観光研修A	4	国外観光研修B	4	卒業研究ゼミナールⅠ	4	観光データサイエンス	2
国際観光論	2	ビジネス倫理とリスクマネジメント	2	宗教と観光	2	外国史	4	日本史学特講Ⅰ	2
日本史学特講Ⅱ	2	倫理学概論	2	TOEICⅡ	2	Advanced English	2	実践韓国語	2
実践中国語	2	SPI講座	2	観光インターンシップ	6	卒業研究ゼミナールⅡ	8	観光経営論	2
旅行産業論	2	ホテルマネジメント	2	エアラインビジネス論	2	観光心理学	2	ホスピタリティ・ビジネス論	2
観光交通論	2	観光マーケティング論	2	ブライダルビジネス	2	サービスマネジメント	2	観光・地域ICT論	2
フードツーリズム論	2	交通産業論	2	観光経済論	2	観光史	2	地域マーケティング論	2
地域観光論	2	地域活性化システム論	2	まち歩き企画論	2	サステイナブルツーリズム論	2	観光社会学	2
コミュニティ・ビジネス論	2	地域インバウンドツーリズム	2	地域デジタルマーケティング	2	広告実践論	2	観光まちデザイン論	2
観光地域経済論	2								

○グローバル・フードビジネス・プログラム

(イ) 必修科目

GFBの基礎	4	食と文化	2	GFBの展開・応用	4	フードシステム論	2	GFBの実践	4
食品ビジネス研究Ⅰ	4	食品ビジネス研究Ⅱ	4	卒業論文ゼミナール	8				

(ロ) 選択必修科目

PBL A	2	PBL B	2	PBL C	2	PBL D	2
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

(ハ) 選択科目

TOEIC講座A	2	TOEIC講座B	2	TOEIC講座C	2	TOEIC講座D	2	現代の経済	2
九州の食	2	海外語学研修	4	プロジェクト型インターンシップ	4	フードビジネス論	2	海外フードビジネス研修	4
ファイナンス入門	2	簿記入門	2	基礎数学	2	化学Ⅰ	2	生物学Ⅰ	2
生物学Ⅱ	2	住居計画	2	マルチメディア概論	2	ソーシャルデザイン概論	2	企画デザイン演習Ⅰ	4
農業経済学	2	流通ビジネス論	2	財務諸表分析	2	マーケティング論	2	心理学概論	2
食品科学	2	食品衛生学	2	微生物学	2	6次産業化概論	2	アジア経済論	2
国際関係論	2	アジア文化論	2	業務系施設インテリア概論	2	住居設備	2	ブランドデザイン演習	4
Webデザイン演習	4	ロジスティクス論	2	マルチメディア論	2	eコマース論	2	マーケティング戦略論	2
ビジネスシステム論	2	健康心理学	2	地域食産業論	2	地域海洋産業論	2	現代アジア事情	2
空間設計概論	2	企画デザイン論	2	観光学入門Ⅰ	2	九州地域学	2	経営学入門	2
マーケティング入門	2	クリティカルシンキング	2	異文化コミュニケーション論	2	情報リテラシー	2	会計学入門	2
地域共創論	2	九州産業論	2	実践プレゼンテーション	2	観光調査法	2	地域マーケティング論	2
地域観光論	2	観光データサイエンス	2	広告実践論	2	コミュニティ・ビジネス論	2	地域デジタルマーケティング	2
フードツーリズム論	2	地域インバウンドツーリズム	2						

(2) 地域づくり学科

○地域行政コース

(イ) 必修科目

九州地域学	2	地域共創論	2
-------	---	-------	---

(ロ) 選択必修科目

地域行政入門	2	地域マネジメント入門	2	法学概論Ⅰ	2	法学概論Ⅱ(国際法を含む)	2	現代情報・メディア論	2
福岡の歴史	2	憲法Ⅰ	2	憲法Ⅱ	2	地域資源論	2		

(ハ) 選択科目

情報リテラシー	2	異文化コミュニケーション論	2	ビジネススキル	2	ロジカルライティング入門	2	クリティカルシンキング	2
観光・地域プロジェクト	2	キャリアデザイン	2	九州とアジアの文化交流	2	国際関係論	2	実践プレゼンテーション	2
グローバル研修	4	アジア経済論	2	地域社会論	2	観光・地域事業プロジェクトⅠ	2	観光・地域事業プロジェクトⅡ	2
地域共創プロジェクトⅠ	2	地域共創プロジェクトⅡ	2	観光・地域振興プロジェクトⅠ	2	観光・地域振興プロジェクトⅡ	2	観光まちづくりプロジェクトⅠ	2
観光まちづくりプロジェクトⅡ	2	特別講座	2	プレゼミナール	2	経済学入門	2	経営学入門	2
マーケティング入門	2	地域共創ゼミナールⅠ	2	地域共創ゼミナールⅡ	2	政治学	2	行政学	2
社会学Ⅰ	2	社会学Ⅱ	2	人文地理学	4	自然地理学	4	日本史	4
地域行政特講Ⅰ	2	地域行政特講Ⅱ	2	就業体験入門	2	卒業研究ゼミナールⅠA	2	卒業研究ゼミナールⅠB	2
倫理学概論	2	地誌学	4	哲学	4	心理学	4	外国史	4
社会学特講Ⅰ	2	社会学特講Ⅱ	2	日本史学特講Ⅰ	2	日本史学特講Ⅱ	2	地域行政特講Ⅲ	2
地域行政特講Ⅳ	2	地域キャリア演習	2	卒業研究ゼミナールⅡ	8	地域政策論Ⅰ	2	地域政策論Ⅱ	2
社会政策	2	経済政策	2	ミクロ経済学	2	マクロ経済学	2	民法Ⅰ	2
民法Ⅱ	2	地方自治論	2	地方自治法	2	応用ミクロ経済学	2	財政学	2
行政法Ⅰ	2	行政法Ⅱ	2	刑法	2	地域行政演習Ⅰ	2	地域行政演習Ⅱ	2
地域行政演習Ⅲ	2	地域行政演習Ⅳ	2	地域産業論	2	地域サービス産業論	2	地域流通業論	2
組織マネジメント論	2	戦略マネジメント論	2	マーケティング論	2	地域メディア論	2	祭礼文化論	2
地域社会調査の設計	2	地域社会データの分析	2	質的調査の方法	2	地域農産業論	2	地域食産業論	2
地域海洋産業論	2	地域文化論	2	ビジネスシステム論	2	広報・PR論	2	観光・地域ICT論	2
地域社会調査論	2	量的調査の方法	2	社会調査実習	4				

○地域マネジメントコース

(イ) 必修科目

九州地域学	2	地域共創論	2
-------	---	-------	---

(ロ) 選択必修科目

地域行政入門	2	地域マネジメント入門	2	法学概論Ⅰ	2	法学概論Ⅱ(国際法を含む)	2	現代情報・メディア論	2
福岡の歴史	2	憲法Ⅰ	2	憲法Ⅱ	2	地域資源論	2		

(ハ) 選択科目

情報リテラシー	2	異文化コミュニケーション論	2	ビジネススキル	2	ロジカルライティング入門	2	クリティカルシンキング	2
観光・地域プロジェクト	2	キャリアデザイン	2	九州とアジアの文化交流	2	国際関係論	2	実践プレゼンテーション	2
グローバル研修	4	アジア経済論	2	地域社会論	2	観光・地域事業プロジェクトⅠ	2	観光・地域事業プロジェクトⅡ	2
地域共創プロジェクトⅠ	2	地域共創プロジェクトⅡ	2	観光・地域振興プロジェクトⅠ	2	観光・地域振興プロジェクトⅡ	2	観光まちづくりプロジェクトⅠ	2
観光まちづくりプロジェクトⅡ	2	特別講座	2	プレゼミナール	2	経済学入門	2	経営学入門	2
マーケティング入門	2	地域共創ゼミナールⅠ	2	地域共創ゼミナールⅡ	2	政治学	2	行政学	2
社会学Ⅰ	2	社会学Ⅱ	2	人文地理学	4	自然地理学	4	日本史	4
地域行政特講Ⅰ	2	地域行政特講Ⅱ	2	就業体験入門	2	卒業研究ゼミナールⅠA	2	卒業研究ゼミナールⅠB	2
倫理学概論	2	地誌学	4	哲学	4	心理学	4	外国史	4
社会学特講Ⅰ	2	社会学特講Ⅱ	2	日本史学特講Ⅰ	2	日本史学特講Ⅱ	2	地域行政特講Ⅲ	2
地域行政特講Ⅳ	2	地域キャリア演習	2	卒業研究ゼミナールⅡ	8	地域政策論Ⅰ	2	地域政策論Ⅱ	2
社会政策	2	経済政策	2	ミクロ経済学	2	マクロ経済学	2	民法Ⅰ	2
民法Ⅱ	2	地方自治論	2	地方自治法	2	応用ミクロ経済学	2	財政学	2
行政法Ⅰ	2	行政法Ⅱ	2	刑法	2	地域行政演習Ⅰ	2	地域行政演習Ⅱ	2
地域行政演習Ⅲ	2	地域行政演習Ⅳ	2	地域産業論	2	地域サービス産業論	2	地域流通業論	2
組織マネジメント論	2	戦略マネジメント論	2	マーケティング論	2	地域メディア論	2	祭礼文化論	2
地域社会調査の設計	2	地域社会データの分析	2	質的調査の方法	2	地域農産業論	2	地域食産業論	2
地域海洋産業論	2	地域文化論	2	ビジネスシステム論	2	広報・PR論	2	観光・地域ICT論	2
地域社会調査論	2	量的調査の方法	2	社会調査実習	4				

○グローバル・フードビジネス・プログラム

(イ) 必修科目

GFBの基礎	4	食と文化	2	GFBの展開・応用	4	フードシステム論	2	GFBの実践	4
食品ビジネス研究Ⅰ	4	食品ビジネス研究Ⅱ	4	卒業論文ゼミナール	8				

(ロ) 選択必修科目

PBL A	2	PBL B	2	PBL C	2	PBL D	2
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

(ハ) 選択科目

TOEIC講座A	2	TOEIC講座B	2	TOEIC講座C	2	TOEIC講座D	2	現代の経済	2
九州の食	2	海外語学研修	4	プロジェクト型インターンシップ	4	フードビジネス論	2	海外フードビジネス研修	4
ファイナンス入門	2	簿記会計の基礎	2	簿記入門	2	基礎数学	2	化学Ⅰ	2
生物学Ⅰ	2	生物学Ⅱ	2	住居計画	2	マルチメディア概論	2	ソーシャルデザイン概論	2
企画デザイン演習Ⅰ	4	農業経済学	2	流通ビジネス論	2	財務諸表分析	2	マーケティング論	2
地域マーケティング論	2	心理学概論	2	食品科学	2	食品衛生学	2	微生物学	2
6次産業化概論	2	アジア経済論	2	アジア文化論	2	業務系施設インテリア概論	2	住居設備	2
ブランドデザイン演習	4	Webデザイン演習	4	ロジスティクス論	2	マルチメディア論	2	eコマース論	2
マーケティング戦略論	2	観光データサイエンス	2	コミュニティ・ビジネス論	2	地域デジタルマーケティング	2	健康心理学	2
フードツーリズム論	2	現代アジア事情	2	空間設計概論	2	企画デザイン論	2	九州地域学	2
異文化コミュニケーション論	2	クリティカルシンキング	2	経営学入門	2	マーケティング入門	2	情報リテラシー	2
地域共創論	2	実践プレゼンテーション	2	地域資源論	2	社会学Ⅰ	2	社会学Ⅱ	2
国際関係論	2	地域政策論Ⅰ	2	地域政策論Ⅱ	2	経済政策	2	地域産業論	2
地域サービス産業論	2	地域流通業論	2	地域メディア論	2	社会政策	2	地域農産業論	2
地域海洋産業論	2	地域食産業論	2	戦略マネジメント論	2	ビジネスシステム論	2	広報・PR論	2
地域文化論	2								

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

アカデミック日本語Ⅰ (読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅱ (読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅰ (聞く・話す)	1	アカデミック日本語Ⅱ (聞く・話す)	1	実践アカデミック日本語 (読む・書く)	1
実践アカデミック日本語 (聞く・話す)	1	ビジネス日本語	1	グローバル日本語	1				

(ロ) 日本事情

日本の歴史ⅠA	1	日本の歴史ⅠB	1	日本の歴史ⅡA	1	日本の歴史ⅡB	1	日本の文化ⅠA	1
日本の文化ⅠB	1	日本の文化ⅡA	1	日本の文化ⅡB	1	日本の政治経済ⅠA	1	日本の政治経済ⅠB	1
日本の政治経済ⅡA	1	日本の政治経済ⅡB	1	一般日本事情ⅠA	1	一般日本事情ⅠB	1	一般日本事情ⅡA	1
一般日本事情ⅡB	1								

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術(情報 通信技術を含む)	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅱ	2	社会科教育法	4
公民科教育法	4	教科指導法Ⅰ(社会)	2	教科指導法Ⅰ(公民)	2	教科指導法Ⅱ(社会)	2	学校発達心理学	2
同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2	特別な教育的ニーズの 理解とその支援	2		

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第6

理工学部の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 情報科学科

○情報技術コース

(イ) 必修科目

情報リテラシー	2	プログラミング入門	2	プログラミング基礎Ⅰ	2	基礎数学	2	プログラミング基礎Ⅱ	2
計算機構成論Ⅰ	2	データ構造とアルゴリズムⅠ	2	データ構造とアルゴリズムⅠ 演習	2	ハードウェア設計Ⅰ	2	ハードウェア設計Ⅱ	2
ハードウェア実験Ⅰ	2	組込みソフトウェア演習	2	AIプログラミング演習	2	情報科学探求Ⅰ	2	情報科学探求Ⅱ	2
卒業研究	6								

(ロ) 選択科目

線形代数Ⅰ	2	微分積分Ⅰ	2	線形代数Ⅱ	2	基礎物理	2	融合理工学導入	1
融合理工学基礎A	1	融合理工学基礎B	1	デザインエンジニアリング	2	プロダクトデザイン基礎	1	プロダクトデザイン演習	1
人間中心設計	1	WEBデザイン	1	アプリデザイン	1	映像表現	1	メディアアート	1
機械工学概論	2	離散数学Ⅰ	2	離散数学Ⅱ	2	微分積分Ⅱ	2	微分方程式	2
融合理工学応用A	1	融合理工学応用B	1	融合プロジェクトⅠ	2	融合プロジェクトⅡ	2	コンピュータグラフィックス基礎	2
情報処理技術Ⅰ	2	情報処理技術Ⅱ	2	日本語表現法	2	情報理論	2	コンピュータネットワーク	2
物理学	2	電気電子工学概論	2	プログラミング言語とコンパイラ	2	オペレーティングシステム	2	ゲームプログラミング演習	1
計算機構成論Ⅱ	2	ニューラルネットワーク入門	2	データ分析演習	2	確率統計	2	初等幾何学	2
離散数学Ⅲ	2	離散数学Ⅳ	2	統計学	2	ベクトル解析	2	プロジェクトデザイン管理	4
技術者倫理	2	知的財産権	2	インターンシップ	2	融合プロジェクトⅢ	4	コンピュータグラフィックス応用	2
情報と職業	2	実践情報科学演習	2	ゼミナール・サポーター	2	情報セキュリティ	2	経営情報学	2
情報システム論	2	データ構造とアルゴリズムⅡ	2	オブジェクト指向設計	2	Webプログラミング演習	2	データベース	2
ソフトウェア工学	2	ハードウェア設計Ⅲ	2	ハードウェア実験Ⅱ	2	人工知能	2	パターン認識と機械学習	2
ヒューマンコンピュータインタラクション	2	マルチメディア	2	代数学Ⅰ	2	代数学Ⅱ	2	微分幾何学Ⅰ	2
微分幾何学Ⅱ	2	位相幾何学	2	位相空間論	2	複素解析	2	関数解析学	2
数値解析学	2								

○情報数理コース

(イ) 必修科目

情報リテラシー	2	プログラミング入門	2	プログラミング基礎Ⅰ	2	基礎数学	2	線形代数Ⅰ	2
微分積分Ⅰ	2	プログラミング基礎Ⅱ	2	計算機構成論Ⅰ	2	離散数学Ⅰ	2	離散数学Ⅱ	2
データ構造とアルゴリズムⅠ	2	確率統計	2	初等幾何学	2	情報科学探求Ⅰ	2	情報科学探求Ⅱ	2
卒業研究	6								

(ロ) 選択科目

線形代数Ⅱ	2	基礎物理	2	融合理工学導入	1	融合理工学基礎A	1	融合理工学基礎B	1
デザインエンジニアリング	2	プロダクトデザイン基礎	1	プロダクトデザイン演習	1	人間中心設計	1	WEBデザイン	1
アプリデザイン	1	映像表現	1	メディアアート	1	機械工学概論	2	微分積分Ⅱ	2
微分方程式	2	融合理工学応用A	1	融合理工学応用B	1	融合プロジェクトⅠ	2	融合プロジェクトⅡ	2
コンピュータグラフィックス基礎	2	情報処理技術Ⅰ	2	情報処理技術Ⅱ	2	日本語表現法	2	情報理論	2
コンピュータネットワーク	2	物理学	2	電気電子工学概論	2	データ構造とアルゴリズムⅠ 演習	2	プログラミング言語とコンパイラ	2
オペレーティングシステム	2	ゲームプログラミング演習	1	ハードウェア設計Ⅰ	2	ハードウェア設計Ⅱ	2	ハードウェア実験Ⅰ	2
組込みソフトウェア演習	2	計算機構成論Ⅱ	2	AIプログラミング演習	2	ニューラルネットワーク入門	2	データ分析演習	2
離散数学Ⅲ	2	離散数学Ⅳ	2	統計学	2	ベクトル解析	2	プロジェクトデザイン管理	4
技術者倫理	2	知的財産権	2	インターンシップ	2	融合プロジェクトⅢ	4	コンピュータグラフィックス応用	2
情報と職業	2	実践情報科学演習	2	ゼミナール・サポーター	2	情報セキュリティ	2	経営情報学	2
情報システム論	2	データ構造とアルゴリズムⅡ	2	オブジェクト指向設計	2	Webプログラミング演習	2	データベース	2
ソフトウェア工学	2	ハードウェア設計Ⅲ	2	ハードウェア実験Ⅱ	2	人工知能	2	パターン認識と機械学習	2
ヒューマンコンピュータインタラクション	2	マルチメディア	2	代数学Ⅰ	2	代数学Ⅱ	2	微分幾何学Ⅰ	2
微分幾何学Ⅱ	2	位相幾何学	2	位相空間論	2	複素解析	2	関数解析学	2
数値解析学	2								

(2) 機械電気創造工学科

(イ) 必修科目

基礎数学	2	基礎物理	2	線形代数Ⅰ	2	微分積分Ⅰ	2	情報リテラシー	2
技術者倫理	2	機電工学探究	2	卒業研究	6	物理実験	2	機電数学	2
機械四力学基礎	2	電気回路Ⅰ	2	CAD基礎	2	物理学	2	機電工学基礎	2
機電プログラミング	2	メカトロニクス	2						

(ロ) 選択科目

線形代数Ⅱ	2	プログラミング入門	2	プログラミング基礎Ⅰ	2	微分積分Ⅱ	2	微分方程式	2
知的財産権	2	インターンシップ	2	融合理工学導入	1	融合理工学基礎A	1	融合理工学基礎B	1
融合理工学応用A	1	融合理工学応用B	1	総合プロジェクトⅠ	2	融合プロジェクトⅡ	2	融合プロジェクトⅢ	4
デザインエンジニアリング	2	プロダクトデザイン基礎	1	プロダクトデザイン演習	1	人間中心設計	1	WEBデザイン	1
アプリデザイン	1	映像表現	1	メディアアート	1	コンピュータグラフィックス基礎	2	コンピュータグラフィックス応用	2
エンジニアスキル	2	工業概論	2	材料加工	2	生物育成	2	メカトロニクス実習	2
電気工事実習	2	職業指導	4	微分積分演習	2	解析幾何学	2	品質管理	2
機械工学実験	2	制御工学	2	AIプログラミング	2	AIリテラシー	2	機械力学	2
材料力学Ⅰ	2	材料力学Ⅱ	2	エネルギー学Ⅰ	2	エネルギー学Ⅱ	2	流体力学	2
材料力学Ⅲ	2	伝熱工学	2	エネルギー変換工学	2	洋上風力	1	環境エネルギー工学	1
流体機械	1	機械製図	2	3Dモデリング	2	機械加工学	2	機械工作法	2
機械材料	2	機械加工実習	2	機械工学シミュレーション	2	ロボット機構学	2	設計製図	2
機械・ロボット設計	2	電気回路Ⅱ	2	電子回路	2	電磁気学Ⅰ	2	電気電子基礎実験Ⅰ	2
電磁気学Ⅱ	2	電気電子計測Ⅰ	2	デジタル回路	1	電気電子基礎実験Ⅱ	2	電気回路Ⅲ	2
通信システム工学	2	電気電子計測Ⅱ	2	電磁気学Ⅲ	2	電気エネルギー概論	2	電気機器Ⅰ	2
電力発生変換工学	2	電力システム工学	2	高電圧工学	2	電気機器Ⅱ	2	電気法規及び施設管理	2
パワーエレクトロニクス	2	電気工学実験	2	電子物性Ⅰ	2	超電導工学	2	電子物性Ⅱ	2
半導体デバイス工学Ⅰ	2	半導体デバイス工学Ⅱ	2	電子デバイス工学実験	2	集積回路	1	光通信システム工学	2
デジタル信号処理	2								

(3) スマートコミュニケーション工学科

(イ) 必修科目

プロジェクト基礎	2	PBL入門	2	PBL基礎Ⅰ	2	PBL基礎Ⅱ	2	PBL応用Ⅰ	2
PBL応用Ⅱ	2	事例研究	2	情報リテラシー	2	基礎数学	2	技術者倫理	2
データサイエンス基礎	2	科学コミュニケーション	2	CAD入門	2	機械工学概論	2	電気工学概論	2
デジタルコミュニケーション プログラミング	2	科学実験	2	品質管理Ⅰ	2	電気回路入門	2	シミュレーションプログラ ミング	2
デジタルコントロール	2	ロボット学入門	2	電子回路入門	2	電気電子計測	2	デジタル回路	2
デザイン思考	2								

(ロ) 選択科目

社会実装ラボ	4	プログラミング入門	2	プログラミング基礎Ⅰ	2	基礎物理	2	微分積分Ⅰ	2
線形代数Ⅰ	2	微分積分Ⅱ	2	知的財産権	2	微分方程式	2	線形代数Ⅱ	2
インターンシップ	2	コンピュータ概論	2	デジタルものづくり	2	テクニカルライティング	2	AIコミュニケーションツール	2
ロボットデザインⅠ	2	創造設計演習	2	情報セキュリティ	2	モバイルコミュニケーション	2	ロボットデザインⅡ	2
科学技術英語	2	グローバルコミュニケーション	2	カーボンニュートラル概論	2	国際社会課題・SDGs	2	電力グリッド工学Ⅰ	2
電力グリッド工学Ⅱ	2	地球環境学	2	エネルギーマネジメント 工学Ⅰ	2	エネルギーマネジメント 工学Ⅱ	2	システムインテグレーション	2
防災工学	2	人間工学	2	データ解析	2	AIアシスタントプログラ ミング	2	品質管理Ⅱ	2
FAシステム	2	応用データ解析	2	力学発展	2	創造グループ基礎演習	2	AIリテラシー	2
創造グループ応用演習	2	現代自然科学	2	平面構成	2	デザイン概論	2	立体構成	2
美術概論	2	ユニバーサルデザイン論	2	色彩学	2	ビジネス開発入門	2	マーケティング入門	2
流通入門	2	ベンチャービジネス論	2	国際経営戦略論	2	技術経営論	2	広告論	2
融合理工学導入	1	融合理工学基礎A	1	融合理工学基礎B	1	融合理工学応用A	1	融合理工学応用B	1
融合プロジェクトⅠ	2	融合プロジェクトⅡ	2	融合プロジェクトⅢ	4	デザインエンジニアリング	2	プロダクトデザイン基礎	1
プロダクトデザイン演習	1	人間中心設計	1	WEBデザイン	1	アプリデザイン	1	映像表現	1
メディアアート	1	コンピュータグラフィックス基礎	2	コンピュータグラフィックス応用	2				

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

アカデミック日本語Ⅰ (読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅱ (読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅰ (聞く・話す)	1	アカデミック日本語Ⅱ (聞く・話す)	1	実践アカデミック日本語 (読む・書く)	1
実践アカデミック日本語 (聞く・話す)	1	ビジネス日本語	1	グローバル日本語	1				

(ロ) 日本事情

日本の歴史ⅠA	1	日本の歴史ⅠB	1	日本の歴史ⅡA	1	日本の歴史ⅡB	1	日本の文化ⅠA	1
日本の文化ⅠB	1	日本の文化ⅡA	1	日本の文化ⅡB	1	日本の政治経済ⅠA	1	日本の政治経済ⅠB	1
日本の政治経済ⅡA	1	日本の政治経済ⅡB	1	一般日本事情ⅠA	1	一般日本事情ⅠB	1	一般日本事情ⅡA	1
一般日本事情ⅡB	1								

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術(情報通信技術を含む)	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅱ	2	数学科教育法	4
情報科教育法	4	工業科教育法	4	技術科教育法	4	教科指導法Ⅰ(数学)	2	教科指導法Ⅰ(情報)	2
教科指導法Ⅰ(工業)	2	教科指導法Ⅰ(技術)	2	教科指導法Ⅱ(数学)	2	教科指導法Ⅱ(技術)	2	学校発達心理学	2
同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2	特別な教育的ニーズの理解とその支援	2		

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第6の2

生命科学部生命科学科の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

○応用化学コース

(イ) 必修科目

化学実験Ⅰ (コンピュータ活用を含む)	1	生物学実験Ⅰ (コンピュータ活用を含む)	1	生命科学概論	1	化学Ⅰ	2	化学Ⅱ	2
生物学Ⅰ	2	生物学Ⅱ	2	情報科学Ⅰ	2	情報科学Ⅱ	2	環境科学Ⅰ	2
有機化学Ⅰ	2	無機化学Ⅰ	2	物理化学Ⅰ	2	分析化学Ⅰ	2	高分子化学	2
生化学Ⅰ	2	化学実験Ⅱ (コンピュータ活用を含む)	1	生物学実験Ⅱ (コンピュータ活用を含む)	1	ブレ卒研実験	2	応用化学実験	2
ブレ卒研ゼミナール	2	卒業研究	6						

(ロ) 選択必修科目

有機化学Ⅱ	2	無機化学Ⅱ	2	物理化学Ⅱ	2	分析化学Ⅱ	2	生化学Ⅱ	2
有機化学Ⅲ	2	有機機能材料	2	無機機能材料	2	機器分析	2	複合材料	2
薬学Ⅰ	2	薬学Ⅱ	2						

(ハ) 選択科目

地球科学	2	基礎数学	2	基礎物理	2	物理学	2	食品科学	2
分子生物学Ⅰ	2	分子生物学Ⅱ	2	微生物学	2	植物学	2	化粧品基礎科学	2
食品衛生学	2	医学概論	2	化学と安全	2	化学数学	2	人口知能概論	2
地球科学実験 (コンピュータ活用を含む)	2	物理実験 (コンピュータ活用を含む)	2	微積分学	2	化粧品製剤学	2	化粧品機能学	2
生体工学	2	医用工学	2	食品機能学	2	環境科学Ⅱ	2	実践キャリア演習	1
プログラミング入門	2								

○生命科学コース

(イ) 必修科目

化学実験Ⅰ (コンピュータ活用を含む)	1	生物学実験Ⅰ (コンピュータ活用を含む)	1	生命科学概論	1	化学Ⅰ	2	化学Ⅱ	2
生物学Ⅰ	2	生物学Ⅱ	2	情報科学Ⅰ	2	情報科学Ⅱ	2	環境科学Ⅰ	2
生命科学実験	2	生化学Ⅰ	2	生化学Ⅱ	2	分子生物学Ⅰ	2	分子生物学Ⅱ	2
細胞生物学	2	有機化学Ⅰ	2	化学実験Ⅱ (コンピュータ活用を含む)	1	生物学実験Ⅱ (コンピュータ活用を含む)	1	ブレ卒研実験	2
ブレ卒研ゼミナール	2	卒業研究	6						

(ロ) 選択必修科目

動物学	2	微生物学	2	化粧品基礎科学	2	遺伝子工学	2	細胞工学	2
薬学Ⅰ	2	薬学Ⅱ	2	化粧品機能学	2	生命情報科学	2	生体工学	2
医用工学	2	免疫学	2						

(ハ) 選択科目

地球科学	2	基礎数学	2	基礎物理	2	物理学	2	植物学	2
分析化学Ⅰ	2	物理化学Ⅰ	2	無機化学Ⅰ	2	食品科学	2	食品衛生学	2
遺伝学	2	水産学Ⅰ	2	医学概論	2	化学と安全	2	化学数学	2
人工知能概論	2	地球科学実験 (コンピュータ活用を含む)	2	物理実験 (コンピュータ活用を含む)	2	微積分学	2	化粧品製剤学	2
食品機能学	2	栄養化学	2	食品・バイオ分析学	2	環境科学Ⅱ	2	実践キャリア演習	1
プログラミング入門	2								

○応用生物学コース

(イ) 必修科目

化学実験Ⅰ (コンピュータ活用を含む)	1	生物学実験Ⅰ (コンピュータ活用を含む)	1	生命科学概論	1	化学Ⅰ	2	化学Ⅱ	2
生物学Ⅰ	2	生物学Ⅱ	2	情報科学Ⅰ	2	情報科学Ⅱ	2	環境科学Ⅰ	2
植物学	2	微生物学	2	水産学Ⅰ	2	生化学Ⅰ	2	分子生物学Ⅰ	2
有機化学Ⅰ	2	化学実験Ⅱ (コンピュータ活用を含む)	1	生物学実験Ⅱ (コンピュータ活用を含む)	1	応用生物学実験・実習	2	ブレ卒研実験	2
ブレ卒研ゼミナール	2	卒業研究	6						

(ロ) 選択必修科目

動物学	2	生化学Ⅱ	2	分子生物学Ⅱ	2	細胞生物学	2	遺伝子工学	2
発酵学	2	細胞工学	2	食品・バイオ分析学	2	生命情報科学	2	水産学Ⅱ	2
免疫学	2	植物生産科学	2						

(ハ) 選択科目

地球科学	2	基礎数学	2	基礎物理	2	物理学	2	食品衛生学	2
食品加工・保蔵学	2	6次産業化概論	2	化粧品基礎科学	2	食品科学	2	遺伝学	2
医学概論	2	化学と安全	2	化学数学	2	人工知能概論	2	地球科学実験 (コンピュータ活用を含む)	2
物理実験 (コンピュータ活用を含む)	2	微積分学	2	栄養化学	2	薬学Ⅰ	2	食品機能学	2
食品開発論	2	HACCP論	2	食品微生物制御学	2	環境科学Ⅱ	2	実践キャリア演習	1
プログラミング入門	2								

○食品科学コース

(イ) 必修科目

化学実験Ⅰ (コンピュータ活用を含む)	1	生物学実験Ⅰ (コンピュータ活用を含む)	1	生命科学概論	1	化学Ⅰ	2	化学Ⅱ	2
生物学Ⅰ	2	生物学Ⅱ	2	情報科学Ⅰ	2	情報科学Ⅱ	2	環境科学Ⅰ	2
食品科学	2	食品衛生学	2	食品加工・保蔵学	2	微生物学	2	有機化学Ⅰ	2
化学実験Ⅱ (コンピュータ活用を含む)	1	生物学実験Ⅱ (コンピュータ活用を含む)	1	食品科学実験・実習	2	プレ卒研実験	2	食品・バイオ分析学	2
プレ卒研ゼミナール	2	卒業研究	6						

(ロ) 選択必修科目

6次産業化概論	2	植物学	2	水産学Ⅰ	2	生化学Ⅰ	2	食品機能学	2
栄養化学	2	食品開発論	2	食品製造学	2	発酵学	2	食品微生物制御学	2
植物生産科学	2	HACCP論	2						

(ハ) 選択科目

地球科学	2	基礎数学	2	基礎物理	2	物理学	2	生化学Ⅱ	2
分子生物学Ⅰ	2	分子生物学Ⅱ	2	細胞生物学	2	化粧品基礎科学	2	遺伝学	2
動物学	2	医学概論	2	化学と安全	2	化学数学	2	人口知能概論	2
地球科学実験 (コンピュータ活用を含む)	2	物理実験 (コンピュータ活用を含む)	2	微積分学	2	遺伝子工学	2	免疫学	2
生命情報科学	2	水産学Ⅱ	2	薬学Ⅰ	2	環境科学Ⅱ	2	実践キャリア演習	1
プログラミング入門	2								

○グローバル・フードビジネス・プログラム

(イ) 必修科目

GFBの基礎	4	食と文化	2	化学Ⅰ	2	化学実験Ⅰ (コンピュータ活用を含む)	1	生物学実験Ⅰ (コンピュータ活用を含む)	1
生物学Ⅰ	2	GFBの展開・応用	4	フードシステム論	2	GFBの実践	4	食品ビジネス研究Ⅰ	4
食品ビジネス研究Ⅱ	4	卒業論文ゼミナール	8						

(ロ) 選択必修科目

PBL A	2	PBL B	2	PBL C	2	PBL D	2
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

(ハ) 選択科目

TOEIC講座A	2	TOEIC講座B	2	TOEIC講座C	2	TOEIC講座D	2	プロジェクト型インターンシップ	4
現代の経済	2	九州の食	2	海外語学研修	4	フードビジネス論	2	海外フードビジネス研修	4
ファイナンス入門	2	簿記会計の基礎	2	簿記入門	2	経営学入門	2	マーケティング入門	2
情報リテラシー	2	農業経済学	2	流通ビジネス論	2	財務諸表分析	2	マーケティング論	2
地域マーケティング論	2	心理学概論	2	ロジスティクス論	2	マルチメディア論	2	eコマース論	2
マーケティング戦略論	2	観光データサイエンス	2	広告実践論	2	ビジネスシステム論	2	コミュニティ・ビジネス論	2
地域デジタルマーケティング	2	健康心理学	2	基礎数学	2	地域食産業論	2	地域海洋産業論	2
フードツーリズム論	2	クリティカルシンキング	2	異文化コミュニケーション論	2	アジア経済論	2	実践プレゼンテーション	2
国際関係論	2	アジア文化論	2	現代アジア事情	2	住居計画	2	マルチメディア概論	2
ソーシャルデザイン概論	2	企画デザイン演習Ⅰ	4	業務系施設インテリア概論	2	住居設備	2	ブランドデザイン演習	4
Webデザイン演習	4	空間設計概論	2	企画デザイン論	2	生物学Ⅱ	2	化学Ⅱ	2
食品科学	2	食品衛生学	2	微生物学	2	6次産業化概論	2	食品加工・保蔵学	2
植物学	2	水産学Ⅰ	2	化学実験Ⅱ (コンピュータ活用を含む)	1	生物学実験Ⅱ (コンピュータ活用を含む)	1	食品開発論	2
食品製造学	2	食品科学実験・実習	2	食品・バイオ分析学	2	食品機能学	2	食品微生物制御学	2
植物生産科学	2	発酵学	2	栄養化学	2	水産学Ⅱ	2		

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

アカデミック日本語Ⅰ (読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅱ (読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅰ (聞く・話す)	1	アカデミック日本語Ⅱ (聞く・話す)	1	実践アカデミック日本語 (読む・書く)	1
実践アカデミック日本語 (聞く・話す)	1	ビジネス日本語	1	グローバル日本語	1				

(ロ) 日本事情

日本の歴史ⅠA	1	日本の歴史ⅠB	1	日本の歴史ⅡA	1	日本の歴史ⅡB	1	日本の文化ⅠA	1
日本の文化ⅠB	1	日本の文化ⅡA	1	日本の文化ⅡB	1	日本の政治経済ⅠA	1	日本の政治経済ⅠB	1
日本の政治経済ⅡA	1	日本の政治経済ⅡB	1	一般日本事情ⅠA	1	一般日本事情ⅠB	1	一般日本事情ⅡA	1
一般日本事情ⅡB	1								

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術(情報 通信技術を含む)	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅱ	2	理科教育法	4
教科指導法Ⅰ(理科)	2	教科指導法Ⅱ(理科)	2	学校発達心理学	2	同和教育論	2	教育社会学	2
教職特講	2	特別な教育的ニーズの 理解とその支援	2						

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第6の3

建築都市工学部の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 建築学科

○建築基本コース

(イ) 必修科目

基礎数学	2	基礎物理	2	建築都市入門	2	建築数学Ⅰ	2	物理	2
物理演習	2	日本建築史	2	建築設計製図Ⅰ	2	建築設計製図Ⅱ	2	住宅計画	2
熱環境計画	2	建築構法	2	建築構造力学Ⅰ	2	建築材料Ⅰ	2	建築汎論Ⅰ	2
建築汎論Ⅱ	2	建築数学Ⅱ	2	建築設計製図Ⅲ	2	建築設計製図Ⅳ	2	施設計画	2
西洋建築史	2	空気環境計画	2	建築設備計画	2	音環境計画	2	建築構造力学Ⅱ	2
建築構造力学Ⅲ	2	建築材料Ⅱ	2	鉄筋コンクリート構造	2	建築学特論Ⅰ	2	建築学特論Ⅱ	2
建築法規	2	建築設計製図Ⅴ	2	鉄骨構造	2	建築施工Ⅰ	2	卒業研究	6

(ロ) 選択科目

工業概論	2	建築デザイン	2	建築構造力学Ⅱ演習	2	建築構造力学Ⅲ演習	2	建築製図Ⅰ	2
基礎測量学	2	グリーンインフラ論	2	プログラミング入門	2	職業指導	4	空間構成演習	2
建築英語	2	応用建築設計製図	2	建築デジタル演習	2	都市計画	2	近代建築史	2
保存修景計画	2	地域ストック活用論	2	建築環境工学演習Ⅰ	2	建築環境工学演習Ⅱ	2	建築設備設計	2
建築環境工学実験	2	建築施工Ⅱ	2	構造設計法	2	防災工学	2	木質構造	2
基礎・地盤工学	2	材料構造実験	2	建築製図Ⅱ	2				

○建築総合コース

(イ) 必修科目

基礎数学	2	基礎物理	2	建築都市入門	2	建築数学Ⅰ	2	物理	2
物理演習	2	日本建築史	2	建築設計製図Ⅰ	2	建築設計製図Ⅱ	2	住宅計画	2
熱環境計画	2	建築構法	2	建築構造力学Ⅰ	2	建築材料Ⅰ	2	建築汎論Ⅰ	2
建築汎論Ⅱ	2	建築数学Ⅱ	2	建築設計製図Ⅲ	2	建築設計製図Ⅳ	2	施設計画	2
西洋建築史	2	空気環境計画	2	建築設備計画	2	音環境計画	2	建築構造力学Ⅱ	2
建築構造力学Ⅲ	2	建築材料Ⅱ	2	鉄筋コンクリート構造	2	建築学特論Ⅰ	2	建築学特論Ⅱ	2
建築法規	2	技術者倫理	2	建築英語	2	建築設計製図Ⅴ	2	鉄骨構造	2
建築施工Ⅰ	2	卒業研究	6						

(ロ) 選択科目

工業概論	2	建築デザイン	2	建築構造力学Ⅱ演習	2	建築構造力学Ⅲ演習	2	建築製図Ⅰ	2
基礎測量学	2	グリーンインフラ論	2	プログラミング入門	2	インターンシップ	2	職業指導	4
空間構成演習	2	応用建築設計製図	2	建築デジタル演習	2	都市計画	2	近代建築史	2
保存修景計画	2	地域ストック活用論	2	建築環境工学演習Ⅰ	2	建築環境工学演習Ⅱ	2	建築設備設計	2
建築環境工学実験	2	建築施工Ⅱ	2	構造設計法	2	防災工学	2	木質構造	2
基礎・地盤工学	2	材料構造実験	2	建築製図Ⅱ	2				

(2) 住居・インテリア学科

(イ) 必修科目

基礎数学	2	基礎物理	2	建築都市入門	2	空間設計基礎実習	2	空間設計概論	2
住居概論	2	住居設計実習	2	住居計画	2	業務系施設インテリア概論	2	実測・製図実習	2
設計支援ソフト実習Ⅰ	2	住居数理	2	家具・プロダクト概論	2	住宅構法概論	2	建築材料	2
住居環境入門	2	業務系施設インテリア設計実習	2	業務系施設インテリア計画	2	住居系複合施設インテリア設計実習	2	住居系複合施設インテリア計画	2
建築法規	2	近代建築史	2	色彩・照明論	2	建築・施設計画	2	構造力学Ⅰ	2
構造力学Ⅱ	2	住居設備	2	都市計画	2	建築施工	2	各種構造	2
卒業研究	6								

(ロ) 選択必修科目

設計基幹スタジオ実習Ⅰ	2	設計基幹スタジオ実習Ⅱ	2	設計基幹スタジオ特論Ⅰ	4	設計基幹スタジオ特論Ⅱ	4	空間デザイン論	2
商環境デザイン論	2	住生活デザイン論	2	再生デザイン論	2	基盤スタジオ実習Ⅰ	2	基盤スタジオ実習Ⅱ	2
基盤スタジオ特論Ⅰ	4	基盤スタジオ特論Ⅱ	4	家具空間デザイン論	2	地域貢献実践論	2	居住環境デザイン論	2
構造デザイン論	2	総合プログラム実習Ⅰ	2	総合プログラム実習Ⅱ	2	総合プログラム特論Ⅰ	4	総合プログラム特論Ⅱ	4
総合プログラム講座	2								

(ハ) 選択科目

情報処理入門	2	フィールドツアー実習	2	工業概論	2	住居・インテリアキャリア形成	2	福祉住環境	2
設計支援ソフト実習Ⅱ	2	地域づくり論	2	デザインサーベイ演習	2	建築史	2	職業指導	4
プログラミング入門	2	建築デザイン	2	保存修景計画	2	基礎測量学	2	グリーンインフラ論	2
建築製図Ⅰ	2	プレゼンテーション実習	2	インテリア製図	2	インテリアコーディネート論	2	住宅エクステリア論	2
不動産学入門	2	照明ライティング論	2	建築製図Ⅱ	2				

(3)都市デザイン工学科

(イ)必修科目

基礎数学	2	基礎物理	2	基礎測量学	2	建築都市入門	2	グリーンインフラ論	2
構造力学Ⅰ	2	地盤工学Ⅰ	2	水理学Ⅰ	2	測量学実習	2	建設材料工学	2
設計製図Ⅰ	2	基礎環境学	2	建設材料実験	2	構造力学Ⅱ	2	地盤工学Ⅱ	2
水理学Ⅱ	2	建設CAD演習	2	まちづくり学	2	景観デザイン	2	環境水理実習	2
応用ゼミナール	2	技術者倫理	2	コンクリート構造工学Ⅰ	2	卒業研究	6	卒業実習	4

(ロ)選択科目

情報処理演習	2	植物学	2	工業概論	2	構造力学演習Ⅰ	2	地盤工学演習Ⅰ	2
水理学演習Ⅰ	2	建設材料工学演習	2	応用測量学	2	建築設計製図	2	キャリア探求	2
設計製図Ⅱ	2	都市防災学Ⅰ	2	都市防災学Ⅱ	2	まちづくり学演習	2	生態学	2
応用生態学	2	プログラミング入門	2	インターンシップ	2	建築製図Ⅰ	2	建築デザイン	2
保存修景計画	2	職業指導	4	河川工学	2	土木統計学	2	構造力学演習Ⅱ	2
地盤工学演習Ⅱ	2	水理学演習Ⅱ	2	構造力学Ⅲ	2	建築生産	2	建築法規	2
コンクリート構造工学Ⅱ	2	土木デザイン実習	2	橋梁工学	2	道路工学	2	水環境工学	2
都市防災学演習	2	景観デザイン演習	2	植物生態学演習	2	緑化学	2	環境法規	2
建築製図Ⅱ	2	施工管理学	2	耐震工学	2	海岸港湾工学	2		

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

アカデミック日本語Ⅰ (読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅱ (読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅰ (聞く・話す)	1	アカデミック日本語Ⅱ (聞く・話す)	1	実践アカデミック日本語 (読む・書く)	1
実践アカデミック日本語 (聞く・話す)	1	ビジネス日本語	1	グローバル日本語	1				

(ロ) 日本事情

日本の歴史ⅠA	1	日本の歴史ⅠB	1	日本の歴史ⅡA	1	日本の歴史ⅡB	1	日本の文化ⅠA	1
日本の文化ⅠB	1	日本の文化ⅡA	1	日本の文化ⅡB	1	日本の政治経済ⅠA	1	日本の政治経済ⅠB	1
日本の政治経済ⅡA	1	日本の政治経済ⅡB	1	一般日本事情ⅠA	1	一般日本事情ⅠB	1	一般日本事情ⅡA	1
一般日本事情ⅡB	1								

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術(情報 通信技術を含む)	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	工業科教育法	4	教科指導法Ⅰ(工業)	2
学校発達心理学	2	同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2	特別な教育的ニーズの 理解とその支援	2

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第7

芸術学部の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 芸術表現学科

○美術専攻

(イ)必修科目

絵画・立体造形概論	2	西洋美術史	2	日本美術史	2	芸術表現演習	2	デッサン	2
絵画基礎	2	日本画基礎	2	立体造形基礎	2	アーティスト実践論	2	美術Ⅰ	4
美術Ⅱ	4	美術実践Ⅰ	2	美術実践Ⅱ	2	美術Ⅲ	4	美術Ⅳ	4
アーティスト実践演習	2	美術実践Ⅲ	2	美術実践Ⅳ	2	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4
美術実践Ⅴ	2	美術実践Ⅵ	2						

(ロ)選択必修科目

色彩学	2	絵画演習	2	塑造演習	2	デッサン基礎演習	2	日本画実習	2
デッサン実習	2	絵画実習	2	西洋絵画史	2	写真演習	2	フィギュア演習	2
ペーパークラフト演習	2	CG演習A	2	CG演習B	2	材料実習	2	ドローイング基礎実習	2
版画基礎実習	2	溶接実習	2	インスタレーション実習	2				

(ハ)選択科目

メディア芸術概論	2	美術概論	2	QUEST演習	2	コンピュータ基礎演習	2	図学製図基礎演習	2
平面構成	2	立体構成	2	アニメーション芸術論	2	サウンド芸術概論	2	映像芸術表現論	2
工芸史	2	サウンドアート演習	2	学外演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	マテリアルデザイン演習	2
マンガ芸術論	2	メディアアート表現論	2	キャリア開発A	2	キャリア開発B	2	プロダクトデザイン基礎演習	2

○メディア芸術専攻

(イ)必修科目

メディア芸術概論	2	芸術表現演習	2	映像表現実習	2	デジタル表現実習	2	デジタルペイント実習	2
アニメーション芸術論	2	映像芸術表現論	2	メディアアート表現論	2	マンガ芸術論	2	メディア芸術演習A	4
メディア芸術演習B	4	メディア芸術演習C	4	メディア芸術演習D	4	メディア芸術演習E	4	メディア芸術応用演習Ⅰ	4
メディア芸術応用演習Ⅱ	4	プレゼンテーションデザイン実習	2	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4		

(ロ)選択必修科目

デザイン史	2	視覚心理学	2	美術概論	2	コンピュータ基礎演習	2	デッサン	2
グラフィックデザイン	2	サウンド芸術概論	2	色彩学	2	サウンドアート演習	2	企画コンセプト演習	2
映像芸術制作実習	2	アニメーション制作実習	2	2Dアニメーション制作実習	2	メディア芸術特別論	2	メディア芸術特別実習	2
インスタレーション実習	2	ゲーム開発実習	2	サウンドアート実習	2				

(ハ)選択科目

コンピュータ概論	2	西洋美術史	2	日本美術史	2	絵画・立体造形概論	2	QUEST演習	2
デッサン基礎演習	2	絵画演習	2	塑造演習	2	平面構成	2	立体構成	2
特撮・VFX概論	2	現代写真論	2	映像史	2	キャリア開発A	2	フィギュア演習	2
学外演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	写真演習	2	ドローイング基礎実習	2	意匠・商標法	2
キャリア開発B	2								

(2) 写真・映像メディア学科

○写真専攻

(イ)必修科目

写真学概論	2	写真史	2	写真・映像メディア演習	2	映像表現実習Ⅰ	2	写真基礎実習Ⅰ	2
写真基礎実習Ⅱ	2	写真芸術論	2	写真制作論B	2	写真表現実習A	2	写真表現実習B	2
写真表現実習C	2	写真表現実習D	2	制作実習A	2	制作実習B	2	写真制作基礎実習B	2
ゼミナールⅠ	4	ゼミナールⅡ	4	写真制作実習A	2	写真制作実習B	2	写真制作実習C	2
写真制作実習D	2	写真制作実習E	2	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4		

(ロ)選択必修科目

写真表現論	2	CG演習A	2	CG演習B	2	デッサン	2	メディア基礎実習	2
写真基礎実習A	2	写真基礎実習B	2	平面構成	2	立体構成	2	写真制作論A	2
写真制作論C	2	写真制作基礎実習A	2	写真創作演習A	2	写真創作演習B	2		

(ハ)選択科目

マルチメディア概論	2	映像メディア概論	2	映像論	2	色彩学	2	西洋美術史	2
日本美術史	2	美術概論	2	QUEST演習	2	3DCG演習	2	コンピュータ基礎演習	2
デッサン基礎演習	2	絵画演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	塑造演習	2	写真制作論D	2
映像史	2	現代写真論	2	サウンド芸術概論	2	サウンドアート演習	2	学外演習	2
写真クリエイティブ実習A	2	写真クリエイティブ実習B	2	写真クリエイティブ実習C	2	写真クリエイティブ実習D	2	写真作家論A	2
写真作家論B	2	キャリア開発A	2	キャリア開発B	2	映像表現実習Ⅱ	2		

○映像メディア専攻

(イ)必修科目

マルチメディア概論	2	映像メディア概論	2	3DCG演習	2	クリエイティブ演習A	2	写真・映像メディア演習	2
メディア基礎実習	2	映像基礎実習A	2	映像基礎実習B	2	インスタレーション実習A	2	デジタルコンテンツデザイン	2
映像史	2	音響デザイン	2	番組制作概論	2	クリエイティブ演習B I	1	クリエイティブ演習B II	1
アニメーション実習	2	映像基礎実習C	2	映像基礎実習D	2	インスタレーション実習B	2	広告マーケティング論	2
アドバタイジング	2	ゼミナール I	4	ゼミナール II	4	卒業研究 I	4	卒業研究 II	4

(ロ)選択必修科目

写真表現論	2	CG演習A	2	CG演習B	2	デッサン	2	平面構成	2
立体構成	2	サウンド芸術概論	2	特撮・VFX概論	2	メタバースコンテンツ演習	2	3DCG実習	2
音響基礎実習	2	演技基礎実習	2	特撮・VFX実習	2	番組制作実習	2	シナリオ演習	2
3DCGモデリング演習	2	映像演出実習	2						

(ハ)選択科目

映像論	2	視覚心理学	2	色彩学	2	写真学概論	2	写真史	2
西洋美術史	2	美術概論	2	QUEST演習	2	コンピュータ基礎演習	2	デッサン基礎演習	2
塑造演習	2	アニメーション芸術論	2	映像芸術表現論	2	現代写真論	2	写真制作論A	2
サウンドアート演習	2	学外演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	メディアアート表現論	2	マンガ芸術論	2
日本美術史	2	キャリア開発A	2	キャリア開発B	2	絵画演習	2	サウンドアート実習	2

(3) ビジュアルデザイン学科

○グラフィックデザイン専攻

(イ)必修科目

グラフィックデザイン概論	2	色彩学	2	グラフィックデザイン演習 I	4	ビジュアルデザイン演習	2	図学製図基礎演習	2
タイポグラフィ実習 I	2	デッサン	2	平面構成	2	立体構成	2	グラフィックデザイン印刷演習	4
グラフィックデザイン演習 II	4	グラフィックデザイン演習 III	4	グラフィックデザイン写真演習	4	グラフィックデザイン演習 IV	4	グラフィックデザイン特別演習	4
デザイン研究	4	卒業研究 I	4	卒業研究 II	4				

(ロ)選択必修科目

ビジュアルデザイン史	2	グラフィックデザイン基礎演習	2	パッケージデザイン演習	4	グラフィックデザイン表現実習A	2	グラフィックデザイン表現実習B	2
グラフィックデザイン表現実習C	2	タイポグラフィ実習 II	2	プロモーション・企画実習	2	Webデザイン演習	4	アドバタイジングデザイン演習	4
エディトリアルデザイン演習	4	ダイアグラムデザイン演習	4	特別実習	2				

(ハ)選択科目

工芸史	2	視覚心理学	2	西洋美術史	2	美術概論	2	イラストレーションデザイン概論	2
QUEST演習	2	コンピュータ基礎演習	2	デッサン基礎演習	2	色彩計画演習A	2	カリグラフィ	2
サウンド芸術概論	2	日本美術史	2	サウンドデザイン演習	2	映像演習	2	学外演習	2
工芸デザイン基礎演習	2	意匠・商標法	2	キャリア開発A	2	キャリア開発B	2	プロダクトデザイン基礎演習	2
絵画演習	2	塑造演習	2						

○イラストレーションデザイン専攻

(イ)必修科目

イラストレーションデザイン概論	2	色彩学	2	イラストレーションデザイン演習 I	4	イラストレーションデザイン基礎演習	4	ビジュアルデザイン演習	2
色彩計画演習A	2	デッサン	2	平面構成	2	立体構成	2	イラストレーションデザイン演習 II	4
イラストレーションデザイン演習 III	4	CG実習A	2	CG実習B	2	イラストレーションデザイン演習 IV	4	イラストレーションデザイン特別演習	4
デザインブレ研究	2	デザイン研究	4	卒業研究 I	4	卒業研究 II	4		

(ロ)選択必修科目

ビジュアルデザイン史	2	視覚心理学	2	キャラクターデザイン実習	2	Webデザイン演習	4	イラストレーションデザイン写真演習	4
映像演習	2	絵画演習	2	エディトリアル演習	2	ドローイング基礎実習	2	パッケージデザイン実習	2
水墨イラストレーション実習	2	コミックイラストレーション実習	2	ファッションイラスト実習	2	マンガ実習	2		

(ハ)選択科目

工芸史	2	生産造形デザイン概論	2	西洋美術史	2	美術概論	2	グラフィックデザイン概論	2
QUEST演習	2	コンピュータ基礎演習	2	デッサン基礎演習	2	図学製図基礎演習	2	カリグラフィ	2
3D実習	2	サウンド芸術概論	2	日本美術史	2	キャリア開発A	2	サウンドデザイン演習	2
デザインの現場	2	フィギュア演習	2	学外演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	塑造演習	2
マテリアルデザイン演習	2	メディア芸術概論	2	意匠・商標法	2	キャリア開発B	2	プロダクトデザイン基礎演習	2
版画基礎実習	2	イラストレーション実践演習	4						

(4) 生活環境デザイン学科

○生産造形デザイン専攻

(イ)必修科目

生産造形デザイン概論	2	生活環境デザイン演習	2	生産造形デザイン演習ⅠA	2	生産造形デザイン演習ⅠB	4	デッサン	2
立体構成	2	平面構成	2	生産造形デザイン演習ⅡA	4	生産造形デザイン演習ⅡB	4	生産造形デザイン演習ⅡC	4
生産造形デザイン演習ⅡD	4	生産造形デザイン演習ⅢA	4	生産造形デザイン演習ⅢB	4	生産造形デザイン演習ⅢC	4	生産造形デザイン演習ⅢD	4
卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4						

(ロ)選択必修科目

工芸史	2	デザイン史	2	工芸デザイン基礎演習	2	図学製図A	2	図学製図B	2
材料加工実習A	1	材料加工実習B	1	材料加工実習C	1	材料加工実習D	1	材料加工実習E	1
テキスタイル実習A	2	プロダクトデザイン実践論	2	CG演習A	2	CG演習B	2	マテリアルデザイン演習	2
生産デザイン表示図法	2	テキスタイル実習B	2	漆芸実習A	2	漆芸実習B	2	生産造形デザイン特別実習A	2
コンセプト・クリエイティング演習	2	生産造形デザイン特別実習B	2						

(ハ)選択科目

色彩学	2	美術概論	2	西洋美術史	2	QUEST演習	2	コンピュータ基礎演習	2
デッサン基礎演習	2	塑造演習	2	ファッションデザイン論	2	日本美術史	2	インテリア建築デザイン論	2
サウンド芸術概論	2	人間工学概論	2	キャリア開発A	2	サウンドデザイン演習	2	学外演習	2
写真演習	2	絵画演習	2	色彩計画演習B	2	クラフトデザイン実習	2	溶接実習	2
意匠・商標法	2	キャリア開発B	2						

○空間演出デザイン専攻

(イ)必修科目

空間演出デザイン概論	2	生活環境デザイン演習	2	空間演出デザイン演習ⅠA	2	空間演出デザイン演習ⅠB	4	デッサン	2
平面構成	2	立体構成	2	空間演出デザイン演習ⅡA	4	空間演出デザイン演習ⅡB	4	空間演出デザイン演習ⅡC	4
空間演出デザイン演習ⅡD	4	空間演出デザイン演習ⅢA	4	空間演出デザイン演習ⅢB	4	空間演出デザイン演習ⅢC	4	空間演出デザイン演習ⅢD	4
卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4						

(ロ)選択必修科目

デザイン史	2	材料加工実習A	1	材料加工実習C	1	製図実習A	2	テキスタイル実習A	2
インテリア建築デザイン論	2	ファッションデザイン論	2	舞台空間演出論	2	色彩計画演習B	2	マテリアルデザイン演習	2
ファッションイラスト実習	2	空間演出表現実習Ⅰ	2	製図実習B	2	テキスタイル実習B	2	照明計画演習	4
コンセプト・クリエイティング演習	2	空間演出表現実習Ⅱ	2						

(ハ)選択科目

コンピュータ概論	2	色彩学	2	西洋美術史	2	美術概論	2	生産造形デザイン概論	2
QUEST演習	2	コンピュータ基礎演習	2	デッサン基礎演習	2	塑造演習	2	材料加工実習B	1
材料加工実習D	1	材料加工実習E	1	サウンド芸術概論	2	工芸史	2	日本美術史	2
CG演習A	2	CG演習B	2	キャリア開発A	2	サウンドデザイン演習	2	絵画演習	2
学外演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	写真演習	2	溶接実習	2	キャリア開発B	2
形態構造演習	4	建築生産論	2	建築法規	2	建築設計演習	4		

(5) ソーシャルデザイン学科

○情報デザイン専攻

(イ)必修科目

ソーシャルデザイン概論	2	デザイン史	2	ソーシャルデザイン演習	2	ソーシャルデザイン応用演習	2	情報デザイン演習Ⅰ	4
視覚デザイン演習	4	情報デザイン論	2	Webデザイン演習	4	デザインの現場	2	情報デザイン演習ⅡA	4
情報デザイン演習ⅡB	4	情報デザイン演習ⅢA	4	情報デザイン演習ⅢB	4	情報デザイン研究Ⅰ	4	情報デザイン研究Ⅱ	4
卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4						

(ロ)選択必修科目

コンピュータ概論	2	マルチメディア概論	2	西洋美術史	2	日本美術史	2	美術概論	2
コンピュータ基礎演習	2	企画デザイン論	2	言葉と編集	2	地域文化論	2	写真芸術論	2
映像芸術表現論	2	ブランドデザイン演習	4	地域ブランド企画演習	4	デジタルプラットフォーム	2	Webデザイン応用演習	2
データサイエンス	2	3DCG演習	2						

(ハ)選択科目

色彩学	2	イラストレーションデザイン概論	2	空間演出デザイン概論	2	QUEST演習	2	デッサン	2
平面構成	2	立体構成	2	視覚心理学	2	サウンド芸術概論	2	キャリア開発A	2
学外演習	2	絵画演習	2	塑造演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	写真演習	2
映像演習	2	サウンドデザイン演習	2	意匠・商標法	2	メディアアート表現論	2	キャリア開発B	2
パッケージデザイン実習	2								

○企画デザイン専攻

(イ)必修科目

ソーシャルデザイン概論	2	デザイン史	2	ソーシャルデザイン演習	2	ソーシャルデザイン応用演習	2	企画デザイン演習Ⅰ	4
企画デザイン論	2	ブランドデザイン演習	4	地域ブランド企画演習	4	デザインの現場	2	企画デザイン演習ⅡA	4
企画デザイン演習ⅡB	4	企画デザイン演習ⅢA	4	企画デザイン演習ⅢB	4	企画デザイン研究Ⅰ	4	企画デザイン研究Ⅱ	4
卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4						

(ロ)選択必修科目

コンピュータ概論	2	マルチメディア概論	2	西洋美術史	2	日本美術史	2	美術概論	2
コンピュータ基礎演習	2	視覚デザイン演習	4	情報デザイン論	2	言葉と編集	2	地域文化論	2
工芸史	2	生産造形デザイン概論	2	Webデザイン演習	4	デジタルプラットフォーム	2	データサイエンス	2
3DCG演習	2	パッケージデザイン実習	2						

(ハ)選択科目

色彩学	2	イラストレーションデザイン概論	2	空間演出デザイン概論	2	QUEST演習	2	デッサン	2
平面構成	2	立体構成	2	視覚心理学	2	サウンド芸術概論	2	キャリア開発A	2
学外演習	2	絵画演習	2	塑造演習	2	サウンドデザイン演習	2	図学製図基礎演習	2
映像演習	2	写真演習	2	工芸デザイン基礎演習	2	意匠・商標法	2	キャリア開発B	2
プロダクトデザイン基礎演習	2								

○グローバル・フードビジネス・プログラム

(イ) 必修科目

GFBの基礎	4	食と文化	2	GFBの展開・応用	4	フードシステム論	2	GFBの実践	4
食品ビジネス研究Ⅰ	4	食品ビジネス研究Ⅱ	4	卒業論文ゼミナール	8				

(ロ) 選択必修科目

PBL A	2	PBL B	2	PBL C	2	PBL D	2
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

(ハ) 選択科目

TOEIC講座A	2	TOEIC講座B	2	TOEIC講座C	2	TOEIC講座D	2	プロジェクト型インターンシップ	4
現代の経済	2	九州の食	2	海外語学研修	4	フードビジネス論	2	海外フードビジネス研修	4
ファイナンス入門	2	簿記会計の基礎	2	簿記入門	2	経営学入門	2	マーケティング入門	2
情報リテラシー	2	農業経済学	2	流通ビジネス論	2	財務諸表分析	2	マーケティング論	2
地域マーケティング論	2	心理学概論	2	ロジスティクス論	2	マルチメディア論	2	eコマース論	2
マーケティング戦略論	2	観光データサイエンス	2	広告実践論	2	ビジネスシステム論	2	コミュニティ・ビジネス論	2
地域デジタルマーケティング	2	健康心理学	2	基礎数学	2	化学Ⅰ	2	生物学Ⅰ	2
生物学Ⅱ	2	食品科学	2	食品衛生学	2	微生物学	2	6次産業化概論	2
地域食産業論	2	地域海洋産業論	2	フードツーリズム論	2	クリティカルシンキング	2	異文化コミュニケーション論	2
アジア経済論	2	実践プレゼンテーション	2	国際関係論	2	アジア文化論	2	現代アジア事情	2
住居計画	2	業務系施設インテリア概論	2	住居設備	2	空間設計概論	2	ソーシャルデザイン概論	2
デザイン史	2	美術概論	2	西洋美術史	2	日本美術史	2	マルチメディア概論	2
色彩学	2	ソーシャルデザイン演習	2	企画デザイン演習Ⅰ	4	視覚デザイン演習	4	平面構成	2
立体構成	2	デッサン	2	企画デザイン論	2	情報デザイン論	2	地域文化論	2
ソーシャルデザイン応用演習	2	企画デザイン演習ⅡA	4	企画デザイン演習ⅡB	4	企画デザイン演習ⅢA	4	企画デザイン演習ⅢB	4
ブランドデザイン演習	4	Webデザイン演習	4	デザインの現場	2	データサイエンス	2	パッケージデザイン実習	2
意匠・商標法	2								

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

アカデミック日本語Ⅰ(読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅱ(読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅰ(聞く・話す)	1	アカデミック日本語Ⅱ(聞く・話す)	1	実践アカデミック日本語(読む・書く)	1
実践アカデミック日本語(聞く・話す)	1	ビジネス日本語	1	グローバル日本語	1				

(ロ) 日本事情

日本の歴史ⅠA	1	日本の歴史ⅠB	1	日本の歴史ⅡA	1	日本の歴史ⅡB	1	日本の文化ⅠA	1
日本の文化ⅠB	1	日本の文化ⅡA	1	日本の文化ⅡB	1	日本の政治経済ⅠA	1	日本の政治経済ⅠB	1
日本の政治経済ⅡA	1	日本の政治経済ⅡB	1	一般日本事情ⅠA	1	一般日本事情ⅠB	1	一般日本事情ⅡA	1
一般日本事情ⅡB	1								

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術(情報通信技術を含む)	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅱ	2	美術科教育法	4
工芸科教育法	4	教科指導法Ⅰ(美術)	2	教科指導法Ⅰ(工芸)	2	教科指導法Ⅱ(美術)	2	学校発達心理学	2
同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2	特別な教育的ニーズの理解とその支援	2		

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第8

国際文化学部の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 国際文化学科

(イ) 必修科目

日本文化入門	2	アジア文化入門	2	欧米文化入門	2	ゼミナールⅠ	2	4CイングリッシュⅠ	1
4CイングリッシュⅡ	1	ゼミナールⅡ	4	海外研修	4	外国語演習A	2	ゼミナールⅢ	4
ゼミナールⅣ	4								

(ロ) 選択必修科目

海外フィールドスタディ	2	プロジェクト演習	2	外国語演習B	2	海外留学	8
-------------	---	----------	---	--------	---	------	---

(ハ) 選択科目

哲学	2	言語学	2	歴史学	2	民俗学	2	古典に学ぶ	2
国際関係論	2	国際協力論	2	日本語教育文法論	2	日本語教育学入門	2	日本語教授法	2
日本語教育授業研究	2	日本語教育実習	2	DXイングリッシュ	1	Gradedリーディング	1	ポップカルチャー英語	2
ベーシック英語表現	2	ビジネス英語ボキャブラリ	2	Communicative Writing A	2	Media Communication	2	Communicative Language Learning I	2
Communicative Language Learning II	2	Intercultural Communication	2	英語の語彙と文構造	2	英語の意味と語用	2	英文法A	2
英文法B	2	Communicative Writing B	2	English Phonetics I	2	English Phonetics II	2	Instructional Design for Teaching English	2
Communication Theory	2	英語文献講読A	2	英語文献講読B	2	グローバルイシュー入門	2	国際教養学入門	2
英語文学概論	2	英語圏文化論	2	ヨーロッパ文化論	2	イスラム文化論	2	アジア文化論	2
アジア史概説	2	アメリカ史概説	2	ヨーロッパ史概説	2	欧米思想史	2	文化交流史	2
比較文化論	2	英語文学特講	2	英語圏文化特講	2	ヨーロッパ文化特講	2	アジア文化特講	2
現代アジア事情	2	現代欧米事情	2	現代思想	2	環境問題論	2	グローバル共生論	2
Mental Aspects of Language Teaching I	1	Mental Aspects of Language Teaching II	1	英語科教育法A	2	英語科教育法B	2	Mental Aspects of Language Teaching III	1
Mental Aspects of Language Teaching IV	1	Leadership Workshop I	1	Leadership Workshop II	1	Leadership Workshop III	1	Leadership Workshop IV	1
教科指導法A(英語)	2	教科指導法B(英語)	2						

(2) グローバル・フードビジネス・プログラム

(イ) 必修科目

GFBの基礎	4	食と文化	2	GFBの展開・応用	4	フードシステム論	2	GFBの実践	4
食品ビジネス研究Ⅰ	4	食品ビジネス研究Ⅱ	4	卒業論文ゼミナール	8				

(ロ) 選択必修科目

PBL A	2	PBL B	2	PBL C	2	PBL D	2
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

(ハ) 選択科目

TOEIC講座A	2	TOEIC講座B	2	TOEIC講座C	2	TOEIC講座D	2	プロジェクト型インターンシップ	4
現代の経済	2	九州の食	2	海外語学研修	4	フードビジネス論	2	海外フードビジネス研修	4
ファイナンス入門	2	簿記会計の基礎	2	簿記入門	2	経営学入門	2	マーケティング入門	2
情報リテラシー	2	農業経済学	2	流通ビジネス論	2	財務諸表分析	2	マーケティング論	2
地域マーケティング論	2	心理学概論	2	ロジスティクス論	2	マルチメディア論	2	eコマース論	2
マーケティング戦略論	2	観光データサイエンス	2	広告実践論	2	ビジネスシステム論	2	コミュニティ・ビジネス論	2
地域デジタルマーケティング	2	健康心理学	2	基礎数学	2	化学Ⅰ	2	生物学Ⅰ	2
生物学Ⅱ	2	食品科学	2	食品衛生学	2	微生物学	2	6次産業化概論	2
地域食産業論	2	地域海洋産業論	2	フードツーリズム論	2	クリティカルシンキング	2	異文化コミュニケーション論	2
アジア経済論	2	実践プレゼンテーション	2	住居計画	2	マルチメディア概論	2	ソーシャルデザイン概論	2
企画デザイン演習Ⅰ	4	業務系施設インテリア概論	2	住居設備	2	ブランドデザイン演習	4	Webデザイン演習	4
空間設計概論	2	企画デザイン論	2	日本文化入門	2	アジア文化入門	2	欧米文化入門	2
グローバルイシュー入門	2	国際教養学入門	2	海外フィールドスタディ	2	国際関係論	2	アジア文化論	2
ヨーロッパ文化論	2	哲学	2	英語圏文化論	2	現代アジア事情	2	現代思想	2
グローバル共生論	2	現代欧米事情	2	国際協力論	2	ベーシック英語表現	2	ビジネス英語ボキャブラリー	2
ポップカルチャー英語	2	外国語演習A	2	4CイングリッシュⅠ	1	4CイングリッシュⅡ	1	DXイングリッシュ	1
Gradedリーディング	1	Communicative Writing A	2	外国語演習B	2	Communication Theory	2	Intercultural Communication	2
Media Communication	2								

(3) 日本文学学科

(イ) 必修科目

日本文化入門	2	アジア文化入門	2	欧米文化入門	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	4
ゼミナールⅢ	4	卒業論文・卒業研究	8						

(ロ) 選択必修科目

文学実地踏査A	2	文学実地踏査B	2
---------	---	---------	---

(ハ) 選択科目

哲学	2	言語学	2	歴史学	2	民俗学	2	古典に学ぶ	2
国際関係論	2	国際協力論	2	日本語教育学入門	2	日本語教育文法論	2	日本語教授法	2
日本語教育授業研究	2	日本語教育実習	2	日本文学	2	日本文学史	2	日本語学	2
日本語表記論	2	日本古典文学概論	2	日本近代文学概論	2	日本古典文学講読	2	日本近現代文学講読	2
日本語文法論	2	文章表現法A	2	文章表現法B	2	日本文学特講	2	日本古典文学特講	2
日本近代文学特講	2	日本語音韻論	2	民俗学概論	2	歴史学概論	2	伝統文化論	2
伝承文学論	2	文学と歴史	2	言葉と文化	2	民俗学特講	2	歴史学特講	2
メディア文化論	2	出版文化論	2	言葉と社会	2	くずし字読解	2	国際日本学	2
考古学	2	国語科教育法A	2	国語科教育法B	2	漢文学	2	書道実技	2
教科指導法A(国語)	2	教科指導法B(国語)	2						

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

アカデミック日本語Ⅰ (読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅱ (読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅰ (聞く・話す)	1	アカデミック日本語Ⅱ (聞く・話す)	1	実践アカデミック日本語 (読む・書く)	1
実践アカデミック日本語 (聞く・話す)	1	ビジネス日本語	1	グローバル日本語	1				

(ロ) 日本事情

日本の歴史ⅠA	1	日本の歴史ⅠB	1	日本の歴史ⅡA	1	日本の歴史ⅡB	1	日本の文化ⅠA	1
日本の文化ⅠB	1	日本の文化ⅡA	1	日本の文化ⅡB	1	日本の政治経済ⅠA	1	日本の政治経済ⅠB	1
日本の政治経済ⅡA	1	日本の政治経済ⅡB	1	一般日本事情ⅠA	1	一般日本事情ⅠB	1	一般日本事情ⅡA	1
一般日本事情ⅡB	1								

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術(情報 通信技術を含む)	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅱ	2	学校発達心理学	2
同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2	特別な教育的ニーズの 理解とその支援	2		

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第9

人間科学部の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 臨床心理学科

(イ) 必修科目

○共通

臨床心理学概論	2	プライマリーゼミナール	2	心理福祉演習	2	専門ゼミナール	4
---------	---	-------------	---	--------	---	---------	---

○臨床心理福祉・公認心理師コース

臨床心理ゼミナールA	2	臨床心理ゼミナールB	2
------------	---	------------	---

○精神保健福祉士コース

精神保健福祉ゼミナール	4
-------------	---

(ロ) 選択必修科目

心理学概論	2	健康科学概論	2	人間形成論	2	発達心理学	2	情報処理演習A	2
対人支援の方法と行動	2								

(ハ) 選択科目

○共通

情報処理演習B	2	精神保健福祉概論	2	人体の構造と機能及び疾病	2	対人関係論	2	社会学と社会システム	2
精神疾患とその治療A	2	精神疾患とその治療B	2	コミュニティ心理学	2	ソーシャルワークの基盤と専門職	2	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2	知覚・認知心理学	2	学習・言語心理学	2	動物心理学	2	児童心理学	2
思考心理学	2	心理学研究法	2	心理学統計法	2	心理学基礎実験	2	心理学的支援法	2
障害者・障害児心理学	2	乳幼児心理学	2	福祉心理学	2	教育・学校心理学	2	神経・生理心理学	2
産業・組織心理学	2	健康・医療心理学	2	司法・犯罪心理学	2	社会・集団・家族心理学	2	心理学実験	2
社会保障Ⅰ	2	社会保障Ⅱ	2	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2	社会福祉の原理と政策Ⅱ	2	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2
地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	権利擁護を支える法制度	2	障害者福祉	2	刑事司法と福祉	2	卒業論文	4

○A群

心理的アセスメント	2	感情・人格心理学	2	心理面接実習	2	ストレスマネジメント論	2	コミュニティアプローチ演習	2
心理統計法演習	2	社会福祉調査の基礎	2	精神保健福祉の原理Ⅰ	2	精神保健福祉の原理Ⅱ	2	精神保健福祉制度論	2
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	精神障害リハビリテーション論	2	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	2	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	2

○B群

心理演習	2	公認心理師の職責	2	深層心理学	2	臨床心理学文献講読基礎	2	臨床心理学文献講読発展	2
------	---	----------	---	-------	---	-------------	---	-------------	---

○C群

関係行政論	2	心理実習	2
-------	---	------	---

○D群

ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	1	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	ソーシャルワーク演習	1	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2
ソーシャルワーク実習	4								

(2) 子ども教育学科

(イ) 必修科目

保育原理	2	保育者論	2	保育内容総論	2	子どもの造形表現	2	教育学概論	2
保育心理学Ⅰ	2	子ども学ゼミナール	2	保育内容(健康)	2	幼児理解の基礎	2	子どもの音楽表現Ⅰ	2
保育内容(人間関係)	2	保育内容(言葉)	2	保育内容(表現)	2	保育方法論	2	幼児教育課程論	2
保育内容(環境)	2	子どもの健康	2	教育の制度と経営	2	専門ゼミナール	4	特別支援教育基礎理論	2

(ロ) 選択必修科目

心理学概論	2	健康科学概論	2	人間形成論	2	発達心理学	2	対人支援の方法と行動	2
-------	---	--------	---	-------	---	-------	---	------------	---

(ハ) 選択科目

情報処理演習A	2	情報処理演習B	2	社会福祉概論	2	児童家庭福祉	2	社会的養護概論	2
子どもの音楽表現Ⅱ	2	乳児保育論	2	保育心理学Ⅱ	2	子どもの表現	2	子どもの言葉	2
子どもの環境	2	子どもの人間関係	2	社会的養護内容演習	2	教育相談(カウンセリングを含む)	2	特別な教育的ニーズの理解とその支援	2
子どもの健康と安全	2	家庭支援論	2	子ども家庭支援の心理学	2	保育心理士実習	2	子どもの保健	2
障害児保育演習	2	子どもの食と栄養	2	乳児保育演習	2	保育相談支援演習	2	教育実習指導Ⅰ	1
教育実習Ⅰ	2	保育実習ⅠA	2	保育実習ⅠB	2	教育実習指導Ⅱ	1	教育実習Ⅱ	2
保育実習指導Ⅰ	2	保育総合表現	2	保育実習指導Ⅱ	1	保育実習指導Ⅲ	1	保育実習Ⅲ	2
保育実習Ⅲ	2	保育・教職実践演習(幼)	2	知的障害児の心理・生理・病理	2	肢体不自由児の心理・生理・病理	2	病弱児の心理・生理・病理	2
知的障害児教育総論	2	肢体不自由児教育総論	2	病弱児教育総論	2	知的障害児の指導法	2	肢体不自由児の指導法	2
病弱児の指導法	2	視覚障害児教育総論	1	聴覚障害児教育総論	1	視覚障害児の心理・生理・病理	1	聴覚障害児の心理・生理・病理	1
LD等・重複障害教育総論	2	特別支援学校教育実習・実習指導	3						

(3) スポーツ健康科学科

(イ) 必修科目

スポーツ心理学	2	健康管理概論	2	スポーツ科学概論	2	スポーツ健康科学演習基礎	2	運動生理学	2
スポーツ健康科学演習Ⅰ	2	スポーツ健康科学演習Ⅱ	2	スポーツ健康科学演習Ⅲ	2	スポーツ健康科学演習Ⅳ	2	卒業研究	8

(ロ) 選択必修科目

心理学概論	2	健康科学概論	2	人間形成論	2	発達心理学	2	情報処理演習A	2
情報処理演習B	2	対人支援の方法と行動	2						

(ハ) 選択科目

スポーツマネジメント論	2	機能解剖学	2	スポーツ社会学	2	体づくり運動	1	水泳	1
サッカー	1	ダンス	1	バドミントン	1	バレーボール	1	スポーツキャリア演習	2
スポーツ栄養学	2	栄養学入門	2	運動学(運動方法学を含む)	2	体カトレーニング論	2	スポーツデータサイエンス	2
野球・ソフトボール	1	柔道	1	剣道	1	野外教育実習	1	陸上競技	1
バスケットボール	1	公衆衛生学	2	衛生学	2	スポーツ医学	2	バイオメカニクス	2
アクアエクササイズ	1	スノースポーツ実習	1	ハンドボール	1	器械運動	1	エアロビックエクササイズ	1
ゴルフ実習	1	健康産業論	2	スポーツビジネス概論	2	生活習慣病概論	2	スポーツ科学測定演習(生理・バイオ・心理・栄養)	2
スポーツマーケティング論	2	プロスポーツ実践講座	2	スポーツイノベーション論	2	体カトレーニング演習	2	体力測定評価演習	2
健康づくり運動の理論	2	地域プロスポーツマネジメント論	2	スポーツファイナンス論	2	スポーツ医科学演習(救急措置法含む)	2	運動処方演習(運動負荷試験)	2
運動処方論	2	健康心理学	2	健康体力科学特論	2	健康産業施設研修	2	スポーツ教育学	2
スポーツ史	2	武道学概論	2	テーピングマッサージ	1	学校保健Ⅰ(小児保健含む)	2	学校保健Ⅱ(学校安全及び救急措置法含む)	2
精神保健	2	保健体育科教育法	4	体育科教材研究演習	2	コーチング概論	2	コーチング演習	2
メンタルトレーニング論	2	アダプテッドスポーツ論	2	教科指導法Ⅰ(保健体育)	2	教科指導法Ⅱ(保健体育)	2	体育科教科内容論	2
学校体育指導演習	2								

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

アカデミック日本語Ⅰ (読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅱ (読む・書く)	1	アカデミック日本語Ⅰ (聞く・話す)	1	アカデミック日本語Ⅱ (聞く・話す)	1	実践アカデミック日本語 (読む・書く)	1
実践アカデミック日本語 (聞く・話す)	1	ビジネス日本語	1	グローバル日本語	1				

(ロ) 日本事情

日本の歴史ⅠA	1	日本の歴史ⅠB	1	日本の歴史ⅡA	1	日本の歴史ⅡB	1	日本の文化ⅠA	1
日本の文化ⅠB	1	日本の文化ⅡA	1	日本の文化ⅡB	1	日本の政治経済ⅠA	1	日本の政治経済ⅠB	1
日本の政治経済ⅡA	1	日本の政治経済ⅡB	1	一般日本事情ⅠA	1	一般日本事情ⅠB	1	一般日本事情ⅡA	1
一般日本事情ⅡB	1								

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	2	教育の方法・技術(情報 通信技術を含む)	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅱ	2	学校発達心理学	2
同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2	特別な教育的ニーズの 理解とその支援	2		

1 本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

2 教職に関する科目はスポーツ健康科学科の学生のみ受講できる。

別表第10

卒業に必要な授業科目及び単位数

経済学部経済学科

授 業 科 目 区 分		授業科目及び単位数		
専 門 科 目	共通ユニット	必修科目	4 単位	さらに専門 科目から36 単位以上
		選択必修科目	16単位以上	
	コアユニット	選択科目	24単位以上	
		展開ユニット	選択科目	
基 礎 教 育 科 目	14単位以上			さらに専門科目、基礎教育科目 及び外国語科目から20単位以上
外 国 語 科 目	2 外国語以上10単位以上（英語 6 単位以上）			
合 計	124単位以上			

商学部経営・流通学科

授 業 科 目 区 分		授 業 科 目 及 び 単 位 数	
専 門 科 目	共通科目	40単位以上	
	コース横断科目 及び 所属コース科目	選択必修科目	10単位以上
		選択科目	20単位以上
基 礎 教 育 科 目	16単位以上		さらに専門科目、基礎教育科目 及び外国語科目から30単位以上
外 国 語 科 目	8 単位以上（英語 6 単位以上）		
合 計	124単位以上		

商学部経営・流通学科 グローバル・フードビジネス・プログラム

授業科目区分		授業科目及び単位数		
専門科目	GFBP科目	必修科目	32単位	さらに 専門科目 から 10単位以上
		選択必修科目	4単位以上	
		選択科目	10単位以上	
	学部横断科目	選択科目	18単位以上	
	学科科目	選択科目	30単位以上	
基礎教育科目			14単位以上	
外国語科目			英語6単位以上	
合計			124単位以上	

地域共創学部観光学科

授 業 科 目 区 分		授 業 科 目 及 び 単 位 数		
専 門 科 目	学科共通科目	必修科目	4 単位	さらに専門科目から10単位以上
		選択科目	12単位以上	
	実践力育成科目	選択必修科目	10単位以上	
		選択科目	26単位以上	
	コース科目	22単位以上（所属コース14単位以上）		
基 礎 教 育 科 目	14単位以上			
外 国 語 科 目	10単位以上（英語6単位以上）			
合 計	124単位以上			

地域共創学部 観光学科 グローバル・フードビジネス・プログラム

授業科目区分		授業科目及び単位数		
専門科目	GFBP科目	必修科目	32単位	さらに 専門科目 から 20単位以上
		選択必修科目	4単位以上	
		選択科目	10単位以上	
	学部横断科目	選択科目	18単位以上	
	学科科目	選択科目	20単位以上	
基礎教育科目			14単位以上	
外国語科目			英語6単位以上	
合計			124単位以上	

地域共創学部地域づくり学科

授 業 科 目 区 分		授 業 科 目 及 び 単 位 数			
専 門 科 目	学科共通科目	必修科目	4 単位	さらに専門科目から22単位以上	さらに専門科目、基礎教育科目及び外国語科目から16単位以上
		選択科目	12単位以上		
	実践力育成科目	選択必修科目	10単位以上		
		選択科目	18単位以上		
	コース科目	18単位以上			
基 礎 教 育 科 目		16単位以上			
外 国 語 科 目		8単位以上（英語6単位以上）			
合 計		124単位以上			

地域共創学部 地域づくり学科 グローバル・フードビジネス・プログラム

授業科目区分		授業科目及び単位数		
専門科目	GFBP科目	必修科目	32単位	さらに 専門科目 から 10単位以上
		選択必修科目	4単位以上	
		選択科目	10単位以上	
	学部横断科目	選択科目	18単位以上	
	学科科目	選択科目	30単位以上	
基礎教育科目		14単位以上		
外国語科目		英語6単位以上		
合計		124単位以上		

理工学部

授業科目区分		授業科目及び単位数					
		情報科学科		機械電気創造工学科		スマートコミュニケーション工学科	
専門科目	必修科目	36単位	外国語に専門から16単基礎以上教育科目、	38単位	外国語に専門から14単基礎以上教育科目、	52単位	外国語に専門から16単基礎以上教育科目、
	選択科目	52単位以上		50単位以上		36単位以上	
基礎教育科目	導入科目	2単位		2単位		2単位	
	学修基礎科目	12単位以上		14単位以上		12単位以上	
	キャリア科目						
	文理芸融合科目						
	教養科目						
外国語科目		英語 6 単位以上		英語 6 単位以上		英語 6 単位以上	
合計		124単位以上		124単位以上		124単位以上	

生命科学部

授業科目区分		授業科目及び単位数
専門科目	必修科目	43単位
	選択必修科目	18単位以上
	選択科目	33単位以上
基礎教育科目	導入科目	2単位
	学修基礎科目	22単位以上
	キャリア科目	
	文理芸融合科目	
	教養科目	
外国語科目		英語 6 単位以上
合計		124単位以上

生命科学部 生命科学科 グローバル・フードビジネス・プログラム

授業科目区分		授業科目及び単位数		
専門科目	GFBP科目	必修科目	32単位	さらに 専門科目 から 10単位以上
		選択必修科目	4単位以上	
		選択科目	10単位以上	
	学部横断科目	選択科目	26単位以上	
	学科科目	必修科目	6 単位	
		選択科目	16単位以上	
基礎教育科目			14単位以上	
外国語科目			英語6単位以上	
合計			124単位以上	

建築都市工学部

授業科目区分		授業科目及び単位数			
		建築学科		住居・インテリア学科	都市デザイン工学科
		建築基本コース	建築総合コース		
専門科目	必修科目	74単位	78単位	66単位	56単位
	選択必修科目	———	———	14単位以上	———
	選択科目	30単位以上	26単位以上	24単位以上	48単位以上
基礎教育科目		14単位以上		14単位以上	14単位以上
外国語科目		英語 6 単位以上		英語 6 単位以上	英語 6 単位以上
合計		124単位以上		124単位以上	124単位以上

芸術学部

授業科目区分		授業科目及び単位数	
専門科目	必修科目	56単位	
	選択必修科目	18単位以上	
	選択科目	26単位以上	
基礎教育科目		18単位以上	
外国語科目		英語 6 単位以上	
合計		124単位以上	

芸術学部 ソーシャルデザイン学科 グローバル・フードビジネス・プログラム

授業科目区分		授業科目及び単位数		
専門科目	GFBP科目	必修科目	32単位	さらに 専門科目 から 10単位以上
		選択必修科目	4単位以上	
		選択科目	10単位以上	
	学部横断科目	選択科目	18単位以上	
	学科科目	選択科目	30単位以上	
基礎教育科目		14単位以上		
外国語科目		英語6単位以上		
合計		124単位以上		

国際文化学部

授業科目区分		授業科目及び単位数									
		国際文化学科					日本文化学科				
専門科目	学部共通科目	必修科目	6 単位		以上（基礎教育科目及び外国語科目から10 単位	学部共通科目	必修科目	6 単位		以上に専門科目及び外国語科目は含まない）から20 単位	
		選択科目	6 単位以上				選択科目	8 単位以上			
	学科コア科目	必修科目	22単位			学科共通科目	必修科目	18単位			
		選択必修科目	4 単位以上				選択必修科目	2 単位以上			
	学科展開科目	英語エキスパート科目	14単位以上	さらに20 単位以上		学科展開科目	文学・語学科目	12単位以上	さらに20 単位以上		
		国際教養科目	8 単位以上				歴史・民俗学科目	8 単位以上			
		AEL科目					資格科目				
基礎教育科目	導入科目 2 単位		20単位以上		導入科目 2 単位		20単位以上				
外国語科目	2 外国語14単位以上（英語 8 単位以上）				2 外国語10単位以上（英語 6 単位以上）						
合計	124単位以上				124単位以上						

国際文化学部 国際文化学科 グローバル・フードビジネス・プログラム

授業科目区分		授業科目及び単位数		
専門科目	GFBP科目	必修科目	32単位	
		選択必修科目	4単位以上	
		選択科目	10単位以上	
	学部横断科目	選択科目	16単位以上	
	学科科目	教養科目	18単位以上	さらに 学科科目から 4単位以上
		語学科目	12単位以上	
基礎教育科目			14単位以上	
外国語科目			2外国語14単位以上 (英語8単位以上)	
合計			124単位以上	

人間科学部

授業科目区分		授業科目及び単位数					
		臨床心理学科		子ども教育学科		スポーツ健康科学科	
専門科目	必修科目	14単位	上目、さらに 外国語専門科目、 から基礎単 位数を以て	42単位	上目、さらに 外国語専門科目、 から基礎単 位数を以て	26単位	上目、さらに 外国語専門科目、 から基礎単 位数を以て
	選択必修科目	6単位以上		6 単位以上		6単位以上	
	選択科目	64単位以上		38単位以上		62単位以上	
	基礎教育科目			14単位以上		14単位以上	
外国語科目		英語6単位以上		英語6単位以上		英語6単位以上	
合計		124単位以上		124単位以上		124単位以上	

別表第11

(1) 司書に関する科目

生涯学習概論	2	図書館概論	2	図書館制度・経営論	2	図書館情報技術論	2	図書館サービス概論	2
情報サービス論	2	児童サービス論	2	情報サービス演習Ⅰ	1	情報サービス演習Ⅱ	1	図書館情報資源概論	2
情報資源組織論	2	情報資源組織演習	2	図書館基礎特論	1	図書館サービス特論	1	図書館情報資源特論	1
図書・図書館史	1	図書館施設論	1	図書館総合演習	1	図書館実習	1		

(2) 司書教諭に関する科目

学校経営と学校図書館	2	学校図書館メディアの構成	2	学習指導と学校図書館	2	読書と豊かな人間性	2	情報メディアの活用	2
------------	---	--------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---

別表第12

博物館に関する科目

生涯学習概論	2	博物館概論	2	博物館経営論	2	博物館資料論	2	博物館資料保存論	2
博物館展示論	2	博物館教育論	2	博物館情報・メディア論	2	博物館実習	3	文化史	4
美術史	2	考古学	2	民俗学	4	物理学	4	化学	2
生物学	4	地学	4						

別表第13

社会教育主事に関する科目

生涯学習概論	2	生涯学習基礎	2	生涯学習支援論Ⅰ	2	生涯学習支援論Ⅱ	2	社会教育経営論Ⅰ	2
社会教育経営論Ⅱ	2	社会教育実習	2	社会教育演習	2	同和教育論	2	道徳教育論	2
図書館概論	2	博物館概論	2	博物館教育論	2	博物館情報・メディア論	2	教育原理	2
教育制度論	2								

別表第14

芸術専攻科の授業科目の種類及び単位数

(1) 美術専攻

(イ) 必修科目

造形創作研究	8	造形特論	4
--------	---	------	---

(ロ) 選択科目

絵画材料研究	4	彫塑材料研究	4	版画創作研究	4	実材彫刻研究	4	美術概論	4
--------	---	--------	---	--------	---	--------	---	------	---

(2) デザイン専攻

(イ) 必修科目

デザイン特論	4	デザイン製作実習 (ビジュアル・デザイン)	8	デザイン製作実習 (環境デザイン)	8	デザイン製作実習 (製品デザイン)	8
--------	---	--------------------------	---	----------------------	---	----------------------	---

(ロ) 選択科目

デザイン・ゼミナール (ビジュアル・デザイン)	4	デザイン・ゼミナール (環境デザイン)	4	デザイン・ゼミナール (製品デザイン)	4	構成研究	4	材料研究	4
機能研究	4	色彩及び形態研究	4	デザイン及び造形史	4				

(3) 写真専攻

(イ) 必修科目

写真特論	4	論文又は製作	8
------	---	--------	---

(ロ) 選択科目

写真芸術論	4	産業写真論	4	写真演習	12
-------	---	-------	---	------	----

別表第15

(1) 入学検定料、再入学選考料及び科目等履修生選考料

イ 入学検定料

(単位:円)

種 別	金 額
学 校 推 薦 型 選 抜	32,000
一 般 選 抜	
実 技 選 抜	
編 入 学 選 抜	
帰 国 子 女 選 抜	
社 会 人 選 抜	
総 合 型 選 抜	
特 別 総 合 推 薦 選 抜	
大 学 入 学 共 通 テ ス ト 利 用 選 抜	15,000
一 般 選 抜 ・ 大 学 入 学 共 通 テ ス ト 併 用 型 選 抜	10,000
外 国 人 留 学 生 選 抜	30,000

- (注) 1. 一般選抜における2出願目からの入学検定料は、1出願につき10,000円とする。
 2. 九州産業大学造形短期大学部大学卒業者で、本学の編入学選抜を出願する者の入学検定料は、18,000円とする。
 3. 総合型選抜及び特別総合推薦選抜において、二段階選抜を実施する場合は、一次選考10,000円、二次選考22,000円とする。
 4. 大学入学共通テストにおける2出願目からの入学検定料は、1出願につき10,000円とする。
 5. 一般選抜・大学入学共通テスト併用型選抜を出願する者は、一般選抜の入学検定料32,000円を別途納付のうえ、受験しなければならない。
 6. 学校推薦型選抜及び総合型選抜において、入学手続を完了した者が大学入学共通テスト利用選抜に出願する場合の入学検定料は、5,000円とする。

ロ 再入学選考料

(単位:円)

種 別	金 額
再 入 学 選 考 料	16,000

ハ 科目等履修生選考料

(単位:円)

種 別	金 額	
科 目 等 履 修 生 選 考 料	本学卒業者及び修了者	6,000
	本学以外の卒業者	12,000

(2) 入学金

(単位:円)

学 部	金 額
経 済 学 部	200,000
商 学 部	200,000
地 域 共 創 学 部	200,000
理 工 学 部	200,000
生 命 科 学 部	200,000
建 築 都 市 工 学 部	200,000
芸 術 学 部	200,000
国 際 文 化 学 部	200,000
人 間 科 学 部	200,000

(3) 修学費 (単位:円)

種 別 \ 学 部		経済学部	商学部 (GFBPを 含む。)	地域共創学部 (GFBPを 含む。)
修学費	授 業 料	720,000	720,000	720,000
	教育充実費	180,000	180,000	180,000
	合計(年額)	900,000	900,000	900,000
	分納	第1回	450,000	450,000
		第2回	450,000	450,000
納付期限	分納	第1回	所 定 の 期 日	
		第2回		

(単位:円)

種 別 \ 学 部		理工学部	生命科学部		建築都市工学部	芸術学部	
			生命科学科	生命科学科 GFBP		芸術表現学科 写真・映像 メディア学科 ビジュアル デザイン学科 生活環境 デザイン学科 ソーシャル デザイン学科	ソーシャル デザイン学科 GFBP
修学費	授 業 料	960,000	960,000	816,000	960,000	1,000,000	832,000
	教育充実費	430,000	450,000	288,000	410,000	480,000	300,000
	合計(年額)	1,390,000	1,410,000	1,104,000	1,370,000	1,480,000	1,132,000
	分納	第1回	695,000	705,000	552,000	685,000	740,000
		第2回	695,000	705,000	552,000	685,000	740,000
納付期限	分納	第1回	所 定 の 期 日				
		第2回					

(単位:円)

種 別 \ 学 部		国際文化学部		人間科学部		
		国際文化学科 日本文化学科	国際文化学科 GFBP	臨床心理学科	子ども教育学科	スポーツ 健康科学科
修学費	授 業 料	720,000	720,000	700,000	780,000	850,000
	教育充実費	180,000	180,000	200,000	280,000	390,000
	合計(年額)	900,000	900,000	900,000	1,060,000	1,240,000
	分納	第1回	450,000	450,000	530,000	620,000
		第2回	450,000	450,000	530,000	620,000
納付期限	分納	第1回	所 定 の 期 日			
		第2回				

(注)「GFBP」とは、グローバル・フードビジネス・プログラムをいう。

(4) 在籍料 (年額) (単位:円)

種 別	金 額
在籍料	120,000

※半期の休学が認められた者の在籍料は、年額の在籍料の半額とする。

変更事項を記載した書類

1. 変更の事由

①理工学部に必要な学科を設置するため

機械電気創造工学科

スマートコミュニケーション工学科

②新たに設置する学科の授業科目の種類及び単位数、卒業要件を規定するため

③次の学部の学科の定員を変更するため

・地域共創学部

地域づくり学科

・人間科学部

臨床心理学科

スポーツ健康科学科

2. 変更点

①設置する学部学科を変更

②学部学科の入学定員、収容定員の設定及び変更

③理工学部を設置する新学科の授業科目の種類及び単位数を規定

④理工学部を設置する新学科の卒業要件を規定

3. 変更の時期

令和8年4月1日

「九州産業大学学則」一部改正新旧対照表

新 学 則		旧 学 則					
九州産業大学学則		九州産業大学学則					
第1条	┌ 現行どおり	第1条	┌ (略)				
第7条		第7条					
(学部及び学科)		(学部及び学科)					
第8条 本学に、次の学部及び学科を置く。		第8条 本学に、次の学部及び学科を置く。					
経済学部	経済学科	経済学部	経済学科				
商学部	経営・流通学科	商学部	経営・流通学科				
地域共創学部	観光学科	地域共創学部	観光学科				
	地域づくり学科		地域づくり学科				
理工学部	情報科学科	理工学部	情報科学科				
	機械電気創造工学科		機械工学科				
	スマートコミュニケーション工学科		電気工学科				
生命科学部	生命科学科	生命科学部	生命科学科				
建築都市工学部	建築学科	建築都市工学部	建築学科				
	住居・インテリア学科		住居・インテリア学科				
	都市デザイン工学科		都市デザイン工学科				
芸術学部	芸術表現学科	芸術学部	芸術表現学科				
	写真・映像メディア学科		写真・映像メディア学科				
	ビジュアルデザイン学科		ビジュアルデザイン学科				
	生活環境デザイン学科		生活環境デザイン学科				
	ソーシャルデザイン学科		ソーシャルデザイン学科				
国際文化学部	国際文化学科	国際文化学部	国際文化学科				
	日本文化学科		日本文化学科				
人間科学部	臨床心理学科	人間科学部	臨床心理学科				
	子ども教育学科		子ども教育学科				
	スポーツ健康科学科		スポーツ健康科学科				
(入学定員及び収容定員)		(入学定員及び収容定員)					
第12条 本学の学部学科別入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。		第12条 本学の学部学科別入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。					
学部	学科	入学定員	収容定員	学部	学科	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	400	1,600	経済学部	経済学科	400	1,600
商学部	経営・流通学科	470	1,880	商学部	経営・流通学科	470	1,880
地域共創学部	観光学科	150	600	地域共創学部	観光学科	150	600
	地域づくり学科	150	600		地域づくり学科	140	560
理工学部	情報科学科	140	560	理工学部	情報科学科	140	560
	機械電気創造工学科	135	540		機械工学科	130	520
	スマートコミュニケーション工学科	50	200		電気工学科	100	400
生命科学部	生命科学科	110	440	生命科学部	生命科学科	110	440
建築都市工学部	建築学科	75	300	建築都市工学部	建築学科	75	300
	住居・インテリア学科	65	260		住居・インテリア学科	65	260
	都市デザイン工学科	60	240		都市デザイン工学科	60	240
芸術学部	芸術表現学科	70	280	芸術学部	芸術表現学科	70	280
	写真・映像メディア学科	55	220		写真・映像メディア学科	55	220
	ビジュアルデザイン学科	75	300		ビジュアルデザイン学科	75	300
	生活環境デザイン学科	55	220		生活環境デザイン学科	55	220
	ソーシャルデザイン学科	45	180		ソーシャルデザイン学科	45	180
国際文化学部	国際文化学科	80	320	国際文化学部	国際文化学科	80	320
	日本文化学科	60	240		日本文化学科	60	240
人間科学部	臨床心理学科	85	340	人間科学部	臨床心理学科	70	280
	子ども教育学科	80	320		子ども教育学科	80	320
	スポーツ健康科学科	120	480		スポーツ健康科学科	100	400
第13条	┌ 現行どおり	第13条	┌ (略)				
第82条		第82条					
附 則		附 則					
現行どおり		(略)					
附 則							
1 この学則は、令和8年4月1日から施行する。							
2 令和7年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第6及び第15条別表第10の規定の適用については、なお従前の例による。							

新学則

別表第1

別表第5

現行どおり

別表第6

理工学部の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 情報科学科 現行どおり

(削る)

(削る)

旧学則

別表第1

別表第5

(略)

別表第6

理工学部の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 情報科学科 (略)

(2) 機械工学科

(イ) 必修科目

基礎数学	2	基礎物理	2	線形代数Ⅰ	2	微分積分Ⅰ	2
情報リテラシー	2	コンピュータリテラシー	2	物理実験	2	プログラミング	2
工業力学	2	材料力学Ⅰ	2	機械製図	2	機械材料	2
微分方程式	2	メカトロニクス	2	機械力学Ⅰ	2	材料力学Ⅱ	2
熱力学Ⅰ	2	熱力学Ⅱ	2	流体力学Ⅰ	2	機械CADⅠ	2
機械加工学	2	機械加工実習	2	機械工学探求	2	機械工学実験A	1
機械工学実験B	1	制御工学A	1	制御工学B	1	機械・ロボット設計	2
設計製図	2	卒業研究	6				

(ロ) 選択科目

線形代数Ⅱ	2	プログラミング入門	2	プログラミング基礎Ⅰ	2	技術者倫理	2
融合理工学導入	1	融合理工学基礎A	1	融合理工学基礎B	1	デザインエンジニアリング	2
プロダクトデザイン基礎	1	プロダクトデザイン演習	1	人間中心設計	1	WEBデザイン	1
アプリデザイン	1	映像表現	1	メディアアート	1	エンジニアスキルⅠ	2
エンジニアスキルⅡ	2	微分積分演習	2	解析幾何学	2	工業数学	2
電気電子工学概論	2	電気工学基礎	2	微分積分Ⅱ	2	知的財産権	2
融合理工学応用A	1	融合理工学応用B	1	融合プロジェクトⅠ	2	融合プロジェクトⅡ	2
コンピュータグラフィックス基礎	2	工業概論	2	材料加工	2	生物育成	2
物理学	2	品質管理Ⅰ	2	品質管理Ⅱ	2	ロボティクス	2
AIプログラミング演習	2	機械力学Ⅱ	2	熱力学演習	2	流体力学Ⅱ	2
流体力学演習	2	機械CADⅡ	2	機械工作法	2	インターンシップ	2
プロジェクトデザイン管理	4	融合プロジェクトⅢ	4	コンピュータグラフィックス応用	2	エンジニアリング演習Ⅰ	1
エンジニアリング演習Ⅱ	1	職業指導	4	計算機システム	2	AIリテラシー	2
材料力学Ⅲ	2	伝熱工学	2	熱機関	2	流体機械	2
機械工学シミュレーション	2	工作機械	2	機構学	2		

(3) 電気工学科

(イ) 必修科目

線形代数Ⅰ	2	基礎数学	2	基礎物理	2	情報リテラシー	2
プログラミング入門	2	微分積分Ⅰ	2	電気電子工学導入演習	2	電気電子工学基礎	2
電気電子数学	2	電気回路Ⅰ	2	AI入門	2	電気回路Ⅱ	2
電子回路Ⅰ	2	電磁気学Ⅰ	2	電気電子基礎実験Ⅰ	2	電磁気学Ⅱ	2
電気電子計測Ⅰ	2	制御工学Ⅰ	2	論理回路	2	電気電子基礎実験Ⅱ	2
電気エネルギー概論	2	電子物性Ⅰ	2	通信理論	2	電気電子工学探求	2
卒業研究	6						

(ロ) 選択必修科目

電気工学実験	2	電子デバイス工学実験	2	情報通信工学実験	2
--------	---	------------	---	----------	---

(ハ) 選択科目

線形代数Ⅱ	2	プログラミング基礎Ⅰ	2	融合理工学導入	1	融合理工学基礎A	1
融合理工学基礎B	1	デザインエンジニアリング	2	プロダクトデザイン基礎	1	プロダクトデザイン演習	1
人間中心設計	1	WEBデザイン	1	アプリデザイン	1	映像表現	1
メディアアート	1	物理学ⅠA	1	物理学ⅠB	1	物理実験	2
機械工学概論	2	電気CAD	2	微分積分Ⅱ	2	微分方程式	2
融合理工学応用A	1	融合理工学応用B	1	融合プロジェクトⅠ	2	融合プロジェクトⅡ	2
コンピュータグラフィックス基礎	2	電気電子工学演習	2	工業概論	2	生物育成	2
材料加工	2	電気工事実習	2	物理学ⅡA	1	物理学ⅡB	1
デジタルシステム概論	2	AI応用	2	電子回路Ⅱ	2	電気回路Ⅲ	2
プロジェクトデザイン管理	4	インターンシップ	2	知的財産権	2	技術者倫理	2
融合プロジェクトⅢ	4	コンピュータグラフィックス応用	2	職業指導	4	デジタル通信工学演習	2
実験総合演習	2	電気電子計測Ⅱ	2	制御工学Ⅱ	2	電磁気学Ⅲ	2
シミュレーション工学	2	電気機器Ⅰ	2	電力発生変換工学	2	電力システム工学	2
高電圧工学	2	電気機器Ⅱ	2	電気法規及び施設管理	2	パワーエレクトロニクス	2
超伝導工学	2	電子物性Ⅱ	2	半導体デバイス工学Ⅰ	2	半導体デバイス工学Ⅱ	2
デジタル回路	1	集積回路	1	光通信システム工学	2	デジタル信号処理	2
通信システム工学	2	情報ネットワーク	2	電磁波工学	2	通信法規及び施設管理	2
無線通信工学	2						

新 学 則					旧 学 則				
(2) 機械電気創造工学科					(新設)				
(イ) 必修科目									
基礎数学	2	基礎物理	2	線形代数Ⅰ	2	微分積分Ⅰ	2		
情報リテラシー	2	技術者倫理	2	機電工学探究	2	卒業研究	6		
物理実験	2	機電数学	2	機械四力学基礎	2	電気回路Ⅰ	2		
CAD基礎	2	物理学	2	機電工学基礎	2	機電プログラミング	2		
メカトロニクス	2								
(ロ) 選択科目									
線形代数Ⅱ	2	プログラミング入門	2	プログラミング基礎Ⅰ	2	微分積分Ⅱ	2		
微分方程式	2	知的財産権	2	インターンシップ	2	融合理工学導入	1		
融合理工学基礎A	1	融合理工学基礎B	1	融合理工学応用A	1	融合理工学応用B	1		
総合プロジェクトⅠ	2	融合プロジェクトⅡ	2	融合プロジェクトⅢ	4	デザインエンジニアリング	2		
プロダクトデザイン基礎	1	プロダクトデザイン演習	1	人間中心設計	1	WEBデザイン	1		
アプリデザイン	1	映像表現	1	メディアアート	1	コンピュータグラフィックス基礎	2		
コンピュータグラフィックス応用	2	エンジニアスキル	2	工業概論	2	材料加工	2		
生物育成	2	メカトロニクス実習	2	電気工事実習	2	職業指導	4		
微分積分演習	2	解析幾何学	2	品質管理	2	機械工学実験	2		
制御工学	2	AIプログラミング	2	ARリテラシー	2	機械力学	2		
材料力学Ⅰ	2	材料力学Ⅱ	2	エネルギー学Ⅰ	2	エネルギー学Ⅱ	2		
流体力学	2	材料力学Ⅲ	2	伝熱工学	2	エネルギー変換工学	2		
洋上風力	1	環境エネルギー工学	1	流体機械	1	機械製図	2		
3Dモデリング	2	機械加工学	2	機械工作法	2	機械材料	2		
機械加工実習	2	機械工学シミュレーション	2	ロボット機構学	2	設計製図	2		
機械・ロボット設計	2	電気回路Ⅱ	2	電子回路	2	電磁気学Ⅰ	2		
電気電子基礎実験Ⅰ	2	電磁気学Ⅱ	2	電気電子計測Ⅰ	2	デジタル回路	1		
電気電子基礎実験Ⅱ	2	電気回路Ⅲ	2	通信システム工学	2	電気電子計測Ⅱ	2		
電磁気学Ⅲ	2	電気エネルギー概論	2	電気機器Ⅰ	2	電力発生変換工学	2		
電力システム工学	2	高圧工学	2	電気機器Ⅱ	2	電気法規及び施設管理	2		
パワーエレクトロニクス	2	電気工学実験	2	電子物性Ⅰ	2	超電導工学	2		
電子物性Ⅱ	2	半導体デバイス工学Ⅰ	2	半導体デバイス工学Ⅱ	2	電子デバイス工学実験	2		
集積回路	1	光通信システム工学	2	デジタル信号処理	2				
(3) スマートコミュニケーション工学科					(新設)				
(イ) 必修科目									
プロジェクト基礎	2	PBL入門	2	PBL基礎Ⅰ	2	PBL基礎Ⅱ	2		
PBL応用Ⅰ	2	PBL応用Ⅱ	2	事例研究	2	情報リテラシー	2		
基礎数学	2	技術者倫理	2	データサイエンス基礎	2	科学コミュニケーション	2		
CAD入門	2	機械工学概論	2	電気工学概論	2	デジタルコミュニケーションプログラミング	2		
科学実験	2	品質管理Ⅰ	2	電気回路入門	2	シミュレーションプログラミング	2		
デジタルコントロール	2	ロボット学入門	2	電子回路入門	2	電気電子計測	2		
デジタル回路	2	デザイン思考	2						
(ロ) 選択科目									
社会実装ラボ	4	プログラミング入門	2	プログラミング基礎Ⅰ	2	基礎物理	2		
微分積分Ⅰ	2	線形代数Ⅰ	2	微分積分Ⅱ	2	知的財産権	2		
微分方程式	2	線形代数Ⅱ	2	インターンシップ	2	コンピュータ概論	2		
デジタルものづくり	2	テクニカルライティング	2	AIコミュニケーションゾール	2	ロボットデザインⅠ	2		
創造設計演習	2	情報セキュリティ	2	モバイルコミュニケーション	2	ロボットデザインⅡ	2		
科学技術英語	2	グローバルコミュニケーション	2	カーボンニュートラル概論	2	国際社会課題・SDGs	2		
電力グリッド工学Ⅰ	2	電力グリッド工学Ⅱ	2	地球環境学	2	エネルギーマネジメント工学Ⅰ	2		
エネルギーマネジメント工学Ⅱ	2	システムインテグレーション	2	防災工学	2	人間工学	2		
データ解析	2	AIアシスタントプログラミング	2	品質管理Ⅱ	2	FAシステム	2		
応用データ解析	2	力学発展	2	創造グループ基礎演習	2	ARリテラシー	2		
創造グループ応用演習	2	現代自然科学	2	平面構成	2	デザイン概論	2		
立体構成	2	美術概論	2	ユニバーサルデザイン論	2	色彩学	2		
ビジネス開発入門	2	マーケティング入門	2	流通入門	2	ベンチャービジネス論	2		
国際経営戦略論	2	技術経営論	2	広告論	2	融合理工学導入	1		
融合理工学基礎A	1	融合理工学基礎B	1	融合理工学応用A	1	融合理工学応用B	1		
融合プロジェクトⅠ	2	融合プロジェクトⅡ	2	融合プロジェクトⅢ	4	デザインエンジニアリング	2		
プロダクトデザイン基礎	1	プロダクトデザイン演習	1	人間中心設計	1	WEBデザイン	1		
アプリデザイン	1	映像表現	1	メディアアート	1	コンピュータグラフィックス基礎	2		
コンピュータグラフィックス応用	2								
(二) 留学生に関する科目 現行どおり					(二) 留学生に関する科目 (略)				
(三) 教職に関する科目 現行どおり					(三) 教職に関する科目 (略)				
別表第6の2	}	現行どおり			別表第6の2	}	(略)		
別表第9					別表第9				

新学則

別表第10

卒業に必要な授業科目及び単位数

経済学部経済学科

地域共創学部地域づくり学科グローバル・フードビジネス・プログラム

理工学部

授業科目区分		授業科目及び単位数					
		情報科学科		機械電気創造工学科		スポーツコミュニケーション工学科	
専門科目	必修科目	36単位	さらに専門科目から16単位基礎以上教育科目、外国語科目	38単位	さらに専門科目から14単位基礎以上教育科目、外国語科目	52単位	さらに専門科目から16単位基礎以上教育科目、外国語科目
	選択科目	52単位以上		50単位以上		36単位以上	
基礎教育科目	導入科目	2単位		2単位		2単位	
	学修基礎科目	12単位以上		14単位以上		12単位以上	
	キャリア科目						
	文理芸術融合科目						
教養科目							
外国語科目		英語 6 単位以上		英語 6 単位以上		英語 6 単位以上	
合計		124単位以上		124単位以上		124単位以上	

生命科学部

人間科学部

別表第11

別表第15

現行どおり

現行どおり

旧学則

別表第10

卒業に必要な授業科目及び単位数

経済学部経済学科

地域共創学部地域づくり学科グローバル・フードビジネス・プログラム

理工学部

授業科目区分		授業科目及び単位数						
		情報科学科		機械工学科		電気工学科		
専門科目	必修科目	36単位	さらに専門科目から16単位以上、基礎教育科目、外国語科目	60単位	さらに専門科目から14単位以上、基礎教育科目、外国語科目	54単位	さらに専門科目から24単位以上、基礎教育科目、外国語科目	
	選択必修科目	――		――		2単位以上		
	選択科目	52単位以上		40単位以上		24単位以上		
基礎教育科目	導入科目	2単位		2単位		12単位以上		14単位以上
	学修基礎科目	12単位以上						
	キャリア科目							
	文理芸術融合科目							
	教養科目							
外国語科目		英語 6 単位以上		英語 6 単位以上		英語 6 単位以上		
合計		124単位以上		124単位以上		124単位以上		

生命科学部

人間科学部

別表第11

別表第15

(略)

(略)

学部教授会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、九州産業大学学則（以下「学則」という。）第69条第5項の規定に基づき、教授会の運営その他について必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 教授会は、専属の教授、准教授、講師及び助教をもって構成する。

2 教授会は、必要に応じて、特任教員を加えることができる。

(招集)

第3条 教授会は、学部長が招集し、その議長となる。

(会議の成立及び議決)

第4条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

2 議決は、出席者の過半数の賛成があることを必要とする。

(審議事項)

第5条 教授会は、学則第69条第2項第1号及び第2号に掲げるもののほか、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 採用候補者の審査等に関する事項
- (2) 昇任候補者の審査等に関する事項
- (3) 学生の進級、留年及び転学に関する事項
- (4) 教育、研究並びに学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- (5) 教育課程の編成に関する事項
- (6) その他学長が必要と認めた事項

2 前項第2号に規定する昇任候補者の審査等の審議は、第2条の規定にかかわらず、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 教授への昇任は、教授ただし、准教授のうち学科主任である者については、学部長が、構成員の同意を得て加えることができる。
- (2) 准教授への昇任は、教授及び准教授
- (3) 講師への昇任は、教授、准教授及び講師

3 前項の場合において学部長は、必要に応じて准教授、講師、助教を陪席させることができる。

(学長及び副学長の出席)

第6条 学長及び副学長は、必要に応じて教授会に出席することができる。

(部外者の出席)

第7条 学部長は、必要に応じ、構成員及び関係教職員の同意を得て、当該関係教職員に、教授会への出席を求め、意見を聴くことができる。

(議題の通知)

第8条 学部長は、教授会の議題を、開催日の2日前までに、学長に通知するとともに、その構成員の閲覧に供しなければならない。

(議事録)

第9条 学部長は、教授会の議事録を、速やかに学長に提出するとともに、構成員の閲覧に供しなければならない。

(事務)

第10条 教授会の事務は、各学部事務室が行う。

(改廃)

第11条 この規程の改廃は、学長が学部長会議の意見を聴取した上で行う。

附 則

- 1 この規程は、平成2年5月29日から施行する。
- 2 この規程の施行に伴い「教授会規程」は廃止する。

附 則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成8年7月26日から施行し、平成8年6月25日から適用する。

附 則

この規程は、平成9年7月29日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月12日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和7年4月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類
(スマートコミュニケーション工学科)

目 次

I	設置の趣旨及び必要性	p. 3
II	学部・学科等の特色	p. 7
III	学部・学科等の名称及び学位の名称	p. 9
IV	教育課程の編成の考え方及び特色	p. 9
V	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	p. 14
VI	編入学定員を設定する場合の具体的計画	p. 16
VII	実習の具体的計画	p. 17
VIII	企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合 の具体的計画	p. 17
IX	取得可能な資格	p. 19
X	入学者選抜の概要	p. 19
X I	教育研究実施組織等の編成の考え方及び特色	p. 24
X II	研究の実施についての考え方、体制、取組	p. 25
X III	施設、設備等の整備計画	p. 27
X IV	管理運営	p. 30
X V	自己点検・評価	p. 32

XVI	情報の公表	p. 34
XVII	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	p. 39
XVIII	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	p. 44

I 設置の趣旨及び必要性

1 九州産業大学の沿革

本学は、創設者中村治四郎が「産学一如」を建学の理想に掲げ、昭和 35（1960）年に商学部商学科の単科大学「九州商科大学」として発足した。その後、時代の要請に応じ、昭和 38（1963）年に工学部を設置するとともに大学名を「九州産業大学」へ改称、続いて、昭和 39（1964）年に商学部第二部、昭和 41（1966）年に芸術学部、昭和 43（1968）年に経営学部、平成 5（1993）年に経済学部、平成 6（1994）年に国際文化学部、平成 14（2002）年に情報科学部を設置した。しかしながら、平成 24（2012）年当時、それまでの志願者数の長期低落などの課題が山積し、将来を見据えると危機的な状況であったことから、全学挙げての「教育改革」に取り組み、平成 28（2016）年に芸術学部の再編を皮切りに、平成 29（2017）年には理工系学部の再編、続けて、平成 30（2018）年に文系学部の再編を行い、3 ヶ年の間において全ての学部・学科の見直しを行い、現在の 9 学部 21 学科体制となり、文理芸を擁する総合大学として発展してきた。また、大学院についても、昭和 48（1973）年の工学研究科の設置を初めとして、基礎となる全学部に大学院博士前期課程及び博士後期課程を設け、現在、5 研究科を擁している。なお、本学は令和 2（2020）年に創立 60 周年を迎え、次なる創立 100 周年に向けたビジョン「新たな知と地をデザインする大学へ」を掲げ、新たなステージへと進んでいる。

令和 6（2024）年 11 月には、新ブランドメッセージ「次代を描く感性、世界を動かす実践力」を策定し、教職員一体となり未来に向けて本学が目指すべき想いを表現した。「次代を描く感性」とは、本学が推進する文理芸の学問領域が 1 キャンパスに集まり融合することで日々生まれる柔軟な思考と豊かな想像力を駆使し、目の前に広がる現実的な未来の課題に対して従来の常識にとらわれることなく新しい視点でアプローチする力を示している。「世界を動かす実践力」とは、学部学科の枠を超え、企業や地域、自治体と連携し地域社会やグローバルな課題に向き合い、商品開発・技術開発等をはじめとする本学のさまざまなプロジェクトを通して学んだ知識や経験を生かし、社会に実効性のあるポジティブな変化をもたらす力を示している。

2 設置する理由・必要性

理工学部は平成 29（2017）年の設置により、「情報科学科」「機械工学科」「電気工学科」の 3 学科体制となり、工学部（機械工学科、電気工学科（平成 19（2007）年から 28（2016）年は電気情報工学科））及び情報科学部の時代を含めると、これまでに 33,940 人の卒業生を社会に送り出している。しかしながら、理工学領域を取り巻く環境は、令和元（2019）年からの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行によって大きく変わってきた。ポストコロナ社会において豊かで持続可能な社会を目指すためには、人口減少・少子高齢化問題、環境問題の深刻化など、世界的な規模での持続可能性が課題である。また、多様な幸せが実現できる社会を目指し、1 人 1 人の生活様式の多様化や価値観の多様化が進んでいる。今後、理工学領域が関わる社会では、コロナ禍を経験した

人々からの多様化したニーズに合ったサービスや製品の提供が実現され、画一的でない多様な幸せが実現される社会形成が求められている。

理工学部が設置された平成 29 (2017) 年には、情報メカトロニクスの急速な技術革新に対応できる人材的ニーズが高まっており、産業界や科学技術界では「機械」「ロボット」「電気」「情報」の分野が注目であった。具体的には、次世代自動車、生活支援・介護ロボット、エネルギー、環境、スマートグリッド、情報セキュリティ等が挙げられる。理工学部では、時代の変化に柔軟に対応できる情報メカトロニクス分野の技術者を養成することを目指し、学部学科の運営が進められてきた。

しかしながら、ポストコロナ社会においては、豊かで持続可能な社会の実現に向けて、単に経済的・物質的な豊かさだけでなく、人間中心の技術活用や人との関わり、働きがい、健康など、総合的な暮らしの満足度を向上させるにはなにをすべきかを考えることが求められ、社会課題を解決する技術で貢献する必要がある。

これまで理工学部が目標にしてきた情報メカトロニクス分野においては、技術開発・技術者の養成に加え、地域社会に貢献する人材の育成、自治体・地元企業等との協働による地域産業の活性化が進められてきた。また、IT (AI・データサイエンス、IoT、ICT、デジタル技術) と理工学領域の融合も重要となってきた。そのため、理工学部要求される社会的・人材的なニーズは、豊かで持続可能な社会の実現のために、チャレンジスピリッツ、価値観、熱意、コミュニケーション力、組織力、論理的思考力へと変化している。教育研究活動においても、これまでの専門分野で技術力を深める「深化」から、急速に変化する多様な専門分野の「統合化」が重要になってきている。

これらの状況を踏まえ、豊かで持続可能な社会の実現に向けた新たな技術開発を行う人材と、デジタル技術を駆使して世界をつなげる技術者の養成が必要である。従って、デジタル技術や理工学の知識・技術を活用し、社会課題を解決するための新たなアプローチを提案できる人材を養成することが求められている。なお、デジタル技術を活用して新しい社会を創造するためには、単に新技術を開発するだけでは不十分であり、その技術を効果的に活用し、持続可能な社会を実現するための広範な取り組みが必要である。また、技術を進化させるだけでなく、多角的な視点からのアプローチや統合的な学びのスキルも求められ、変化に強い専門性を持ちながら、さまざまな分野に対応できる全方位型のスキルを兼ね備えたプロフェッショナルを育成することが理工学部の重要な役割となる。

新しい体制となる理工学部は、現代社会において文理芸のどの分野でも必要とされる情報・デジタル技術を学べる情報科学科を残し、機械工学科と電気工学科を再編する。工学領域において機械分野と電気分野は長い歴史を持つが、近年の急速な技術革新により、それぞれの分野がカバーする領域が広がり、独立していた 2 つの分野が重なり合うようになっている。この重なりを理解しない限り、社会が求めるモノづくりの技術課題に対応することが難しくなっている。さらに、ポストコロナにおいては、人と人、そして社会とのつながり方が多様化・複雑化している。これは技術分野にも当てはまり、デジタル技術の進展により、これまで独立していた専門領域が重なり合い、新しい技術を適切につなげ、活かすことのできる人材が求められているなか、これからの社会の変化に対応するためには、単なる技術教育を超えて、マーケティングやデザインなどの異分野の知識など、広範な知識と柔軟な思考を持った単なるエンジニアではなく、技術とヒト×モノ×セカイをつなぐことで社会課題を解決し、豊かで持続可能な社会に貢献できる人材が求められている。そのため、

機械工学科と電気工学科を再編し、社会が求めるモノづくりの技術課題に柔軟に対応することが可能な機械電気創造工学科を設置するとともに、新たに、デジタル社会において工学的な視点に加え、マーケティングやデザインの視点を持って、ヒト×モノ×セカイをつなぐことができる人材を養成する「スマートコミュニケーション工学科」を設置する必要がある。

3 養成する人材像

(理工学部)

本学は「産学一如」を建学の理想として設立した大学である。産学一如とは、「産業と大学は車の両輪のように一体となって時々の社会のニーズを満たすべきである」との意味であり、ここに創設者中村治四郎の想いが込められている。また、建学の理想を実現するために不可欠となる「建学の理念」として、「市民的自覚と中道精神の振興」・「実践的な学風の確立」を掲げている。これは「視野が広く、とらわれない精神と優れた判断力を持ち、社会において指導的役割を果たすことができる人材を育成する」ことを表している。

この「建学の理想」と「理念」に導かれた「本学の目指す教育」とは、次の3点であり、①創造的能力を伸ばし、理論に偏ることなく応用技術を身に付ける教育、②自国の文化とともに世界の多様な文化を理解し、これに対応できる感性を養う教育、③九州という立地を活かし、アジア・太平洋地域に目を向けた教育、である。これらを基盤として本学は、これまでに社会の各方面で活躍する多くの人材を輩出してきたが、その数は実に13万人を超えている。また、地域の大学として、企業所在地が福岡にある企業において、社長出身大学の第3位（朝日新聞出版「大学ランキング2025年版」より）にランクされるなどの実績は、地域に強い学生を育成する教育システムの成果であると考えられる。

「情報科学科」、「機械電気創造工学科」、「スマートコミュニケーション工学科」による新しい体制となる理工学部では、九州地域に展開されている自動車製造業・半導体製造業・ロボット産業をはじめとする情報メカトロニクス分野において貢献できる汎用的な知識と他分野の知識を融合活用できる能力を備えた中核的技術者の養成を目的とする。

併せて、理工学部においては、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 幅広い教養と各学科（情報科学科、機械電気創造工学科、スマートコミュニケーション工学科）における基礎的な専門知識を修得し、かつ専門知識を様々なアプリケーションに活用できる。
2. 論理的に思考し、判断することができる。
3. 技術者としての倫理観を身に付け、創造力・実践力を発揮できる。
4. コミュニケーション能力を有し、地域社会の発展に貢献できる。
5. 情報メカトロニクスに関わる技術・技能を活用することができる。
6. 技術者として必要な情報技術を活用することができる。

(スマートコミュニケーション工学科)

「スマートコミュニケーション工学科」では、工学の素養を基盤に、社会とのつながりを意識し、関連する分野の知識と技術を融合・活用できる人材を養成する。AI やデジタル技術などの先端技術を用いながら、情報に付加価値を加えてわかりやすく発信する力を備え、企業や社会のニーズに応じた高付加価値のアウトプットを生み出す能力を重視する。さらに、協働を促進するコミュニケーション力を高めることにより、多文化・多分野の環境にも柔軟に対応できる人材を養成する。プロジェクトを円滑に管理・運営し、その成果を社会実装へと導くことで、複雑化する社会に貢献する技術者や専門職の輩出を目指す。

併せて、「スマートコミュニケーション工学科」では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 工学をベースに様々な知識を統合し、AI やデジタル技術とそのアプリケーションを活用しながら、文理芸の連携を通じた創造力・実践力を発揮することができる。
2. コミュニケーションエンジニアとして必要とされる倫理観、協調性を備え、コミュニケーション能力、問題解決能力を発揮し、地域社会の発展に貢献できる。

多様化・複雑化する社会のニーズに応え、九州地域から世界に至る豊かで持続可能な社会の進展に貢献するため、スマートコミュニケーション工学科では、①社会や文化、芸術の視点を取り入れ、多分野の知識や技術を総合的に活用して複雑な課題を解決する文理芸融合型コミュニケーションエンジニア、②AI・データサイエンスなどの先端技術を駆使し、情報に付加価値を加えてわかりやすく発信する力を備え、企業や社会のニーズに応え、高付加価値のアウトプットを生み出すコミュニケーションエンジニア、③協働を促進するコミュニケーション力を高め、多文化・多分野の環境にも柔軟に対応しながら、プロジェクトを円滑に管理・運営して成果を社会実装へと導くテクノプロデューサーを養成する。

4 教育研究上の到達目標

(理工学部)

理工学部では、社会と文化の創造に貢献できる人材を養成するために、情報科学・機械工学・電気工学及びこれらを横断・融合した情報メカトロニクス分野における理論と技術（専門技術力）、高い知性と豊かな感性により多様な分野を横断して新たな価値を創出できる力（コミュニケーション力と社会実践力）を習得することで、卒業する学生一人ひとりに自信と達成感を持たせることを教育研究上の目的とする。

(スマートコミュニケーション工学科)

持続可能な社会を実現するために、文理芸の枠を超えて科学技術と社会デザインを横断する幅広い知見を身に付けることが不可欠である。「スマートコミュニケーション工学科」では、AI やデジタル技術、デザイン、マーケティング等の知識を統合し、自律的に、かつチームの一員としてプロジェクトを推進する能力を育むために、「プロジェクト型教育（以下、「PBL 教育」という。）」を徹底的に活用する。これにより、社会とのつながりを意識しながら、多様な分野を横断して新たな価値を創出できる人材を養成することを教育研究上の目的とする。

Ⅱ 学部・学科等の特色

(理工学部)

新たな体制となる理工学部では、従来から理工学部で実施してきた PBL 教育を発展させ、現在の理工学部においても令和 7 年度より、モノづくり、PBL 教育、デザイン思考を重視した新たな SMarFusion（スマートフュージョン）プログラムをスタートさせている。この SMarFusion は科学（Science）、モノづくり（Mono）、そして、デザイン（Art）の頭文字を組み合わせた造語であるが、「賢い」を意味するスマート（smart）とも同音異義語としてプログラム名に利用した。これからの理工系の学びにおいては、単に専門知識を得るだけではなく、文部科学省の中央教育審議会が平成 30 年 11 月 26 日にまとめた「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）（中教審第 211 号）」にも示されるように、近未来である 2040 年に必要とされる人材として、予測不可能な時代を生きる人材像は、専攻分野についての専門性を有するだけではなく、思考力、判断力、俯瞰力、表現力の基盤の上に、幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材ということが示されている。さらに変化を受容し、ジレンマを克服しつつ、更に新しい価値を創造しながら、様々な分野で多様性を持って活躍していることが必要であり、文理横断的な知識、スキル、能力を身に付けることこそが、社会における課題の発見とそれを解決するための学問の成果の社会実装を推進する基盤となることが示されている。

これからの新時代においては、複合的なスキルを持つ人材への期待も高まっていることから、理工学部の SMarFusion プログラムにおいては、デザイン思考と複合的なスキルの修得により専門分野の技術と知識だけでなく、情報通信産業、自動車産業、半導体産業などの様々な理工学領域のエンジニアの育成に対して、感性に訴えるクリエイティブな発想までを含めた複合的なスキルを修得可能とするカリキュラムを理工学部 3 学科の共通科目として開講する。各学科の専門分野を超えた学びによって、理工学部の学生の可能性を大きく広げることに貢献できると考えている。

時代の流れに迅速に対応するために、令和 8 年度からは、さらに理工学部の 2 つの学科を再編し、新たに「機械電気創造工学科」と「スマートコミュニケーション工学科」を設置する。機械電気創造工学科においては、持続可能な社会を支えるエンジニアを輩出するために、機械と電気の融

合したスペシャリストの育成をめざし、機械と電気の高度な知識を持って新たな課題を解決できる技術者を育成する。また、「スマートコミュニケーション工学科」では、新時代のコミュニケーションエンジニアの育成を目指し、工学をベースに文理芸の枠を超えた様々な知識を統合してプロジェクトを推進できる人材の育成を目指している。

(スマートコミュニケーション工学科)

「スマートコミュニケーション工学科」の特色は、工学をベースに様々な知識を統合してプロジェクトを進めることが可能な技術者を育成することである。デジタル人材の不足が問題となっている現代社会において、AI・データサイエンス、デジタル技術や工学の知識を活用し、社会課題を解決するための新たなアプローチを提案できるコミュニケーションエンジニアの需要は拡大していくと考える。新時代のコミュニケーションエンジニアとして、ヒト×モノ×セカイをつなげるプロデューサーとなり、4年間を通してPBL教育による学びを展開する。本学の強みである文理芸の連携を通じた学びによって、問題発見力と解決力を身に付けることを目指している。

本学科の強みとしては、社会課題でもある健康、環境、エネルギー、ICT分野において、未来の社会ニーズに統合的に対応できる人材を養成するために、学科の枠を超える学際力や統合力、創造力、問題解決力をPBL教育によって実践的に修得し、コミュニケーション力、マネジメントスキルを持つプロデューサーを目指すことができることが挙げられる。これにより、将来的には工学的な知識をベースにしながらも企業の企画戦略、マーケティング、技術企画、コンサル部門などへの就職が考えられる。また、AI・データサイエンスの知識を持ちながら、通信、IT、ソフトウェア、インターネットサービス、Web業界などのデジタル産業から、自動車、電子機器などのメーカーまで、多岐にわたる分野への就職が可能である。

本学科では専門科目を特定の方向性に沿ってグルーピングした「履修モデル」を定めている。

下記の2つのコースでは、どちらも学科共通としてAI・データサイエンス系の基礎科目やコミュニケーション系の科目を学びながら、1年次からチーム活動のPBL科目を実践する。また、学科の枠を超えた科目群として、社会科学系科目とデザイン系科目を学びながら、2つのコースから希望する分野を選択できるようになっている。その内容は以下に示す通りである。

a. コミュニケーションコース

工学系の基礎知識に加え、AIやデータサイエンスなどの先端技術を学び、多文化的な視点を活かしたコミュニケーション能力を身に付ける科目群

b. 社会課題実装コース

工学系の基礎知識を活用し、地域や社会の課題解決のための知識と応用力を身に付ける科目群

4年次には「事例研究」により、現代社会が抱えている課題について学ぶことで問題発見力を高め、その課題の解決を目指す「社会実装ラボ」で、これまでに身に付けた創造力、実践力、考察力、コミュニケーション力を高めることが可能となる。

なお、これらのコースはあくまで履修のモデルケースであり、学生は各コースに含まれる科目を自由に組み合わせることができる。[資料 1]

Ⅲ 学部・学科等の名称及び学位の名称

学 部	学 科	学 位
理工学部 Faculty of Science and Engineering	スマートコミュニケーション 工学科 Department of Smart Communication Engineering	学士（工学） Bachelor of Engineering

上記名称とした理由・背景

「スマートコミュニケーション工学科」という名称は、工学的な素養を持ちながらも、デジタル技術でヒト×モノ×セカイを、文理芸の多様な知見と工学的な技術力によってつなぐことができる学びを提供する学科であることを象徴している。「スマート」は、「賢い」を意味しながら、AI やデータサイエンス、デジタル技術などの最先端技術を活用することを意味し、「コミュニケーション」は、文理芸の枠を超えた学問融合を推進し、AI やデジタル技術、デザイン、マーケティングなど多様な知見を統合する PBL 教育を通じて、自律的かつ協力的に課題解決ができる技術者を育成することを意味する。これらの学びと工学的な知識を得ることを通して、工学全般に渡る幅広い知見を涵養することを求めていることから、学位の名称を「学士（工学）」とする。

Ⅳ 教育課程の編成の考え方及び特色

（理工学部）

理工学部では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、以下に示すカリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程を編成・実施している。

1. 自然科学の仕組みを理解する幅広い知識を養うための KSU 基盤教育、産業界・地域社会の要望に応えるための専門教育
2. 学部単位で仲間と助け合いながら、チームで課題解決に取り組むプロジェクトデザイン教育
3. 協調性・主体性・積極性・独創性を育み、コミュニケーション力・課題解決力を養い、理工学分野において付加価値が高い技術を生み出すための教育
4. モノづくり等の生産現場で活躍するための教育

理工学部各学科においては、上述されたカリキュラム・ポリシーに加え、各学科独自のカリキュラム・ポリシーによって、特色ある人材育成に向けた教育を実施する。

(スマートコミュニケーション工学科)

「スマートコミュニケーション工学科」では、学部のカリキュラム・ポリシーの要件に加え、次のような教育を実施する。

1. 工学的知識、AI・データサイエンス、デザイン、マーケティング等の知識を統合し、複雑化する社会課題を解決する専門教育
2. 文理芸の学びにより、モノを形にするため知識・技術の修得に取り組み、自律的にプロジェクトを実践し、その結果を社会実装するための教育
3. 課題解決能力を伸ばすプロジェクト型教育を通じて、創造力、実践力、考察力を育み、社会に結果を効果的に発信できる能力を育成する教育

これらの学科独自のカリキュラム・ポリシーを踏まえ、スマートコミュニケーション工学科における教育課程の編成の考え方及び特色は以下の通りである。

1 科目区分の設定及び理由

理工学部スマートコミュニケーション工学科の開講科目は「基礎教育科目」、「外国語科目」及び「専門科目」に区分されている。「基礎教育科目」は入学初年度の導入科目「大学スタディスキル」を始め、人文科学、社会科学、自然科学、キャリア等の科目群から構成されており、専門によらず身に付けておくべき一般教養科目を配置している。「外国語科目」は英語を中心とし、初修外国語として、ドイツ語、フランス語、韓国語、中国語の科目を配置している。

「専門科目」は「学部共通」、「SMArtFusion」、「PBL」、「学科共通」、「関連科目（デザイン科目）」、「関連科目（社会科学科目）」、「学科専門（コミュニケーション系）」、「学科専門（社会課題実装系）」の科目群に分類されている。実践力を高める1年次からの「PBL」科目群を中心にスマートコミュニケーション工学科が目指す「多様な専門分野の統合化」と新たなイノベーションの創出を実践できる体系的な学びの科目区分が設定されている。この科目区分を1年次から4年次まで段階的に学ぶことによって、学生が1年次から実践力を高めながらも基礎から応用、さらに社会課題の解決に向けたチーム活動へとスムーズに学習を進められるようになっている。以下、これらの科目区分の構成と理由について述べる。

2 各科目区分の科目構成及び理由

① 「学部共通」科目群

この科目群では、数学・物理・情報技術の基本を学び、機械・電気電子工学の専門知識を支える基礎的知見を修得する。具体的には、「基礎数学」、「線形代数Ⅰ」、「線形代数Ⅱ」、「微分積分

I」、「微分積分Ⅱ」及び「微分方程式」といった数学科目に始まり、力学、電磁気学、熱力学の基礎を学ぶ「基礎物理」や、AI やデータサイエンスを活用するために必要な情報技術に関連する「プログラミング入門」、「プログラミング基礎 I」及び「情報リテラシー」が含まれる。また、現代の技術者として当然身に付けておかねばならない知的財産や倫理について学ぶ「知的財産権」及び「技術者倫理」を配置している。これらの科目群を1年次から2年次にかけて学ぶことにより、工学的な視点から、社会課題をAI やデジタル技術を使って解決するために必要な論理的思考力を養う。さらに、3年次には学生の就業意識を高めるための「インターンシップ」も開講している。

② 「SMArtFusion」科目群

この科目群は学科横断型で複合的な融合プロジェクトの実践的な学びに加えてデザイン思考によるモノづくりなどを実践するためのアート&デザインを融合させた本学独自の教育プログラムであり、芸術学部を有する本学の強みを生かしたものである。具体的には「融合理工学導入」、「融合理工学基礎」、「融合理工学応用」、「融合プロジェクト」、「プロダクトデザイン演習」、「人間中心設計」、「映像表現」等の科目が含まれ、多くはプロジェクト形式の授業を展開し、学生が問題に主体的に関わることを想定している。

③ 「PBL」科目群

この科目群は、「スマートコミュニケーション工学科」を代表する科目群であり、地域や社会の課題解決に向けたプロジェクトを実践すると共に、その結果を社会に効果的に発信するための方法を学びながら、柔軟で創造的にプロジェクト活動に取り組む。PBL 科目群では、課題解決能力を伸ばす教育を通じて、創造力、実践力、考察力を育み、社会に結果を効果的に発信できる能力を育成する教育を実践する。

④ 「学科共通」科目群

この科目群では、工学的な基礎知識及びそれらを活用する応用知識に加え、AI やデータサイエンスなどの先端技術を学び、他文化的な視点を活かしたコミュニケーション力を身に付ける。工学的知識、AI・データサイエンス、さらに後述する関連科目であるデザイン、マーケティング等の知識を統合し、複雑化する社会課題を解決する専門教育を実践する。

⑤ 「関連科目（デザイン科目）」科目群

この科目群では、文理芸の学びにより、プロジェクト活動において多様なバックグラウンドを尊重し、コミュニケーション力を高めることで、「デザイン思考」による新たなイノベーション創出と直感的で使いやすいサービス設計などにも役だたせるために、ユーザー視点のアプローチ

を実践する。工学的知識に加え、デザイン系の知識を統合することで、複雑化する社会課題を解決する専門教育を実践する。

⑥ 「関連科目（社会科学科目）」科目群

この科目群では、文理芸の学びにより、プロジェクト活動において多様なバックグラウンドを尊重し、コミュニケーション力を高めることで、新しい技術を使ったサービスやニーズを発見・企画するために、ビジネスやマーケティングに関連する科目を教育する。工学的知識にマーケティング等に関連した知識を統合し、複雑化する社会課題を解決する専門教育を実施することで、人×モノ×セカイをつなげるマネジメントスキルを伸ばす。

⑦ 「学科専門（コミュニケーション系）」科目群

この科目群では、「スマートコミュニケーション工学科」において、言語によるコミュニケーションだけではなく、ヒト×モノ×セカイをつなげるために、工学的な視点と、AI やデジタル技術を使ったコミュニケーション力を向上させながら、持続可能な社会を実現するための専門教育を実践する。コミュニケーション系科目により、協調性・主体性・積極性・独創性を育みながら、コミュニケーション力・課題解決力を養う。さらに、理工学の分野において付加価値が高い技術を生みだし、AI・データサイエンスなどの先端技術を活用することで、相手に合わせた伝達力を身に付け、社会に発信できる教育を実践する。

⑧ 「学科専門（社会課題実装系）」科目群

この科目群では、工学的な知識によって、地域と社会における柔軟で創造的な問題解決を実践する。PBL 科目群との並行した学修及び関連科目（デザイン科目、社会科学科目）との文理芸融合によって、デジタル技術で人、モノ、社会をつなげ、持続可能な社会に向けた課題解決を実践する。文理芸の学びにより、モノを形にするため知識・技術の修得に取り組み、自律的にプロジェクトを実践し、その結果を社会実装するための教育を実践しながら、モノづくり等の生産現場で活躍するための教育にもつなげる。

3 課程の設置の趣旨等を実現するための科目の対応関係

「スマートコミュニケーション工学科」では、持続可能な社会を実現するため、文理芸の枠を超えて科学技術と社会デザインを横断する幅広い知見を身に付けること目的としている。AI やデジタル技術、デザイン、マーケティング等の知識を統合し、自律的に、かつチームの一員としてプロジェクトを推進する能力を育むことを可能にするために、1 年次から 4 年次まで PBL 教育を徹底的に活用している。前述した科目構成は、社会とのつながりを意識しながら、多様な分野を横断して新たな価値を創出できる人材を養成することが可能となっている。

4 必修科目・選択科目の構成及び理由

本学科では、学部共通科目による工学的な基礎知識の学びとして配当し、さらに、1年次から4年次まで実践的なチーム活動などを行う「PBL」科目群をほぼ必修科目として配当している。学科共通科目にはAIやデータサイエンス、プログラミングなど、最新のデジタル技術を利用するための必修科目を設定している。

これらの必修科目を学びながら、学科専門科目に配当される2つのコース科目であるコミュニケーション系科目と社会課題実装系科目を希望する分野で選択できる配当となっている。これは、「Ⅱ. 学部・学科等の特色」で述べた履修モデルである。1年次後学期以降に配当される2つのコース科目を全て選択科目とすることによって、学生が履修モデルを参考にしながら自由に科目を選択できるように配慮している。

5 履修順序（配当年次）の考え方

PBL教育を中心とした工学的な学びに、AIやデータサイエンスなどのデジタル技術を取り入れながら、現代の技術課題に対応し、多様な専門分野の統合化に寄与できる創造的なコミュニケーションエンジニアやテクノプロデューサーを育成するために、1年次からのPBL教育に加え、工学的な基礎学力を十分に涵養したうえで、それらを応用展開する学修へと進むことを企図した履修順序を設定している。具体的には以下のような順序に従って科目を配当している。

1年次からPBL科目を実践しながら、「基礎教育科目」や「外国語科目」を中心としつつ、「専門科目」の「学部共通」科目群及び「学科共通」科目群を配当しており、一般教養とAIやデータサイエンス、プログラミングなどの専門基礎が並行して学べるよう配慮している。全般的に、1年次からPBL科目群や学科共通科目群による実験・実習を多く取り入れ、学生の実践的な理解度向上を促す内容となっている。

1年次の後学期以降は、それまでに学んだ内容に加え、学生各々が志向するコースに従って、より高度な内容を修得できる「学科専門」科目群を配当している。それぞれの専門科目群の内容及び特色は前述した通りである。これらの科目群の履修は、4年間にわたるPBL科目の実践的応用として、4年次の「事例研究」及び「社会実装ラボ」に展開され、学生の学びが段階的に自主的・主体的となるように配慮されている。

6 科目の設定単位数の考え方

各科目は、大学設置基準第21条に従い、1単位45時間の学修を必要とする内容を以って構成している。原則として、講義・演習科目については授業外学修に必要な内容及び時間を考慮し、2単位を基準に設定している。例えば、週1コマ半期開講科目及び週2コマ1/4期開講科目は2単位、週1コマ1/4期開講科目は1単位となる。また、実験・実習科目については、週2コマの開講による授業時間の確保や課題に費やす授業外学修の時間等を考慮し、半期開講科目を2単位としている。

V 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1 授業内容に応じた授業の方法、学生数の設定、配当年次について

「スマートコミュニケーション工学科」の教育課程は段階的・体系的に構成され、専門性と応用力を高める授業が各年次に配置されている。

1 年次には、基礎的な数学・物理・情報技術の修得を目的とした「学部共通」科目（例：「基礎数学」、「基礎物理」、「情報リテラシー」、「プログラミング入門」など）を配当し、スマートコミュニケーション工学への導入を促すとともに、論理的思考力の育成を図っている。PBL 科目においては、プロジェクト等への導入科目（例：プロジェクト基礎、PBL 入門）を配当することで1 年次からのプロジェクト活動への参加を進める。学科共通科目においては「データサイエンス基礎」や「科学コミュニケーション」によってコミュニケーションエンジニアへの一步を踏み出す科目構成となっている。また、理工学とアート・デザインの融合による創造的思考を促進するため、本学独自の SMartFusion 科目群（「融合理工学導入」、「人間中心設計」、「映像表現」など）を設置している。50 名を定員とする本学科においては、常に少人数でのきめ細かい指導を目指している。

2 年次には、「PBL 基礎Ⅰ」及び「PBL 基礎Ⅱ」により、プロジェクト活動を実践的に学ぶ段階に入る。また、学科専門のコミュニケーション系及び社会課題実装系の科目も順次配当され、PBL 科目との連携を図る。並行して、関連科目のデザイン科目と社会科学科目により、文理芸による連携を進めるための基礎も学ぶ。

3 年次では、引き続き PBL 科目である「PBL 応用Ⅰ」及び「PBL 応用Ⅱ」が配当され、さらにコミュニケーション力を高めながらも社会課題の解決に向けたプロジェクト活動を実践する。引き続き、学科専門のコミュニケーション系及び社会課題実装系の科目も順次配当され、PBL 科目との連携を図る。また、実習科目も配当されている。さらに、専門的なインターンシップや全学的なキャリア教育科目も設定されている。

4 年次には「事例研究」と「社会実装ラボ」を通じて、これまでに培った専門知識・技術を統合的に活用する力を養う。また、国際化を視野に入れた授業である「グローバルコミュニケーション」が配当され、世界で活躍するコミュニケーションエンジニアに向けたコミュニケーション力の向上を支援する。ほぼすべての PBL 科目では4 年次生もしくは大学院生のティーチングアシスタントを活用し、質問への即時対応や受講生全員への知識の浸透を図る予定である。

以上のように、スマートコミュニケーション工学科では、1 年次の基礎力養成から4 年次の専門性・実践力の完成に至るまで、実践的な PBL 科目を徹底的に活用しながら柔軟なカリキュラムが整備されており、多様な社会課題に対応できる創造性豊かな学生の育成を実現する。

2 卒業要件について

「スマートコミュニケーション工学科」の卒業要件は下表の通りである。

授業科目区分		必要単位数	
専門科目	必修科目	52 単位	さらに専門科目、基礎教育科目、外国語科目から 16 単位以上
	選択科目	36 単位以上	
基礎教育科目	導入科目	2 単位	
	学修基礎科目	12 単位以上	
	キャリア科目		
	文理芸融合科目		
	教養科目		
外国語科目		英語 6 単位以上	
合計		124 単位以上	

なお、科目区分ごとの必修、選択等の必要単位数に対する考え方は以下の通りである。

① 専門科目

専門科目区分は、工学領域の科目に加え、AI やデジタル技術を含む学科共通科目、PBL 科目、学科専門科目であるコミュニケーション系、社会課題実装系、関連科目であるデザイン科目・社会科学科目などの導入、基礎及び応用をなす科目群から構成されている。このうち、専門科目として 52 単位を必修科目とし、学生が 2 つのコースであるコミュニケーション系及び社会課題実装系のどちらを履修した場合でも、PBL 科目を中心として実践的に社会課題解決に向けたプロジェクト活動などを学ぶことができる科目となっている。専門科目を学ぶために必要な数学関連科目（「基礎数学」）、AI やデータサイエンスを学ぶための関連科目（「情報リテラシー」、「データサイエンス基礎」、「科学コミュニケーション」、「デジタルコミュニケーションプログラミング」）、理工学の基礎を学ぶ関連科目（「機械工学概論」、「電気工学概論」）、及び全学年を通した PBL 科目（「プロジェクト基礎」、「PBL 入門」、「PBL 基礎Ⅰ・Ⅱ」、「PBL 応用Ⅰ・Ⅱ」）などが含まれる。

一方、コミュニケーション系及び社会課題実装系の科目、文理芸の連携を通じた新しい視点からの学びであるデザイン科目及び社会科学科目については、「デザイン思考」以外の科目を全て選択科目とし、36 単位以上を修得することとしている。先に述べたように、学生の科目選択の指針となるように 2 つの履修モデルを設定している。ただし、学生はこれらのコースにとらわれることなく自由に選択科目を選ぶことができる。

② 基礎教育科目

基礎教育科目区分はスマートコミュニケーション工学科の枠に含まれない一般教養科目から構成されており、本学が提供する多彩な科目群（学修基礎科目、キャリア科目、文理芸融合科目及び教養科目）から 14 単位以上を選択することとしている。また、1 年次の導入科目としてゼミ形式の「大学スタディスキル」を配当しており、全員が 6～8 名程度のゼミに分かれて履修し、2 単位を修得する必要がある。

③ 外国語科目

外国語科目として英語科目を6単位以上修得する。

④ CAP 制について

学生の主体的な学びの時間確保のため、また、各授業の事前・事後学修の時間を考慮し、年間の履修登録単位数を44単位（半期で28単位）としている。なお、前年度までの累積GPAが3.0以上の学生はさらに4単位履修することができる。

3 4年次の「事例研究」及び「社会実装ラボ」について

スマートコミュニケーション工学科においては、一般的な理工系学科にある卒業研究は科目に配当していない。学生は1年次からのPBL科目による実践的な教育活動によって、コミュニケーション力や思考力、判断力、俯瞰力など、社会課題の解決の基盤となる能力を身に付ける。4年次においては、身に付けた幅広い教養と、変化に対応可能な思考力によって「事例研究」を各教員のゼミに分かれて実施する。ここでは、企業や自治体との連携によって、社会課題の解決に向けたアイデアや提案を実践する。さらに、4年次後学期に配当されている「社会実装ラボ」では、「事例研究」の課題に対して実践的にプロジェクト活動を行い、ポスター等による最終報告会を行う。学生はこの過程において、情報収集、計画、考察、実行、ディスカッション、プレゼンテーションなどに取り組み、さまざまな能力を身に付ける。身に付けた幅広い教養と、高い公共性・倫理性を保持しつつ、積極的に社会を支え、且つ、社会を改善していくための活動を経験する。必要に応じて、指導教員が行っている産学連携の共同研究等にも関わり、研究と社会の結びつきに対する理解も深めることもできる。

VI 編入学定員を設定する場合の具体的計画

編入学については、定員を設定せずに学科の定員の範囲内で編入学を認めることとする。

1 既修得単位の認定方法

編入学生の既修得単位については、編入学前の修得単位を上限に、個別に単位認定を行う。

2 履修指導方法

- ① 本学の必修科目を単位認定できない場合は、編入学後に優先して履修させる。
- ② 編入学生の希望等を考慮し、編入後の2年間で無理なく卒業し、卒業後の希望進路が実現

できるよう、教員や教務部の担当者による指導を行う。

3 教育上の配慮

- ① 早期に本学の環境に適応することができるよう、入学直後に教務部によるガイダンスを行う。
- ② 編入学生は入学直後から研究室に所属し、卒業に向けた専門教育を受けることになる。このため、入学直後に学生と教務部職員、教員等が面談し、本人の希望、それまでの学修内容を踏まえ、適切な履修指導を行うことで、入学後の選択ミスが起こらないよう配慮する。
- ③ 入学後は、研究指導教員が担任となり、研究指導とともに日常生活指導も行う。また、学内には「学生相談室」、「基礎教育センター」、「基礎教育サポートセンター」等を設けており、学習だけでなく、種々の悩みや問題を相談できる場を設けている。

Ⅶ 実習の具体的計画

教職課程を置かないため特記事項なし

Ⅷ 企業実習（インターンシップ含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

1 インターンシップ・仕事体験（以下「インターンシップ」という。）

① インターンシップの概要・目的

本学では、就業体験を通じて、仕事や企業、業界、社会への理解を深めると共に、学生の就業に対する関心を高め、自らの適性や適職を認識する目的で、九州インターンシップ推進協議会主催及び本学主催インターンシップを実施している。また、学生は、インターンシップを通して、事前・事後研修会の「教育・研究」と「就業体験」を融合させることにより、大学で学んだ内容と社会との関連性を認識し、新たな学修意欲を生み出すだけでなく、「勤労観」「職業観」「社会観」「自分なりの価値観」などを培うことができる。なお、インターンシップの目的は、本学学生のキャリア形成支援の一環として、職業観を醸成させるとともに自己理解を促し、仕事に取り組む姿勢を磨き、さらにはビジネスマナーや社会の規律を学び、責任感を育むことである。

② インターンシップの実施方法

インターンシップは、夏季（就業体験：8～9月）及び春季（就業体験：2～3月）に実施している。就業体験先については、多種多様な企業（建設・製造・運輸・情報通信・卸売・小売・飲食・金融・不動産・サービス業）や地方自治体とし、教職員の訪問、本学への来学・面談、イン

ターンシップ受入及び新卒採用実績などを判断基準として選定する。その後、受入内諾を得た企業などを学生に周知し、学生がエントリーシートを作成の上、希望就業体験先にエントリーを行う。受入申込は原則、先着順だが、キャリア支援センターによる選考（面接）を実施する場合もある。

事前研修会では、インターンシップの目的・心構え、ビジネスマナーなどを指導する。就業体験参加期間は5日以上を想定しており、KSU チャレンジマンス（夏季・春季休業）中に実施する。就業体験中の最強のコミュニケーションツールとなる「研修日誌（研修内容、感想、反省、目標・質問）」は、学生が就業体験日毎に作成し、受入先担当者がコメントやアドバイスを記載する。学生は、就業体験終了後1週間以内に「インターンシップ研修報告書（満足度、自分自身の変化、進路選択への影響、感想）」を作成し、「研修日誌」と一緒にキャリア支援センターに提出する。事後研修会では、「インターンシップ・仕事体験の成果を振り返る」「参加者同士での情報交換・グループディスカッションを通じて今後の学生生活、就職活動へのモチベーションを高める」「グループディスカッションを経験することで、今後取るべき対策を見極める」ことを目的に、グループワーク・プレゼンテーションを中心とした情報共有、振り返りを行い、成果を発表する。

<参考>

- ・インターンシップ募集説明会（夏季：5～6月、春季：12月）
- ・インターンシップ事前研修会（夏季：6月、春季：1月）
- ・インターンシップ就業体験（夏季：8～9月、春季：2～3月）
- ・インターンシップ事後研修会（夏季：10月、春季：3月）

また、インターンシップでは、大学入学後に学修した情報・機械・電気の各分野の基礎及び専門にかかわる理論と技術に基づき、低学年次から実際に学外の企業などで、就業体験を実施する。なお、到達目標は、現場における最新の、あるいは伝統的な技術、作業手法、運営方法、プロジェクト管理の方法と技術などに触れる中で、大学内での学修・研究が実社会においてどのように役立つのか実感させ、卒業後のイメージをより具体的なものとし、職業意識を高め、将来の進路について考えるきっかけや足がかりを得ることである。

③ 成績評価体制及び単位認定方法

インターンシップの成績評価は、各学科の専任教員が担当となり、「到達目標」「評価基準」「評価方法」を明示し、研修日誌、研修報告書、レポート及び研修先企業などの評価報告書に基づき、総合的に評価する。

<単位認定>

- ・3年次配当専門科目「インターンシップ」2単位
- ・1・2年次生は、単位認定なし

<単位認定条件>

- ・事前研修会、事後研修会に参加すること

- ・受入先企業などが指定するプログラムに従い、就業体験を行うこと
- ・研修日誌、インターンシップ研修報告書をキャリア支援センターに提出すること
(就業体験終了後1週間以内に)
- ・担当教員が指定するレポートを提出すること

④ 実習先の確保の状況

過去3年間の既設の3学科（情報科学科、機械工学科、電気工学科）のインターンシップ受入先企業などについては、資料のとおりである。 [資料2]

IX 取得可能な資格

「スマートコミュニケーション工学科」において取得可能な国家資格はなし

X 入学者選抜の概要

1 入学者の受け入れ方針（アドミッションポリシー）

① 理工学部のアドミッションポリシー

本学においては‘大学全体の3つのポリシー’を策定（平成28年2月）している。大学としてのアドミッションポリシーは、次のとおりである。

[入学者の受け入れ方針：アドミッションポリシー]

本学は、次の能力・意欲をもった人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 建学の理想と理念を理解し、学習意欲が高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 特定分野において卓越した能力をもっている人

以上を踏まえた、理工学部のアドミッションポリシーは、次のとおりである。

理工学部に関連する学術分野で、創造的活動を行う人材と人間性豊かで国際的視野を持った人材を育成するために、次のような学生を受け入れる。

1. 情報科学・機械工学・電気工学又は情報メカトロニクスに興味がある人
2. 好奇心を持ち、何事にも積極的に取り組む人

3. 客観的な視点で物事を判断でき、自分の考えをまとめることができる人
4. 情報メカトロニクスに関連する分野の研究者・教育者を目指している人

② 「スマートコミュニケーション工学科」のアドミッションポリシー

大学及び理工学部のアドミッションポリシーに基づき、「スマートコミュニケーション工学科」のアドミッションポリシーを以下のとおり定めている。

スマートコミュニケーション工学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次の能力・意欲をもった人を受け入れる。

1. 工学系の基礎知識に加え、AIやデータサイエンスなどの先端技術を学び、多文化的な視点を活かしたコミュニケーション能力を身に付けたい人
2. チームで協力しながら社会課題の解決に貢献したい人
3. 論理的思考力や探究心を持ち、多様なバックグラウンドを尊重し、柔軟で創造的にプロジェクトに取り組みたい人

2 入学者選抜の方法

理工学部では、前述のアドミッションポリシーに基づき、複数種類の入試を実施する。

入試選抜方法については、以下のとおり、「①一般選抜等」、「②総合型選抜」、「③学校推薦型選抜」及び「④その他の選抜」に大別される。併せて、各入試の概要を示す。

① 一般選抜等

(1) 一般選抜（前期日程・後期日程）

一般選抜（前期日程）は、「科目試験（外国語、数学、選択科目）」の得点により、選抜する。

一般選抜（後期日程）は、「科目試験（外国語、数学）」の得点により、選抜する。

平均的にバランスの取れた学力を備えた者を選抜するための区分であり、前期日程については、地方会場での試験も実施する。

(2) 大学入学共通テスト利用選抜（前期日程・中期日程・後期日程）

大学入学共通テスト利用選抜（前期日程・後期日程）は、大学入学共通テストの得点により、高得点の3科目で判定、選抜する。

大学入学共通テスト利用選抜（中期日程）は、大学入学共通テストの得点により、高得点の4科目で判定、選抜する。

(3) 一般選抜・大学入学共通テスト併用型選抜

一般選抜（前期日程）の3教科3科目と大学入学共通テストの3教科3科目以上を受験して、計6科目から一般入試の得点と大学入学共通テストのそれぞれ高得点の2科目の計4科目で判定、選抜する。

得意科目を活かせる選抜方法であり、一般選抜の受験を必須としている。

② 総合型選抜

本学入学を第一希望とする者の対象入試とする。

総合型選抜は、課題探究型、基礎力重視、学科特色、育成型、理科・情報科目、専門・実業系高校、学修成果重視、スポーツ型、女子特別型を実施する。

選考方法は、アドミッションポリシーに基づき、各選抜の特長に合わせて、受験生の知識や思考力、主体性などを多面的に評価し、「大学入学希望理由書」、「面接」、「基礎テスト」等の成績により行い、総合的に評価の上、選抜する。

なお、「女子特別型」は、令和7(2025)年度入試において、理工学部のみで実施した入学者に対する入学金の免除や原則4年間の奨学金付きの入試であり、他大学には見られない特徴的な入試である。

③ 学校推薦型選抜

学校推薦型選抜は、公募、指定校、付属高校、特別総合推薦を実施する。選考方法は、「書類審査（調査書等）」、「面接」、「基礎テスト」等の成績により行い、総合的に評価の上、選抜する。

④ その他の入試

(1) 特別選抜（社会人選抜・帰国子女選抜・外国人留学生選抜）

(i) 社会人選抜

社会人選抜は、入学時に満23歳以上の者で、次のいずれかに該当する者とする。

- ・高等学校を卒業した者（定時制、通信制の課程は、卒業見込みの者を含む）
- ・高等学校卒業と同等の資格を有する者〔高等学校卒業程度認定試験に合格した者、若しくは受験年度の3月31日までに合格見込みの者（大学入学資格検定に合格した者を含む）〕

試験科目は、「書類審査」、「面接」、「小論文」等の成績により行い、総合的に評価の上、選抜する。

(ii) 帰国子女選抜

帰国子女選抜は、日本国籍を有し、海外在留が継続して2年以上の者で、入学時に満18

歳に達し、次のいずれかに該当する者とする。

- ・外国において高等学校またはこれと同等の学校に在籍し、通常の学校教育課程 12 年以上に相当する課程を修了(または修了見込み)の者で、修了後 2 年以内の者
- ・外国の学校教育を受け、日本の高等学校に編入し、受験年度の 3 月に卒業見込みの者
- ・国際バカロレア資格、アビトゥア資格、バカロレア資格または GCE－A レベルを有する者で、帰国後 5 年以内の者
- ・文部科学大臣が高等学校の課程を有すると認定した在外教育施設当該課程を修了(または修了見込み)の者で帰国後 2 年以内の者

試験科目は、「書類審査」、「面接」、「小論文」等の成績により行い、総合的に評価の上、選抜する。

(iii) 外国人留学生選抜

外国人留学生選抜は、次のいずれかに該当し、かつ入学時満 18 歳以上の外国籍の者で、入学後、法に定める留学するための在留資格を取得または変更できる者とする。

- ・日本における 12 年間の学校教育に相当する教育課程を修了若しくは修了見込みで、そのうち 8 年以上を外国において修了した者
- ・日本における高等学校に相当する課程の修了までに 12 年を要しない国において、高等学校に対応する学校の課程を修了した者で、更に上級学校に進学した場合、課程年数を加算して 12 年を超える者、若しくはこれに準ずる者で文部科学大臣が指定した者
- ・国際バカロレア資格、アビトゥア資格、バカロレア資格または GCE－A レベルを有する者
- ・外国における 12 年の課程修了相当の学力試験に合格し、18 歳に達した者

外国人留学生選抜では「日本留学試験」の指定された科目の受験が必要である。

試験科目は、「書類審査」、「面接」、「小論文」、「日本留学試験の点数」等の成績により行い、総合的に評価の上、選抜する。

(2) 編入学選抜（推薦編入学・一般編入学・社会人編入学）

編入学選抜は、推薦編入学選抜、一般編入学選抜、社会人編入学選抜を実施する。出願できる者は、次のいずれかに該当する者とする。

- ・大学卒業者、または大学の 2 年次以上の修了（見込み）者で 62 単位以上修得（見込み）者
- ・短期大学卒業（見込み）者
- ・高等専門学校卒業（見込み）者
- ・外国において、学校教育における 14 年以上（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）の課程を修了した（または修了見込みの）者で、本学において大学卒業、大学の 2 年次以上の修了（見込み）、短期大学卒業（見込み）、高等専門学校卒業（見込み）

に準ずると認められた者

- ・学校教育法施行規則附則第7条に該当する者
- ・学校教育法第132条に規定する大学編入学資格を有する者（専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者または修了見込みの者。ただし、学校教育法第90条に規定する大学資格を有する者に限る）

なお、日本語を母語としない者は、独立行政法人国際交流基金と公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する『日本語能力試験N1レベル（または1級）』を合格した者、または、独立行政法人日本学生支援機構実施の「(受験する年度の) 日本留学試験」の「日本語」250点以上取得した者に限る。

以上の出願資格に加え、推薦編入学選抜の場合は、次の出願資格を満たす者とする。

- ・出身学校の学長または学校長が学業成績・人物ともに優秀と認めて推薦する者
- ・合格した場合、必ず入学する者

編入学選抜は、原則として3年次に編入学を希望し、出願資格を満たす者で、「書類審査」、「面接（専門分野の口頭試問を含む）」、「小論文」、「科目テスト（英語、数学）」等の成績により行い、総合的に評価の上、選抜する。また、読み替え後の単位は、卒業に要する修得単位として認定する。

上述の各入試の募集人員は、次表のとおりである。

なお、3学科とも、学校推薦型選抜の募集人員は、各学科の入学定員の5割を超えない範囲としている。

理工学部（入学定員：325人）

（単位：人）

学部・学科		定員	募集人員			
			一般等	総合型	学校推薦型	その他
理工学部	情報科学科	140	61 (43.6%)	29 (20.7%)	46 (32.9%)	4 (2.9%)
	機械電気創造 工学科	135	60 (44.4%)	28 (20.7%)	43 (31.9%)	4 (3.0%)
	スマートコミュニケーション工 学科	50	20 (40.0%)	14 (28.0%)	16 (32.0%)	若干名

X I 教育研究実施組織等の編成の考え方及び特色

1 教員組織の編成の考え方及び特色

「スマートコミュニケーション工学科」では、全学年を通じた PBL 教育による実践的な教育を柱に、AI・データサイエンスやデジタル技術によって社会課題を解決する学びを中心とする教育理念と、学科が掲げるディプロマ・ポリシーを基盤に、体系的かつ実践的な専門教育を担うための教員配置を行っている。教育と研究の両面で高度な専門性を備えた基幹教員を中心に、すべての科目において適切な指導体制を確保している。

特に、学科の教育の核となる専門必修科目および専門選択科目については、その分野で豊富な教育・研究実績を持つ基幹教員が担当し、教育の質を安定的に維持・向上させている。また、教員の年齢構成（開設時）については、60 歳代 1 名、50 歳代 5 名、40 歳代 1 名、30 歳代 1 名となっている。若手教員は少ないが経験豊富な中堅・ベテラン教員を配置し、少人数組織によって教育・研究にあたる体制とすることで、学びにおける連携活動やフットワークの軽さを担保している。具体的な年齢構成（完成年度）は資料のとおりである。 [資料 3]

本学の教員の定年については、「教育職員定年規程」に規定している。 [資料 4]

スマートコミュニケーション工学科においては、完成年度の期間まで、定年の該当者は含まれていない。したがって、完成年度までの教員の維持に問題はない。

なお、完成年度以降の退職者の補充計画については、教育と研究の両面で高度な専門性を備えた基幹教員を配置し、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がないように編成を行う。

2 中心となる研究分野と研究体制

「スマートコミュニケーション工学科」が注力する研究分野は、工学領域を中心としながらも様々な融合領域で、且つ、多岐にわたっている。「AI・データサイエンス、IoT とその活用」「SDGs・エネルギー」「モバイルコミュニケーション」「ネットワークとセキュリティ」「宇宙・地球環境の問題」「医療介護現場におけるニーズと課題」「高齢化社会・食糧問題とスマート農業」など、現代社会が求める広範かつ先進的なテーマを網羅している。

今後は、こうした分野間の垣根を越えた研究交流をさらに統合化させ、複合領域のイノベーション創出を目指す。また、地域社会や産業界との連携も重視し、産学官の協働による応用研究や共同プロジェクトを積極的に推進する。これにより、学生にとっても PBL 活動を通じた社会課題実装のプロセスを体験できる教育環境を整備し、次代を担う実践的・創造的な技術者の育成に資する体制を構築する。

3 教員及び事務職員の連携体制

九州産業大学では、大学運営が組織的かつ効果的に行われるよう、必要な教員組織、事務組織を設置しており、業務の分業・協働の考え方のもと、連携して日常的な運営を行っている。それぞれ

の役割や責任の所在については、学則や各種規程、事務分掌等で明確に規定されている。

学生に対する教育研究、指導等については、学部・学科の教員組織に加え、主な事務組織として、入試部、教務部、学生部、キャリア支援センター等を設置しており、学生の修学、課外活動、進路選択、心身に関する相談など、入学前から卒業までの一貫した学生支援を実施できる組織を置いている。

また、これらの部所には教員部長を配置しており、教員組織との連携がスムーズにできるよう対応している。

次に、研究支援組織としては、学長を本部長とする、産学共創・研究推進本部を設置している。主に研究に関する情報発信や、外部資金の受け入れや学内研究費の管理を行っており、学内の研究を支援している。

他にも、法人全体を統括する総務部や人事部などの部門、大学全体の改革を推進する大学改革推進本部や総合企画部などの部門、修学をサポートする図書館や基礎教育センターなどを設置しており、適切な数の事務職員を配置している。

XII 研究の実施についての考え方、体制、取組

1 研究に対する基本的な考え方

本学は建学の理想「産学一如」の実現に向けて、地元九州を中心に産業界や地域社会のニーズに応じた教育・研究活動を推進し、その成果を積極的に地域に還元することを目指している。

中期計画（2021－2030）では、2025年度までの重点施策として文理芸を融合した学際的研究の推進や産業界と連携した研究の推進、大学院の改革など5つの目標を掲げ、具体的なアクションプランを策定し、実行している。

また、2018年度に制定した以下の「産官学連携ポリシー」を基本方針とし、研究活動を通じた産業界の技術課題や地域の課題解決に取り組んでいる。

[九州産業大学産官学連携ポリシー]

① 研究活動の推進

産業界及び地域の要請に応えるために基礎研究から応用研究にわたる幅広い学術研究を推進する。

② 研究成果の還元

産官学連携による共同研究・受託研究等で得られた成果については、連携先の協力のもと、社会に還元し、地域の活性化に寄与する。

③ 知的財産の活用

産官学連携により得られた研究成果については、知的財産化を図り、積極的に活用を行う。

④ 人材育成

産官学連携に取り組むことにより、産業界や地域社会が求める知識、能力、人間性を備えた社

会の発展に貢献できる人材の育成に努める。

⑤ 透明性の確保と説明責任

研究倫理を尊び、法令及び本学諸規程を遵守することで、産官学連携における研究活動の透明性を高め、説明責任を果たす。

⑥ 体制整備

産官学連携活動において、社会のニーズに迅速かつ的確に対応するための組織体制を整備する。

2 研究の実施体制と環境整備

各学部等の研究活動を支援し、産業界および地域社会の発展に貢献することを目的に、令和6年4月1日に事務組織を再編し、産学共創・研究推進本部を設置。各教員の専門性を生かした高度な学術研究の支援に加え、地域課題の解決を目指す産官学連携による共同研究を推進している。

環境整備に関しては、教員の教育研究活動を推進するため、研究室の整備、研究時間の確保、研究・実験等への補助者等を配置している。また、学内研究費を活用し、研究および教育の質の向上を図るとともに、研究成果を活かした外部資金の獲得により、経営基盤の強化に取り組んでいる。

学内研究費は研究フェーズや段階に応じて、支援型、公募型、奨励型の3つの区分を設けている。恒常的な教育・研究活動の支援を目的に、研究者個人に一律に配賦を行う支援型の教育研究支援費をベースに、公募型の特色・特長のある研究を戦略的に推進し、実用化を目指す実用化支援研究費のほか、国、企業及び団体等から研究費を獲得した教員に対し、さらなる研究の遂行を奨励する奨励型研究費や学術誌の投稿および国際学会発表にかかる経費の支援など、様々な研究費制度を設け、研究業績の拡大と成果の社会への還元に取り組んでいる。

また、2022（令和4）年度から毎年、本学の教育・研究の成果や産官学連携事例を一堂にまとめて紹介する学内展示会（KSU VISION DAY）を開催。地域社会、産業界に対して積極的に教育・研究成果を公表し、企業の技術課題などのニーズを掘り起こすとともに、事業化の促進や大学内での研究の融合、さらには地域社会の発展や課題解決へとつなげている。

3 研究活動をサポートする技術職員やURAの配置状況

研究活動をサポートする体制としては、理工系学部には研究及び実験等の補助者を配置しているほか、産学共創・研究推進本部にURAを4名配置。研究力向上および地域社会の課題解決に向けて、専門性を活かした研究シーズの掘り起こしや伴走型の研究プロジェクトのサポート、産官学連携推進のためのマッチングに加え、外部資金獲得を目指した公募申請サポートを行っている。

また、産業動向や国の科学技術政策等の情報を収集し、中期計画（2021—2030）における研究および産学連携分野の目標に基づき、事業計画の策定とその具体的な実行に取り組んでいる。今後、さらなる研究支援体制の充実を図るため、URAの増員も視野に入れている。

本学における URA の基本的な役割は以下のとおり。

- ① 産学連携活動及び外部資金に係る研究プロジェクトの企画立案支援、内外の折衝、情報収集及び提供、申請資料作成支援その他の研究費獲得に係る業務
- ② 産学連携活動及び研究プロジェクトの実施のための対外折衝、進捗管理及び予算管理、当該プロジェクトの事業評価及び事業報告に係る支援その他の研究費獲得後に係る業務
- ③ 産学連携活動及び研究プロジェクトと教育との接続に係る業務
- ④ 学内における文理芸横断型教育・研究プロジェクトの企画立案、推進に係る業務
- ⑤ 科学技術に関する政策情報等の調査分析及び研究戦略策定、研究力調査分析、研究環境整備、その他の研究戦略推進支援に係る業務
- ⑥ 企業等との共同研究・受託研究等の支援及び知的財産に係る業務
- ⑦ ベンチャー支援に係る業務
- ⑧ 産学連携・研究に係るリスクマネジメント及び倫理・コンプライアンス等の学内啓発・教育に係る業務
- ⑨ 広報・イベント開催等産学連携・研究成果の発信関連支援に係る業務
- ⑩ その他産学連携及び研究活動を推進し、産業界、社会の発展に貢献する目的を達成するために必要な業務

XⅢ 施設、設備等の整備計画

1 校地、運動場の整備計画

本学は、教育研究目的を実現するための施設・設備等、諸条件の整備の充実に力を注いできた。将来にわたる計画的な整備、調和のとれたキャンパス景観の構築、学内外へのキャンパス計画の共通理解を目的とした『キャンパスマスタープラン 2015』を平成 28 年 3 月に策定。その後、環境の変化に対応するための新たな視点を織り込んだ『キャンパスマスタープラン 2022』を令和 4 年 12 月策定し、中期計画に掲げるスローガン「文理芸融合のグローバル総合大学へ」の具現化を図るとともに、グローバル化や持続可能な社会づくりなど新たな時代を展望したキャンパス整備を目指している。

校地・校舎の面積については大学設置基準を十分満たしており、校地面積は合計 421, 157. 18 m²、その内訳として、校舎敷地は 149, 041. 07 m²、その他敷地は 272, 116. 11 m²である。

また、大小約 40 余の校舎の面積は 178, 267. 78 m²であり、体育施設は 21, 790. 24 m²を有し、全て松香台キャンパスに配置されている。校舎の配置は、九州産業大学造形短期大学部を含む 10 学部・5 大学院研究科を擁する総合大学として各学部の学際的な交流が可能になるよう配慮されている。

学生間の交流や休息等空地の整備状況について、本学は豊かな自然環境が残る福岡市の東部に位置し、キャンパス構内においては丘陵地形の高低差を活かしながら、楠、桜、ツツジ、ヤマボウシ、ツバキなど多くの樹木や草花が育つ潤いあるキャンパスとなっている。また、キャンパス内を横断する水路には魚が泳ぎ、初夏には沢山のホタルが舞うことから、学生のみならず地域の憩いの場になっている。学生たちの賑わいが満ちるようなキャンパス・ランドスケープ計画として「つなぐ」

をテーマに整備し、建物とランドスケープ、広場と広場、人と人をつないで、キャンパス・ランドスケープ全体が屋外に広がる“学生ラウンジ”のような環境となることを目指して整備を行っている。

運動場の整備計画として、本学の主な運動施設については、校舎群と同一敷地内（松香台キャンパス）に、大楠アリーナ（3階建・16,234 m²）、陸上競技場（全天候トラック1周400m×6コース、人工芝サッカー場）、球技場（アンツーカー1,200 m²）、野球場（アンツーカー・天然芝）、テニスコート（人工芝6面）、ゴルフ練習場（22打席）、武道館（剣道場、柔道場）、弓道場（10人立ち）、アーチェリー場（90m）、屋内プール（25m×6コース）などを整備している。これらの施設は、正課授業や課外（サークル）活動のほか、地域住民の健康増進にも寄与している。

2 校舎等施設の整備計画

本学は、平成5年に経済学部、商学部第一部、商学部第二部、経営学部等が使用する1号館の完成を皮切りに、平成9年に工学部実験・実習棟（10・11号館）、平成10年に工学部棟（8・9号館）、平成12年に芸術学部実習・工房棟（17・18・19号館）、平成13年に芸術学部講義・ギャラリー棟（15号館）、平成14年に情報科学部棟（12号館）、平成19年に国際文化学部・共通講義棟・臨床心理センター（2号館）、平成20年にキャリア支援センター及び学生寮（男子寮）、平成21年に女子寮、平成30年に人間科学部棟（3号館）、令和2年に大楠アリーナ及び屋内プールが完成する等、学内における施設・設備の整備は計画的に進行してきた。そのほかの施設としては、図書館、総合情報基盤センター、語学教育研究センター、基礎教育センター、キャリア支援センター、美術館等の施設を備えている。

理工学部が主に利用する8号館と12号館について、令和5年に8号館にある学生食堂「クラブハウス」のリニューアルを行い、テーブル席のほかカウンター席やローテーブル席など様々な座席形態を整備。多様化する学生ニーズに寄り添った空間づくりを行い、食堂機能のみならず学部間を超えた交流や、ゼミの懇親会などの利用も盛ん行われている。また、令和7年に12号館の一部教室をリニューアルして「クリエイティブセンター・コラボリウム」を整備。専門分野を超えて学生が交流することで、より実践的な学修によりクリエイティブな発想力を身に付けることが可能な、新たなアイデアを生みカタチにできる SMArtFusion プログラムの実践施設が完成した。3Dプリンターやレーザー加工機などの最新機器を揃え、次世代技術を開発する開発者や研究者としての素質や能力を身に付けることができる施設となっている。

以上のとおり、教育研究及び時間割で示した授業を行う上で十分な環境が確保されている。

〔資料5〕

今後、キャンパスの校舎等施設の整備については『キャンパスマスタープラン2022』に基づき、持続可能なキャンパス整備を計画的に行うことを基本としながら、耐用年数に応じた建替え整備を計画的に進め、学生や教職員の誇りとなり地域からも親しまれる施設の整備、グローバルな視点を育むキャンパス整備、デジタル化の推進に対応した環境整備を目標に掲げ、省エネやCO2排出削減の推進、障がいのある方や高齢者等が安全に利用できるバリアフリー環境の整備、また本学の学生や教職員のみならず地域住民も含めた、災害時における大楠アリーナの臨時避難所機能の充実など

地域防災拠点整備も図りながら、今後の校舎等の建替え計画に沿って順次整備を進めている。

3 図書等の資料及び図書館の整備計画

① 図書及び雑誌について

本学は、文系学部、理工系学部、芸術系学部の9学部で構成する総合大学のため、図書館では全ての分野で学術情報を収集している。令和6（2024）年3月末現在、蔵書冊数は、約84万冊（うち洋書は、25万5千冊）である。雑誌については、5,420種（うち洋雑誌3,068種）、視聴覚資料は、約3万5千点を有している。

理工学部の図書等に関しては、現時点において、理工学関連図書で約7万6千冊の図書等を所蔵しており雑誌については、約850タイトル所蔵している。その中でも、理工学領域共通の雑誌タイトルが約450タイトルであり、理工学部に関連の雑誌は、397タイトルである。【資料6】

本学学生全体における学生一人当たりの蔵書数は約80冊であり、学生が卒業までに修得する科目数に対して1冊以上蔵書を有している。理工学部における学生一人当たりの蔵書数も約80冊であり、本学学生全体における一人当たりの蔵書数の同程度を有している。教育研究活動に支障ないよう整備している。

② 電子ジャーナル・電子書籍等について

データベースの充実を図り、理工学系では現時点において、EBSCO Academic Search Premier、Gale Academic One File などアグリゲータ系の電子ジャーナルを含む31,540タイトルの電子ジャーナルを利用できる。データベースについては、全分野を対象としたScopus（スコープス）を導入し、雑誌論文を容易に検索でき、辞書、事典、新聞記事データベース等（Japan Knowledge Lib、朝日新聞クロスサーチ（朝日新聞記事検索）、日経テレコン21、西日本新聞記事データベースなど）の充実も図っている。また、理工学系のデータベースとしては、JDreamIII（ジェイドリーム）、MathSciNet（マスサイネット）、等を導入している。

③ 図書館閲覧席、設備等の学習環境について

大学図書館は、キャンパスの中心付近に位置している。授業実施日の平日は、午前9時から午後8時まで、土曜日は、午前9時30分から午後5時まで開館している。試験期間中の平日は、午前8時から開館し学習環境を提供し、同期間中の土曜日・日曜日は、午前9時30分から午後5時まで開館している。

図書館の蔵書検索は、インターネットを通して、本学図書館ホームページ上から学内外より利用できる。また、図書館専用のポータルサイト（マイライブラリ）を全学生に付与しており、ログインID・パスワードを入力することで電子リソースを利用することが可能である。

閲覧席は、1,108席あり、可動式の机、椅子、プロジェクター、無線LANを整備している。

また、電子黒板を常設し、プレゼンテーションなどに対応したグループ学習室を4室設けている。

る。さらに、データベース等の検索のためにパソコンコーナーを設け 40 台のデスクトップ型パソコンを常設し、ノートパソコン 30 台を館内貸出用としてロッカーを備えており、パソコンコーナー以外での利用も可能としている。

学修支援体制として、レファレンスカウンター内にレポートや論文作成のための相談コーナーを設けており、卒業研究の文献検索支援を行っている。

④ 図書館相互協力

国立情報学研究所の「NACSIS-ILL」（目録所在情報サービス）や国立国会図書館より複写サービスや図書館間貸出しサービスを受け、学生や教員へ資料提供を行っている。学生に対しては、文献複写に係る費用を大学が負担することで学生の負担を軽減している。また、国内で入手できない外国文献の要望については、「IFLA」（国際図書館連盟）の相互貸借制度を利用し、資料提供を行っている。

XIV 管理運営

本学の教学面における管理運営については、平成 27（2015）年度の学校教育法改正に対応しており、学部・学部の重要事項を審議（決定権者である学長に対し意見を述べる）するために「教授会」を設置している。また、学長の下に「学部長会議」を設置し、学長が全学的に取り組むべき事案を協議し、各学部・研究科間相互の連絡調整を図っている。

以上を踏まえ、「1 教授会等」、「2 全学的な主な委員会」の 2 つに大別し、示すこととした。なお、各々の内容については、次のとおりである。

1 教授会等

① 教授会

理工学部の教授会は、「学部教授会規程」に基づき、専属の教授、准教授、講師及び助教をもって構成し、決定権者である学長に対し意見を述べるための審議機関として位置付けている。教授会の審議事項は、「九州産業大学学則」及び「学部教授会規程」に基づき、次のとおりとする。

- (1) 採用候補者の審査等に関する事項
- (2) 昇任候補者の審査等に関する事項
- (3) 学生の進級、留年及び転学に関する事項
- (4) 教育、研究並びに学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- (5) 教育課程の編成に関する事項
- (6) その他学長が必要と認めた事項

ただし(2) 昇任候補者の審査等の審議は、次に掲げる者をもって構成する。この場合、学部長は、必要に応じて准教授、講師、助教を陪席させることができる。

- (i) 教授への昇任は、教授ただし、准教授のうち学科主任である者については、学部長が、構成員の同意を得て加えることができる。
- (ii) 准教授への昇任は、教授及び准教授
- (iii) 講師への昇任は、教授、准教授及び講師

なお、教授会については、原則として、隔週で開催する。

② 学科会議

学科会議は、学科主任が招集し開催する。会議は、各学科に所属する専属の教授、准教授、講師及び助教をもって構成する。審議事項は、学科運営に関わること、その他、学科主任が必要と認める事項とする。

③ 学科主任会議

学科主任会議は、学部長が招集し開催する。会議は、学部長、学科主任をもって構成する。審議事項は、学部運営に関わる学科間調整や連絡に関すること、その他、学部長が必要と認める事項とする。

2 全学的な主な委員会

① 学部長会議

学部長会議は、学部間の連携を図り、学長の決定を補佐する機関として、学長が召集し開催する。会議は、学長、副学長、各学部長、健康・スポーツ科学センター所長、基礎教育センター所長、事務局長、その他学長が必要と認めた者をもって構成する。学部長会議は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学則その他重要な規則の制定改廃に関する事項
- (2) 学部、学科及び研究所の設置又は廃止に関する事項
- (3) 学生の厚生補導及びその身分に関する事項
- (4) 国際交流に関する事項
- (5) 教育及び研究に関する重要な組織の設置又は廃止に関する事項
- (6) 全学的な行事に関する事項
- (7) 学部その他の部局の連絡調整に関する事項
- (8) その他大学運営に関する重要事項で学長が必要と認めた事項

なお、学部長会議は、原則として毎月1回開催する。

XV 自己点検・評価

1 基本方針

本学では、「九州産業大学学則」及び「九州産業大学大学院学則」の各々第2条（自己点検及び評価）に、「本学は、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備(以下「教育研究等」という。)の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。」と規定している。

この規定に基づき、本学の建学の理想及び理念を踏まえ、教育研究等の適切な水準の維持・向上に資することを目的として、円滑に機能する全学的な組織体制について確固とした自己点検・評価を毎年実施している。

この取り組みの結果の総括として「自己点検・評価報告書」及び「大学基礎データ集」を作成し、その結果を本学ホームページ等に積極的に公表することにより、本学の教育研究等における透明性や社会的信頼を確保するとともに、大学としての説明責任を果たしている。

また、「九州産業大学内部質保証の方針」に基づき、大学の質を自ら保証することのできる内部質保証システムを十全に機能させるためのPDCAサイクルを確実に回すとともに、自己点検・評価の結果と将来の改善・改革の有機的連結が定着することを目指すものである。

2 実施体制・方法

① 実施体制

本学における内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織として、「内部質保証委員会規程」に基づき、学長を委員長、副学長を副委員長、更に教員理事をもって構成する「内部質保証委員会」を設置している。

また、下部組織として、「自己点検・評価規程（大学）」に基づき、副学長を委員長、各学部長等役職者をもって構成する「自己点検・評価委員会」（以下「評価委員会」という。）並びに各学部、各研究科及び事務局各部等に「自己点検・評価実施委員会」（以下「実施委員会」という。）を設け、当該所屬長をもって委員長に充てている。これらの実施委員会とは、自己点検・評価の基幹となる活動主体であり、相互連携を図りながら理念・目的の達成に向けて教育研究等における問題点や改善点等を集約するなど、全学レベルの改善・改革につながる取り組みを行っている。

さらに、「外部評価委員会規程」に基づき、点検・評価における客観性・妥当性等を担保するため、外部有識者をもって構成する「外部評価委員会」を設置している。 [資料7]

② 実施方法

点検・評価活動は、主として以下の要領により実施している。

- (1) 毎年度期首の内部質保証委員会において、当該年度の「内部質保証の進め方」を策定する。
- (2) 評価委員会は、前記(1)の内部質保証の進め方を受けて、「自己点検・評価実施計画」を策定する。
- (3) 各実施委員会委員長は、前記(2)の自己点検・評価実施計画に基づき、当該学部等の自己点検・評価を実施し、その結果を「自己点検・評価実施報告書」として取りまとめ、評価委員会委員長に提出する。
- (4) 各実施委員会委員長は、必要に応じ関係部所等と連携して点検・評価を行う。
- (5) 評価委員会委員長は、提出された各自己点検・評価実施報告書を統括し、全学的な観点で「自己点検・評価報告書」を作成し、内部質保証委員会委員長へ提出する。
- (6) 内部質保証委員会は、提出された自己点検・評価報告書を検証し、検証結果をとりまとめる。検証結果については、客観性・公平性を担保するため、外部評価委員会で評価を実施する。
- (7) 内部質保証委員会委員長は、外部評価委員会からの評価・助言などを踏まえて、検証結果を各学部、各研究科及び事務局各部等にフィードバックし、支援・助言を行う。

③ 評価項目

自己点検・評価規程（大学）第6条（自己点検・評価項目）により、公益財団法人大学基準協会の大学評価において定められた以下の評価項目及び評価の視点に基づき、自己点検・評価を実施している。

- (1) 理念・目的
- (2) 内部質保証
- (3) 教育研究組織
- (4) 教育・学習
- (5) 学生の受け入れ
- (6) 教員・教員組織
- (7) 学生支援
- (8) 教育研究等環境
- (9) 社会連携・社会貢献
- (10) 大学運営・財務

④ 結果の活用及び公表

本学では、自己点検・評価規程第8条第1項に、「学長は、委員会が取りまとめた報告書を学内外に公表するものとする。」、また同条第2項に、「学長、部所長、研究科長及び大学事務局各部等の長は、報告書を有効に活用し、教育・研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命の達成に努めるものとする。」と定めている。

これらを踏まえ、毎年度作成する自己点検・評価報告書は、理事長、学長をはじめ、常務理事

等に配付・報告するとともに、次年度事業の検証及び改善を踏まえた自己点検・評価の企画・立案に反映させている。更に、自己点検・評価活動の基盤となる各実施委員会では、PDCA サイクルを念頭に次期の目標・計画の策定及び指標として活用されている。

また、継続的な自己点検・評価、あるいは第三者評価などを通して、教職員個々における自己点検・評価に対する自律性、有用性について意識の深化を図るとともに、全学的な内部質保証システムのスパイラルアップに資するよう取り組んでいる。

学外には、同報告書を本学ホームページに掲載し、広く社会に公表している。これにより本学の教育研究等への質と信頼を高めるとともに、社会貢献活動等の透明性・客観性を確保し、社会に対する説明責任を果たしている。

⑤ 外部評価

外部評価の意義の一つとして、自己点検・評価の信頼性・妥当性を高めることが挙げられる。本学では、教育研究等における質の信頼性と妥当性を確保するため、平成 17（2005）年度には公益財団法人大学基準協会の第 1 期の「認証評価」（相互評価）を受審し、適合の認定を得た。

続いて、第 2 期は平成 24（2012）年度、第 3 期は平成 31（2019）年度に同協会の大学評価（認証評価）を受審し、『大学評価の結果、九州産業大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。』との評価結果を得た。この認証評価結果及び自己点検・評価報告書については、本学ホームページに公表している。

また、教育の質向上を図るため、本学独自の取組として、令和 2（2020）年度より「外部評価委員会」を設置し、①経済・産業界、②教育、③地域の 3 つの分野の外部有識者による自己点検・評価に対する検証を行っている。外部評価における意見等については、内部質保証委員会を通じて、各部所にフィードバックされ、各部所の運営に活用されている。この外部評価結果については、外部評価報告書として取りまとめ、本学ホームページに公表している。

XVI 情報の公表

本学は、教育研究活動等の情報を公表することは社会に対する責務であるとの認識の下、学校教育法第 113 条及び学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づき、ホームページ及び刊行物を通じて情報を公表している。

1 ホームページによる公表

① 教育情報の公表

ホームページ上に「教育情報の公表」欄を設置し、次の情報を公表している。

(1) 教育研究上の目的（学部・大学院）

- ・学則
- ・建学の理想・理念
- ・人材養成、その他教育研究上の目的

（掲載 URL：<https://www.kyusan-u.ac.jp/トップ>>大学案内>公開情報>教育情報の公表>教育研究上の目的）

(2) 基本組織

- ・学部・学科、大学院研究科・専攻・課程
- ・組織図

（掲載 URL：<https://www.kyusan-u.ac.jp/トップ>>大学案内>公開情報>教育情報の公表>基本組織）

(3) 教員

- ・教員組織
- ・各教員の学位・業績
- ・教員数（職別人数）
- ・専任教員年齢構成（男女別人数）

（掲載 URL：<https://www.kyusan-u.ac.jp/トップ>>大学案内>公開情報>教育情報の公表>教員）

(4) 入学者受入方針、入学者数、在学者数、卒業・就職状況等

- ・入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）
- ・入学定員・収容定員・入学者数・在学者数
- ・入学者推移
- ・退学・除籍者数、中退率
- ・留年者数（最低在学年限超過学生数等）
- ・社会人学生数
- ・卒業・修了者数（学位授与数）、進路・就職状況
- ・卒業者数（学位授与数）累計
- ・卒業時アンケート
- ・就職状況（地区別求人状況・決定状況、主な就職先）

（掲載 URL：<https://www.kyusan-u.ac.jp/トップ>>大学案内>公開情報>教育情報の公表>入学者受入方針、入学者数、在学者数、卒業・就職状況等）

(5) 授業科目、授業内容・年間授業計画等（学部・大学院）

- ・教育課程の実施方針（カリキュラム・ポリシー）
- ・GPA について（学部）
- ・科目ナンバリングについて
- ・授業科目（主要授業科目含む）
- ・シラバス

（掲載 URL：<https://www.kyusan-u.ac.jp/トップ>>大学案内>公開情報>教育情報の公表>

授業科目、授業内容・年間授業計画等)

- ・研究指導計画の概要 (大学院)

(掲載 URL : <https://www.kyusan-u.ac.jp/トップ> > 大学院 > 研究指導の概要 > 研究指導計画の概要)

(6) 取得可能な学位、卒業・修了に必要な修得単位数等 (学部・大学院)

- ・取得可能な学位
- ・学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)
- ・卒業・修了認定の基準

(掲載 URL : <https://www.kyusan-u.ac.jp/トップ> > 大学案内 > 公開情報 > 教育情報の公表 > 取得可能な学位、卒業・修了に必要な修得単位数等)

(7) 教育研究環境

- ・キャンパスの概要 (学内マップ)
- ・主な交通手段 (アクセスマップ)
- ・主な教育研究施設
- ・運動施設 (体育館・グラウンド等)
- ・サークル情報

(掲載 URL : <https://www.kyusan-u.ac.jp/トップ> > 大学案内 > 公開情報 > 教育情報の公表 > 教育研究環境)

(8) 学費等 (学部・大学院)

- ・入学金・修学費及び委託徴収金
- ・奨学制度
- ・寮費 (学部)

(掲載 URL : <https://www.kyusan-u.ac.jp/トップ> > 大学案内 > 公開情報 > 教育情報の公表 > 学費等)

(9) 学生支援

【修学支援】

- ・基礎教育センター
- ・基礎教育サポートセンター
- ・総合情報基盤センター
- ・語学教育研究センター

【学生生活支援】

- ・K' sLife (学生教育・事務情報システム)
- ・学食・売店
- ・学生寮 (立花寮)
- ・各種奨学金
- ・各種教育ローン

【心身の健康支援】

- ・インクルージョン支援室

- ・学生相談室

- ・保健室

【進路支援】

- ・キャリア支援センター

【留学生支援】

- ・国際交流センター

【大学間連携】

- ・大学間連携

(掲載 URL : <https://www.kyusan-u.ac.jp/> / トップ > 大学案内 > 公開情報 > 教育情報の公表 > 学生支援)

(10) その他

- ・資格課程（教職、学芸員、司書、社会教育主事）

- ・地域連携・社会貢献

- ・研究・産学連携

- ・寄附講座

(掲載 URL : <https://www.kyusan-u.ac.jp/> / トップ > 大学案内 > 公開情報 > 教育情報の公表 > その他)

② 財務状況

ホームページ上に「財務状況」欄を設置し、次の情報を公表している。

(1) 学校法人会計の特徴について

(2) 中村産業学園（九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部）予算について

- ・資金収支予算書

- ・事業活動収支予算書

(3) 中村産業学園（九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部）決算について

- ・独立監査人の監査報告書

- ・資金収支計算書

- ・活動区分資金収支計算書

- ・事業活動収支計算書

- ・貸借対照表

- ・監事の監査報告書

- ・財産目録

(掲載 URL : <https://www.kyusan-u.ac.jp/> / トップ > 大学案内 > 公開情報 > 財務状況)

③ 設置計画履行状況報告書

ホームページ上に「設置計画履行状況報告書」欄を設置し、当該情報を公表している。

(掲載 URL : <https://www.kyusan-u.ac.jp/トップ> > 大学案内 > 公開情報 > 設置計画履行状況報告書)

④ 認証評価の結果

ホームページ上に「公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）認定」欄を設置し、当該情報を公表している。

(掲載 URL : <https://www.kyusan-u.ac.jp/トップ> > 大学案内 > 取り組み > 取り組み > 公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）認定)

⑤ 自己点検・評価報告書

ホームページ上に「自己点検・評価」欄を設置し、当該情報を公表している。

(掲載 URL : <https://www.kyusan-u.ac.jp/トップ> > 大学案内 > 公開情報 > 自己点検・評価)

2 刊行物による公表

次の刊行物を定期的に発行し、情報を公表している。

① 1年間の取組み（年1回発行）

1年間に実施した事業の概要を、分野別（教育、研究、国際化、産学連携、社会・地域貢献、ダイバーシティ、ブランディング、経営基盤）に掲載し、教職員、在学生の保護者、企業等に配布している。また、ホームページ上の「事業計画・実績」欄にも掲載している。

(掲載 URL : <https://www.kyusan-u.ac.jp/トップ> > 大学案内 > 公開情報 > 事業計画・実績)

② 広報誌「+K（プラスケー）」（年2回発行）

九産大の「今」を伝える広報誌でキャンパス内のさまざまな取り組みを取り上げ、学生生活をより豊かなものにする情報を発信し、教職員、在学生、在学生の保護者、地域社会等に配布している。また、ホームページ上の「広報誌+K」欄にも掲載している。

(掲載 URL : <https://www.kyusan-u.ac.jp/トップ> > 大学案内 > 公開情報 > 広報誌+K)

③ KSU プロジェクト型教育（年1回発行）

「KSU プロジェクト型教育」として行っている学部間及び産官学連携による教育・研究・社会貢献の活動を掲載し、高校や企業等に配布している。また、ホームページ上の「KSU プロジェクト型教育」欄にも掲載している。

（掲載 URL : <https://www.kyusan-u.ac.jp/トップ>>KSU の「特色ある教育プログラム」>KSU プロジェクト型教育）

XVII 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

1 FD 関係

① 組織・体制

(1) 事務組織の再編

高等教育を取り巻く現状等を踏まえ、学長のリーダーシップによる教育改革の更なる推進を目的に、本部長を学長、副本部長を副学長とする大学改革推進本部を再編し、全学的な教育改善・質向上等に関する教育企画を担う部所として教育企画推進室を令和6年4月より新たに設置している。

(2) FD 活動の推進体制

本学では、FD 委員会規程（大学）を制定し、教育内容等の改善を図るための全学的組織として、副学長を委員長、更に各学部長・研究科長等役職者をもって構成するFD（ファカルティ・ディベロップ）委員会（以下、「委員会」という。）を設置し、以下の基本方針を定め、大学（機関レベル）・学部等（教育課程レベル）・個人（授業科目レベル）の区分に応じた実質性・連関性のある活動を展開している。

【FD 活動の基本方針】

- (i) 教育における内部質保証の推進
- (ii) FD の組織的・体系的実施
- (iii) FD 成果の活用

2 主な活動内容

① FD 活動計画・活動報告の策定

委員会で提示した基本方針に基づき、各学部等で当該年度に実施する年間活動計画書及び前年

度の活動報告書を策定している。活動報告書は、計画に基づく活動実績を明確化するとともに、活動を通じた改善状況の評価及び次年度に向けた検討事項や対応等を記載することとしている。

また、活動計画書では、前年度の検証結果を踏まえた具体的な計画を策定するとともに、達成目標（定量・定性）を設定し、委員会を通じた組織的な成果・効果の把握及び改善指示を行っている。

② 学生による授業アンケートの実施及び結果の活用

(1) 授業アンケート

平成 14 年度より、教員の資質に関する維持・向上を目的に、当該年度に開講する全ての授業科目を対象に、全学部学生・大学院生による授業アンケートを年 2 回(前学期末・後学期末各 1 回)実施している。授業担当教員は、実施結果を学生教育支援・事務情報システム (K' sLife) により閲覧が可能であり、当該科目のアンケート結果と全学的な平均値の比較等を科目単位で確認することが可能であり、授業内容及び授業方法等の改善に役立てることとしている。また、当該学部長等は、所属教員が担当する全科目の実施結果を確認することが可能であり、各学部等における教育改善活動に役立てることとしている。なお、全学的な実施結果は、広く学内外に公開することを目的に、大学代表ホームページに公開している。

(<https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/efforts/fd/>)

(2) 授業アンケートを踏まえた改善事項

授業アンケート結果を踏まえ、次年度の当該科目における改善事項を検討の上、シラバス内に必須項目として設定した入力項目内に、授業科目単位での改善事項を必ず記載するとともに、その内容を学生に公表している。

(3) KSU グッドプラクティス賞の表彰

授業アンケート結果を活用した組織的な取り組みとして、学生からの評価が高い授業を実践し、積極的な教育改善に取り組む教員を表彰するとともに、授業内における教育改善の好事例を広く公表し、授業改善に役立てる仕組みを構築している。

③ 研修会等の実施

(1) FD 研修会

大学（機関レベル）での取り組みとして、全教育職員を対象とした研修会を年 2 回開催している。同研修会では、授業改善に資する教員の意識や資質向上をはじめ、広義の FD としての教育改善をテーマとした研修を実施している。令和 6 年度の研修テーマは以下のとおり。

第 1 回 学習成果を基軸とした教育の質保証～第 4 期認証評価の観点から～

第 2 回 学生の学習意欲を喚起する多様な教授法

(2) FD 研究会

学部（教育課程レベル）での取組みとして、授業改善や教育力の向上に資する研究会を、各学部等の特性や現状の課題等に鑑み、独自でテーマを設定の上、必ず年1回以上開催することとしている。なお、同研究会の開催にあたり、他学部等からの受入れ可否を確認の上、受入れ可能な場合は学内に広く周知するとともに、当該年度の実施結果（実施日・テーマ・参加者名など）は、各学部等から提出される活動報告書により確認・把握している。

(3) 非常勤講師との意見交換会

本学や各学部等における教育活動に関する理解促進に向けた取組みの一環として、各学部やセンター等に所属する非常勤講師を対象とした意見交換会を年1回開催することとしている。意見交換会では、本学における教育上の留意事項や各学部等の教育方針（ディプロマ・ポリシー等）、非常勤担当科目の位置づけや他科目との関連性などに関して、情報共有や意見交換等を行い理解の促進に努めている。

(4) 外部研修会への派遣

各学部等に対して、学外で開催されるFD関連のフォーラム、研究会、ワークショップ等の案内を行うとともに、参加経費（数名分）を援助する仕組みを構築し、教員の自己研鑽活動を支援している。

(5) 公開授業

本学で開講する全ての授業を公開することを原則として、各教員が授業参観で得た気付きや、担当教員へのフィードバック等を教員間や学部等で共有し、改善活動に役立てることとしている。なお、令和7年度から、各学部等において特徴的な授業科目を選出し、全学的に共有（可視化）することによる文理芸横断公開授業の実施を計画している。

④ 学生モニター制度

本学の教育活動全般に対する学生からの率直な意見を聴取の上、今後の改善活動に役立てることを目的に、令和6年度から試行的に導入している。

今年度は、個人ワーク及びグループワークを通して、5つの視点（学修（授業）・教育支援・教育環境・学生生活・その他）からの意見等を確認の上、集約した結果については学内会議等を通じて共有している。また、学生からの意見（要望）が多かった事項、及び、改善が望ましい事項を抽出し、主管となる部所（事務局）に検討依頼を行った上、その結果を参加学生にフィードバックすることとしている。

⑤ カリキュラム・マネジメント

教育の質保証及び体系化を目的に、以下の取組みを実施している。

(1) カリキュラムマップ（ツリー）の整備

ディプロマ・ポリシー（大学・学部・学科）と各授業科目との関連性を明確化するとともに、科目間の連関性や順序性を図表化し、刊行物や大学代表ホームページ上で公表している。また、新年度のガイダンス等において、学生への周知や説明等を行い、同資料を活用している。

(2) 科目ナンバリング

各科目に体系的な番号を付与し、難易度や順序性を示すとともに、シラバス内に表示項目を設定し、学生に公表している。

(3) ルーブリック

各科目の達成水準に関する観点及び尺度を設定し、シラバス内で公表することにより、学習者の到達度を客観的かつ具体的に示すとともに、一貫した基準による評価を行える仕組みを構築している。

2 SD 関係

① 実施方針・計画

本学では、スタッフ・ディベロップメント（SD）活動に係る基本方針に基づき、教職員等を対象に、大学運営に必要な能力開発及び資質の向上を目的として、各種研修会を組織的かつ継続的に実施している。

実施内容については、毎年度、人事部人材開発課が次項の研修体系に基づき、「職員研修計画」を策定し、大学運営に必要な能力開発と定着に向けた取り組みを進めている。

② 研修体系と具体的な取組内容

・職員研修体系

- (1) 職場外研修 : 職位・目的別に大学リテラシー及びビジネススキルの向上
- (2) 職場内研修 : 各部所における専門知識の習得及び情報共有
- (3) 外部団体研修 : 学外の人材との交流及び担当業務に係る知見拡大
- (4) 自己啓発研修 : 主体的な能力開発の推奨
- (5) 国外・国内研修 : 専攻する学術分野の研究を通じた教育・研究の向上
- (6) 自己研鑽サバティカル制度 : 自主的調査研究等を通じた教育・研究の遂行に必要な資質の向上

(1) 職場外研修

職場外研修は、大学を取り巻く環境の変化や課題に対応していくために、各職位に求めら

れる大学関連知識やスキルの習得、大学の管理運営に必要な能力の向上を目指し、職位・目的別に実施している。

研修実施にあたっては、職員が参加しやすいように、対面のほかオンラインやオンデマンド方式を取り入れ、受講率の向上に努めている。また、学生のグローバル人材育成支援に資するため、職員の国際化対応能力の向上に係る研修を強化しており、国内留学や海外研修に職員を継続派遣している。

その他、知識向上及び意識啓発を目的に、リスクマネジメントやハラスメント対策等、大学運営に必要とされるテーマに基づき、全教職員を対象とした全体研修を実施している。

(2) 職場内研修

職場内研修は、各部所の部長が責任者となり、各部所における専門知識の習得や情報共有を目的に、年1回以上実施している。また、部所間連携向上のため、他部所からの参加も推奨している。

(3) 外部団体研修

学外の人材との交流や担当業務に係る知見拡大のため、一般社団法人日本私立大学連盟や福岡市等、諸機関が主催する研修への派遣を計画的に実施している。

(4) 自己啓発研修

職員向けにカスタマイズした通信教育プログラムや資格取得に係る費用等の補助を行い、職員が業務遂行力や知識を主体的に高める機会を提供している。

また、担当業務の専門知識習得及び能力向上を目的に、職員が本学の授業を受講できる学部授業聴講制度を設けており、入職2年目までの職員は聴講必須としている。

(5) 国外・国内研修

専属教員が国外又は国内において、専攻する学術分野の研究に専念することにより、本学の教育・研究の向上に資することを目的として実施している。研修員は、各学部からの推薦によって学長が決定している。

(6) 自己研鑽サバティカル制度

専属教員が国外又は国内において、自らが研究目標を定めて一定の期間にわたり、自己研鑽（自主的調査研究等）を行うことにより、専門分野に関する教育・研究の遂行に必要な資質の向上を図ることを目的として実施している。人員は、各教員からの公募によって学長が決定している。

③ 今後の展開について

研修については、各職位に求められる知識、スキルを効率的、段階的に習得できるよう、複数

年のテーマを設定したうえで計画的に実施している。

今後は、各職員がキャリアパスを意識したうえで、より自律的にスキルアップを図ることができるよう、より細分化したテーマで研修を計画し、研修の実効性を高めていく。

XVIII 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本学では、学士教育課程内において「キャリア形成基礎論」等を開設する基礎教育科目を配置し、実社会を力強く生き抜くため、徹底した実学教育により、自分の将来をデザインする能力、情報を収集する能力、意思決定を行う能力、人間関係を構築する能力という「生きる力」の養成を実践している。また、学士教育課程以外ではキャリア支援センターにおいて、様々なキャリア支援プログラム（就職ガイダンス、インターンシップ・仕事体験、学内企業説明会など）や目的に応じた支援を提供できる充実した施設設備によって学生を支援している。改組を行う理工学部においても、3つの力（独自のキャリア教育・万全のサポート体制・日本最大規模の施設設備）を融合することにより、学生の職業観涵養及び社会的・職業的自立に関する支援の充実を図る。

1 教育課程内の取組

基礎教育科目（「キャリア形成基礎論」含む）の企画は、「基礎教育センター」が行い、教育課程における取組みは全学共通の基礎教育の一環として、全学を挙げて取り組んでいる。また、授業の実施・運営については、教務部及びキャリア支援センターと連携を図りながら協働して実施している。

① 全学共通のキャリア教育プログラムの展開

本学では、全学共通の基礎教育科目において、①導入科目、②学修基礎科目、③キャリア科目、④文理芸融合科目（クロス科目・コラボ科目）、④教養科目（人文科学科目・社会科学科目・自然科学科目・心と身体・健康科目）による学修プログラムにより、本学の特色を活かした内容の授業科目を配置している。その中のキャリア科目では、1年次配当「キャリア形成基礎論」、2年次配当「キャリア開発論」、3年次配当「キャリア形成戦略」と体系的に学修できる授業科目を開設し、効果的なキャリア教育に取り組む体制を整えている。

② 1年次生・2年次生へのキャリア教育

職業観・就労観の涵養については、令和7年3月に卒業する学生を対象としたインターンシップから定義が改正され、低学年からのキャリア教育の重要性が増している。そのため、単なる就職対策に止まらない「就業力」や学生が企業などから求められる「社会人基礎力」を向上できるように、入学直後の1年次前学期からキャリア教育を実施している。

具体的には、1年次生対象の「キャリア形成基礎論」では、学生生活の諸局面と仕事の中で求

められる能力との関係の理解を深めると共に、社会に出てからの人生の諸局面において有用な物の見方・考え方を身に付けさせることを目的としている。また、2年次生対象の「キャリア開発論」では、企業講演会、進路支援の専門家による講義、就職関連行事への参加により、就職活動の現状や業界・職種を理解すると共に、就職意識の高揚と職業観の醸成へのきっかけ作りを目的としている。

③ 3年次生へのキャリア教育

3年次生対象の「キャリア形成戦略」では、就職活動を無理なく無駄なく実行できる知識・能力を身に付けさせ、効率的で効果的な就職活動へつなげると共に、就職活動の考え方や技術を徹底的に身に付けることを目的としている。さらに、これに加えて、各学部でもゼミナールや研究室において適宜、学生のニーズに応じて相談・助言・指導を通したキャリア教育を実践し、職業意識の醸成を行っている。

④ 理工学部でのキャリア教育の基本的な考え方と取組み

改組を行う理工学部においても、上述の考え方を踏襲し、クラス担任（ゼミナール・研究室の担当教員）による相談・助言・指導と授業科目を通して、学生の学びへの動機付けと職業意識の醸成を行いながら、卒業後のキャリア形成を見通すことができるようキャリア教育を構築する。具体的には、既設学部と同様に基礎教育科目では、1年次「キャリア形成基礎論」、2年次「キャリア開発論」、3年次「キャリア形成戦略」の授業を通して、低学年次から職業意識の醸成を高めることを目的として、効果的なキャリア教育を実践する。

併せて、学部専門科目では、3年次「インターンシップ」の授業を通して、社会人基礎力の醸成を図る。

2 教育課程外の実施

本学では、平成20年4月1日から従前の就職部を「キャリア支援センター」へと名称変更し、入学から卒業までの各学年に合わせた様々なキャリア支援プログラムを実施している。また、キャリア支援センターは2課（キャリア教育課・進路支援課）体制となっており、低学年次対象のキャリア教育支援や3・4年次対象の進路・就職活動支援などを積極的に展開している。改組後の理工学部についても改組前と同様に様々な就職支援を実施する。

① キャリア支援センターの組織と運営について

キャリア支援センターは、18名（キャリア支援センター所長、キャリア支援センター事務部長、キャリア教育課長、進路支援課長含む）で構成している。それに加え、「キャリア支援担当に関する内規」に基づき、「キャリア支援担当（理工学部、生命科学部、建築都市工学部、芸術学

部から選出された専属教員各学科1名、造形短期大学部から選出された専属教員1名、学長が必要と認めた学部から選出された専属教員若干名)」が所属する組織内及びキャリア支援センターと連絡調整を行っている。

また、学生の就職支援に関する目標は、毎年度、キャリア支援センターと各学部で検討を行い、学部長会議において学長が決定している。なお、支援行事・進路決定状況・その時々就職環境で対応が必要な課題などについては、毎月、学部 VUPMTG において、キャリア支援センターから学部長に報告・依頼を行っている。

連絡調整事項は、次のとおりである。

- (1) キャリア教育及び支援に関する事項
- (2) 進路支援に関する事項
- (3) 進路・就職相談に関する事項
- (4) インターンシップに関する事項
- (5) キャリア教育、進路支援資料の収集及び分析に関する事項
- (6) 企業訪問に関する事項
- (7) 就職関係講座の企画・運営に関する事項
- (8) 各種資格取得講座の受付に関する事項
- (9) 卒業生に対する就職支援に関する事項
- (10) その他キャリア支援センター所長が必要と認めた事項

② 低学年次生（1年次生・2年次生）対象のキャリア教育支援

1年次生に対しては、キャリア支援センターが、4月下旬から5月上旬に「キャリアサポートセミナーⅠ」を、6月上旬に「就活筆記試験対策～就活実力Web模試受験」を実施している。これは、低学年次の早期から将来の進路・就職に向けた意識の醸成を図ると共に、社会情勢により変化する就職環境に左右されることなく、自信を持って就職活動に臨めるように、確固たる自分づくり・自分磨きの必要性和方法を理解させることを目的としている。

2年次生に対しては、キャリア支援センターが、5月下旬から6月下旬に「希望進路調査」を実施している。これは、学生が低学年次から就職についての関心を高めると共に、3・4年次の就職活動本番に向けた十分な準備ができるようになることを目的としている。また、キャリア支援センターとしては、2年次生の希望進路を把握し、調査結果を分析することにより、学生一人ひとりに合わせた的確な進路・就職支援を行うための基礎資料として活用している。

併せて、4月下旬から5月上旬に「インターンシップ・仕事体験ガイダンス」を実施している。これは、実社会での就業体験を通して、仕事観・職業観を育み、自主性、独創性、柔軟性を養うため、学生に1・2年次からインターンシップ・仕事体験（実践型・体験型・課題型・セミナー参加型）、オープンカンパニーへの積極的参加を促すことを目的としている。

③ 3・4年次生対象の進路・就職活動支援

3・4年次生に対しては、キャリア支援センターが、4月中旬から下旬に「第1回就職ガイダンス」を実施している。これは、学生が就活準備（就職環境・就職活動）の方法を理解すると共に、ナビサイト（4社）共通登録会を行うことで、スムーズな就職活動ができるように準備を促すことを目的としている。

併せて、その時々に関わせたタイムリーな「キャリア支援プログラム」を実施している。これは、学生が社会へ羽ばたくための進路・就職活動の支援を目的としている。改組後の理工学部においても同様に実施していく。主なものは、次のとおりである。

(1) 就職ガイダンス（3年次生対象）

就職活動の最新情報、業界研究・企業研究の方法、就活直前対策などについて、年3回実施の就職ガイダンスにおいて情報共有を行うことにより、学生の円滑な就職活動につなげている。

(2) 就職活動支援（3年次生対象）

徹底した個別面談による希望進路調査・進路支援、業界研究会、就職活動集中対策セミナー、OBから学ぶ業界セミナー・就職相談会、就活バックアップ講座、公務員説明会・OB座談会、働く女性と語るキャリア座談会、グループディスカッション・集団面接対策講座、履歴書対策などを行うことにより、就職活動のための知識や能力の向上を図っている。また、学生に具体的な業界情報や企業情報を提供するため、2月から学内合同企業研究会、3月から学内合同企業説明会や単独企業説明会を開催することにより、学生の業界・企業への理解を深めている。

(3) 筆記試験対策・就職活動スキルアップ講座（3年次生対象）

筆記試験対策として就職模擬試験、SPI受検会などを実施することにより、学生が自分自身の力・現在地・苦手分野を把握し、本場に向けた対策を講じることにつなげている。また、面接試験対策として就職活動マナー講座、メイク講座などを実施することにより、就職活動に必要なスキルを身に付けると共に、学生の就職活動への意識を高めている。

(4) 学内合同説明会（3・4年次生対象）

学生に具体的な業界情報や企業情報を提供するため、3年次の2月から4年次の11月にかけて計5回の学内合同説明会を開催することにより、学生の業界・企業への理解を深めている。

④ 各種資格取得講座等の受付及び実施

キャリア教育支援、進路・就職支援の一環として、各種資格取得講座・公務員受験対策講座を

学生の経済的負担を考慮し安価（専門学校と比較）で多数開講することにより、公務員志望・民間企業志望いずれの場合も学生が、自信と誇りを持って厳しい就職戦線乗り越えるため、一日も早く将来の進路に向けた自立心を養うことにつなげている。

また、在学期間中に本学が奨励する各種資格（国家・公的・民間）を取得した学生に奨励金を給付することにより、資格取得を奨励すると共に、学習意欲の高揚を図っている。

3 理工学部就職支援体制

本学では、「キャリア支援センター」と「キャリア支援担当」が連携して、全学的な取り組みや各学部の事情に合わせた支援にも取り組んでいる。改組後の理工学部も同様に、キャリア支援センターとの連携の上、組織的な就職支援を推進していく。

学生の進路としては、一般企業から専門資格を要する職業、全国の自治体・公務員など今まで以上に幅の広い進路が予想されるため、入学直後から卒業後を見据えた職業意識の涵養と、学生の受講科目や目標とする取得資格などと社会的な需要を鑑み、オーダーメイド型のきめ細やかな進路指導を行う予定である。

また、理工学部の構成員一人ひとりが、様々な機会において企業との関係性を高めることを意識し、得られた情報は学部学科並びにキャリア支援センターと共有を図ることにより、就職支援への活用に努めていく。特に、3・4年次生に対しては、クラス担任（ゼミナール・研究室の担当教員）が、就職指導担当者としてキャリア支援担当及びキャリア支援センター職員と連携の上、責任を持って担当学生の就職・進路指導に当たる体制の構築を図っていく。

併せて、十分なキャリア支援を実施できるように、学生情報（進路希望・活動状況・相談記録・進路決定情報含む）共有を目的とした就職システムを活用することにより、クラス担任とキャリア支援センター職員が学生一人ひとりの情報を共有すると共に、学部学科とキャリア支援センターが協働する組織的なバックアップ体制だからこそ可能となる「学生に対するきめ細かな支援」を推進していく。

4 その他の取組

キャリアカウンセラー

本学では、平成20年度からキャリア支援センターに、産業カウンセラー及びキャリア・コンサルタントの資格を有した「キャリアカウンセラー」を配置している。これは、学生のキャリア活動に関し、適切かつ効果的な指導を目的としている。

カウンセラーの主な業務内容は、次のとおりである。

- ①学生へのカウンセリングに関する業務（就職活動全般に関する相談）
- ②履歴書、エントリーシートの添削に関する業務
- ③面接指導に関する業務（模擬面接、Web面接、心構えなど）
- ④低学年次の学生を中心としたキャリア教育のサポート業務

令和6年度においては、原則として、平日午前10時から午後6時まで、キャリアカウンセラー2名体制（4名のキャリアカウンセラーがシフト担当）で、学生からの相談に対応している。

また、相談は予約不要だが、学生が相談に訪れた際に必ず対応できるように、事前予約制(Web)も導入することにより、学生からの満足度が高まっていると共に、複数回相談に訪れる学生も増加し、学生の進路決定等に有効に作用している。

学生の確保の見通し等を記載した書類 (スマートコミュニケーション工学科)

目 次

(1) 新設組織の概要	p. 2
① 新設組織の概要 (名称、入学定員 (編入学定員)、収容定員、所在地)	p. 2
② 新設組織の特色	p. 2
(2) 人材需要の社会的な動向等	p. 6
① 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	p. 6
② 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	p. 10
③ 新設組織の主な学生募集地域	p. 14
④ 既設組織の定員充足の状況	p. 16
(3) 学生確保の見通し	p. 20
① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	p. 20
ア 既設組織における取組とその目標	p. 20
イ 新設組織における取組とその目標	p. 23
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数	p. 23
② 競合校の状況分析 (立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況)	p. 24
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性	p. 24
イ 競合校の入学志願動向等	p. 29
ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等	p. 37
エ 学生納付金等の金額設定の理由	p. 42
③ 先行事例分析	p. 45
④ 学生確保に関するアンケート調査	p. 46
⑤ 人材需要に関するアンケート調査等	p. 47
(4) 新設組織の定員設定の理由	p. 54

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 新設組織の概要

① 新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
九州産業大学 理工学部 スマートコミュニケーション 工学科	50	—	200	福岡県福岡市東区 松香台二丁目3番1号

② 新設組織の特色

今回、新設する理工学部「スマートコミュニケーション工学科」の人材養成に関する目的は、以下のとおりである。

(理工学部)

理工学部では、九州地域に展開されている自動車製造業・半導体製造業・ロボット産業をはじめとする情報メカトロニクス分野において貢献できる汎用的な知識と他分野の知識を融合活用できる能力を備えた中核的技術者の養成を目的とする。

(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)

工学の素養を基盤に、社会との繋がりを意識し、関連する分野の知識と技術を融合・活用できる人材を養成する。AIやデジタル技術などの先端技術を用いながら、情報に付加価値を加えてわかりやすく発信する力を備え、企業や社会のニーズに応じた高付加価値のアウトプットを生み出す能力を重視する。さらに、協働を促進するコミュニケーション力を高めることにより、多文化・多分野の環境にも柔軟に対応できる人材を養成する。プロジェクトを円滑に管理・運営し、その成果を社会実装へと導くことで、複雑化する社会に貢献する技術者や専門職の輩出を目指す。

次に、新設組織の特色（学びのポイント）は、以下のとおりである。

(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)

- ・AI・データサイエンスで社会課題を解決
- ・カッコいいデザインで新たなUI/UXを創出
- ・解決力を伸ばすプロジェクト型教育

「スマートコミュニケーション工学科」の未来像としては、『工学をベースに様々な知識を統合してプロジェクトを進めていく人材』とし、文理芸の連携を通じた新たな科学技術を創造し、問題発見力と解決力を身につけ、健康、環境・エネルギー、ICT分野で未来の社会ニーズを統合的に対応できる人材を養成するために、学科の枠を超える学際力や統合力、創造力、問題解決力を実践的に習得し、コミュニケーション力、マネジメントスキルを持つテクノプロデューサーを目指す。

なお、新設組織と関連する学問分野を持つ既設組織は、以下のとおりである。

既設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
九州産業大学 理工学部 情報科学科	140	—	560	福岡県福岡市東区 松香台二丁目3番1号
九州産業大学 理工学部 機械工学科	130	—	520	福岡県福岡市東区 松香台二丁目3番1号
九州産業大学 理工学部 電気工学科	100	—	400	福岡県福岡市東区 松香台二丁目3番1号

今回、既設の理工学部「情報科学科」、「機械工学科」、「電気工学科」のうち、「機械工学科」及び「電気工学科」を改組し、新たに「スマートコミュニケーション工学科」及び「機械電気創造工学科（別途、設置届出済み）」を設置するため、既設の「機械工学科」及び「電気工学科」は新学科の開設年度に併せて学生募集を停止する。（既設の「情報科学科」には変更はない。）

また、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する学科の概要は、以下とおりである。

収容定員を変更する組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
九州産業大学 地域共創学部 地域づくり学科	150	—	600	福岡県福岡市東区 松香台二丁目3番1号
九州産業大学 人間科学部 臨床心理学科	85	—	340	福岡県福岡市東区 松香台二丁目3番1号

九州産業大学 人間科学部 スポーツ健康科学科	120	—	480	福岡県福岡市東区 松香台二丁目3番1号
------------------------------	-----	---	-----	------------------------

なお、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する学科の人材養成に関する目的は、以下のとおりである。

(地域共創学部)

地域共創学部は、様々な地域社会の持続可能な発展のために、豊かな構想力と人間性を育む教養と地域社会の多様な人々との連携に基づき、共創による実践力を備え、課題解決策を企画・立案することができ、新しい価値を創造できる人材を育成する。

(地域共創学部 地域づくり学科)

地域づくり学科は、地域の社会・文化的理解と、持続可能な地域社会の創出に関わる幅広い分野の専門的知識と実践的応用力を身につけ、地域の人々との協働を通じて自らの住む地域の未来の共創に貢献できる人材を育成する。

(人間科学部)

大学全体の教育目標である、深い教養に裏打ちされたグローバル化に対応できる心身共に健全な人間を育成することを、先ずは基盤とする。

その中で、人間科学部においては、「人間性の尊重」を基本理念に、乳幼児期（こども）からの人間の成長及び発達過程を「こころ」と「からだ」の両面から多角的かつ科学的に探究し、「人を支える人」を育て、地域社会に貢献できる人材を養成する。

(人間科学部 臨床心理学科)

臨床心理学や精神保健福祉学の知識を活かし、コミュニティの勤労者、児童、若者、高齢者、障害者等を支援できる人材、精神保健福祉士として精神障害及び障害のある人や、その他社会的要援助者を支援する人材、大学院に進学して公認心理師や臨床心理士を目指す人材を養成する。

(人間科学部 スポーツ健康科学科)

自ら健康であると共に、産業界に貢献できる高い水準のスポーツ健康科学に関する知識を有し、スポーツの振興と発展を担うことのできる人材、また、スポーツを通じた地域コミュニティの形成と発展に携わり、地域社会の健康づくりに貢献できる人材を養成する。

また、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する学科の特色(学びのポイント)は、以下のとおりである。

(地域共創学部 地域づくり学科)

- ・地域と交流する探求型教育

地域との交流による探求型教育を重視し、地域課題を解決する実践力を養成する。公務員合格を目指す「公志塾」をはじめ、卒業後を見据えて学修を手厚く支援する。

- ・地域に根ざした学問探究

地域が伝えるものに寄り添い、地域の人々と一緒に、地域の今とこれからを考える。地域に出向いて自ら見聞きし、体験する学びを大切にする。

- ・実践的なプロジェクト活動

地域課題の解決を進めるプロジェクト活動やボランティアにより地域社会に積極的に貢献する。学生が自ら課題を発見し、解決する実践的な活動に取り組む。

(人間科学部 臨床心理学科)

- ・心理と福祉のエキスパート

心理学と精神保健福祉学・社会福祉学をバランス良く学べる授業プログラムを構築。子ども、繊細な若者、高齢者および障がいのある方などを支援する知識と技術を身につける。

- ・専門性の深化

3年次から「公認心理師コース」「精神保健福祉士コース」「臨床心理福祉コース」の3コースに分かれ、それぞれの専門知識および技術をさらに深化させる。

- ・精神保健福祉士受験対策講座

精神保健福祉士の資格を得るには国家試験に合格する必要がある。精神保健福祉士コースでは3年生の2月から毎週対策講座を開催し、全員合格に向けての指導を行う。

(人間科学部 スポーツ健康科学科)

- ・西日本屈指のスポーツ施設で鍛える、学ぶ

西日本最大規模の体育館「大楠アリーナ 2020」において、各種トレーニング機器を備えたストレングス&コンディショニングゾーンなど充実したスポーツ環境を活用した実践的な学びを展開する。

- ・トップアスリート・スポーツ科学者を目指す

教員はスポーツ教育学、コーチング学、スポーツ心理学など様々な学問領域の研究者で構成。最新鋭の施設・設備、多彩な学問分野を通じて世界で戦えるアスリートとサポート人材を育成する。

- ・地域のコミュニティと一緒に学ぶ

「大楠アリーナ 2020」で、地域コミュニティの方々を対象とした運動会「産九スポーツ」を毎年開催。スポーツを「する」「みる」だけでなく「ささえる」「つくる」という視点から多くを学び得ることができる。

今回の新設組織の設置において、既設の理工学部全体の収容定員は減員となるが、新設組織の届出に関連して既設の他学部他学科の収容定員を増員させるため、大学全体の入学定員（2,530人）、収容定員（10,120人）に変更はない。

なお、具体的な変更内容は以下のとおりである。

(単位：人)

学部・学科	変 更 前		変 更 後		増 減	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
理工学部 情報科学科	140	560	140	560	±0	±0
理工学部 機械工学科	130	520	—	—	△130	△520
理工学部 電気工学科	100	400	—	—	△100	△400
理工学部 機械電気創造工学科 (新設：別途設置届出済み)	—	—	135	540	135	540
理工学部 スマートコミュニケーション 工学科 (新設)	—	—	50	200	50	200
地域共創学部 地域づくり学科	140	560	150	600	10	40
人間科学部 臨床心理学科	70	280	85	340	15	60
人間科学部 スポーツ健康科学科	100	400	120	480	20	80
合 計					±0	±0

(2) 人材需要の社会的な動向等

① 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

『令和6(2024)年度私立大学・短期大学等入学志願動向(日本私立学校振興・共済事業団)』の「学部系統別の動向(大学)」によると、新設する理工学部スマートコミュニケーション工学

科と同分野である「理・工学系区分」の動向として、令和6年度集計学部数171の学部において、入学定員60,725人（昨年比－174人）に対して、志願者数は753,291人（昨年比＋8,215人）、入学者数は60,355人（昨年比－1,689人）、入学定員充足率は99.39%となっており、入学定員及び入学者数は減少しているが、志願者数は大きく増加していることが確認できる。

また、「学部系統別の動向 過去5カ年の推移（大学）」で見ると、「理・工学系区分」の志願倍率は約12.00倍程度で推移しており、学部系統13区分の中において、「理・工学系区分」は志願倍率が「医学区分」に次いで高い系統区分となっている。

次に、「主な学部別の志願者・入学者動向（大学）」によると、「理・工学系区分」の令和6年度171学部の内訳として、新設組織と同系統学部である「工学部」が52学部（30.4%）、また、本学と同名称の「理工学部」が29学部（17.0%）と両学部で全体の約47.0%を占めている。

また、「理・工学系区分」の中で「工学部」の入学定員が21,045人と最も多く、次いで、「理工学部」の入学定員が16,777人となっており、両学部で全体（60,725人）の62.3%を占めている。

志願者数は「工学部」が223,592人、「理工学部」が234,724人と全体（753,291人）の60.8%、入学者数は「工学部」が20,185人、「理工学部」が16,954人と全体（60,355人）の61.5%を占めており、「理・工学系区分」の学部の中では、新設組織と同系統の「工学部」及び本学と同名称の「理工学部」が最も多くの志願者数・入学者数となっている。

なお、河合塾が公表している「大学入試環境の変化と2025年度入試最新動向」によると、理系の私立大学志望動向では、「理」は前年比106%、「工」は同101%と前年度より増加しており、女子の動きで見ると、理系学部での増加が目立っており、特に「工」では、男子が前年比98%と減少しているのに対し、女子は108%と上昇していることが示されている。また、工学系の分野では、「応用化学」のほか、女子比率が低い「機械・航空」「電気・電子」「土木・環境」などでも、女子の増加率が高くなっていることが述べられている。

これらの入試状況及び最新の入試動向等から見ても、志願者等を集めることは十分可能であると推測できる。

次に、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する学科の養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析については、以下のとおりである。

（地域共創学部 地域づくり学科）

『令和6（2024）年度私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）』の「学部系統別の動向（大学）」によると、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する地域共創学部地域づくり学科と同分野である「社会科学系区分」の動向として、令和6年度集計学部数543の学部において、入学定員174,681人（昨年比＋67人）に対して、志願者数は1,338,226人（昨年比－16,908人）、入学者数は179,019人（昨年比－318人）となっているが、入学定員充足率は102.48%となっている。

また、「学部系統別の動向 過去5ヵ年の推移(大学)」で見ると、「社会科学系区分」の志願倍率は約7.0倍から8.0倍程度で推移しており、充足率は毎年100.0%を上回っている系統区分となっている。

次に、「主な学部別の志願者・入学者動向(大学)」によると、「社会科学系区分」の令和6年度543学部の内訳として、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する地域共創学部地域づくり学科と同じ学位の分野(経済学関係)である学部として、「経営学部」が93学部(17.1%)、「経済学部」が89学部(16.4%)、「商学部」が29学部(5.3%)となっており、3学部で全体の38.9%を占めている。

また、「社会科学系区分」の3学部の中で「経済学部」の入学定員が38,731人と最も多く、次いで、「経営学部」の入学定員が28,939人、「商学部」の入学定員が14,251人となっており、3学部で全体(174,681人)の46.9%を占めている。

志願者数は「経営学部」が248,296人、「経済学部」が342,340人、「商学部」が111,355人と全体(1,338,226人)の52.5%、入学者数は「経営学部」が30,715人、「経済学部」が41,029人、「商学部」が14,914人と全体(179,019人)の48.4%を占めており、「社会科学系区分」の学部の中では、3学部で約半数程度の志願者数等を占めていることがわかる。

なお、「地域共創学部 地域づくり学科」は、学位の分野として「文学関係」及び「経済学関係」で設置した学部であり、上述した「経営学部」、「経済学部」、「商学部」の他、同系統ではあるが、昨今の学部名称の多様化等により、他の社会科学系学部等からも志願者等を集めることは十分可能であると推測できる。

(人間科学部 臨床心理学科)

『令和6(2024)年度私立大学・短期大学等入学志願動向(日本私立学校振興・共済事業団)』の「学部系統別の動向(大学)」によると、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する人間科学部臨床心理学科と同じ分野である「人文科学系区分」の動向として、令和6年度集計学部数252の学部において、入学定員68,939人(昨年比+413人)に対して、志願者数は486,534人(昨年比+12,148人)、入学者数は66,154人(昨年比+175人)となっており、入学定員、志願者数、入学者数全てにおいて昨年度から増加している。

また、「学部系統別の動向 過去5ヵ年の推移(大学)」で見ると、「人文科学系区分」の志願倍率は約7.0倍程度で推移しており、充足率は毎年95.0%を上回っている系統区分となっている。

次に、「主な学部別の志願者・入学者動向(大学)」によると、「人文科学系区分」の令和6年度252学部の内訳として、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する人間科学部臨床心理学科と同系統学部と思われる「人文学部」が32学部(12.7%)、「心理学部」が26学部(10.3%)、「人間学部」が10学部(4.0%)、「人間関係学部」が5学部(2.0%)、「総合心理学部」が4学部(1.6%)となっており、5学部で全体の30.6%を占めている。

また、「人文科学系区分」の5学部の中で「人文学部」の入学定員が6,945人と「文学部」、「外国語学部」に次いで多く、「心理学部」の入学定員が3,884人、「人間学部」の入学定員が2,280

人、「人間関係学部」の入学定員が1,035人、「総合心理学部」の入学定員が630人となっており、5学部で全体（68,939人）の21.4%を占めている。

志願者数は「人文学部」が36,258人、「心理学部」が31,032人、「人間学部」が6,055人、「人間関係学部」が2,482人、「総合心理学部」が6,679人と全体（486,534人）の17.0%、入学者数は「人文学部」が6,610人、「心理学部」が4,119人、「人間学部」が1,676人、「人間関係学部」が925人、「総合心理学部」が661人と全体（66,154人）の21.1%を占めている。

なお、「人文科学系区分」の中には「その他」の学部が33学部あり、同系統ではあるが、昨今の学部名称の多様化等により、他の人文科学系学部等からも志願者等を集めることは十分可能であると推測できる。

（人間科学部 スポーツ健康科学科）

『令和6（2024）年度私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）』の「学部系統別の動向（大学）」によると、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する人間科学部スポーツ健康科学科と同じ分野である「体育学区分」の動向として、令和6年度集計学部数10の学部において、入学定員4,670人（昨年比－520人）に対して、志願者数は9,417人（昨年比－996人）、入学者数は4,579人（昨年比－612人）となっており、入学定員、志願者数、入学者数全てにおいて昨年度から減少している。

また、「学部系統別の動向 過去5ヵ年の推移（大学）」で見てみると、「体育学区分」の志願倍率は約2.0倍程度で推移しており、充足率は毎年100.0%前後で推移している系統区分となっている。

しかしながら、体育学系の学部学科等に関しては、系統区分の中の「その他」の中にも本学と同じ学部名称である「人間科学部」のほか、「健康科学部」、「スポーツ科学部」、「スポーツ健康科学部」、「健康福祉学部」、「スポーツ健康学部」等が含まれている。

これらの学部の状況について見てみると、「人間科学部」が31学部、「健康科学部」が24学部、「スポーツ科学部」が11学部、「スポーツ健康科学部」が7学部、「健康福祉学部」が6学部、「スポーツ健康学部」が4学部と合計83学部が設置されている。この83学部で見てみると、「人間科学部」31学部では、入学定員7,158人に対して志願者数は37,832人、入学者数は6,607人、「健康科学部」24学部では、入学定員4,621人に対して志願者数は19,658人、入学者数は4,145人、「スポーツ科学部」11学部では、入学定員3,375人に対して志願者数は11,980人、入学者数は3,710人、「スポーツ健康科学部」7学部では、入学定員1,726人に対して志願者数は10,133人、入学者数は1,863人、「健康福祉学部」6学部では、入学定員905人に対して志願者数は1,781人、入学者数は716人、「スポーツ健康学部」4学部では、入学定員570人に対して志願者数は4,722人、入学者数は646人となっており、系統区分の「その他」に区分されているスポーツ系の学部においても、入学定員18,355人に対して志願者数は86,106人と多くの志願者を集めることが出来ている。このことから、系統区分の「体育学区分」と併せて志願者を集めることは十分可能であると推測できる。

② 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

『大学分科会（第 181 回）・高等教育の在り方に関する特別部会（第 15 回）』合同会議配付資料（関係データ集令和 7 年 1 月 28 日版）によると、高等教育の現状に関するデータにおいて、「18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移」では、18 歳人口は、ピークであった昭和 41 年には、約 249 万人であったが、令和 6 年には 106 万人まで減少し、令和 23 年には 71 万人にまで減少することが予測されている。なお、高等教育機関への進学率はおおむね上昇を続け、令和 6 年には大学のみで 59.1%、全体で 87.3%となっている。

次に「男女別・18 歳人口と大学進学率等の推移」によると、昭和 50 年（1975 年）と令和 6 年（2024 年）を比べて、女性の大学入学者数は約 20 万人（約 10 万人→約 29 万人）、大学進学率も約 44 ポイント（12.7%→56.2%）増加している。平成 25 年と令和 6 年を比べても女性の大学進学率は約 10.6 ポイント増、大学入学者数も約 1.7 万人増となっている。ちなみに、男性の平成 25 年と令和 6 年を比べて見ると、大学進学率は約 7.9 ポイント増、大学入学者数は横這い傾向であり、近年は、男女とも進学率は上昇傾向にあるが、女性の上昇幅が大きくなっている。

次に、都道府県別高校新卒者の 4 年制大学、短期大学、専門学校への進学率を見てみると、令和 6 年度の都道府県別高校新卒者の 4 年制大学、短期大学、専門学校への進学率は、京都府が 86.1%と最も高く、本学の所在地である福岡県は、74.0%となっている。なお、九州・沖縄地区では、福岡県が最も高く、4 年制大学への進学率だけを見ても、50.0%を上回っているのは福岡県のみである。

次に「都道府県別大学（学部）進学率の変化（過年度卒業者等を含む）」によると、地域によって差があるが、2008 年と比較すると全体的に上昇している。なお、本学の所在地である福岡県の進学率の変化では、2008 年が 45.0%であるのに対し、2024 年は 51.0%と 6.0 ポイントの上昇となっている。

さらに、「大学進学時の都道府県別流入・流出者数」を見てみる。

大学進学時の各都道府県における流入者・流出者数を見ると、流入超過が 9 都府県、流出超過が 38 道県となっており、本学の所在地である福岡県は、流入超過の 9 都府県の 1 つとなっている。なお、中国地区、四国地区、九州地区において、流入超過の県は福岡県のみである。

また、「都道府県別・出身地域別大学入学者数」を見てみると、大都市にある大学では域外からの入学者を多く受け入れているが、本学の所在地である福岡県は、九州・沖縄地区の中では圧倒的に域外からの入学者（7,209 人）を受入れていることがわかる。

次に、『リクルート進学総研マーケットリポート 2024（2025 年 2 月号）【全国版】』及び『リクルート進学総研マーケットリポート 2024（2025 年 2 月号）【九州沖縄版】』を見てみる。

まず始めに、今後の 18 歳人口として、2024 年の 106.3 万人から 2036 年には 94.2 万人となり、

12.1 万人減少すると予測されている。

なお、2024 年の 18 歳人口は 106.3 万人であるが、2025 年は 109.1 万人、2026 年には 109.3 万人と少しずつ増加するが、2027 年以降から減少に転じ、徐々に減少をし続けながら 2035 年には 100 万人を切ると予測されている。

また、「18 歳人口予測（全体：都道府県別：2024～2036 年）」を見てみると、東北エリアの減少率が高く、6 県中 4 県で減少率が 20.0%以上となっており、東京都と沖縄県のみが増加する見込みである。しかしながら、本学の所在地である福岡県は、東京都と沖縄県に次いで減少率が低いと予測されている。

さらに、「18 歳人口予測（全体：九州沖縄：2024～2036 年）」では、2024 年の 129,676 人から 2036 年には 122,282 人となり、7,394 人減少すると予測されている。具体的には、「九州沖縄エリア」は、7,394 人・5.7%減少し、全国の減少率 11.4%を 5.7 ポイント下回ること、また、2027 年にかけて 6,401 人増加、翌 2028 年に 1,697 人減少し、翌 2029 年には 1,920 人増加するが、2030 年から 2036 年は減少傾向となることが予測されている。

なお、2024 年の人数を 100 とした場合、12 年後の 2036 年は 94.3 であるのに対し、全国平均で見ると 2036 年は 88.6 となっており、「九州沖縄エリア」は全国平均より緩やかな減少で推移していくことが分かる。

次に、「九州沖縄エリア」において県別で見えてみると、本学の所在地である「福岡県」は、2024 年の 44,280 人から 2036 年には 43,689 人となり、この先 12 年後には 591 人減少することが予測されている。なお、2024 年の人数を 100 とした場合、12 年後の 2036 年は 98.7 であり、「九州沖縄エリア」の中では沖縄県の次に減少率が低くなっている。また、全国平均は 88.6 であり、全国平均と比較しても緩やかな減少で推移していくことが分かる。

次に、大学進学率の推移について見てみる。

「大学進学率の推移（現役：エリア別：2015～2024 年）」によると、全体の大学進学率は 2015 年 48.9%から 2024 年 58.4%と 10 年間で 9.5 ポイント上昇している。また、2019 年から 50.0%台の進学率となり、2022 年には 55.0%を超えている。なお、「九州沖縄エリア」においては、2015 年 39.1%から 2024 年 46.8%と 10 年間で 7.7 ポイント上昇し、大学進学者数（大学・現役進学者数）は 2015 年 51,063 人から 2024 年 52,659 人と 10 年間で 1,596 人増加している。「九州沖縄エリア」の 2024 年大学進学率 46.8%は全国平均 58.4%を下回っているが、2015 年を 100 とした指数では、全国平均 119.4 をわずかに上回る 119.7 となっている。特に「九州沖縄エリア」を県別で見えてみると、本学の所在地である福岡県は、大学進学者数が 2015 年 19,668 人から 2024 年 20,454 人と 10 年間で 786 人増加している。また、大学進学率においても 2015 年 46.7%から 2024 年 53.5%と 10 年間で 6.8 ポイント上昇している。なお、「九州沖縄エリア」において、2024 年の大学進学者数が 1 万人を超えているのは福岡県のみであり、大学進学率も 50.0%を超えているのは福岡県のみとなっている。

次に、地元残留率の推移について見てみる。

「地元残留率の推移（全体：大学入学者数：エリア別：2015～2024）」によると、全体で2015年の43.6%から2024年には44.8%と1.2ポイント上昇している。なお、「九州沖縄エリア」においては、2015年46.1%から2019年に47.7%まで上昇するが、その後下降し、2024年46.0%となり10年間で0.1ポイント減少となっているが、全国平均の44.8%は上回っている。

さらに、地元残留率を「九州沖縄エリア」の県別で見ると、本学の所在地である福岡県は、2015年の63.7%から2024年は65.9%となり、10年間で2.2ポイント上昇している。なお、九州各県と比較しても、地元残留率が50.0%を上回っているのは福岡県のみであり、「九州沖縄エリア」の中では非常に高い地元残留率を誇っている。

また、福岡県は、「九州沖縄エリア」の佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県の大学入学者流出先として1位であり、沖縄県からの大学入学者流出先も東京都に次いで2位となっている。

「九州沖縄エリア」特に福岡県における18歳人口の予測及び大学進学率の推移や地元残留率の推移を見ても、福岡県内においては、他県からの流入も含めて、大学進学を志願する高校生の確保の見通しは、十分にあると推測できる。

次に、『令和6年度学校基本調査（確定値）（文部科学省）』によると、大学進学等の対象となる高等学校に在籍する数は、290万7千人で前年度より1万2千人減少している。また、中等教育学校に在籍する数は、3万5千人で前年度より7百人増加し、過去最多となっている。高等学校等卒業生の卒業後の状況によると、高等教育機関（大学（学部）・短期大学（本科）入学者、高等専門学校4年在学者及び専門学校入学者）への進学率（過年度卒を含む）は87.3%で、前年度より3.3ポイント上昇し、過去最高となっている。さらに、大学（学部）・短期大学（本科）進学率（過年度卒を含む）は62.3%で、前年度より1.2ポイント上昇し、過去最高となっており、特に、大学（学部）進学率（過年度卒を含む）は59.1%で、前年度より1.4ポイント上昇し、過去最高となっている。

次に、『令和6年（2024）年度私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）』によると、「地域別の動向（大学・学校別）」では、全国を21の地域に区分した集計において、令和6（2024）年度、本学の所在地である福岡地区は27の学校数に対して、入学定員は19,443人（昨年比+159人）、志願者数は119,682人（昨年比-3,388人）、入学者数は20,329人（昨年比+1,066人）、志願倍率は6.16倍（昨年比-0.22倍）となっており、志願者数及び志願倍率が若干減少している。また、同じように九州地区（福岡を除く。以下、同じ）を見てみると、28の学校数に対して、入学定員は12,300人（昨年比-5人）に対して、志願者数は28,277人（昨年比-1,381人）、入学者数は11,604人（昨年比-71人）、志願倍率は2.30倍（昨年比-0.11倍）となっており、すべてにおいて減少している。

なお、「地域別の動向 過去5ヵ年の推移（大学・学校別）」における令和2（2020）年度から令和6（2024）年度までの志願倍率及び入学定員充足率の5年間平均を見てみると、福岡地区の

志願倍率は 6.72 倍（九州地区（福岡を除く）2.62 倍）、入学定員充足率は 102.18%（九州地区（福岡を除く）96.15%）となっている。

また、「地域別の動向（大学・学部別）」では、令和 6（2024）年度、福岡地区においては、78 の学部数に対して、入学定員は 20,543 人（昨年比+159 人）、志願者数は 125,866 人（昨年比-4,062 人）、入学者数は 21,327 人（昨年比+993 人）、志願倍率は 6.13 倍（昨年比-0.24 倍）となっており、入学定員が微増している中ではあるが志願者数は減少している。また、九州地区の 74 の学部数に対して、入学定員は 12,930 人（昨年比+95 人）、志願者数は 29,791 人（昨年比-1,642 人）、入学者数は 12,097 人（昨年比-61 人）、志願倍率は 2.30 倍（昨年比-0.15 倍）となっており、入学定員が微増している中ではあるが志願者数、入学者数及び志願倍率が減少している。

なお、「地域別の動向 過去 5 カ年の推移（大学・学部別）」における令和 2（2020）年度から令和 6（2024）年度までの志願倍率及び充足率の 5 年間平均を見てみると、福岡地区の志願倍率 6.73 倍（九州地区（福岡を除く）2.67 倍）、入学定員充足率 101.96%（九州地区（福岡を除く）95.79%）となっている。

「地域別の動向（大学・学校別）」及び「地域別の動向（大学・学部別）」における福岡地区においては、全国計平均の志願倍率 7.35 倍より若干下回ってはいるが、充足率は全国計平均の 98.19%を上回っている状況である。

最後に、本学の所在地である福岡県（福岡市）の人口推移について見てみる。

『住民基本台帳人口移動報告 2024 年（令和 6 年）結果（総務省）』によると、全国の都道府県別の転入超過数において、転入超過となっているのは、全国で 7 都府県（埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県・大阪府・福岡県）となっており、九州地区では、福岡県のみが転入超過となっている。また、前年に比べて転入者数が最も増加しているのは東京都であるが、福岡県では 2024 年の転入者数は 102,948 人であり、2023 年の 105,094 人から 2,146 人減少している。一方、転出者数は、2024 年 98,788 人であり、2023 年の 100,707 人から 1,919 人減少している状況である。

なお、本学の所在地である福岡市の転入超過数の推移（2018～2024）を見てみると、2018 年の転入超過数は 6,138 人となっており、2019 年は 8,191 人、2020 年は 7,909 人、2021 年は 7,158 人、2022 年は 6,031 人、2023 年は 8,911 人、2024 年は 8,507 人と毎年、転入者数が転出者数を上回る転入超過となっている。

また、福岡市が編集・発行している『福岡市推計人口』によると、令和 6 年 2 月 1 日現在の福岡市の人口は、1,645,100 人であり、対前年同月比では、12,682 人増加している。また、同じく福岡市が公表している『福岡市の将来人口推計について』によると、福岡市における総人口のピークは、2040（令和 22）年頃で約 170 万人に達するとされている。また、年少人口（0～14 歳）は減少傾向にあるが、全国では 2050（令和 32）年頃までに約 31%の減少が予想される中、福岡市では約 17%の減少にとどまると予測されている。

さらに、『令和6（2024）年1月7日日曜日の西日本新聞』の記事において、「福岡都市圏一極集中へ」との見出しの記事が掲載された。人口減少が加速する九州で、福岡都市圏への一極集中が進んでおり、都市圏の人口は2050年に256万人になり、九州全体の4分の1に達する見通しである。人口増の中心は南から東にシフトされ、2050年には福岡市の7区（東区・博多区・中央区・西区・早良区・城南区・南区）のうち南側の3区（早良区・城南区・南区）で人口減に転じ都市部の北東部では伸びが続くとされている。また、福岡都市圏の人口増減率の変化では、2020～2050年（推計）として、中心部から東部で増加傾向が続くが、そのほかの地域は減少するとされ、増加する地域として、本学の所在地である福岡市東区をはじめ、近郊の博多区、中央区、西区及び通学圏内である福津市、糟屋郡新宮町、糟屋郡久山町、糟屋郡粕屋町、糟屋郡須恵町、糟屋郡志免町が人口増加傾向となっている。

これらのデータ及び理由等から、今後も特に福岡県（福岡市）における18歳人口等入学対象人口の確保は十分に見込まれると推測できる。

③ 新設組織の主な学生募集地域

まず始めに、本学の現状において、どのような地区から志願者を集めているのかを調査した。令和4（2022）年度から令和6（2024）年度の3年間の入試結果では、大学全体の志願者の中で、本学の所在地である福岡県が3年間平均で70.0%、福岡県を除く九州地区が21.1%であり、九州地区全体で90.0%を超えている。また、隣接する中国地区からも5.2%の志願があった。

この結果からも、本学が志願者のマーケットとする地区は、福岡県を中心とした九州・中国地区であることが確認できる。

[資料1-1]

次に、今回、新設する理工学部についてどのような地区から志願者を集めているかを調査した。

理工学部においても大学全体と同様に、福岡県が3年間平均で71.6%、福岡県を除く九州地区が21.0%であり、九州地区全体で90.0%を超えている。また、隣接する中国地区からも4.2%となって大学全体と同様の結果である。

[資料1-2]

さらに、理工学部の学科別で見ると、「情報科学科」では、福岡県が3年間平均で67.6%、福岡県を除く九州地区が24.5%、新設組織の基礎となる「機械工学科」では、福岡県が3年間平均で74.1%、福岡県を除く九州地区が17.9%、また、同じく新設組織の基礎となる「電気工学科」では、福岡県が3年間平均で77.2%、福岡県を除く九州地区が17.2%であり、すべての学科において、福岡県を含めた九州地区から90.0%以上の志願者を集めており、理工学部においてもマーケットとする地区は福岡県を中心とした九州地区であることが確認できる。

[資料1-3～5]

なお、理工学部全体において、九州地区の次に多くの志願者を集めている中国地区では、全体の4.2%を占めており、中国地区においても、本学理工学部におけるマーケット地区であることがうかがえる。

次に、新設組織が置かれる福岡県への入学状況に関し、出身高校の所在地県別の入学者数については、入学者総数 26,956 人に対して、福岡県が 14,966 人（全体の 55.52%）であり、次いで、佐賀県の 1,313 人（全体の 4.87%）、熊本県の 1,242 人（全体の 4.61%）、長崎県の 1,160 人（全体の 4.30%）、鹿児島県の 1,138 人（全体の 4.22%）となっており、上位 5 県はすべて九州各県であり、全体の 73.52%を占めている。

なお、「令和 6（2024）年度私立大学・短期大学等入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）によると、今回、新設組織が置かれる福岡県の定員充足状況では、令和 4（2022）年度 99.77%、令和 5（2023）年度 99.89%、令和 6（2024）年度 104.56%となっており、定員充足率は 100.0%前後で推移している。

【別紙 1】

これらの結果等からも、本学理工学部及び各学科における学生募集地域は、福岡県を中心とした九州各県及び中国地区であることがうかがえる。

次に、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する学科の主な学生募集地域については、以下のとおりである。

（地域共創学部 地域づくり学科）

まず、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する「地域づくり学科」の母体となる地域共創学部には絞ってどのような地区から志願者を集めているかを調査した。

地域共創学部においても大学全体と同様に、福岡県が 3 年間平均で 69.2%、福岡県を除く九州地区が 21.3%であり、九州地区全体で 90.0%を超えている。また、隣接する中国地区からも 5.4%となって大学全体と同様の結果である。

【資料 1－6】

さらに、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する「地域づくり学科」を見てみると、福岡県が 3 年間平均で 66.6%、福岡県を除く九州地区が 24.2%であり、福岡県を含めた九州地区から 90.0%以上の志願者を集めており「地域づくり学科」においてもマーケットとする地区は福岡県を中心とした九州地区であることが確認できる。

【資料 1－7】

なお、九州地区の次に多くの志願者を集めている中国地区では、全体の 4.9%を占めており、中国地区においても、「地域づくり学科」におけるマーケット地区であることがうかがえる。

（人間科学部 臨床心理学科）

まず、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する「臨床心理学科」及び「スポーツ健康科学科」の母体となる人間科学部に絞ってどのような地区から志願者を集めているかを調査した。

人間科学部においても大学全体と同様に、福岡県が 3 年間平均で 68.9%、福岡県を除く九州地区が 20.8%であり、九州地区全体で 89.7%となっている。また、隣接する中国地区からも 5.6%となって大学全体と同様の結果である。

【資料 1－8】

さらに、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する「臨床心理学科」を見てみると、福岡県が3年間平均で67.4%、福岡県を除く九州地区が20.7%であり、福岡県を含めた九州地区から88.1%の志願者を集めており、「臨床心理学科」においてもマーケットとする地区は福岡県を中心とした九州地区であることが確認できる。 [資料1-9]

なお、九州地区の次に多くの志願者を集めている中国地区では、全体の5.0%を占めており、中国地区においても、「臨床心理学科」におけるマーケット地区であることがうかがえる。

(人間科学部 スポーツ健康科学科)

次に、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する「スポーツ健康科学科」を見てみると、福岡県が3年間平均で66.9%、福岡県を除く九州地区が22.8%であり、福岡県を含めた九州地区から89.7%の志願者を集めており、「スポーツ健康科学科」においてもマーケットとする地区は福岡県を中心とした九州地区であることが確認できる。 [資料1-10]

なお、九州地区の次に多くの志願者を集めている中国地区では、全体の7.8%を占めており、中国地区においても、「スポーツ健康科学科」におけるマーケット地区であることがうかがえる。

④ 既設組織の定員充足の状況

本学は、『産学一如（産業と大学は車の両輪のように一体となって時々の社会のニーズを満たすべきである）』を建学の理想に掲げ、昭和35（1960）年に商学部商学科の単科大学「九州商科大学」として発足した。その後、時代の要請に応え、昭和38（1963）年に工学部を設置するとともに大学名を「九州産業大学」へ改称し、昭和39（1964）年に商学部第二部、昭和41（1966）年に芸術学部、昭和43（1968）年に経営学部、平成5（1993）年に経済学部、平成6（1994）年に国際文化学部、平成14（2002）年に情報科学部を設置してきた。

しかしながら、平成24（2012）年当時、これまでの志願者数の長期低落、就職率の低下、高い除籍・退学率などの課題が山積し、将来を見据えると危機的な状況にあったことから、全学挙げての「教育改革」に取組み、平成28（2016）年に芸術学部の再編（既設の3学科体制から5学科体制に再編）を皮切りに、平成29（2017）年には理工系学部の再編（既設の「工学部」「情報科学部」を「理工学部」「生命科学部」「建築都市工学部」に再編）、続けて、平成30（2018）年に文系学部の再編（「商学部」「地域共創学部」「人間科学部」の新設、「経済学部」「国際文化学部」のカリキュラム改正等）を行い、3カ年の間に全ての学部学科の見直しを図った。

これらの取組みの結果、志願者総数は、学部再編前（平成27（2015）年度）の7,804人から徐々に増加し、令和2（2020）年度には20,683人までに増加した。なお、近年は19,000人台で推移していたが、令和6（2024）年度は16,254人となっている。

また、志願倍率においては、直近5年間平均において7.55倍であり、学部再編以降、既設の学部学科を含めて着実に志願者を集め、入学定員も充足できている状況である。

なお、学部再編後の志願者数及び志願倍率の推移は、下表のとおりである。

年 度	入学定員	志願者数	志願倍率
平成 27 (2015) 年度	2,675 人	7,804 人	2.92 倍
平成 28 (2016) 年度	2,635 人	8,343 人	3.17 倍
平成 29 (2017) 年度	2,630 人	10,359 人	3.94 倍
平成 30 (2018) 年度	2,530 人	11,406 人	4.51 倍
令和元 (2019) 年度	2,530 人	14,372 人	5.68 倍
令和 2 (2020) 年度	2,530 人	20,683 人	8.18 倍
令和 3 (2021) 年度	2,530 人	19,408 人	7.67 倍
令和 4 (2022) 年度	2,530 人	19,990 人	7.90 倍
令和 5 (2023) 年度	2,530 人	19,176 人	7.58 倍
令和 6 (2024) 年度	2,530 人	16,254 人	6.42 倍

次に、既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）について見てみる。

本学は、文系学部・理工系学部・芸術系学部の 9 学部 21 学科を設置している総合大学である。

まず始めに、文系学部の入学定員の充足状況（直近 5 年間）について見てみる。

国際文化学部国際文化学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 799 人であり、志願倍率は 9.99 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近 5 年間平均が 1.05 となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

国際文化学部日本文化学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 502 人であり、志願倍率は 8.37 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近 5 年間平均が 1.00 となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

人間科学部臨床心理学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 904 人であり、志願倍率は 12.91 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近 5 年間平均が 1.06 となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

人間科学部子ども教育学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 432 人であり、志願倍率は 5.40 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近 5 年間平均が 1.03 となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

人間科学部スポーツ健康科学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 527 人であり、志願倍率は 6.27 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近 5 年間平均が 1.05 となっており、安定的に入学定員を確保することができている。なお、人間科学部スポーツ健康科学科では、令和 6 年度から入学定員を 80 人から 20 人増員し、100 人としている。

経済学部経済学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 3,410 人であり、志願倍率

は 8.53 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率は直近 5 年間平均が 1.01 となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

商学部経営・流通学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 3,629 人であり、志願倍率は 7.35 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近 5 年間平均が 1.05 となっており、安定的に入学定員を確保することができている。なお、商学部経営・流通学科では、令和 6 年度から入学定員を 500 人から 30 人減員し、470 人としている。

地域共創学部観光学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 916 人であり、志願倍率は 6.11 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率は直近 5 年間平均が 0.99 と若干 1.00 を下回っているが、おおむね安定的に入学定員を確保することができている。

地域共創学部地域づくり学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 1,052 人であり、志願倍率は 7.97 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近 5 年間平均が 1.02 となっており、安定的に入学定員を確保することができている。なお、地域共創学部地域づくり学科では、令和 6 年度から入学定員を 130 人から 10 人増員し、140 人としている。

【別紙 2－1～9】

次に、今回、新設組織の届出を行う理工学部が含まれる、理工系学部の入学定員の充足状況（直近 5 年間）について見てみる。

理工学部情報科学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 1,422 人であり、志願倍率は 10.16 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近 5 年間平均が 1.03 となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

理工学部機械工学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 835 人であり、志願倍率は 6.42 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率は直近 5 年間平均が 0.85 と 1.00 を下回っているが、年度によっては 1.00 を上回っており、一定の入学定員は確保することができている。

理工学部電気工学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 722 人であり、志願倍率は 7.22 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率は直近 5 年間平均が 0.91 と若干 1.00 を下回っているが、おおむね安定的に入学定員を確保することができている。

生命科学部生命科学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 843 人であり、志願倍率は 7.66 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率は直近 5 年間平均が 0.95 と若干 1.00 を下回っているが、おおむね安定的に入学定員を確保することができている。

建築都市工学部建築学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 862 人であり、志願倍率は 11.49 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近 5 年間平均が 0.99 と若干 1.00 を下回っているが、おおむね安定的に入学定員を確保することができている。

建築都市工学部住居・インテリア学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 537 人であり、志願倍率は 8.26 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近 5 年間平均が 1.00 となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

建築都市工学部都市デザイン工学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 375 人であり、志願倍率は 6.25 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率は直近 5 年間平均が

0.95 と若干 1.00 を下回っているが、おおむね安定的に入学定員を確保することができている。

【別紙 2－10～16】

次に、芸術学部の入学定員の充足状況（直近 5 年間）について見てみる。

芸術学部芸術表現学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 275 人であり、志願倍率は 4.23 倍となっている。また、入学定員充足率も直近 5 年間平均が 1.17 となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

芸術学部写真・映像メディア学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 298 人であり、志願倍率は 5.96 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近 5 年間平均が 1.16 となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

芸術学部ビジュアルデザイン学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 433 人であり、志願倍率は 5.77 倍と高い倍率となっている。また、入学定員充足率も直近 5 年間平均が 1.14 となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

芸術学部生活環境デザイン学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 181 人であり、志願倍率は 2.59 倍となっている。また、入学定員充足率も直近 5 年間平均が 0.88 と 1.00 を下回っているが、令和 7 年度から入学定員を 75 人から 20 人減員し 50 人としており、今後は安定的に入学定員を確保することができると思われる。

芸術学部ソーシャルデザイン学科では、志願者数（延べ人数）の直近 5 年間平均が 148 人であり、志願倍率は 3.70 倍となっている。また、入学定員充足率も直近 5 年間平均が 1.13 となっており、安定的に入学定員を確保することができている。

【別紙 2－17～21】

さらに、既設の学部学科の収容定員の充足状況について見てみる。

令和 6（2024）年 5 月 1 日現在における各学部学科の収容定員充足率では、0.79 から 1.22 の範囲内となっている。また、大学全体における収容定員充足率は、1.02 となっており、厳格な定員管理を行いながら、安定的に収容定員を充足することができている。

なお、理工学部の「機械工学科」では、収容定員充足率が 0.79 と本学が設置する学部学科において最も低い収容定員充足率となっているが、今回、「機械工学科」と同じく理工学部の「電気工学科」を基礎として、高校生や社会のニーズに即した魅力ある教育プログラムを構築した新たな 2 学科を新設することに伴い、既設の理工学部全体の入学定員を 45 人減少させるため、理工学部全体の収容定員充足率も改善されると考えている。

また、入学定員減員分については、学部再編以降、これまで安定的に志願者及び入学者を確保できている「地域共創学部地域づくり学科」、「人間科学部臨床心理学科」及び「人間科学部スポーツ健康科学科」に振り替えることにより、大学全体での収容定員の適正化を図ることとした。

【資料 2】

以上のとおり、既設の学部学科における入学定員及び収容定員の充足状況、また、直近 5 年間の入試状況等から見ても、今後も学生を確保できる見通しは、十分にあると推測できる。

(3) 学生確保の見通し

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

本学では、学生募集の専門部署として入試部入試課を設置し、また、大学全体の広報を行う専門部署として総合企画部広報課を設置しており、この2部署を中心に様々な広報活動を展開している。

学生確保に向けた主な取組みとして、高校訪問、オープンキャンパス、キャンパスフェスタ、進学セミナー、出張模擬講義、高等学校からの来訪見学会、ウィークデー・キャンパス・ヴィジット(WCV)、本学独自の入試説明会、高等学校内及び各地区での進学相談会を実施している。また、大学案内や学部紹介リーフレットの作成・配布、新聞や受験情報雑誌、受験情報WEBサイト、テレビ等の各種媒体への広告出稿も行っている。

なお、具体的な内容は次のとおりである。

①高校訪問

本学は、平成14(2002)年度から、従来の入試部職員による高校訪問の実施体制を発展させ、入試部職員、入試部高校訪問専任スタッフ及び他部署の事務職員の協働による「高校訪問スタッフ制度」を導入し、より多くの高等学校を訪問し、直接、高等学校の先生方と対話する機会を増やしてきた。

このスタッフによる高校訪問は、九州各県(沖縄県を含む)、中四国各県(高知県、徳島県、鳥取県を除く)の高等学校約1,000校を対象に年2~4回の訪問を行っている。訪問した際には、各高等学校の進路担当教諭に対して、本学進学者の状況等を報告するとともに、本学の教育への取組みの概要や特長、入試概要等の説明、前年度入試結果の報告、オープンキャンパスの告知等を行い、本学への出願を促している。

なお、併せて、各高等学校の志願・受験動向等を含めた情報収集を行い、その後の広報活動へと繋げている。

②オープンキャンパス

オープンキャンパスは、大学全体の行事として位置付け、年2回(7月)開催している。

オープンキャンパスでは、学部学科別の模擬講義、進学相談、入試問題解説、実習施設等の見学、研究室の紹介などを行っている。また、本学在学生在が、来場した高校生に各学部の施設等の説明を行いながら学内を案内する見学ツアーも実施し、直に本学学生と高校生が触れ合える機会を増やすことにより、本学への興味関心を高める取組みも行っている。

なお、オープンキャンパスでは、保護者を対象とした講演会も実施しており、本学の特色の紹介や本学が実践しているキャリア教育について説明を行っている。

令和6(2024)年度のオープンキャンパス来場者の実績は、第1回目(7/14)が3,477人、第

2 回目（7/21）が 4,821 人の合計 8,298 人である。前年度の実施状況を踏まえた上で、新たな企画も導入しており、近年の来場者は増加傾向にある。

本学のオープンキャンパスに 1 度でも来場したことがある高校 3 年生の中で、本学へ出願する割合は全体の約 50%（令和 6 年度入試実績）を占めている。この結果からも、オープンキャンパスが志願者確保に向けた有効な取組みであると考えている。

なお、理工学部においては、オープンキャンパスに参加した受験対象者のうち、令和 5（2023）年度入試においては 38.1%、令和 6（2024）年度入試においては 45.7%と一定の割合で出願に至っている。

さらに、令和 6（2024）年度入試対象においては、参加した受験対象者のうち、104 人が入学まで至っており、入学定員 370 人のうち約 30.0%をこの取組みを通じて確保している。

次に、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する「地域共創学部地域づくり学科」では、令和 5（2023）年度入試においては 41.7%、令和 6（2024）年度入試においては 37.2%、「人間科学部臨床心理学科」では、令和 5（2023）年度入試においては 24.9%、令和 6（2024）年度入試においては 25.1%、「人間科学部スポーツ健康科学科」では、令和 5（2023）年度入試においては 21.4%、令和 6（2024）年度入試においては 26.7%といずれの学部学科においても一定の割合が志願に至っており、オープンキャンパスが志願者確保に向けた有効な取組みであることがわかる。

また、オープンキャンパスとは別に模擬講義や体験実習を中心としたキャンパスフェスタを入試募集年度の前年度に年 1 回（3 月）開催している。キャンパスフェスタでは、本学の学部学科名を出さずに学問分野から模擬講義を受講でき、受験年度となる直前に大学での学びや研究内容を紹介している。

【別紙 3】

③出張模擬講義

高等学校からの依頼に基づき、本学の教員を各高等学校へ派遣し、大学の授業の一部を実施する出張模擬講義を行っており、令和 6 年度は大学全体で 188 件であり、そのうち、理工学部の教員が行った模擬講義は 10 件であった。

④高等学校からの来訪見学会

高等学校からの依頼に基づき、高校生や保護者（PTA）の大学来訪見学を受け入れ、大学の概要説明や施設見学等を実施している。令和 6 年度は、52 校 5,832 人の高校生（保護者・引率教員を含む）を受け入れている。

⑤ウィークデー・キャンパス・ヴィジット（WCV）

平成 26（2014）年度から、祝日や休日の本学授業実施日に、高校生が大学生と同じ授業に参加し大学生の「普段の一日」を疑似体験できる「WCV」を実施している。

このプログラムは、九州の大学では本学が唯一導入しており、多くの高校生が参加するなど、高等学校からの評価の高い取組みである。WCV は、オープンキャンパスとは異なり、高校生が大学の通常の授業を大学生と一緒に受講することで、模擬講義では体験できない実際の学びや充実

感を得ることができる。

また、受講後は振り返りのワークを実施し、ガイダンス、授業での学び、学生食堂の利用などによる学生生活を踏まえた学びの可視化や気づきの共有を行うことにより、進学意欲の向上やミスマッチの低減を図っている。

参加した高校生の事後アンケートでは、「大学は人から教えてもらうより自分から学ぶ場であるなど、高校と大学の違いが分かった」、「大学で学ぶことが具体的に分かり、高校生のうちに自分がすべきことがはっきりした」などの前向きなコメントが多く見受けられる。

加えて、本取組みは、テレビや新聞などのメディアで取り上げられたことや、高校訪問等による積極的な広報によって高校教諭に広く周知されたこともあり、参加者が年々増加している。平成 28（2016）年度には、参加者が 1,000 人を超え「参加者数日本一」の表彰を受けるなど、一定の成果を得ているものと考えられる。

近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響による未実施の年度もあったが、オンライン授業等を活用しながら再開し、令和 6 年度はコロナ禍以前の体制に戻したことにより、過去最高の参加者数を記録した。

なお、過去 3 年間の WCV への参加者数は、下表のとおりである。

年 度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
参加者数	1,868 人	1,136 人	3,097 人

⑥本学独自の入試説明会

平成 8（1996）年度から、本学を含む九州各県（沖縄県を除く）及び山口県の 9 会場において、高等学校等の進路指導担当者や学年担当教諭を対象とした本学独自の入試説明会を実施している。令和 7（2025）年からは、更に多くの高等学校等の進路指導担当者や学年担当教諭の参加を促すため、本学での開催に加え、WEB による入試説明会を開催する予定である。また、高校生及び保護者向けに対しては、6 月に九州各県（沖縄県を含む）及び山口県の 10 会場において、入試制度の詳細について対面型の説明会を実施する予定である。

⑦高等学校内及び各地区での進学相談会

新聞社や受験産業会社が主催する進学相談会等へ参加している。

令和 6 年度は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県及び山口県の延べ 66 会場に参加し、受験生の確保に努めている。

また、同様に受験産業会社が主催する高等学校内での進学説明会においても、令和 6 年度は、188 校へ本学教員又は職員が出向き、直接、高校生に対して本学の特色等の説明を行った。

⑧大学案内等の作成

受験生をはじめ高校教諭、保護者を対象に、「大学案内」を毎年 72,000 部発行している。掲載内容としては、大学の概要、学部学科紹介、就職状況、入試情報、奨学金制度や施設等を掲載し

ている。また、OB・OGの活躍や、在学生からのメッセージを取り入れることで、より大学を身近に感じてもらえるように配慮するとともに、わかり易い内容となるよう制作に努めている。

なお、今回、新設理工学部では、安定的な学生確保に向けて、理工学部及び理工学部各学科の養成する人材像や当該人材を育成するためのカリキュラム等を広く紹介するため、大学全体のウェブサイトとは別に学部独自のウェブサイトを開設しているほか、学部独自のパンフレットを作成し、オープンキャンパス来場者、各種説明会等への参加者・相談者、大学案内等の資料請求者等へ広く配布し、理工学部の広報活動を行っている。

⑨その他、受験関連雑誌等の紙媒体及びWEBによる広報活動

本学の広報活動においては、先ず、本学が出稿する様々な媒体と接触したステークホルダー（受験生、受験生の保護者及び高等学校教諭など）をホームページへ誘導することを意識している。

受験関連雑誌をはじめ、新聞広告、交通広告、WEB広告、テレビCMなどについては、素材やビジュアルを他大学と差別化し、出稿する時期についても、高等学校における進路指導の時期を意識して効果的にステークホルダーに到達するようにしている。

以上のとおり、本学ではこれまで様々な取組みを行った結果、近年の志願者数の増加に繋がっているため、今後も引き続き、学生確保に向けた募集活動等を積極的に行うこととしている。

イ 新設組織における取組とその目標

今回、新設理工学部においても、上記に記載のとおり、学部独自のウェブサイトやパンフレット等を作成し、広く受験生に対する広報活動を行っている。また、大学全体のウェブサイトとは別に理工学部のウェブサイトを開設するなど、積極的に広報活動を行うことにより、これまでと同様に志願者の確保及び収容定員の確保に努めていく。

また、今後もこれまでの実績等を踏まえ、新設理工学部にて特化した募集戦略、実施計画等についてさらなるブラッシュアップを図り、学生確保に向けた取組みを行っていく。

なお、新設理工学部では、多彩な学科を設置し、多様な学びを提供するなどの学部の特性を活かした特色あるカリキュラムを構築している。この特色あるカリキュラムの構築等により、本学が独自に実施しているイベント（オープンキャンパス・入試説明会等）への参加者のうち、他の学部学科に比べて志願に結び付く割合が高い学部となっており、受験生の関心の高さや目的意識の高さがうかがえる。このことから、今後さらに学部の特色等を発信することにより、新設理工学部に興味を持つ高校生の確保は可能であると考えている。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

本学では、これまでの学生募集活動により、志願者数の増加を図ってきている。理工学部においては、近年志願者が減少しているが、再編により収容定員を減員させることと学生募集活動を強化することにより、さらなる志願者確保に向けて取り組んでいく。

また、理工学部は、オープンキャンパスに参加した受験対象者のうち、令和5（2023）年度入試においては38.1%、令和6（2024）年度入試においては45.7%と受験に結び付く割合が高い学部である。

なお、令和5（2023）年度入試対象においては、参加した受験対象者のうち、109人が、令和6（2024）年度入試対象においては、参加した受験対象者のうち、104人が入学まで至っており、入学定員370人のうち約30%をこの取組みを通じて確保している。

このような実績等を踏まえ、令和8（2026）年度入試対象においても、同様の取組みを実施する予定であり、前年同程度の参加者が見込まれることから、今回収容定員を変更しても、新設理工学部全体の入学定員325人（「情報科学科」の入学定員140人、「機械電気創造工学科（別途、設置届出済み）」の入学定員135人、「スマートコミュニケーション工学科」の入学定員50人）の確保は十分可能であると考えられる。

また、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する「地域共創学部地域づくり学科」、「人間科学部臨床心理学科」、「人間科学部スポーツ健康科学科」においても、学生確保に向けた同様の取組みを行っており、オープンキャンパス等に参加した受験対象者のうち、受験に結び付く割合は高くなっている。3学科ともに安定的に入学者を受け入れており、今後も入学定員の確保は十分可能であると考えられる。

② 競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

『令和6（2024）年度私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）』によると、令和6年度、全国には理・工学系の学部が171学部あり、内訳として、工学部52学部、理工学部29学部、理学部14学部、建築学部12学部、生命科学部9学部、デザイン工学部4学部、データサイエンス学部4学部、情報工学部4学部、情報科学部3学部、環境学部3学部、その他37学部となっている。

今回、競合校として選定した理由としては、新設組織の学科は「機械工学」及び「電気工学」を基礎とした学科であるため、競合校としては、本学同様に私立大学において理工系学部を設置している大学とした。なお、他大学の理工系学部においては、本学の理工学部と同様に「情報系」の学部学科も多く見受けられるが、前述同様、本学の新設組織は既設の理工学部「機械工学科」及び「電気工学科」を基礎とした学科であるため、本学との比較においては「情報系」の学部学科を除き、学校基本調査の学科系統分類表の中分類である「機械工学関係」及び「電気通信工学関係」の学部学科を中心に比較することとする。また、上述のとおり、本学理工学部の学生募集地域が九州地区で90.0%以上を占めているため、九州地区の他大学との比較が重要であると考え、競合校選定理由の1つとした。

九州地区の私立大学において、理工系の学部を設置しているのは、私立8大学（本学含む。）である。

ここで、九州地区の私立大学の学部学科の名称及び入学定員を見てみる。

福岡大学では、工学部機械工学科（入学定員 110 人）、同電気工学科（入学定員 110 人）を、福岡工業大学では、工学部知能機械工学科（入学定員 110 人）、同電気工学科（入学定員 90 人）を、久留米工業大学では、工学部機械システム工学科（入学定員 50 人）、同交通機械工学科（入学定員 60 人）を、近畿大学では、産業理工学部電気電子工学科（入学定員 65 人）を、崇城大学では、工学部機械工学科（入学定員 70 人）を、日本文理大学では、工学部機械電気工学科（入学定員 60 人）を、第一工科大学では、工学部機械システム工学科（入学定員 50 人）を設置している。

[資料3-1]

次に、競合校と新設組織との比較分析、優位性について述べる。

本学は文系学部、理工系学部、芸術系学の 9 学部 21 学科を擁する総合大学である。この総合大学としての強みを生かした他大学等との優位性は、以下のとおりである。

まず、理工学部独自の優位性として、

- ・これからの時代に対応する SMarFusion プログラム導入

SMarFusion（スマートフュージョン）は、科学（Science）モノづくり（Mono）デザイン（Art）を融合（Fusion）した新しい教育。情報・機械・電気の複合的スキルやアートデザインなど、専門分野を超えた学びで、理工系学生の可能性を大きく広げる。

- ・これからの学びに必要な専門分野を超えてスキルを磨き合うモノづくりセンター「コラボリウム」を 2025 年春に新設

コラボリウムとは、異分野の人々が集まり、(Collaboration) 発想する空間 (atrium) のこと。専門分野を超えて学生が交流することで、PBL により、クリエイティブな発想力を身につけ新たなアイデアを生みカタチにできる SMarFusion プログラム実践の場として活用する。

- ・理工学部に女子枠入試を導入

企業の製品やサービスの開発には“多様性”が求められている。そこで、男性と女性の両方の視点やアイデアを活かす「ジェンダード・イノベーション」という考え方が重要となっており、期待が高まる女性エンジニアの育成のために充実したサポートを行う。

続いて、総合大学としての優位性として、

- ・世界を舞台に活躍するリーダーの育成「グローバル・リーダーシップ・プログラム (GLP)」

国際社会に強い興味を持ち、将来グローバル展開する企業でリーダーシップを発揮したいと考えている学生を対象とした全学部横断型特別教育プログラムを展開。

- ・教育方法と方法

多彩な学部を設置している総合大学としての強みを生かし、単科大学や他大学ではできないような融合教育（文理芸融合科目）や学部間が連携したプロジェクト型教育を積極的に実施している。

また、学部間の連携に加え、行政や企業等と連携したプロジェクトも多数実施しており、「2040 年に必要とされる人材」の中で「予測不可能な時代を生きる人材像」として例示され

ている「普遍的な知識・理解＋汎用的技能／文理横断」の人材を自大学の環境の中で育成できることが強みである。

・きめ細やかな修学支援・修学指導

本学では、全ての学部の新入生に対して、入学直後の「教育・教務ガイダンス」において、大学での学修の進め方等の説明を行った上で、履修指導等を実施している。また、全学共通で実施している基礎教育科目の中で「導入科目」として、「大学スタディスキル」を開講している。「大学スタディスキル」では、大学や学部の3つのポリシー等の解説を始め、大学での学修方法やレポートの作成方法等を指導している。高大接続の一環として、新たな環境に早期に慣れて、有意義な大学生活を送ることができるよう、入学時からの指導を徹底している。

在学生に対しては、年度末に実施している新学年次のガイダンスにおいて、履修指導や相談等を行っている。

さらに、本学では「クラス担任制度」を導入している。

1年次のクラス担任は基本的に「大学スタディスキル」の担当教員が務めており、1年次生に対して、入学直後の新入生アンケートを基に、二者面談を実施している。この取組みは、新入生に対してこれからの大学生活を有意義に過ごしてもらうために実施しているものであるが、併せて、除籍・退学率を減少させることも1つの目的としている。

本学では、これまでの除籍・退学者の検証において、1年次終了時の修得単位が10単位以下の学生は、4年次終了時までには大半が除籍・退学に至っていることなどが確認できており、その検証結果を踏まえて1年次生を重点的かつ継続的に指導・支援する必要性を認識している。そのため、クラス担任による面談を通して単位修得に関する相談や履修指導等に関する相談を受けている。

2年次以降は、1年次からの継続やゼミナール等の教員等が担当するなど、学部によって異なるが、必ずクラス担任が付いており、履修相談以外にも、普段の様子や出席状況を把握することで、修学上の問題の早期発見に努めている。クラス担任が不在の場合や、相談しにくい内容である場合を想定して副担任も設定しており、学生指導に空白が生じないように対応している。

また、令和5年度（後期）からは、従前の学生ポートフォリオを刷新し、「私のCampusLifeノート（CLノート）」を開始した。CLノートは、学生は自身の活動記録や目標を入力することができ、クラス担任は学生の活動に対するリアクションやコメントを入力することができる。これにより、学生とクラス担任はネットワークを介した円滑なコミュニケーションが可能になった。

一方で、修得単位、GPA及び出席率等が一定の基準に満たない学生に対しては、修学指導の個別面談や必要に応じて、学生、保護者及び教職員で三者面談等を行っており、修学指導が必要な学生に対する継続的な個人の面談実施などの体制を構築している。

なお、これらの面談等については、個人情報の取扱いに配慮した上で、本学の学生教育支援・事務情報システム「K's Life（教職員が利用するLMS）」に所見情報を入力することとしており、関係教職員間での情報共有を図り、学生指導に役立てている。

・キャリア支援

「教育・サポート体制・施設設備」3つの力を融合することで就職に強い大学へ

本学のキャリア教育は、実社会を力強く生き抜くため、就職テクニックのみに重点を置いた従来型の教育ではなく、徹底した実学教育を実施している。2,500人以上が受講できる正課のキャリア科目は全国的にも例がなく、1年次から3年次までを通して、自らの位置を知り、先を予測し、指針となる教養を得ることを目指している。

また、上述の「中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析」について述べているとおり、特に九州地区における本学の所在地である福岡県の18歳人口等入学対象人口の動向等の優位性も見て取れる。

さらに、本学は理工学部全体の志願者の中で、本学の所在地である福岡県からの志願者が3年間平均で71.6%、福岡県を除く九州地区が21.0%であり、九州地区全体でも90.0%を超えている現状においても、本学理工学部は、特に九州地区の理工系を志す高校生の受け皿となっていることが分かる。

次に、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する学科の競合校の状況分析については、以下のとおりである。

(地域共創学部 地域づくり学科)

今回、競合校として選定した理由としては、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する学科は社会科学系を基礎とした学科であるため、競合校としては、社会科学系学部を設置し、かつ、学部学科名称等に本学と同分野である「共創」、「地域」等の名称が付されている大学とした。また、上述のとおり、本学「地域共創学部地域づくり学科」の学生募集地域が九州地区で90.0%以上を占めているため、九州地区の他大学との比較が重要であると考え、競合校選定理由の1つとした。

ここで、九州地区の学部学科の名称及び入学定員を見てみる。

まず、国立の九州大学では、共創学部共創学科（入学定員105人）を、宮崎大学では、地域資源創成学部地域資源創成学科（入学定員90人）を、琉球大学では、国際地域創造学部国際地域創造学科（入学定員：昼間主265人）を、公立の北九州市立大学では、地域創生学群地域創生学類（入学定員120人）を、長崎県立大学では、地域創造学部公共政策学科（入学定員120人）を、私立の九州共立大学では、経済学部地域創造学科（入学定員80人）を、沖縄国際大学では、経済学部地域環境政策学科（入学定員115人）を設置している。

[資料3-2]

次に、競合校との比較分析、優位性については、上述した総合大学としての優位性と同様である。

また、「中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析」について述べているとおり、特に九州地区における本学の所在地である福岡県の 18 歳人口等入学対象人口の動向等の優位性が見て取れる。

さらに、本学は「地域共創学部地域づくり学科」の志願者の中で、本学の所在地である福岡県からの志願者が 3 年間平均で 66.6%、福岡県を除く九州地区が 24.2%であり、九州地区全体でも 90.0%を超えている現状においても、本学「地域共創学部地域づくり学科」は、特に九州地区の社会科学系を志す高校生の受け皿となっていることが分かる。

(人間科学部 臨床心理学科)

今回、競合校として選定した理由としては、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する学科は人文系、特に「臨床心理分野」を基礎とした学科であるため、競合校としては、本学同様に私立大学において「臨床心理分野」の学部学科を設置している大学とした。また、上述のとおり、本学「人間科学部臨床心理学科」の学生募集地域が九州地区で 90.0%近くを占めているため、九州地区の他大学との比較が重要であると考え、競合校選定理由の 1 つとした。

ここで、九州地区の学部学科の名称及び入学定員を見てみる。

まず、九州女子大学では、人間科学部心理・文化学科（入学定員 90 人）を、久留米大学では、文学部心理学科（入学定員 87 人）を、福岡大学では、人文学部教育・臨床心理学科（入学定員 110 人）を、筑紫女学園大学では、人間科学部人間科学科心理・社会福祉専攻（入学定員 130 人）を、福岡女学院大学では、人間関係学部心理学科（入学定員 100 人）を、西九州大学では、子ども学部心理カウンセリング学科（入学定員 40 人）を、長崎純心大学では、人文学部福祉・心理学科（入学定員 100 人）を、九州ルーテル学院大学では、人文学部心理臨床学科（入学定員 50 人）を、九州医療科学大学では、臨床心理学部臨床心理学科（入学定員 40 人）を、志學館大学では、人間関係学部心理臨床学科（入学定員 130 人）を、鹿児島純心大学では、人間教育学部教育・臨床心理学科（入学定員 85 人）を設置している。

[資料 3-3]

次に、競合校との比較分析、優位性については、上述した総合大学としての優位性と同様である。

また、「中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析」について述べているとおり、特に九州地区における本学の所在地である福岡県の 18 歳人口等入学対象人口の動向等の優位性が見て取れる。

さらに、本学は人間科学部臨床心理学科の志願者の中で、本学の所在地である福岡県からの志願者が 3 年間平均で 67.4%、福岡県を除く九州地区が 20.7%であり、九州地区全体でも 90.0%近くを集めている現状においても、本学人間科学部臨床心理学科は、特に九州地区の人文系（臨床心理分野）を志す高校生の受け皿となっていることが分かる。

(人間科学部 スポーツ健康科学科)

今回、競合校として選定した理由としては、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する学科はスポーツ系の学科であるため、競合校としては、スポーツ系の学部学科を設置している大学とした。また、上述のとおり、本学「人間科学部スポーツ健康科学科」の学生募集地域が九州地区で90.0%近くを占めているため、九州地区の他大学との比較が重要であると考え、競合校選定理由の1つとした。

ここで、九州地区の学部学科の名称及び入学定員を見てみる。

まず、国立の鹿屋体育大学では、体育学部スポーツ総合課程（入学定員120人）、武道課程（入学定員50人）を、公立の名桜大学では、人間健康学部スポーツ健康学科（入学定員95人）を、私立の九州共立大学では、スポーツ学部スポーツ学科（入学定員250人）を、久留米大学では、人間健康学部スポーツ医科学科（入学定員70人）を、福岡大学では、スポーツ科学部スポーツ科学科（入学定員225人）、健康運動科学科（入学定員70人）を設置している。【資料3-4】

次に、競合校との比較分析、優位性については、上述した総合大学としての優位性と同様である。

また、上述の「中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析」について述べているとおり、特に九州地区における本学の所在地である福岡県の18歳人口等入学対象人口の動向等の優位性が見て取れる。

さらに、本学は人間科学部スポーツ健康科学科の志願者の中で、本学の所在地である福岡県からの志願者が3年間平均で66.9%、福岡県を除く九州地区が22.8%であり、九州地区全体でも90.0%近くを集めている現状においても、本学人間科学部スポーツ健康科学科は、特に九州地区のスポーツ系を志す高校生の受け皿となっていることが分かる。

イ 競合校の入学志願動向等

上述のとおり、本学が競合校としている大学は、九州地区の私立大学において理工系学部を設置している大学とした。

そこで、競合校の入学志願動向等について、令和4（2022）年度から令和6（2024）年度の状況について調査を行った。

なお、各大学のホームページにおいて公開されている情報を基に調査を行ったが、令和4（2022）年度と令和5（2023）年度においては、情報公開されていない大学が多く見受けられたため、主に令和6（2024）年度の情報を基に調査を行った。

調査対象大学数 : 7大学（7学部10学科）

入学定員合計 : 775人

本学が競合校としている7大学のうち、日本文理大学及び第一工科大学は令和6（2024）年度の入試情報が不明であるため、その他の5大学の情報を基に見てみる。

調査対象5大学については、入学定員665人に対して令和6（2023）年度の志願者合計は5,685人、志願倍率は8.55倍であり、入学者数については671人、入学定員充足率は1.01であった。なお、5大学には5学部8学科が設置されているが、志願倍率が5.00倍を下回っているのは全部で2学科のみであり、入学定員充足率が1.00を下回っているのは、4学科である。

次に、5大学を詳細に見てみると、福岡大学では、工学部機械工学科の入学定員110人に対し、志願者数は令和4（2022）年度1,384人、令和5（2023）年度1,316人、令和6（2024）年度1,412人であり、志願倍率も令和4（2022）年度12.58倍、令和5（2023）年度11.96倍、令和6（2024）年度12.84倍と毎年12.00倍前後で推移している。また、入学定員充足率も令和4（2022）年度1.00、令和5（2023）年度1.02、令和6（2024）年度1.02となっている。また、工学部電気工学科の入学定員110人に対しては、志願者数は令和4（2022）年度1,390人、令和5（2023）年度1,147人、令和6（2024）年度1,101人であり、志願倍率も令和4（2022）年度12.64倍、令和5（2023）年度10.43倍、令和6（2024）年度10.01倍と毎年10.00倍以上で推移している。また、入学定員充足率も令和4（2022）年度0.96、令和5（2023）年度1.06、令和6（2024）年度0.95となっており、毎年、多くの志願者を集めることができおり、安定的に学生の確保はできていると思われる。

次に、福岡工業大学では、工学部知能機械工学科の入学定員110人に対して、志願者数は令和4（2022）年度1,167人、令和5（2023）年度1,182人、令和6（2024）年度957人であり、志願倍率も令和4（2022）年度10.61倍、令和5（2023）年度10.75倍、令和6（2024）年度8.70倍と令和6（2024）年度に若干下がってはいるが、それまでは約10.00以上の志願倍率であった。また、入学定員充足率は、令和4（2022）年度と令和5（2023）年度は公表されていないが、令和6（2024）年度1.09となっている。また、工学部電気工学科の入学定員90人に対しては、志願者数は令和4（2022）年度1,101人、令和5（2023）年度1,144人、令和6（2024）年度872人であり、志願倍率も令和4（2022）年度12.23倍、令和5（2023）年度12.71倍、令和6（2024）年度9.69倍と令和6（2024）年度は若干下がってはいるが、それまでは約12.0倍以上の志願倍率であった。また、入学定員充足率は、令和4（2022）年度と令和5（2023）年度は公表されていないが、令和6（2024）年度1.34となっており、令和6（2024）年度の志願者数は前年度から減少はしているものの、安定的に学生の確保はできていると思われる。

次に、久留米工業大学では、工学部機械システム工学科の入学定員50人に対して、志願者数は令和4（2022）年度120人、令和5（2023）年度167人、令和6（2024）年度97人であり、志願倍率も令和4（2022）年度2.40倍、令和5（2023）年度3.34倍、令和6（2024）年度1.94倍となっている。また、入学定員充足率は、令和4（2022）年度1.22、令和5（2023）年度1.14、令和6（2024）年度0.68となっている。また、工学部交通機械工学科の入学定員60人に対しては、志願者数は令和4（2022）年度81人、令和5（2023）年度84人、令和6（2024）年度73人であり、志願倍率も令和4（2022）年度1.35倍、令和5（2023）年度1.40倍、令和6（2024）年度1.22倍となっている。また、入学定員充足率は、令和4（2022）年度0.98、令和5（2023）年

度 0.93、令和 6（2024）年度 0.80 となっており、両学科とも令和 6（2024）年度の志願者数は前年度から減少し、機械システム工学科の入学定員充足率が 0.7 を下回っている状況から見ても、学生の確保に苦慮していると思われる。

次に、近畿大学では、産業理工学部電気電子工学科の入学定員 65 人に対して、志願者数は令和 4（2022）年度 1,034 人、令和 5（2023）年度 646 人、令和 6（2024）年度 776 人であり、志願倍率も令和 4（2022）年度 15.91 倍、令和 5（2023）年度 9.94 倍、令和 6（2024）年度 11.94 倍と令和 5（2023）年度は若干下がってはいるが、毎年 12.0 倍前後で推移している。また、入学定員充足率は、令和 4（2022）年度と令和 5（2023）年度は公表されていないが、令和 6（2024）年度 0.92 となっており、志願者数は令和 4（2022）年から減少傾向ではあるが、いまだ志願倍率も高く、令和 6（2024）年度の入学定員充足率が 1.00 を下回ってはいるが、安定的に学生の確保はできていると思われる。

次に、崇城大学では、工学部機械工学科の入学定員 70 人に対して、志願者数は令和 4（2022）年度と令和 5（2023）年度は公表されていないが、令和 6（2024）年度は 397 人であり、志願倍率は 5.67 倍となっている。また、入学定員充足率も令和 4（2022）年度と令和 5（2023）年度は公表されていないが、令和 6（2024）年度は 1.03 となっており、安定的に学生の確保はできていると思われる。

[資料 4－1]

このような競合する他大学の状況等と併せて上述した「中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析」、競合校の入試状況等を踏まえても、本学の新設組織である理工学部「スマートコミュニケーション工学科」及び「機械電気創造工学科（別途、設置届出済み）」は、今後も十分に学生を確保できる見通しである。

次に、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する学科の競合校の入学志願動向等について見てみる。

（地域共創学部 地域づくり学科）

上述のとおり、本学が競合校としている大学は、九州地区の大学において社会科学系学部を設置し、かつ、学部学科名称等に本学と同分野である「共創」、「地域」等の名称が付されている大学とした。

そこで、競合校の入学志願動向等について、令和 4（2022）年度から令和 6（2024）年度の状況について調査を行った。

なお、各大学のホームページにおいて公開されている情報を基に調査を行ったが、一部の大学において情報が公開されていない項目も見受けられたため、可能な範囲において調査を行った。

調査対象大学数 : 7 大学 (7 学部 7 学科)

入学定員合計 : 895 人

本学が競合校としている7大学のうち、九州共立大学は令和5（2023）年度及び令和6（2024）年度の入試情報が一部不明であるため、その他の6大学について、令和6（2024）年度の情報を基に見てみる。

調査対象6大学については、入学定員815人に対して令和6（2023）年度の志願者合計は2,845人、志願倍率は3.50倍であり、入学者数については822人、入学定員充足率は1.01であった。なお、6大学には6学部6学科が設置されているが、志願倍率は1つの大学を除いて約3.00倍前後であり、入学定員充足率が1.00を下回っているのは、1学科のみである。

次に、7大学を詳細に見てみると、まずは、国立の九州大学では、共創学部共創学科の入学定員105人に対して、志願者数は令和4（2022）年度397人、令和5（2023）年度391人、令和6（2024）年度370人であり、志願倍率も令和4（2022）年度3.78倍、令和5（2023）年度3.72倍、令和6（2024）年度3.52倍と毎年3.50倍以上で推移している。また、入学定員充足率は、令和4（2022）年度0.95、令和5（2023）年度0.95、令和6（2024）年度0.97となっており、毎年、若干1.00を下回ってはいるが、安定的に学生の確保はできていると思われる。

次に、宮崎大学では、地域資源創成学部地域資源創成学科の入学定員90人に対して、志願者数は令和4（2022）年度289人、令和5（2023）年度378人、令和6（2024）年度246人であり、志願倍率も令和4（2022）年度3.21倍、令和5（2023）年度4.20倍、令和6（2024）年度2.73倍と令和6（2024）年度は若干志願倍率が下がってはいるが、毎年3.00倍以上で推移している。また、入学定員充足率は、令和4（2022）年度1.10、令和5（2023）年度1.07、令和6（2024）年度1.01となっており、安定的に学生の確保はできていると思われる。

次に、琉球大学では、国際地域創造学部国際地域創造学科（昼間主）の入学定員265人に対して、志願者数は令和4（2022）年度881人、令和5（2023）年度705人、令和6（2024）年度811人であり、志願倍率も令和4（2022）年度3.32倍、令和5（2023）年度2.66倍、令和6（2024）年度3.06倍と令和5（2023）年度は若干志願倍率が下がってはいるが、毎年3.00倍以上で推移している。また、入学定員充足率は、令和4（2022）年度1.02、令和5（2023）年度1.03、令和6（2024）年度1.00となっており、多くの志願者を集めることができおり、安定的に学生の確保はできていると思われる。

次に、公立の北九州市立大学では、地域創生学群地域創生学類の入学定員120人に対して、志願者数は令和4（2022）年度472人、令和5（2023）年度549人、令和6（2024）年度520人であり、志願倍率も令和4（2022）年度3.93倍、令和5（2023）年度4.58倍、令和6（2024）年度4.33倍と近年は4.00倍以上で推移している。また、入学定員充足率は、令和4（2022）年度1.03、令和5（2023）年度1.03、令和6（2024）年度1.02となっており、毎年、多くの志願者を集めることができおり、安定的に学生の確保はできていると思われる。

次に、長崎県立大学では、地域創造学部公共政策学科の入学定員120人に対して、志願者数は令和4（2022）年度997人、令和5（2023）年度523人、令和6（2024）年度714人であり、志願倍率も令和4（2022）年度8.31倍、令和5（2023）年度4.36倍、令和6（2024）年度5.95倍と令和5（2023）年度に若干志願倍率が低下したが、毎年6.00倍程度で推移している。また、入学定員充足率は、令和4（2022）年度1.02、令和5（2023）年度1.01、令和6（2024）年度1.02と

っており、毎年、多くの志願者を集めることができおり、安定的に学生の確保はできていると思われる。

次に、私立の九州共立大学では、経済学部地域創造学科の入学定員 80 人に対して、志願者数は令和 5（2023）年度と令和 6（2024）年度は公表されていないが、令和 4（2022）年度 92 人であり、志願倍率は 1.15 倍となっている。また、入学定員充足率は令和 4（2022）年度 0.59、令和 5（2023）年度 0.68、令和 6（2024）年度 0.71 となっており、入学定員充足率から見ても、学生の確保に苦慮していると思われる。

次に、沖縄国際大学では、経済学部地域環境政策学科の入学定員 115 人に対して、志願者数は令和 4（2022）年度 284 人、令和 5（2023）年度 235 人、令和 6（2024）年度 184 人であり、志願倍率も令和 4（2022）年度 2.47 倍、令和 5（2023）年度 2.04 倍、令和 6（2024）年度 1.60 倍と近年若干下がってきている。また、入学定員充足率は、令和 4（2022）年度 1.14、令和 5（2023）年度 1.11、令和 6（2024）年度 1.04 となっており、志願者の確保に関して苦慮していると思われるが、入学定員充足率は 1.00 を毎年上回っており、学生の確保はできていると思われる。

[資料 4－2]

このような競合する他大学の状況等から見ても、一部の大学においては学生の確保に苦慮しているが、多くの大学においては、安定的に学生を確保できていることが見て取れる。併せて上述した「中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析」、競合校の入試状況等を踏まえても、本学の「地域共創学部地域づくり学科」は、今後も十分に学生を確保できる見通しである。

（人間科学部 臨床心理学科）

上述のとおり、本学が競合校としている大学は、九州地区の私立大学において「臨床心理分野」の学部学科を設置している大学とした。

そこで、競合校の入学志願動向等について、令和 4（2022）年度から令和 6（2024）年度の状況について調査を行った。

なお、各大学のホームページにおいて公開されている情報を基に調査を行ったが、一部の大学において情報が公開されていない項目も見受けられたため、可能な範囲において調査を行った。

調査対象大学数 : 11 大学 (11 学部 11 学科)

入学定員合計 : 962 人

本学が競合校としている 11 大学のうち、西九州大学、長崎純心大学及び九州医療科学大学は令和 6（2024）年度の入試情報が一部不明であるため、その他の 8 大学について、令和 6（2024）年度の情報を基に見てみる。

調査対象 8 大学については、入学定員 782 人に対して令和 6（2023）年度の志願者合計は 3,067 人、志願倍率は 3.92 倍であり、入学者数については 791 人、入学定員充足率は 1.01 であった。

なお、8 大学には 8 学部 8 学科が設置されているが、志願倍率が 1.00 倍を下回っている学科はなく、入学定員充足率が 1.00 を下回っているのは、5 学科である。

次に、8 大学を詳細に見てみると、九州女子大学では、人間科学部心理・文化学科の入学定員 90 人に対して、志願者数は令和 4（2022）年度と令和 5（2023）年度は公表されていないが、令和 6（2024）年度 155 人であり、志願倍率は 1.72 となっている。また、入学定員充足率は令和 4（2022）年度 1.02、令和 5（2023）年度 0.91、令和 6（2024）年度 0.99 となっており、令和 5（2023）年度と令和 6（2024）年度の入学定員充足率が 1.00 を若干下回ってはいるが、一定の学生確保はできていると思われる。

次に、久留米大学では、文学部心理学科の入学定員 87 人に対して、志願者数は令和 4（2022）年度 666 人、令和 5（2023）年度 496 人、令和 6（2024）年度 547 人であり、志願倍率も令和 4（2022）年度 7.66 倍、令和 5（2023）年度 5.70 倍、令和 6（2024）年度 6.29 倍と毎年 6.00 倍から 7.00 倍で推移している。また、入学定員充足率は、令和 4（2022）年度 1.03、令和 5（2023）年度 1.10、令和 6（2024）年度 1.23 となっており、毎年、多くの志願者を集めることができしており、安定的に学生の確保はできていると思われる。

次に、福岡大学では、人文学部教育・臨床心理学科の入学定員 110 人に対して、志願者数は令和 4（2022）年度 1,397 人、令和 5（2023）年度 1,347 人、令和 6（2024）年度 1,381 人であり、志願倍率も令和 4（2022）年度 12.70 倍、令和 5（2023）年度 12.25 倍、令和 6（2024）年度 12.55 倍と毎年 12.00 倍以上で推移している。また、入学定員充足率は、令和 4（2022）年度 1.00、令和 5（2023）年度 1.12、令和 6（2024）年度 0.93 となっており、令和 6（2024）年度は 1.00 を若干下回ってはいるが、毎年、多くの志願者を集めることができしており、安定的に学生の確保はできていると思われる。

次に、筑紫女学園大学では、人間科学部人間科学科（心理・社会福祉専攻）の入学定員 130 人に対して、志願者数は令和 4（2022）年度と令和 5（2023）年度は公表されていないが、令和 6（2024）年度 213 人であり、志願倍率は 1.64 倍となっている。また、入学定員充足率は、令和 4（2022）年度 1.15、令和 5（2023）年度 1.10、令和 6（2024）年度 0.98 となっており、令和 6（2024）年度の志願倍率は 2.00 倍を下回り、入学定員充足率も 1.00 を若干下回っている状況から見ても、学生の確保に苦慮していると思われる。

次に、福岡女学院大学では、人間関係学部心理学科の入学定員 100 人に対して、志願者数は令和 4（2022）年度 362 人、令和 5（2023）年度 295 人、令和 6（2024）年度 242 人であり、志願倍率も令和 4（2022）年度 3.62 倍、令和 5（2023）年度 2.95 倍、令和 6（2024）年度 2.42 倍と、毎年、2.50 倍から 3.50 倍前後で推移している。また、入学定員充足率は、令和 4（2022）年度 1.02、令和 5（2023）年度 1.01、令和 6（2024）年度 0.97 となっており、令和 6（2024）年度の入学定員充足率が 1.00 を若干下回ってはいるが、一定の学生確保はできていると思われる。

次に、九州ルーテル学院大学では、人文学部心理臨床学科の入学定員 50 人に対して、志願者数は令和 4（2022）年度 133 人、令和 5（2023）年度 146 人、令和 6（2024）年度 147 人であり、志願倍率も令和 4（2022）年度 2.66 倍、令和 5（2023）年度 2.92 倍、令和 6（2024）年度 2.94 倍と、毎年 2.80 倍前後で推移している。また、入学定員充足率は、令和 4（2022）年度 1.70、令

和5（2023）年度1.22、令和6（2024）年度1.36となっており、安定的に学生の確保はできていると思われる。

次に、志學館大学では、人間関係学部心理臨床学科の入学定員130人に対して、志願者数は令和4（2022）年度と令和5（2023）年度は公表されていないが、令和6（2024）年度262人であり、志願倍率も令和6（2024）年度2.02倍となっている。また、入学定員充足率は、令和6（2024）年度1.15となっており、一定の学生確保はできていると思われる。

次に、鹿児島純心大学では、人間教育学部教育・臨床心理学科の入学定員85人に対して、志願者数は令和4（2022）年度は公表されていないが、令和5（2023）年度106人、令和6（2024）年度120人であり、志願倍率も令和5（2023）年度1.25倍、令和6（2024）年度1.41倍と、毎年、1.30倍前後で推移している。また、入学定員充足率は、令和6（2024）年度0.60となっている状況から見ても、学生の確保に苦慮していると思われる。

[資料4-3]

このような競合する他大学の状況等から見ても、一部の大学では志願倍率の低下等が見て取れるが、本学の所在地である福岡県内の大学で見ると、学生を確保できていることが見て取れる。併せて上述した「中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析」、競合校の入試状況等を踏まえても、本学の「人間科学部臨床心理学科」は、今後も十分に学生を確保できる見通しである。

（人間科学部 スポーツ健康科学科）

上述のとおり、本学が競合校としている大学は、九州地区の大学においてスポーツ系の学部学科を設置している大学とした。

そこで、競合校の入学志願動向等について、令和4（2022）年度から令和6（2024）年度の状況について調査を行った。

なお、各大学のホームページにおいて公開されている情報を基に調査を行ったが、一部の大学において情報が公開されていない項目も見受けられたため、可能な範囲において調査を行った。

調査対象大学数 : 5大学（5学部7学科）

入学定員合計 : 880人

本学が競合校としている5大学のうち、九州共立大学は令和6（2024）年度の入試情報が一部不明であるため、その他の4大学について、令和6（2024）年度の情報を基に見てみる。

調査対象4大学については、入学定員630人に対して令和6（2023）年度の志願者合計は2,184人、志願倍率は3.47倍であり、入学者数については659人、入学定員充足率は1.05であった。なお、4大学には4学部6学科が設置されているが、志願倍率が1.00倍を下回っている学科はなく、入学定員充足率が1.00を下回っているのは、1学科のみである。

次に、5 大学を詳細に見てみると、まずは、国立の鹿屋体育大学では、体育学部スポーツ総合課程の入学定員 120 人に対して、志願者数は令和 4（2022）年度 309 人、令和 5（2023）年度 230 人、令和 6（2024）年度 267 人であり、志願倍率も令和 4（2022）年度 2.58 倍、令和 5（2023）年度 1.92 倍、令和 6（2024）年度 2.23 倍と毎年 2.00 倍前後で推移している。また、入学定員充足率は、令和 4（2022）年度 1.08、令和 5（2023）年度 1.10、令和 6（2024）年度 1.07 となっており、毎年、安定的に学生の確保はできていると思われる。

また、同じく武道課程の入学定員 50 人に対して、志願者数は令和 4（2022）年度 62 人、令和 5（2023）年度 70 人、令和 6（2024）年度 60 人であり、志願倍率も令和 4（2022）年度 1.24 倍、令和 5（2023）年度 1.40 倍、令和 6（2024）年度 1.20 倍となっている。また、入学定員充足率は、令和 4（2022）年度 1.08、令和 5（2023）年度 1.06、令和 6（2024）年度 0.98 となっており、武道課程という特殊な課程において志願倍率は低い倍率ではあるが、入学者については、毎年、入学定員充足率も 1.00 を上回り、安定的に学生の確保はできていると思われる。

次に、公立の名桜大学では、人間健康学部スポーツ健康学科の入学定員 95 人に対して、志願者数は令和 4（2022）年度 466 人、令和 5（2023）年度 391 人、令和 6（2024）年度 341 人であり、志願倍率も令和 4（2022）年度 4.91 倍、令和 5（2023）年度 4.12 倍、令和 6（2024）年度 3.59 倍と毎年 3.50 倍以上で推移している。また、入学定員充足率は、令和 4（2022）年度 1.11、令和 5（2023）年度 1.06、令和 6（2024）年度 1.04 となっており、毎年、多くの志願者を集めることができおり、安定的に学生の確保はできていると思われる。

次に、私立の九州共立大学では、スポーツ学部スポーツ学科の入学定員 250 人に対して、志願者数は令和 5（2023）年度と令和 6（2024）年度は公表されていないが、令和 4（2022）年度 464 人であり、志願倍率は 1.86 倍となっている。また、入学定員充足率は令和 4（2022）年度 1.14、令和 5（2023）年度 1.16、令和 6（2024）年度 1.16 となっており、令和 5（2023）年度と令和 6（2024）年度の志願者数は不明であるが、毎年、入学定員充足率は 1.10 を上回っており、一定の学生確保はできていると思われる。

次に、久留米大学では、人間健康学部スポーツ医科学科の入学定員 70 人に対して、志願者数は令和 4（2022）年度 372 人、令和 5（2023）年度 301 人、令和 6（2024）年度 265 人であり、志願倍率も令和 4（2022）年度 5.31 倍、令和 5（2023）年度 4.30 倍、令和 6（2024）年度 3.79 倍と近年若干下がってはきているが、4.00 倍前後で推移している。また、入学定員充足率は、令和 4（2022）年度 1.01、令和 5（2023）年度 1.37、令和 6（2024）年度 1.13 となっており、近年、志願者数が減少傾向ではあるが、一定の学生確保はできていると思われる。

次に、福岡大学では、スポーツ科学部スポーツ科学科の入学定員 225 人に対して、志願者数は令和 4（2022）年度 786 人、令和 5（2023）年度 823 人、令和 6（2024）年度 832 人であり、志願倍率も令和 4（2022）年度 3.49 倍、令和 5（2023）年度 3.66 倍、令和 6（2024）年度 3.70 倍と毎年 3.50 倍前後で推移している。また、入学定員充足率は、令和 4（2022）年度 1.00、令和 5（2023）年度 1.03、令和 6（2024）年度 1.02 となっており、毎年、多くの志願者を集めることができおり、安定的に学生の確保はできていると思われる。

また、同じくスポーツ科学部健康運動科学科の入学定員 70 人に対して、志願者数は令和 4（2022）年度 415 人、令和 5（2023）年度 355 人、令和 6（2024）年度 419 人であり、志願倍率も令和 4

(2022) 年度 5.93 倍、令和 5 (2023) 年度 5.07 倍、令和 6 (2024) 年度 5.99 倍と令和 5 (2023) 年度に若干下がったものの、6.00 倍近くで推移している。また、入学定員充足率は、令和 4 (2022) 年度 1.06、令和 5 (2023) 年度 1.07、令和 6 (2024) 年度 1.07 となっており、毎年、多くの志願者を集めることができおり、安定的に学生の確保はできていると思われる。【資料 4-4】

このような競合する他大学の状況等から見ても、安定的に学生を確保できていることが見て取れる。併せて上述した「中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析」、競合校の入試状況等を踏まえても、本学の「人間科学部スポーツ健康科学科」は、今後も十分に学生を確保できる見通しである。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等

理工学部は、平成 29 (2017) 年にそれまでの工学部 (入学定員 525 人)「機械工学科 (入学定員 100 人)」、「電気情報工学科 (入学定員 100 人)」、「物質生命化学科 (入学定員 80 人)」、「都市基盤デザイン工学科 (入学定員 60 人)」、「建築学科 (入学定員 70 人)」、「住居・インテリア設計学科 (入学定員 60 人)」、「バイオロボティクス学科 (入学定員 55 人)」と情報科学部情報科学科 (入学定員 160 人) の 2 学部体制から、新たに理工学部 (入学定員 370 人)「情報科学科 (入学定員 140 人)」、「機械工学科 (入学定員 130 人)」、「電気工学科 (入学定員 100 人)」、生命科学部「生命科学科 (入学定員 110 人)」、建築都市工学部 (入学定員 200 人)「建築学科 (入学定員 75 人)」、「住居・インテリア学科 (入学定員 65 人)」、「都市デザイン工学科 (入学定員 60 人)」の 3 学部体制に再編を行った。

今回、近年の入試状況等に鑑み、理工学部 (情報科学科・機械工学科・電気工学科) のうち、「機械工学科」及び「電気工学科」を基礎とする新設組織として「スマートコミュニケーション工学科」及び「機械電気創造工学科 (別途、設置届出済み)」を設置するため、これまでの「機械工学科」及び「電気工学科」の入試状況等をもとに検証する。

まず始めに、理工学部全体の入学定員に対する学生確保の見通しについて、学部再編以降の入試状況について検証を行った。

理工学部を再編後、入学定員 370 人に対する直近 5 ヶ年では、令和 2 (2020) 年度志願者数 3,113 人 (志願倍率 8.41 倍)、入学者数 383 人 (入学定員充足率 1.04)、令和 3 (2021) 年度志願者数 3,095 人 (志願倍率 8.36 倍)、入学者数 331 人 (入学定員充足率 0.89)、令和 4 (2022) 年度志願者数 3,293 人 (志願倍率 8.90 倍)、入学者数 385 人 (入学定員充足率 1.04)、令和 5 (2023) 年度志願者数 3,070 人 (志願倍率 8.30 倍)、入学者数 324 人 (入学定員充足率 0.88)、令和 6 (2024) 年度志願者数 2,321 人 (志願倍率 6.27 倍)、入学者数 306 人 (入学定員充足率 0.83) となっており、令和 6 (2024) 年度では志願者数が 3,000 人を下回ったが、令和 2 (2020) 年以降、毎年 3,000 人以上の志願者を集めることができおり、入学定員充足率は若干 1.00 を下回るものの毎年 0.90 前後で推移している。【資料 5-1】

次に、今回、新設組織の基礎となる「機械工学科」及び「電気工学科」の学科ごとの直近5年の入試状況について見てみる。

まず、「機械工学科（入学定員130人）」では、令和2（2020）年度志願者数950人（志願倍率7.31倍）、入学者数130人（入学定員充足率1.00）、令和3（2021）年度志願者数833人（志願倍率6.41倍）、入学者数106人（入学定員充足率0.82）、令和4（2022）年度志願者数896人（志願倍率6.89倍）、入学者数132人（入学定員充足率1.02）、令和5（2023）年度志願者数841人（志願倍率6.47倍）、入学者数91人（入学定員充足率0.70）、令和6（2024）年度志願者数656人（志願倍率5.05倍）、入学者数92人（入学定員充足率0.71）となっており、志願者数は直近の令和6（2024）年度を除いて900人前後で、志願倍率は6.50倍程度で推移しているが、近年、入学者数が若干減少し、入学定員充足率においても0.70程度となっている。 【資料5－2】

次に、「電気工学科（入学定員100人）」では、令和2（2020）年度志願者数772人（志願倍率7.72倍）、入学者数106人（入学定員充足率1.06）、令和3（2021）年度志願者数740人（志願倍率7.40倍）、入学者数85人（入学定員充足率0.85）、令和4（2022）年度志願者数850人（志願倍率8.50倍）、入学者数105人（入学定員充足率1.05）、令和5（2023）年度志願者数750人（志願倍率7.50倍）、入学者数85人（入学定員充足率0.85）、令和6（2024）年度志願者数496人（志願倍率4.96倍）、入学者数76人（入学定員充足率0.76）となっており、志願者数は直近の令和6（2024）年度を除いて800人前後で、志願倍率は7.50倍程度で推移しているが、近年、入学者数が若干減少し、入学定員充足率においても0.76程度となっている。 【資料5－3】

しかしながら、今回、近年の入試状況等に鑑み、高校生や社会のニーズに即した魅力ある教育プログラムを提供するため、既設の理工学部の学科構成等を見直し、既設の「機械工学科」及び「電気工学科」を基礎とした新設組織として「スマートコミュニケーション工学科」及び「機械電気創造工学科（別途、設置届出済み）」を設置することとした。

なお、新設組織の設置にあたっては、近年の入試状況等の現状にあわせて既設の「機械工学科」及び「電気工学科」の入学定員合計230人を45人減じて2学科合計の入学定員を185人として設置する。

新設組織の1つである新時代のコミュニケーションエンジニアを目指す「スマートコミュニケーション工学科」では、これまでの「機械工学科」と「電気工学科」を融合させて、ヒト×モノ×セカイをつなげるプロデューサー『工学をベースに様々な知識を統合してプロジェクトを進めていく人材』を育成するため、AI・データサイエンスで社会課題を解決、かつこいいデザインで新たなUI/UXを創出、解決力を伸ばすプロジェクト型教育を学びのポイントとして、様々な魅力のある学科として新設する。

また、もう1つの新設組織である持続可能な社会を支えるエンジニアを目指す「機械電気創造工学科（別途、設置届出済み）」では、これまでの「機械工学科」と「電気工学科」を融合させて、ハードウェア（機械と電気の融合）のスペシャリスト『機械と電気の高度な知識を持って課題解決ができる技術者』を育成するため、ロボット・AI・IoT・半導体を活用した未来のモノづくり、

環境問題・エネルギー技術の革新、創造力を伸ばすプロジェクト型教育を学びのポイントとして、様々な特色ある学科として新設する。

今回の新設学科の設置に関しては、上述のとおり、高校生等のニーズに即したこれまでの既設学科の学びを大きく融合・発展させた学科を設置するため、これまでにはない受験者層を取り込むことも可能であると考えており、「スマートコミュニケーション工学科（入学定員 50 人）」及び「機械電気創造工学科（入学定員 135 人）（別途、設置届出済み）」の学生を確保することは十分可能であると考えている。

併せて、上述した「中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析」、競合校の入試状況等を踏まえても、十分に学生を確保できる見通しである。

次に、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する学科の定員を充足できる根拠等については、以下のとおりである。

（地域共創学部）

地域共創学部は、地域観光づくりを含めた地域活性化のための魅力の発掘や、まちづくり、地域内での組織間の連携等、地域と共に創造する活動において、これに関する基礎的な知見や技能を備え、地域社会の持続可能な発展をもたらすために、地域課題をどう解決し、どのような地域社会を創り上げるのか、その際の地域の光となる資源をどう掘り起こし、磨き、編集し、ストーリー性のあるものに仕上げるのか、そのために地域のステークホルダーとどう共創できるかを学び、地域内の多様な組織の中でこれに携わる人材を育成するため、既設の商学部第一部観光産業学科を改組し、新たに「地域づくり学科」を設け、平成 30（2018）年に地域共創学部「観光学科（入学定員 150 人）」及び「地域づくり学科（入学定員 130 人）」として設置した。

その後、開設からこれまでの入試状況等に鑑み、大学全体の定員の適正化を図る目的として、令和 6（2024）年度から、開設から着実に志願者を集めている「地域づくり学科」の入学定員を 10 人増員し 140 人とし、更に、令和 8（2026）年度から、10 人増員し 150 人とする。

今回、入学定員を増員する地域共創学部に関し、近年の入試状況等をもとに検証する。

まず始めに、地域共創学部全体の入学定員に対する学生確保の見通しについて、学部設置以降の入試状況について検証を行った。

地域共創学部を設置後、入学定員 280 人（令和 6（2024）年度は 290 人）に対する直近 5 ヶ年では、令和 2（2020）年度志願者数 2,333 人（志願倍率 8.33 倍）、入学者数 281 人（入学定員充足率 1.00）、令和 3（2021）年度志願者数 1,735 人（志願倍率 6.20 倍）、入学者数 260 人（入学定員充足率 0.93）、令和 4（2022）年度志願者数 2,004 人（志願倍率 7.16 倍）、入学者数 283 人（入学定員充足率 1.01）、令和 5（2023）年度志願者数 1,944 人（志願倍率 6.94 倍）、入学者数 291 人（入学定員充足率 1.04）、令和 6（2024）年度志願者数 1,822 人（志願倍率 6.28 倍）、入学者数 301 人（入学定員充足率 1.04）となっており、毎年 2,000 人前後の志願者を集めることができ、志願倍率も 6.00 倍以上、入学定員充足率も 1.00 を上回っている。〔資料 5-4〕

(地域共創学部 地域づくり学科)

次に、今回、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する地域共創学部「地域づくり学科（入学定員 130 人（令和 6（2024）年度は 140 人）」の直近 5 ヶ年の入試状況について見てみる。

まず、令和 2（2020）年度志願者数 1,193 人（志願倍率 9.18 倍）、入学者数 131 人（入学定員充足率 1.01）、令和 3（2021）年度志願者数 890 人（志願倍率 6.85 倍）、入学者数 129 人（入学定員充足率 0.99）、令和 4（2022）年度志願者数 1,168 人（志願倍率 8.98 倍）、入学者数 131 人（入学定員充足率 1.01）、令和 5（2023）年度志願者数 998 人（志願倍率 7.68 倍）、入学者数 139 人（入学定員充足率 1.07）、令和 6（2024）年度志願者数 1,011 人（志願倍率 7.22 倍）、入学者数 146 人（入学定員充足率 1.04）となっており、毎年 1,000 人前後の志願者を集めることができしており、志願倍率も 7.00 倍以上、入学定員充足率も 1.00 を着実に上回っている。

このような状況において、「地域づくり学科」では、令和 6（2024）年度から入学定員 10 人増員しても着実に志願者を集めることができている。これらの現状に鑑み、今回、大学全体の定員の適正化を図るため、理工学部において新学科を設置する際、理工学部全体の入学定員を減員し、その減員分の一部について着実に志願者を集めている「地域づくり学科」に振り替えることとした。なお、令和 6（2024）年度にも定員を 10 人増員しているが、近年の入試状況等から見ても、「地域づくり学科」の入学定員をさらに 10 人増員しても学生を確保することは十分可能であると考えている。

併せて、上述した「中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析」、競合校の入試状況等を踏まえても、十分に学生を確保できる見通しである。 [資料 5－5]

(人間科学部)

人間科学部は、本学の教育改革の一環として、大学全体の教育目標である「深い教養に裏打ちされたグローバル化に対応できる心身共に健全な人間を育成すること」を基盤とし、「人間の尊重」を基本理念に、乳幼児期（こども）からの人間の成長及び発達過程を「こころ」と「からだ」の両面から多角的かつ科学的に探究し、「人を育てる人」を育て、地域社会に貢献できる人材を育成するため、平成 30（2018）年に人間科学部臨床心理学科（入学定員 70 人）、子ども教育学科（入学定員 80 人）及びスポーツ健康科学科（入学定員 80 人）として設置した。

その後、開設からこれまでの入試状況等に鑑み、大学全体の定員の適正化を図る目的として、令和 6（2024）年度から、開設から着実に志願者を集めている「スポーツ健康科学科」の入学定員を 20 人増員し 100 人とし、更に、令和 8（2026）年度から、「臨床心理学科」の入学定員を 15 人増員し 85 人に、「スポーツ健康科学科」の入学定員を 20 人増員し 120 人とする。

今回、入学定員を増員する人間科学部に關し、近年の入試状況等をもとに検証する。

まず始めに、人間科学部全体の入学定員に対する学生確保の見通しについて、学部設置以降の入試状況について検証を行った。

人間科学部を設置後、入学定員 230 人（令和 6（2024）年度は 250 人）に対する直近 5 ヶ年では、令和 2（2020）年度志願者数 2,011 人（志願倍率 8.74 倍）、入学者数 241 人（入学定員充足率 1.05）、令和 3（2021）年度志願者数 1,942 人（志願倍率 8.44 倍）、入学者数 236 人（入学定員充足率 1.03）、令和 4（2022）年度志願者数 1,882 人（志願倍率 8.18 倍）、入学者数 236 人（入学定員充足率 1.03）、令和 5（2023）年度志願者数 1,848 人（志願倍率 8.03 倍）、入学者数 244 人（入学定員充足率 1.06）、令和 6（2024）年度志願者数 1,632 人（志願倍率 6.53 倍）、入学者数 270 人（入学定員充足率 1.08）となっており、毎年 1,600 人以上の志願者を集めることができおり、志願倍率も 6.00 倍以上、入学定員充足率も 1.00 を着実に上回っている。

[資料 5－6]

（人間科学部 臨床心理学科）

次に、今回、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する人間科学部「臨床心理学科（入学定員 70 人）」の直近 5 ヶ年の入試状況について見てみる。

まず、令和 2（2020）年度志願者数 998 人（志願倍率 14.26 倍）、入学者数 76 人（入学定員充足率 1.09）、令和 3（2021）年度志願者数 965 人（志願倍率 13.79 倍）、入学者数 74 人（入学定員充足率 1.06）、令和 4（2022）年度志願者数 851 人（志願倍率 12.16 倍）、入学者数 70 人（入学定員充足率 1.00）、令和 5（2023）年度志願者数 935 人（志願倍率 13.36 倍）、入学者数 73 人（入学定員充足率 1.04）、令和 6（2024）年度志願者数 773 人（志願倍率 11.04 倍）、入学者数 78 人（入学定員充足率 1.11）となっており、毎年 700 人以上の志願者を集めることができおり、志願倍率も 11.00 倍以上、入学定員充足率も 1.00 を着実に上回っている。

このような状況において、今回、大学全体の定員の適正化を図るため、理工学部において新学科を設置する際、理工学部全体の入学定員を減員し、その減員分の一部について着実に志願者を集めている「臨床心理学科」に振り替えることとした。なお、これまでの入試状況等から見ても、「臨床心理学科」の入学定員を 15 人増員しても学生を確保することは十分可能であると考えている。

併せて、上述した「中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析」、競合校の入試状況等を踏まえても、十分に学生を確保できる見通しである。

[資料 5－7]

（人間科学部 スポーツ健康科学科）

まず始めに、人間科学部全体の入学定員に対する学生確保の見通しについては、上述のとおりである。

次に、今回、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する人間科学部「スポーツ健康科学科（入学定員 80 人（令和 6（2024）年度は 100 人））」の直近 5 ヶ年の入試状況について見てみる。

まず、令和 2（2020）年度志願者数 493 人（志願倍率 6.16 倍）、入学者数 82 人（入学定員充足率 1.03）、令和 3（2021）年度志願者数 548 人（志願倍率 6.85 倍）、入学者数 82 人（入学定員充

足率 1.03)、令和 4 (2022) 年度志願者数 601 人 (志願倍率 7.51 倍)、入学者数 83 人 (入学定員充足率 1.04)、令和 5 (2023) 年度志願者数 465 人 (志願倍率 5.81 倍)、入学者数 88 人 (入学定員充足率 1.10)、令和 6 (2024) 年度志願者数 528 人 (志願倍率 5.28 倍)、入学者数 108 人 (入学定員充足率 1.08) となっており、毎年 500 人前後の志願者を集めることができている、志願倍率も 5.00 倍以上、入学定員充足率も 1.00 を着実に上回っている。

このような状況において、「スポーツ健康科学科」においては、令和 6 (2024) 年度から入学定員 20 人増員しても着実に志願者を集めることができている。これらの現状に鑑み、今回、大学全体の定員の適正化を図るため、理工学部において新学科を設置する際、理工学部全体の入学定員を減員し、その減員分の一部について着実に志願者を集めている「スポーツ健康科学科」に振り替えることとした。なお、令和 6 (2024) 年度にも定員を 20 人増員しているが、近年の入試状況等から見ても、「スポーツ健康科学科」の入学定員をさらに 20 人増員しても学生を確保することは十分可能であると考えている。

併せて、上述した「中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析」、競合校の入試状況等を踏まえても、十分に学生を確保できる見通しである。 [資料 5－8]

エ 学生納付金等の金額設定の理由

今回、新設組織の理工学部「スマートコミュニケーション工学科」の入学金及び授業料等の学生納付金等の設定にあたっては、平成 29 (2017) 年度の理工学部再編当時、近年のわが国の経済環境及び各家庭の経済状況を十分に考慮し設定した。

その後、将来にわたる本学園の財務体質の強化を図る目的として、平成 29 (2017) 年度に設定した金額から令和 3 (2021) 年度、令和 4 (2022) 年度、令和 7 (2025) 年度に修学費の改定を行い、以下のとおり設定している。なお、理工学部ではすべての学科において、入学金、授業料、教育充実費は同額である。

- ・ 入学金 : 200,000 円・・・①
- ・ 授業料、教育充実費 : 1,390,000 円・・・②

○ 初年度納付金 (①+②) : 1,590,000 円 (2 年目以降は、年間 1,390,000 円)

今回、新設組織である「理工学部スマートコミュニケーション工学科」の設置に伴い、あらためて競合校として九州地区の私立大学における理工系学部を設置する 7 大学 (福岡大学、福岡工業大学、久留米工業大学、近畿大学、崇城大学、日本文理大学、第一工科大学) の学生納付金等に関して調査を行った。

調査結果を見てみると、本学の入学金 200,000 円より高い金額を設定している大学は福岡大学 (240,000 円)、久留米工業大学 (220,000 円)、近畿大学 (250,000 円)、崇城大学 (220,000 円) であった。また、授業料と教育充実費の年間 (修学費) 合計では、本学の 1,390,000 円が 1 番高い金額設定となっているが、初年度納付金 (入学金・授業料・教育充実費) 合計では、本学は福岡大学 (1,620,000 円) に次いで高い金額設定となっている。

本学は、他大学に比べて修学費を高く設定しているが、入学金を低く設定し、初年度の納付金を下げるにより、経済的な負担の軽減を図っている。

他大学を見ても、修学費の平均は1番安価に設定している第一工科大学（860,000円）を除くと平均は約1,264,000円程度で設定されており、九州地区の競合校と比較しても本学の学生納付金等は合理的に設定されており、本学の理工学部を希望する受験生においては許容範囲であると考えている。

[資料6-1]

次に、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する学科の学生納付金等の金額設定の理由については、以下のとおりである。

(地域共創学部 地域づくり学科)

今回、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する地域共創学部「地域づくり学科」の入学金及び授業料等の学生納付金等の設定にあたっては、平成30(2018)年度の学部設置の当時、近年のわが国の経済環境及び各家庭の経済状況を十分に考慮し設定した。

その後、将来にわたる本学園の財務体質の強化を図る目的として、平成30(2018)年度に設定した金額から令和3(2021)年度、令和4(2022)年度、令和7(2025)年度に修学費の改定を行い、以下のとおり設定している。なお、地域共創学部ではすべての学科において、入学金、授業料、教育充実費は同額である。

- ・入学金 : 200,000円・・・①
- ・授業料、教育充実費 : 900,000円・・・②

○ 初年度納付金 (①+②) : 1,100,000円 (2年目以降は、年間900,000円)

今回、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する「地域共創学部地域づくり学科」について、あらためて競合校として九州地区の大学において社会科学系学部を設置し、かつ、学部学科名称等に本学と同分野である「共創」、「地域」等の名称が付されている7大学(九州大学、宮崎大学、琉球大学、北九州市立大学、長崎県立大学、九州共立大学、沖縄国際大学)の学生納付金等に関して調査を行った。

調査結果を見てみると、本学の入学金200,000円より高い金額を設定している大学は、国立の九州大学(282,000円)、宮崎大学(282,000円)、琉球大学(282,000円)、公立の北九州市立大学(423,000円)、長崎県立大学(353,000円)であった。また、授業料と教育充実費の年間(修学費)合計では、本学の900,000円が1番高い金額設定となっている。

本学は、他大学に比べて修学費を高く設定しているが、調査対象大学には総じて私立大学より安価な授業料等を設定している国立大学が3大学及び公立大学が2大学含まれており、一概には比較できないと考えている。なお、本学は、地域共創学部と同分野である社会科学系の他の学部もすべて同じ納付金の設定となっている。

なお、参考として、本学の所在地である福岡県にある社会科学系学部を設置している私立大学の納付金についても調査を行った。

まず、福岡大学（人文学部、法学部、経済学部、商学部）は、入学金 190,000 円、授業料・教育充実費合計 910,000 円、西南学院大学（全学部）は、入学金 200,000 円、授業料・教育充実費・施設費合計 960,000 円、久留米大学（法学部、経済学部、商学部）は、入学金 200,000 円、授業料・教育充実費合計 870,000 円となっており、本学の社会科学系学部と比較しても、入学金、授業料、教育充実費等の合計金額で見れば同水準での設定となっている。

今回、競合校とした大学と比較した場合、学生納付金等は高い設定ではあるが、九州地区の私立大学における社会科学系学部と比較した場合は、本学の学生納付金等は合理的に設定されており、本学の地域共創学部「地域づくり学科」を希望する受験生においては許容範囲であると考えている。

[資料6-2]

（人間科学部 臨床心理学科）

今回、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する人間科学部「臨床心理学科」の入学金及び授業料等の学生納付金等の設定にあたっては、平成 30（2018）年度の学部設置の当時、近年のわが国の経済環境及び各家庭の経済状況を十分に考慮し設定した。

その後、将来にわたる本学園の財務体質の強化を図る目的として、平成 30（2018）年度に設定した金額から令和 3（2021）年度、令和 4（2022）年度、令和 7（2025）年度に修学費の改定を行い、以下のとおり設定している。

- ・入学金 : 200,000 円・・・①
- ・授業料、教育充実費 : 900,000 円・・・②

○ 初年度納付金（①+②）： 1,100,000 円（2 年目以降は、年間 900,000 円）

今回、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する人間科学部「臨床心理学科」について、あらためて競合校として九州地区の大学において「臨床心理分野」の学部学科を設置している 11 大学（九州女子大学、久留米大学、福岡大学、筑紫女学園大学、福岡女学院大学、西九州大学、長崎純心大学、九州ルーテル学院大学、九州医療科学大学、志學館大学、鹿児島純心大学）の学生納付金等に関して調査を行った。

調査結果を見てみると、本学の入学金 200,000 円より高い金額を設定している大学は、九州女子大学（260,000 円）、福岡女学院大学（210,000 円）、長崎純心大学（240,000 円）、九州医療科学大学（300,000 円）であった。また、授業料と教育充実費の年間（修学費）合計では、本学の 900,000 円より高い金額を設定している大学は、福岡大学（910,000 円）、長崎純心大学（930,000 円）、志學館大学（901,000 円）、鹿児島純心大学（955,000 円）となっている。

本学は、他大学と比べても、入学金及び修学費とも同水準の金額設定であり、九州地区の私立大学における「臨床心理分野」の学部と比較した場合、本学の学生納付金等は合理的に設定され

ており、本学の人間科学部「臨床心理学科」を希望する受験生においては許容範囲であると考えている。

[資料6-3]

(人間科学部 スポーツ健康科学科)

今回、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する人間科学部「スポーツ健康科学科」の入学金及び授業料等の学生納付金等の設定にあたっては、平成30(2018)年度の学部設置の当時、近年のわが国の経済環境及び各家庭の経済状況を十分に考慮し設定した。

その後、将来にわたる本学園の財務体質の強化を図る目的として、平成30(2018)年度に設定した金額から令和3(2021)年度、令和4(2022)年度、令和7(2025)年度に修学費の改定を行い、以下のとおり設定している。

- ・入学金 : 200,000 円・・・①
- ・授業料、教育充実費 : 1,240,000 円・・・②

○ 初年度納付金 (①+②) : 1,440,000 円 (2年目以降は、年間1,240,000 円)

今回、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する人間科学部「スポーツ健康科学科」について、あらためて競合校として九州地区の大学において「スポーツ系」の学部学科を設置している5大学(鹿屋体育大学、名桜大学、九州共立大学、久留米大学、福岡大学)の学生納付金等に関して調査を行った。

調査結果を見てみると、本学の入学金200,000円より高い金額を設定している大学は、国立の鹿屋体育大学(282,000円)、公立の名桜大学(250,000円)、私立の九州共立大学(220,000円)、福岡大学(300,000円)であった。また、授業料と教育充実費の年間(修学費)合計では、本学の1,240,000円が1番高い金額設定となっているが、初年度納付金(入学金・授業料・教育充実費)合計では、本学は福岡大学(1,450,000円)に次いで高い金額設定となっている。

本学は、他大学に比べて修学費を高く設定しているが、入学金を低く設定し、初年度の納付金を下げるにより、経済的な負担の軽減を図っている。

なお、調査対象大学には総じて私立大学より安価な授業料等を設定している国立大学が1大学及び公立大学が1大学含まれており、一概には比較できないと考えている。

今回、競合校とした大学と比較した場合、学生納付金等は高い設定ではあるが、九州地区の私立大学におけるスポーツ系の学部学科と比較した場合は、本学の学生納付金等は合理的に設定されており、本学の人間科学部スポーツ健康科学科を希望する受験生においては許容範囲であると考えている。

[資料6-4]

③ 先行事例分析

該当なし

④ 学生確保に関するアンケート調査

今回、新設組織である理工学部「スマートコミュニケーション工学科」及び「機械電気創造工学科（別途、設置届出済み）」において、学生が確保できる見通しについての調査の一環として、受験対象者へのアンケート調査を実施した。

アンケート調査での対象校としては、上述の「新設組織の主な学生募集地域」のとおり、本学理工学部の過去3年間（令和4年度～令和6年度）の地区別の志願者割合で福岡県が平均で71.6%を占めていることから、福岡県内の高等学校を対象とし、さらに、理工学部（機械工学科・電気工学科）に対して過去5年間に志願があった本学近隣の高等学校の中から56校を抽出し、調査を行った。 [資料7-1]

なお、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する学科については、学生確保に関するアンケート調査は行わず、過去の入学実績等の数値に基づき、「② 競合校の状況分析 ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等」において説明を行う。

○調査目的

九州産業大学理工学部「スマートコミュニケーション工学科」及び「機械電気創造工学科（別途、設置届出済み）」を設置に関して、高校生の興味や進学意志等を明らかにする。

○調査対象

福岡県内の高等学校 56校に在籍する高校2年生（調査実施時点）

○実施時期

令和7（2025）年2月～3月

○調査票回収状況

- ・56校のうち、39校から回答
- ・39校に5,737票のアンケート調査票を配布、Microsoft Formsにて2,749票の有効回答を回収。回答率は47.9%

[資料7-2～3]

アンケート調査結果によると、卒業後の進路（複数回答可：サンプル数3,135人）として『大学』が2,545人（全体の81.2%）であり、進学を希望する大学等の設置者（複数回答可：サンプル数4,202人）では、『国立』が1,544人（全体の36.7%）と1番多く、次いで、『私立』の1,511人（全体の36.0%）、『公立』の1,037人（全体の24.7%）であり、高等学校卒業後の進路としては、『大学』への進学が圧倒的に多い結果であり、大学設置者では、『国立』と『私立』が同程度の回答であった。

この結果から見ても、非常に多くの高校生が『大学』への進学希望を持っていることが分かった。

次に、興味のある学問分野（複数回答可：サンプル数3,602人）では、新設する「スマートコミュニケーション工学科」及び「機械電気創造工学科（別途、設置届出済み）」と同分野である『機械工学関係』が576人（全体の16.0%）、『電気通信工学関係』が524人（全体の14.5%）

と両分野で1,100人（全体の30.5%）であり、他の工学系区分と比較しても、高校生が学びたいと考えている興味のある学問分野であることが分かった。

ここで、新設する理工学部「スマートコミュニケーション工学科」への受験の有無（サンプル数2,749人）について確認する。

まず、『第一希望として入学する』は33人（全体の1.2%）、『第二希望として受験する』は68人（全体の2.5%）、『第三希望として受験する』は72人（全体の2.6%）、『受験しない』は2,576人（全体の93.7%）であった。

なお、理工学部「スマートコミュニケーション工学科」に合格した場合、入学希望の有無（サンプル数173人）では、『入学する』が35人（全体の20.2%）、『志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する』が119人（全体の68.8%）、『入学しない』が19人（全体の11.0%）であった。

この結果から見ると、新設する理工学部「スマートコミュニケーション工学科」へ『第一希望として受験する』の数は非常に少ないようであるが、『第三希望として受験する』までを含めると、173人の高校生が受験の意思を示していることわかる。

また、入学希望の有無についても、『入学する』は非常に少なくなっているが、『志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する』まで含めると、154人の高校生が条件付きではあるが、「スマートコミュニケーション工学科」への入学の意思を示していることが分かる。

なお、今回のアンケート調査では、本学理工学部（機械工学科・電気工学科）に過去5年間に於いて志願があった484校のうち、本学の学生募集地域である福岡県内の高等学校で過去5年間に志願があった56校に調査依頼を行い、39校の高等学校から回答を得た調査結果である。しかしながら、その他、今回アンケート調査を行っていない又は回答がなかった高等学校445校からも過去5年間平均で1,097人の志願があっている。

[資料7-4]

以上のことから、アンケート調査結果だけではなく、これまでの理工学部（機械工学科、電気工学科）の入試状況及び「(2) 人材需要の社会的な動向等」を総合的に勘案すると、学生の確保は十分可能であると考えている。

⑤ 人材需要に関するアンケート調査等

今回、新設組織である理工学部「スマートコミュニケーション工学科」及び「機械電気創造工学科（別途、設置届出済み）」において、人材需要に関するアンケート調査を実施した。

アンケート調査を行った企業としては、本学が実施した「2026年度卒業予定者対象合同企業研究会」に参加いただいた企業を対象にアンケート調査を実施した。

なお、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する学科については、これまでの就職実績等を踏まえて説明を行う。

○調査目的

九州産業大学理工学部「スマートコミュニケーション工学科」及び「機械電気創造工学科（別途、設置届出済み）」を設置に関して、採用意向等を明らかにする。

○調査対象

2026 年度卒業予定者対象の合同企業研究会参加企業 298 社

○実施時期

令和 7（2025）年 2 月 13 日（木）・14 日（金）・17 日（月）～21 日（金）

○調査票回収状況

- ・参加企業 298 社のうち、282 社から回答
- ・298 社にアンケート調査票を配布、Microsoft Forms にて 282 社の有効回答を回収。回答率 94.6%

〔資料 8－1～2〕

まず、アンケート調査結果によると、新設組織である理工学部「スマートコミュニケーション工学科」に興味があるかについて尋ねると、『興味がある』と回答した企業は 98 社（全体の 34.8%）、『少し興味がある』と回答した企業は 131 社（全体の 46.5%）となり、『興味がある』と『少し興味がある』を合計すると 229 社（全体の 81.3%）であり、企業からの関心の高さを確認することができた。

また、「スマートコミュニケーション工学科への採用意向」について尋ねると、『ぜひ採用したい』と回答した企業は 114 社（全体の 40.4%）、『一応採用を考える』と回答した企業は 141 社（全体の 50.0%）であり、『ぜひ採用したい』と『一応採用を考える』を合計すると 255 社（全体の 90.4%）であり、企業からの高い採用意向を確認することができた。

さらに、「スマートコミュニケーション工学科卒業生の採用想定数」について尋ねると、『1 人』と回答した企業は 156 社（全体の 62.4%）、『2 人』と回答した企業は 53 社（全体の 21.2%）、『3 人』と回答した企業は 13 社（全体の 5.2%）、『4 人』と回答した企業は 0 社（全体の 0.0%）、『5 人以上』と回答した企業が 24 社（全体の 9.6%）であり、単純計算（5 人以上は 5 人で算出）すると想定採用数が 421 人となり、「スマートコミュニケーション工学科」の入学定員 50 人を大幅に上回る採用意向であることが確認できた。

なお、採用意向と併せて、「スマートコミュニケーション工学科」学生のインターン受け入れについて尋ねると、『受け入れる』と回答した企業は 88 社（全体の 31.2%）、『受け入れを考える』と回答した企業は 118 社（全体の 41.8%）であり、『受け入れる』と『受け入れを考える』を合計すると 206 社（全体の 73.0%）であった。

〔資料 8－3〕

これらのアンケート調査結果から見ても、新設組織である理工学部「スマートコミュニケーション工学科」の卒業生の就職先の確保は十分可能であると考えている。

次に、今回の新設組織である理工学部「スマートコミュニケーション工学科」及び新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する学科に関し、これまでの就職実績等を踏まえて説明を行う。

(本学の就職状況)

本学は、昭和 35 (1960) 年の開学以来、これまでに社会の各方面で活躍する多くの人材を輩出してきており、その数は実に 13 万 6 千人を超えている。

また、地域の大学として、「就職率」を含む 4 視点から評価した「本当に強い大学 2024」総合ランキングの九州の私立大学第 3 位 (週刊東洋経済臨時増刊 2024 年 7 月 3 日発行) に本学がランクされ、併せて、【九州・沖縄の高校生が選ぶ】就職率が高いと思う「大学」ランキングにおいても本学は九州の私立大学第 4 位 (マイナビ進学総合研究所「大学認知度・イメージ調査 2024」) にランクされている。

ここで、本学の過去 5 年間の就職希望者に対する就職決定率について見てみる。

令和 2 (2020) 年度は 98.2%、令和 3 (2021) 年度は 99.2%、令和 4 (2022) 年度は 99.3%、令和 5 (2023) 年度は 99.3%、令和 6 (2024) 年度 (令和 7 年 1 月末現在) は 89.9%であった。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和 2 (2020) 年度が減少したものの、経済活動の回復に伴い、翌年度以降、上昇に転じている。これは、低学年次からのキャリア教育の徹底、LINE や各種 SNS を活用したタイムリーな情報発信、キャリア支援センターにキャリアカウンセラーを配置したことなど、全学を挙げての取組みが就職決定率高水準の維持に繋がっているものと考えている。

次に、地区別の状況について確認を行った。

本社所在地の地区別の求人企業の割合を見てみると、令和 6 (2024) 年度においては、福岡県が全体の求人企業の中で 7.5%を占めており、これに福岡県を除く九州地区を加えると 14.0%となる。過去 5 年間は九州地区が 1 番多かったが、令和 6 年度から求人票配信サービス「キャリアタス UC」を導入したことにより、大幅に受付求人件数が増加し、1 番多いのは関東地区の 43.1%、次いで中部地区の 14.6%の順となった。

一方、本社所在地の地区別の就職決定者の割合を見てみると、令和 6 (2024) 年度においては、福岡県が全体の 41.8%を占めており、これに福岡県を除く九州地区を加えると 49.0%となり、地元 (九州地区) 志向の高さが目立っている。次いで、関東地区の 33.8%、近畿地区の 7.1%の順となり、過去 5 年間と同様の傾向で推移している。

そこで、地区別の求人企業数の割合と地区別の就職決定者の割合を比較してみると、福岡県以外の全ての地区において、就職決定者の割合が求人企業数の割合を下回っている。

これにより、本学の学生は、地元志向が強い傾向にあることが見て取れる。 [資料 9]

次に、新設組織である理工学部「スマートコミュニケーション工学科」の取組みや進路実績等について見てみる。

まず始めに、理工学部の取組みや進路実績等について見てみる。

(理工学部)

理工学部では、全学共通の基礎教育科目の中に開設されている「キャリア科目」とは別に、学部独自のキャリア科目として、専門科目の中に、3年次「インターンシップ」を開設している。また、当該授業の中において、今までに身につけた知識や判断力を基に、実際に企業や官公庁で就業体験を行うことにより、改めて自分のキャリアを見据えながら、より一層の実践力を養い、マナー、技術者倫理など、社会人として必須となる素養の醸成を図っている。

なお、3学科横断PBL型授業として3年次「プロジェクトデザイン管理」を開設し、複合分野にまたがる具体的な問題を題材に、プロジェクトマネジメント力、スケジューリング方法の実践的な修得を図っている。さらに、課題を通じて、モノづくりとコトづくりに係わる課題設定・解決力、システムデザイン力、グループワーク、社会人基礎力を併せ持つ人材の育成に努めている。

併せて、学生が、これからの時代に求められる、社会人として必要な「環境適応力（世の中の変化に柔軟に対応する力）」を涵養することが、高い就職率に繋がっている。

次に、新設組織である「スマートコミュニケーション工学科」の取り組みや進路実績等について見てみる。

理工学部「スマートコミュニケーション工学科」は、令和8（2026）年に開設を予定している。

卒業後に想定する進路としては、以下のとおりである。

企業の企画戦略・マーケティング・技術企画・コンサル部門、通信・IT・ソフトウェア・インターネットサービス・Web 業界、自動車・電子機器等の製造メーカー、全国の自治体・公務員などである。

次に、「スマートコミュニケーション工学科」の母体となる改組前の「機械工学科」及び「電気工学科」のこれまでの5年間の就職実績及び令和6年度（令和7年1月末現在）の業種別就職決定状況は、以下のとおりである。

「機械工学科」は、令和2（2020）年度、対希望者決定率100.0%（対卒業者決定率96.2%）、令和3（2021）年度、対希望者決定率100.0%（対卒業者決定率96.0%）、令和4（2022）年度、対希望者決定率100.0%（対卒業者決定率95.3%）、令和5（2023）年度、対希望者決定率100.0%（対卒業者決定率95.1%）、令和6（2024）年度（令和7年1月末現在）、対希望者決定率100.0%（対卒業者決定率95.4%）であった。 [資料10-1]

「電気工学科」は、令和2（2020）年度、対希望者決定率98.7%（対卒業者決定率92.6%）、令和3（2021）年度、対希望者決定率97.0%（対卒業者決定率94.2%）、令和4（2022）年度、対希望者決定率100.0%（対卒業者決定率96.2%）、令和5（2023）年度、対希望者決定率98.6%（対卒業者決定率90.3%）、令和6（2024）年度（令和7年1月末現在）、対希望者決定率98.5%（対卒業者決定率93.3%）であった。 [資料10-2]

次に、業種別就職決定状況を見てみる。

「機械工学科」の令和6（2024）年度実績（令和7年1月末現在）では、「製造業」が37.3%と1番多く、次いで「サービス業」の14.5%、「建設業」の13.3%と合わせると、この3つの業種で65.1%を占めているが、進路は多方面の分野に及んでいることが分かる。[資料10-1]

「電気工学科」の令和6（2024）年度実績（令和7年1月末現在）では、「建設業」が30.0%と1番多く、次いで「製造業」の24.3%、「サービス業」の14.3%と合わせると、この3つの業種で68.6%を占めているが、進路は多方面の分野に及んでいることが分かる。[資料10-2]

また、新設する「スマートコミュニケーション工学科」では、ヒト×モノ×セカイをつなげるプロデューサーの育成を目指している。未来像としては、「工学をベースに様々な知識を統合してプロジェクトを進めていく人材」、言い換えると「新時代のコミュニケーションエンジニア」である。コミュニケーションエンジニアは、文理芸の壁を超えた普遍的知識・能力を備えた工学系人材であり、予測不可能な時代において重要な役割を果たします。こうした好きなことを追究して高い専門性や技術力を身につけ、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材は需要が高く、社会的ニーズが今まで以上に高まることが期待される。

次に、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する学科の取組みや進路実績等については、以下のとおりである。

（地域共創学部）

地域共創学部では、全学共通の基礎教育科目の中に開設されている「キャリア科目」とは別に、学部独自のキャリア科目として、専門科目の中に、「学部共通科目」グローバル人材育成の区分を設置し、1年次「ビジネススキル」、2年次「キャリアデザイン」、「実践プレゼンテーション」を開設している。特に、「キャリアデザイン」は全員履修科目となっている。また、当該授業の中において、自己分析を行い、やりたいことや働く上で大切にしたい価値観を考え、自らの社会への問題意識に気づき、知的好奇心や主体的行動への意欲の高揚を図っている。

なお、専門科目の中に、「学部共通科目」PBLの区分を設置し、フィールドワーク、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを活用した地域づくりの取組みを通して、学生が地域の課題を発見し、学生自身のアイデアを生かす「地域共創型の課題解決学習」を実践している。

併せて、4年間で、学生が、地域社会の発展に必要な不可欠な「地域づくり」について、研究・実践し、確かな知識と技能を学修し、九州の今を支える人々と共に、九州のこれからを創っていく「地域と共に、未来を創る」人材に成長し、それを自身の強みにすることが、高い就職率に繋がっている。

(地域共創学部 地域づくり学科)

地域共創学部「地域づくり学科」は、平成 30 (2018) 年に開設し、公共の視点を持ち、地域活性化に貢献できる公務員を養成する「地域行政コース」と地域の未来をプロデュースする地域リーダーを育成する「地域マネジメントコース」を設置し、これまで 4 年間、卒業者を社会に送り出してきた。

卒業後に想定する進路としては、以下のとおりである。

国家公務員、地方公務員、農業協同組合、地域に根差した企業、地域活性化ビジネス、経営コンサルタント、営業職、地域コーディネーター等である。

これまでの 4 年間の就職実績は、令和 3 (2021) 年度、対希望者決定率 98.8% (対卒業者決定率 89.5%)、令和 4 (2022) 年度、対希望者決定率 99.1% (対卒業者決定率 91.8%)、令和 5 (2023) 年度、対希望者決定率 99.1% (対卒業者決定率 92.6%)、令和 6 (2024) 年度 (令和 7 年 1 月末現在)、対希望者決定率 92.6% (対卒業者決定率 91.2%) であった。

次に、地域共創学部「地域づくり学科」における業種別就職決定状況を見てみる。

令和 6 (2024) 年度実績 (令和 7 年 1 月末現在) では、「卸売業、小売業」が 36.8%と 1 番多く、次いで「金融業、保険業」の 7.9%、「公務員」の 7.9%と合わせると、この 3 つの業種で 52.6%を占めているが、進路は多方面の分野に及んでいることが分かる。 [資料 10-3]

また、入学定員増となる地域づくり学科では、長い歴史の中で传承されてきた地域文化の活用について考え、地域社会のあり方を見つめ直していくことが求められる現在社会において、法学、経済学、社会学、歴史学、農学、文化芸術などの学問分野から多角的にアプローチを行い、一つひとつの課題を解決するための専門知識に加え、フィールドワークなどの探求型の学びを通して、地域に対する熱意と行動力のある人材を育成する。加えて、地域づくりの主体が自治体だけではなく、自治体、地域住民、企業、NPO、ボランティア団体など、地域を構成する主体がそれぞれの立場で関与し、パートナーシップを発揮して地域づくり行う時代になりつつあることから、地域づくり学科が育成する「地域の課題に積極的に取り組み、解決できる人材」に対して、社会的ニーズが今まで以上に高まることが期待される。

(人間科学部)

人間科学部では、全学共通の基礎教育科目の中に開設されている「キャリア科目」とは別に、学部独自のキャリア教育として、臨床心理学科では、各学年のゼミナールを通じて、1 年次はフォローアップ行事、キャリア支援センターの施設説明会、2 年次は SPI の受験、卒業生による就活インタビュー、フォローアップ行事、3 年次には就活スケジュールの説明、インターンシップの参加促進、キャリア支援センターによる就活のポイント説明、4 年次にはキャリア支援センターによる対策講座を実施している。

「スポーツ健康科学科」では、基礎教育科目 1 年次「大学スタディスキル」において、進路や資格取得希望調査を実施し、学生の意向を把握し、適切な教育・支援を実施している。

併せて、4年間で、学生が「人間性の尊重」を基本理念に、乳幼児期からの人の成長及び発達過程を「こころ」と「からだ」の両面から多角的かつ科学的に探究する力を培い、「人を支える人」を育て、地域社会に貢献できる人材に成長し、それを自身の強みにすることが、高い就職率に繋がっている。

(人間科学部 臨床心理学科)

人間科学部「臨床心理学科」は、平成16(2004)年に国際文化学部臨床心理学科として開設後、平成30(2018)年に改組の上、新たに人間科学部「臨床心理学科」として開設した。大学院に進学し公認心理師を目指す「公認心理師コース」、精神保健福祉士の国家資格取得のための「精神保健福祉士コース」、心理福祉専門職として地域で活躍できるプロを育てる「臨床心理福祉コース」を設置し、これまで4年間、卒業者を社会に送り出してきた。

卒業後に想定する進路としては、以下のとおりである。

公認心理師(大学院進学)、精神保健福祉士、臨床心理士(大学院進学)、認定心理士、企業・公務員(コミュニケーションのスペシャリスト職)、心理カウンセラー等である。

これまでの4年間の就職実績は、令和3(2021)年度、対希望者決定率100.0%(対卒業者決定率87.0%)、令和4(2022)年度、対希望者決定率100.0%(対卒業者決定率81.3%)、令和5(2023)年度、対希望者決定率100.0%(対卒業者決定率83.6%)、令和6(2024)年度(令和7年1月末現在)、対希望者決定率75.8%(対卒業者決定率61.1%)であった。

次に、人間科学部「臨床心理学科」における業種別就職決定状況を見てみる。

令和6(2024)年度実績(令和7年1月末現在)では、「医療、福祉」が34.1%と1番多く、次いで「卸売業、小売業」の20.5%、「サービス業」の11.4%と合わせると、この3つの業種で66.0%を占めているが、進路は多方面の分野に及んでいることが分かる。 [資料10-4]

また、入学定員を増員する「臨床心理学科」では、臨床心理学や精神保健福祉学に関連する知識・技能・態度を学び、常に人に寄り添い「こころ」を支える心理と福祉の専門家を育成する。加えて、様々な要因(学校や職場でのいじめ、インターネットやSNS上での誹謗中傷、コロナ禍によるライフスタイルや労働環境の変化、介護など)により、立場や年代関係なく、誰もがストレスや「心の問題」を抱えやすい時代となり、日本では、官民が一体となって「心の問題」を抱える人を支援するしくみ作りを進めている。その中で、今までの心理・福祉職の需要が高かった医療や福祉や教育分野だけでなく、活躍場所として広がっているのが、労働や産業分野である。ストレス対策の必要性が叫ばれている昨今、企業に心の専門家を配置する動きが活発化していることから、今後も、対象者の心に寄り添える人材の需要が今まで以上に高まることが期待される。

(人間科学部 スポーツ健康科学科)

人間科学部「スポーツ健康科学科」は、平成30(2018)年に開設し、人体や運動を科学的に学び、健康をプロデュースする力を養う「健康・マネジメント系」、スポーツパフォーマンスの向上

を実現する高度なスキルを養成する「教育・コーチング系」を設置し、これまで4年間、卒業者を社会に送り出してきた。

卒業後に想定する進路としては、以下のとおりである。

健康やスポーツビジネスに関わる医療機関やフィットネス産業、スポーツ用品・施設、自治体、トレーニング分野でのスポーツ指導者、スポーツトレーナー、保健体育の教員、プロスポーツ選手等である。

これまでの4年間の就職実績は、令和3（2021）年度、対希望者決定率100.0%（対卒業者決定率91.0%）、令和4（2022）年度、対希望者決定率100.0%（対卒業者決定率94.5%）、令和5（2023）年度、対希望者決定率100.0%（対卒業者決定率91.5%）、令和6（2024）年度（令和7年1月末現在）、対希望者決定率85.9%（対卒業者決定率79.2%）であった。

次に、人間科学部「スポーツ健康科学科」における業種別就職決定状況を見てみる。

令和6（2024）年度実績（令和7年1月末現在）では、「卸売業、小売業」が23.0%と1番多く、次いで「不動産業、物品賃貸業」の14.8%、「生活関連サービス業、娯楽業」の13.1%と合わせると、この3つの業種で50.9%を占めているが、進路は多方面の分野に及んでいることが分かる。

[資料10-5]

また、入学定員を増員する「スポーツ健康科学科」では、自らの能力を高める「アスリート」、保健体育を通して生きる力を育成する「教員」、科学的に競技力向上、健康増進に貢献する「スポーツトレーナー」、スポーツの社会的・経済的価値を高める「スポーツビジネス」をキーワードに、それぞれの場面で活躍できる人材を育成する。加えて、スポーツの価値は、記録だけではなく、「からだ」と「こころ」は人の健康な活動の両輪であり、ビジネスも含め、地域貢献や世の中を動かす大きな役割を担っている。言い換えると、スポーツには、「からだ」だけではなく、社会や未来も動かす力がある。つまり、スポーツは人々に誇りと喜び、夢と感動、勇気、楽しさを提供できるだけではなく、経済社会の活性化・課題解決に寄与する多様な価値を有していることから、今後も、スポーツの価値が経済社会の活力への貢献を目指す現代社会において、スポーツを専門的に学んだ人材の需要が今まで以上に高まることが期待される。

以上のことから、今回、新設・収容定員変更を行う学部学科について、本学は、これまでの65年、社会のニーズに応えながら13万6千人を超える多様な人財（卒業生）を輩出した実績と、9学部を備える総合大学として多種・多様な企業からの求人、これまでの総合大学ならではの確かなキャリアサポートによる幅広い業界への進路実績などを踏まえると、卒業生の就職先は十分に確保できると考えている。

（4）新設組織の定員設定の理由

今回、新設する「スマートコミュニケーション工学科」の母体となる理工学部は、平成29（2017）年にそれまでの工学部（7学科）と情報科学部（1学科）を基礎とし、①高校生にわかりやすい

学科構成、②既存の枠組みを崩し、新たにチャレンジする領域の新設により学科を編成、③産業界・科学技術界等の社会的ニーズに即応した教育・研究の展開、④親和性の高い学科により学部を構成し、学部内における横断的教育及び連携を推進させるため、現行の2学部8学科体制から理工学部(3学科)、生命科学科(1学科)、建築都市工学部(3学科)の3学部7学科体制に再編した。その際、理工学部は、それまで情報科学部と工学部に分かれていた情報科学科、機械工学科、電気工学科及びバイオロボティクス学科を1つの学部として再編成し、情報技術を学部共通で学び、各学科で情報科学・機械工学・ロボット工学・電気工学の基礎を専門的に学ぶことで、情報メカトロニクスの急激な技術革新に対応できる人材を養成することを目的として設置し、これまで多くの人材を社会に輩出してきた。

しかしながら、社会の急速な変化・ニーズの変化や株式会社三菱総合研究所「未来社会構想2050(豊かで持続可能な社会の実現に向けて)」にあるように、これからの社会は、経済的な豊かさのみならず、人間中心の技術活用、人との関わり、働きがい、健康など、総合的な暮らしの満足度を向上させるにはどうすれば良いかを考え、社会課題を解決する技術で貢献できる人材が必要であるとの考えのもと、新たな理工学部の役割として、

- ・デジタル技術を活用して新しい社会を作るためには、単に新技術の開発だけでなく、その技術を効果的に活用し、持続可能な社会を構築するための広範な取り組みが必要
- ・技術そのものの進化だけでなく、多角的な視点からの取り組みと統合的な学びのスキルが必要
- ・「情報」が繋ぐ「機械」と「電気」を統合的に学び、実践する場を持つことで、変化に強い専門性と全方位型のスキルを兼ね備えたプロフェッショナルを育成

であると考え、今回、既設の理工学部「機械工学科」と「電気工学科」を改組し、新たに「スマートコミュニケーション工学科」と「機械電気創造工学科(別途、設置届出済み)」を設置する。

なお、定員の設定に関しては、今回の新設組織である「スマートコミュニケーション工学科」及び「機械電気創造工学科(別途、設置届出済み)」の基礎となる既設の「機械工学科」及び「電気工学科」の近年の入試状況等に鑑み検討を行った。

ここで、「機械工学科」及び「電気工学科」の直近5ヵ年における入試状況について見てみる。まず、「機械工学科」の令和2(2020)年度入試では、入学定員130人に対して、志願者数950人、入学者数130人、令和3(2021)年度入試では、志願者数833人、入学者数106人、令和4(2022)年度入試では、志願者数896人、入学者数132人、令和5(2023)年度入試では、志願者数841人、入学者数91人、令和6(2024)年度入試では、志願者数656人、入学者数92人であり、5ヵ年平均では、志願者数835人、入学者数110人である。

次に、「電気工学科」の令和2(2020)年度入試では、入学定員100人に対して、志願者数772人、入学者数106人、令和3(2021)年度入試では、志願者数740人、入学者数85人、令和4(2022)年度入試では、志願者数850人、入学者数105人、令和5(2023)年度入試では、志願者数750人、入学者数85人、令和6(2024)年度入試では、志願者数496人、入学者数76人であり、5ヵ年平均では、志願者数722人、入学者数91人であり、この2学科の5ヵ年平均を合計して見ると、入学定員合計230人に対して、志願者数が1,557人、入学者数は201人である。

このような現状を踏まえ、今回新設する「スマートコミュニケーション工学科」及び「機械電気創造工学科（別途、設置届出済み）」の定員設定に関しては、直近5ヵ年の入学者数201人の範囲内において、近年の入試実績等から見ても確実に定員充足が可能な数を設定することとし「スマートコミュニケーション工学科」を50人、「機械電気創造工学科（別途、設置届出済み）」を135人として設定した。また、今回新設する学科は、上述のとおり、高校生等のニーズに即したこれまでの既設学科の学びを大きく融合・発展させた学科として設置するため、これまでにはない受験者層を取り込むことも十分可能であると考えている。

なお、今回、新設組織として理工学部「スマートコミュニケーション工学科」及び「機械電気創造工学科（別途、設置届出済み）」を設置し、既設の「機械工学科」及び「電気工学科」に関しては学生募集を停止することとなり、理工学部全体の入学定員は370人から325人と45人減員となる。

しかしながら、減員分については既設の「地域共創学部地域づくり学科」、「人間科学部臨床心理学科」及び「人間科学部スポーツ健康科学科」に振り分けることにより、大学全体の入学定員及び収容定員に変更はない。

次に、新設組織の届出に関連して当該年度に収容定員を増員する学科の定員設定の理由については、以下のとおりである。

（地域共創学部 地域づくり学科）

地域共創学部は、観光地域づくりを含めた地域活性化のための魅力の発掘や、まちづくり、地域内での組織間の連携等、地域と共に創造する活動において、これに関する基礎的な知見や技能を備え、地域社会の持続可能な発展をもたらすために、地域課題をどう解決し、どのような地域社会を創り上げるのか、その際の地域の光となる資源をどう掘り起こし、磨き、編集し、ストーリー性のあるものに仕上げるのか、そのために地域のステークホルダーとどう共創できるかを学び、地域内の多様な組織の中でこれに携わる人材を育成するため、既設の商学部第一部観光産業学科を改組し、新たに「地域づくり学科」を設け、平成30（2018）年に地域共創学部「観光学科（入学定員150人）」及び「地域づくり学科（入学定員130人）」として設置した。

その後、開設からこれまでの入試状況等に鑑み、大学全体の定員の適正化を図る目的として、令和6（2024）年度から、開設から着実に志願者を集めている「地域づくり学科」の入学定員を10人増員し140人とした。

今回、新設組織である理工学部「スマートコミュニケーション工学科」及び「機械電気創造工学科（別途、設置届出済み）」の設置に伴い、大学全体の定員の適正化を図る目的として、令和8（2026）年度から入学定員を10人増員して150人とする。

なお、定員を増員するにあたり、近年の「地域共創学部地域づくり学科」の入試状況を基に検討し、決定した。

まずは、「地域共創学部地域づくり学科」の直近5ヵ年における入試状況について見てみる。令和2（2020）年度入試では、入学定員130人に対して、志願者数1,193人、入学者数131人、

令和3（2021）年度入試では、志願者数890人、入学者数129人、令和4（2022）年度入試では、志願者数1,168人、入学者数131人、令和5（2023）年度入試では、志願者数998人、入学者数139人、令和6（2024）年度入試では、入学定員140人に対して、志願者数1,011人、入学者数146人であり、5ヵ年平均では、志願者数1,052人、入学者数135人となっている。また、志願倍率の5ヵ年平均でも約8.0倍となっていることから、現行の入学定員140人から10人増員し150人としても、これまでの入試実績等に鑑みれば、定員充足は十分可能であると考えている。

（人間科学部 臨床心理学科）

人間科学部は、本学の教育改革の一環として、大学全体の教育目標である「深い教養に裏打ちされたグローバル化に対応できる心身共に健全な人間を育成する」ことを基盤とし、「人間性の尊重」を基本理念に、乳幼児期（こども）からの人間の成長及び発達過程を「こころ」と「からだ」の両面から多角的かつ科学的に探究し、「人を支える人」を育て、地域社会に貢献できる人材を育成するため、平成30（2018）年に人間科学部の1学科として「臨床心理学科（入学定員70人）」を設置した。

今回、新設組織である理工学部「スマートコミュニケーション工学科」及び「機械電気創造工学科（別途、設置届出済み）」の設置に伴い、大学全体の定員の適正化を図る目的として、令和8（2026）年度から入学定員を15人増員して85人とする。

なお、定員を増員するにあたり、近年の人間科学部「臨床心理学科」の入試状況を基に検討し、決定した。

まずは、人間科学部「臨床心理学科」の直近5ヵ年における入試状況について見てみる。令和2（2020）年度入試では、入学定員70人に対して、志願者数998人、入学者数76人、令和3（2021）年度入試では、志願者数965人、入学者数74人、令和4（2022）年度入試では、志願者数851人、入学者数70人、令和5（2023）年度入試では、志願者数935人、入学者数73人、令和6（2024）年度入試では、志願者数773人、入学者数78人であり、5ヵ年平均では、志願者数904人、入学者数74人となっている。また、志願倍率の5ヵ年平均でも約13.0倍となっていることから、現行の入学定員70人から15人増員し85人としても、これまでの入試実績等に鑑みれば、定員充足は十分可能であると考えている。

（人間科学部 スポーツ健康科学科）

人間科学部は、本学の教育改革の一環として、大学全体の教育目標である「深い教養に裏打ちされたグローバル化に対応できる心身共に健全な人間を育成する」ことを基盤とし、「人間性の尊重」を基本理念に、乳幼児期（こども）からの人間の成長及び発達過程を「こころ」と「からだ」の両面から多角的かつ科学的に探究し、「人を支える人」を育て、地域社会に貢献できる人材を育成するため、平成30（2018）年に人間科学部の1学科として「スポーツ健康科学科（入学定員80人）」を設置した。

その後、開設からこれまでの入試状況等に鑑み、大学全体の定員の適正化を図る目的として、令和6（2024）年度から、開設から着実に志願者を集めている「スポーツ健康科学科」の入学定員を20人増員し100人とした。

今回、新設組織である理工学部「スマートコミュニケーション工学科」及び「機械電気創造工学科（別途、設置届出済み）」の設置に伴い、大学全体の定員の適正化を図る目的として、令和8（2026）年度から入学定員を20人増員して120人とする。

なお、定員を増員するにあたり、近年の人間科学部「スポーツ健康科学科」の入試状況を基に検討し、決定した。

まずは、「人間科学部スポーツ健康科学科」の直近5ヵ年における入試状況について見てみる。令和2（2020）年度入試では、入学定員80人に対して、志願者数493人、入学者数82人、令和3（2021）年度入試では、志願者数548人、入学者数82人、令和4（2022）年度入試では、志願者数601人、入学者数83人、令和5（2023）年度入試では、志願者数465人、入学者数88人、令和6（2024）年度入試では、入学定員100人に対して、志願者数528人、入学者数108人であり、5ヵ年平均では、志願者数527人、入学者数89人となっている。また、志願倍率の5ヵ年平均でも6.3倍となっていることから、現行の入学定員100人から20人増員し120人としても、これまでの入試実績等に鑑みれば定員充足は十分可能であると考えている。

教 員 名 簿

学 長 又 は 校 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	キタジマ ヨシヨシ 北島 己佐吉 ＜令和3年4月1日＞		芸術工学士		九州産業大学 学長 (令和3. 4～令和9. 3)

— 教員名簿—2 —

[illegible]

— 教員名簿—4 —

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
20	その他	教授	マヅハラ タケキ 松原 岳行 ＜令和8年4月＞		博士 （教育学）		教養講座		1休	2	1	九州産業大学 国際文化学部 教授 （平17.4）						
21	その他	教授	ヨシノガ ハジメ 吉岡 伸彦 ＜令和8年4月＞		教育学修士		教養講座 スポーツ科学演習A スポーツ科学演習B 心と身体の健康A 心と身体の健康B		1後 1① 1② 1③ 1④	4 7 7 2 2	2 7 7 2 2	九州産業大学 健康・スポー ツ科学セン ター 特任教授 （令6.4）						
22	その他	教授	シミズ ミナモト 清水 稔 ＜令和8年4月＞		学士 （造形）		実践クロス演習		1後	2	1	九州産業大学 芸術学部 教授 （令6.4）						
23	その他	教授	タナカ コウイチロウ 田中 康一郎 ＜令和8年4月＞		博士 （工学）		実践クロス演習		1前	2	1	九州産業大学 理工学部 教授 （平19.4）						
24	その他	教授	オオヤ マミ 大宅 明美 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		実践クロス講座		1前	2	1	九州産業大学 経済学部 教授 （平5.4）						
25	その他	教授	フナギ ヨシノブ 深澤 良信 ＜令和8年4月＞		工学修士		実践コラボ演習		1後	2	1	九州産業大学 国際交流セン ター 特任教授 （令3.4）						
26	その他	教授	ヤマタ エコ 山下 永子 ＜令和8年4月＞		博士 （公共政策学）		実践コラボ講座		1後	2	1	九州産業大学 地域共創学部 教授 （平27.4）						
27	その他	教授	セシ ソウタツ 千 相哲 ＜令和8年4月＞		博士 （社会学）		実践コラボ講座 実践コラボ演習		1後 1前	2 2	1 1	九州産業大学 地域共創学部 教授 （平11.4）						
28	その他	教授	モリ（タケチ） トコ 森（田口） 誠子 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		実用国語（文章力） 実践クロス講座 文学の世界A 文学の世界B		1前・後 1休 1①・③ 1②・④	10 2 4 4	5 1 4 4	九州産業大学 基礎教育セン ター 教授 （平23.4）						
29	その他	教授	ヤマモト ヒロキス 山本 博康 ＜令和8年4月＞		文学士		実用国語（文章力） 人文科学の世界		1前・後 1前	22 4	11 2	九州産業大学 基礎教育セン ター 教授 （令6.4）						
30	その他	教授	セキネ ジュンイチ 関根 順一 ＜令和8年4月＞		博士 （経済学）		社会科学の世界A 社会科学の世界B		1①・③ 1②・④	2 2	2 2	九州産業大学 経済学部 教授 （平5.4）						
31	その他	教授	ムネカミ マサヒ 宗像 優 ＜令和8年4月＞		博士 （法学）		主権者リテラシー		1前	2	1	九州産業大学 地域共創学部 教授 （平18.4）						
32	その他	教授	オガタ キヨコ 岡田 希世子 ＜令和8年4月＞		修士 （法学）		消費者リテラシー		1前	2	1	九州産業大学 地域共創学部 教授 （平20.4）						
33	その他	教授	カタケリ ヤスヒロ 片桐 康宏 ＜令和8年4月＞		博士 （学術）		世界の歴史A 世界の歴史B		1①・③ 1②・④	10 10	10 10	九州産業大学 基礎教育セン ター 教授 （平25.4）						
34	その他	教授	ヨシハラ ヒロシ 吉原 弘道 ＜令和8年4月＞		博士 （比較社会文 化）		日本の歴史A 日本の歴史B		1①・③ 1②・④	14 14	14 14	九州産業大学 基礎教育セン ター 教授 （平21.4）						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の基幹教員として の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
35	その他	教授	アベ タクヨリ 安倍 大治郎 ＜令和8年4月＞		博士 (芸術工学)		スポーツ科学演習A スポーツ科学演習B 心と身体の健康A 心と身体の健康B		1①・③ 1②・④ 1①・③ 1②・④	6 6 5 5	6 6 5 5	九州産業大学 健康・スポー ツ科学セン ター 教授 (平21.4)						
36	その他	教授	コノ ケンジ 河野 賢司 ＜令和8年4月＞		国際学修士		Reading & Writing I Reading & Writing II English Expressions A English Expressions B		1前 1後 3①・③ 3②・④	2 2 2 2	2 2 2 2	九州産業大学 語学教育研究 センター 教授 (平10.4)						
37	その他	教授	オウリ ミナリ 尾張 充典 ＜令和8年4月＞		博士 (文学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	九州産業大学 国際文化学部 教授 (平11.4)						
38	その他	教授	リ テン 李 泰勲 ＜令和10年4月＞		博士 (文学)		実用韓国語 上級韓国語		3前 3後	1 1	1 1	九州産業大学 地域共創学部 教授 (平24.4)						
39	その他	教授	イシワリ ヤスリ 石川 泰成 ＜令和8年4月＞		文学修士※		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前 1後	2 2	2 2	九州産業大学 地域共創学部 教授 (平8.4)						
40	その他	教授	コノ コウカ 呉 紅華 ＜令和8年4月＞		博士 (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語会話Ⅱ 実用中国語 上級中国語		1前・後 1後 1後 3前 3後	3 2 1 1 1	3 2 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 教授 (平18.4)						
41	その他	准教授	ナカニ マサシ 中谷 正史 ＜令和8年4月＞		学士 (芸術工学)		デザイン概論		1前	2	1	九州産業大学 造形短期大学 部 准教授 (令3.4)						
42	その他	准教授	ハシノ ヒロミ 方 慧美 ＜令和8年4月＞		博士 (商学)		マーケティング入門		1前	2	1	九州産業大学 商学部 准教授 (平25.4)						
43	その他	准教授	ウヘバウリ 于 海波 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)		情報リテラシー	○	1前	2	1	九州産業大学 理工学部 准教授 (平31.4)						
44	その他	准教授	ウヰ ションジ 魏 鍾振 ＜令和8年4月＞		博士 (経済学)		流通入門		1前	2	1	九州産業大学 商学部 准教授 (平31.4)						
45	その他	准教授	オホバ（カトモ） タカ 小田部(長友) 貴子 ＜令和8年4月＞		博士 (心理学)		キャリア形成基礎論 実践クロス講座 心理学の世界A 心理学の世界B		1前 1前 1① 1②	12 2 1 1	6 1 1 1	九州産業大学 基礎教育セン ター 准教授 (平29.4)						
46	その他	准教授	イズハラ ヨシオ 泉原 嘉郎 ＜令和8年4月＞		Doctor PHILOSOPHIAE (ドイツ)		スポーツ科学演習A スポーツ科学演習B 心と身体の健康A 心と身体の健康B		1① 1② 1① 1②	3 3 1 1	3 3 1 1	九州産業大学 健康・スポー ツ科学セン ター 准教授 (令4.4)						
47	その他	准教授	フカダ ケイジ 深田 忠徳 ＜令和8年4月＞		修士(教育学) ※		スポーツ科学演習A スポーツ科学演習B 心と身体の健康A 心と身体の健康B		1①・③ 1②・④ 1① 1②	8 8 1 1	8 8 1 1	九州産業大学 健康・スポー ツ科学セン ター 准教授 (令4.4)						
48	その他	准教授	ナカセ ケイコ 中世古 貴彦 ＜令和8年4月＞		博士 (教育学)		データリテラシー データサイエンス基礎 九産大力 学生サポーター 学生ボランティア入門 自然科学の世界A 自然科学の世界B データ解析		1①・③ 1②・④ 1後 1休 1前・後 1① 1② 2前	2 2 4 2 4 1 1 2	2 2 2 1 2 1 1 1	九州産業大学 基礎教育セン ター 准教授 (平31.4)						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調査 番号	教員 区分	職 位	フリガナ 氏 名 ＜就任（予定）年月＞	年 齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 たり 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の 基 幹 教 員 と し て の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
49	その他	准教授	タナカ(タナカ) マリ 田中(高田) 真理 ＜令和8年4月＞		博士 (文学)		実用国語（伝達力） 実践クロス演習 文学の世界A 文学の世界B		2前・後 1前 1①・③ 1②・④	26 2 2 2	13 1 2 2	九州産業大学 基礎教育セン ター 准教授 (平25. 4)						
50	その他	准教授	イノモト オサム 猪本 修 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)		実用数学（計算力）A 実用数学（計算力）B AI導入 データサイエンス実践演習		1①・③ 1②・④ 1①・②・③ 1③・④	9 9 7 4	9 9 7 4	九州産業大学 基礎教育セン ター 准教授 (令5. 4)						
51	その他	准教授	ミヤウチ ノリコ 宮内 紀子 ＜令和8年4月＞		博士 (法学)		日本国憲法A 日本国憲法B		1①・③ 1②・④	14 14	14 14	九州産業大学 基礎教育セン ター 准教授 (平27. 4)						
52	その他	准教授	ホービー ニコラス BOVEE Nicholas ＜令和8年4月＞		Ph. D (教育工学)		Listening & Speaking I Four Skills I Four Skills II Domestic Job Training Business English A Business English B TOEIC Basic A TOEIC Basic B		1前 1①・④ 1②・③ 1後 1③ 1④ 1① 1②	2 2 2 4 1 1 1 1	2 2 2 1 1 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 准教授 (平20. 4)						
53	その他	准教授	オダグチ ショウイチ 大藪 修一 ＜令和8年4月＞		博士 (学校教育学)		Reading & Writing I Reading & Writing II グローバルコミュニケーション		1前 1後 4前	5 5 2	5 5 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 准教授 (平18. 4)						
54	その他	講師	スミタ ヤスキ 隅田 康明 ＜令和8年4月＞		博士 (情報科学)		プログラミング入門 プログラミング基礎Ⅰ		1前 1後	2 2	1 1	九州産業大学 理工学部 講師 (令2. 4)						
55	その他	講師	サダカハ アツオ 貞方 敦雄 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)		融合理工学導入 融合理工学基礎A 融合理工学基礎B 融合理工学応用A 融合理工学応用B 融合プロジェクトⅠ 融合プロジェクトⅡ 融合プロジェクトⅢ		1休 1③ 1④ 2① 2② 2③ 2④ 3通	1 1 1 1 1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州産業大学 理工学部 講師 (平29. 4)						
56	その他	講師	アベ ヒロシ 青木 幹太 ＜令和8年4月＞		博士 (芸術工学)		デザイン思考 デザインエンジニアリング 人間中心設計 プロダクトデザイン基礎 プロダクトデザイン演習 実践クロス演習	○	1前 1後 1④ 2① 2② 1後	2 2 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	九州産業大学 非常勤講師 (令6. 4)						
57	その他	講師	オオタ ノブヒコ 大田 暢彦 ＜令和9年4月＞		博士 (工学)		品質管理Ⅰ 品質管理Ⅱ	○	2前 2後	2 2	1 1	株式会社安川 電機 シニアスタッ フ (令7. 3)						
58	その他	講師	イノグチ マサヒコ 井口 正彦 ＜令和9年4月＞		学士 (芸術)		コンピュータグラフィックス基礎 コンピュータグラフィックス応用		2後 3前	2 2	1 1	有限会社ミス ターシージー 代表取締役 (平16. 7)						
59	その他	講師	サカツネ トモヒロ 追坪 知広 ＜令和9年4月＞		修士 (芸術工学)		ユニバーサルデザイン論		2前	2	1	九州大学芸術 工学研究院 助教 (平28. 8)						
60	その他	講師	クサノ(サカサネ) ユリコ 桑野(坂崎) 優子 ＜令和9年4月＞		高等学校卒		色彩学		2前	2	1	一般社団法人 日本カラープ ランニング協 会 代表理事 (平25. 5)						
61	その他	講師	キンジヨウ トシタル 金城 俊輝 ＜令和9年4月＞		博士 (数理学)		線形代数Ⅱ		2後	2	1	九州大学 数 理学研究院 学術研究員 (令4. 4)						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の基幹教員として の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
62	その他	講師	イトリ コウセイ 伊藤 晃生 ＜令和9年4月＞		修士 (芸術)		WEBデザイン アプリデザイン		2① 2②	1 1	1 1	青藍デザイン 事務所 代表 (令3.4)						
63	その他	講師	ヤマシタ ジュンジ 山下 淳司 ＜令和8年4月＞		修士 (経営学)		ビジネス開発入門 ベンチャービジネス論		1前 2前	2 2	1 1	九州産業大学 商学部 教授 (令7.4)						
64	その他	講師	モリ ナオキ 森 直樹 ＜令和8年4月＞		学士 (芸術)		メディアアート		1④	1	1	合同会社サ ニースアイド ストリート 代表社員 (令3.11)						
65	その他	講師	ヒラタ タケシ 平田 武志 ＜令和8年4月＞		学士 (商学)		映像表現		1④	1	1	株式会社 Lab.75IHROS IMAフクオカ事 業部ブランチ マネージャー (令3.8)						
66	その他	講師	テラシタ ヒロシ 寺下 裕俊 ＜令和9年4月＞		Ph. D (Physics) (米国)		科学実験	○	2前	2	1	九州産業大学 非常勤講師 (平25.4)						
67	その他	講師	オオバ 慎一 大坪 慎一 ＜令和9年4月＞		博士 (理学)		科学実験	○	2前	2	1	九州産業大学 非常勤講師 (令5.4)						
68	その他	講師	コバヤシ ミノル 小林 稔 ＜令和10年4月＞		博士 (工学)		技術経営論		3・4前	2	1	福岡工業大学 情報工学部 教授 (平26.4)						
69	その他	講師	ヤナギタ シノブ 柳田 志学 ＜令和10年4月＞		修士 (学術)		国際経営戦略論		3・4前	2	1	九州産業大学 商学部 准教授 (令7.4)						
70	その他	講師	イハシ イチロウ 石橋 一郎 ＜令和9年4月＞		工学士		知的財産権		2前	2	1	北九州市立大 学環境技術研 究所 特任教授 (令5.4)						
71	その他	講師	ヨシハラ サクラ 吉原 さくら ＜令和10年4月＞		修士 (政策・メ ディア)		キャリア形成戦略		3後	4	2	日本経済大学 経済学部 教授 (平31.4)						
72	その他	講師	サカイ トフミ 阪井 俊文 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)		ジェンダーと社会A ジェンダーと社会B		1①・③ 1②・④	4 4	4 4	九州産業大学 非常勤講師 (平26.4)						
73	その他	講師	トミタカ アキ 富永 明子 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)※		ジェンダーと社会A ジェンダーと社会B		1③ 1④	2 2	2 2	西日本短期大 学保育学科 教授 (平28.4)						
74	その他	講師	アノカワ トモヒト 案浦 知仁 ＜令和8年4月＞		修士 (スポーツ健 康科学)		スポーツ科学演習A スポーツ科学演習B		1①・③ 1②・④	3 3	3 3	日本経済大学 経済学部 准教授 (令6.4)						
75	その他	講師	サカグチ コウジ 貞方 浩二 ＜令和8年4月＞		修士 (スポーツ健 康科学)		スポーツ科学演習A スポーツ科学演習B		1①・③ 1②・④	3 3	3 3	株式会社エフ リード 代表取締役 (令2.11)						
76	その他	講師	ヤマモト コウジ 山本 浩二 ＜令和8年4月＞		修士 (人間環境学)		スポーツ科学演習A スポーツ科学演習B		1①・③ 1②・④	4 4	4 4	北九州市立大 学地域創生学 群 准教授 (平26.4)						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の基幹教員として の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
77	その他	講師	サイトウ アキラ 齋藤 輝 ＜令和8年4月＞		博士 （教育学）		スポーツ科学演習A スポーツ科学演習B 心と身体の健康A 心と身体の健康B		1①・③ 1②・④ 1③ 1④	10 10 1 1	10 10 1 1	九州産業大学 健康・スポー ツ科学セン ター 講師 （令2.4）						
78	その他	講師	モリマ（イノエ） ナミ 元嶋（井上） 菜美香 ＜令和8年4月＞		博士 （人間環境学）		スポーツ科学演習A スポーツ科学演習B 心と身体の健康A 心と身体の健康B		1①・③ 1②・④ 1③ 1④	10 10 1 1	10 10 1 1	九州産業大学 健康・スポー ツ科学セン ター 講師 （令3.4）						
79	その他	講師	カクタ コミツ 角田 佳充 ＜令和8年4月＞		博士 （理学）		科学の世界A 科学の世界B		1①・③ 1②・④	7 7	7 7	九州大学農学 研究院 教授 （平13.10）						
80	その他	講師	トノベキ（マタノ） アユミ 轟（前田） あゆみ ＜令和8年4月＞		短期大学士 （食物栄養科）		教養講座		1前	2	1	元 九州産業 大学 非常勤講師 （令5.7まで）						
81	その他	講師	クラシ ナノイロ 倉石 治一郎 ＜令和8年4月＞		修士 （安全保障学）		教養講座		1休	2	1	株式会社パソ ナグループ 淡路フロリダ プロジェクト・ジェネラ ルスタッフ （令6.4）						
82	その他	講師	カミモト シュウジ 神本 秀爾 ＜令和8年4月＞		博士 （人間・環境 学）		芸術の世界A 芸術の世界B		1③・休 1④・休	2 2	2 2	久留米大学文 学部 教授 （令5.10）						
83	その他	講師	アサハラ タロウ 朝倉 拓郎 ＜令和8年4月＞		博士 （法学）		現代の政治A 現代の政治B		1①・③ 1②・④	3 3	3 3	九州産業大学 非常勤講師 （平20.4）						
84	その他	講師	カマタ アツシ 鎌田 厚志 ＜令和8年4月＞		修士 （法学）※		現代の政治A 現代の政治B		1①・③ 1②・④	4 4	4 4	九州産業大学 非常勤講師 （平30.4）						
85	その他	講師	カワミ コウヘイ 川上 耕平 ＜令和8年4月＞		修士 （法学）※		現代の政治A 現代の政治B		1①・③ 1②・④	3 3	3 3	九州産業大学 非常勤講師 （平19.4）						
86	その他	講師	モリミ アサコ 森實 麻子 ＜令和8年4月＞		修士 （比較社会文 化）※		現代の政治A 現代の政治B		1①・③ 1②・④	3 3	3 3	玉石重機株式 会社 監査役 （平22.1）						
87	その他	講師	イジノツツ 李 鍾成 ＜令和8年4月＞		博士 （法学）		現代の政治A 現代の政治B 日本の政治経済Ⅰ A 日本の政治経済Ⅰ B 日本の政治経済Ⅱ A 日本の政治経済Ⅱ B		1①・③ 1②・④ 1① 1② 1③ 1④	4 4 1 1 1 1	4 4 1 1 1 1	九州産業大学 非常勤講師 （令4.4）						
88	その他	講師	ハラタチ ユイ 原口 唯 ＜令和8年4月＞		修士 （デザインス トラテジー）		実践クロス講座		1前	2	1	株式会社YOU1 代表取締役 （平29.5）						
89	その他	講師	タナカ イロハ 田坂 逸朗 ＜令和8年4月＞		修士 （学術）		実践クロス講座 実践クロス演習		1後 1後	2 2	1 1	一般社団法人 地域価値共創 センター 理事 （令1.7）						
90	その他	講師	サエキ カズヒロ 佐伯 和広 ＜令和8年4月＞		専門学校卒		実践力育成演習		1後	2	1	株式会社QInet YOKAプロ部 AI事業グルー プ長 （令4.4）						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の 基 幹 教 員 と し て の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
91	その他	講師	ウチハラ ナカマサ 築地原 永昌 ＜令和8年4月＞		高等学校卒		実践力育成演習		1後	2	1	株式会社QTnet 技術統括部 計画グループ 副長 (令3.7)						
92	その他	講師	コザイ トモカズ 古財 朋和 ＜令和8年4月＞		経済学士		実践力育成演習		1後	2	1	古財土地家屋 調査士事務所 ・行政書士古 財事務所代表 (平29.1)						
93	その他	講師	スヤマ ユキ 栗山 優希 ＜令和9年4月＞		修士 (文学)※		実用国語（伝達力）		2前・後	10	5	九州外国語学 院 非常勤講師 (平26.1)						
94	その他	講師	ウチダ トモコ 内田 友子 ＜令和8年4月＞		修士 (比較社会文 学)※		実用国語（文章力）		1前・後	4	2	九州産業大学 非常勤講師 (平19.4)						
95	その他	講師	キョウ ナオヨ 桐生 直代 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)※		実用国語（文章力）		1前・後	4	2	福岡女子短期 大学文化教養 学科 教授 (平30.4)						
96	その他	講師	ニシ(カリサキ) ヨシ 西（川崎） 莊保 ＜令和8年4月＞		文学修士 (各国文学)※		実用国語（文章力）		1前・後	10	5	九州産業大学 非常勤講師 (平26.4)						
97	その他	講師	ヒルスマ イ 蛭沼 芽衣 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)		実用国語（文章力）		1前・後	4	2	九州大学人文 科学研究院 助教 (平31.4)						
98	その他	講師	マエダ エミ 前田 恵美 ＜令和8年4月＞		修士 (比較社会文 化)		実用国語（文章力）		1前・後	12	6	九州産業大学 非常勤講師 (令5.4)						
99	その他	講師	ヤマシタ カズヒロ 山下 和弘 ＜令和8年4月＞		文学修士		実用国語（文章力）		1前・後	4	2	九州産業大学 非常勤講師 (平31.4)						
100	その他	講師	ワタナベ ケンエイ (ヒデオ) 渡辺 玄英（英雄） ＜令和8年4月＞		仏教学士		実用国語（文章力）		1前・後	10	5	文筆業 (平16.4)						
101	その他	講師	オオカワ ナナキ 大川内 夏樹 ＜令和8年4月＞		博士 (文学)		実用国語（文章力）		1前・後	4	2	元 九州共立 大学スポーツ 学部 講師 (令7.3まで)						
102	その他	講師	サカイ ノブコ 坂井 伸子 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)		実用国語（文章力） 実践クロス講座 人文科学の世界		1前・後 1休 1前・後	6 2 4	3 1 2	九州産業大学 非常勤講師 (令3.4)						
103	その他	講師	イヨリ ヒロミ 井科 洋美 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)		実用国語（文章力） 一般日本事情ⅠA 一般日本事情ⅠB 一般日本事情ⅡA 一般日本事情ⅡB		1前・後 1① 1② 1③ 1④	6 1 1 1 1	3 1 1 1 1	元 九州産業 大学 非常勤講師 (令4.7まで)						
104	その他	講師	キト ヒロキ 城戸 浩章 ＜令和8年4月＞		博士 (数理学)		実用数学（計算力）A 実用数学（計算力）B		1①・③ 1②・④	6 6	6 6	九州産業大学 非常勤講師 (令5.4)						
105	その他	講師	クモト サトル 隈本 寛 ＜令和8年4月＞		理学修士※		実用数学（計算力）A 実用数学（計算力）B		1①・③ 1②・④	6 6	6 6	北九州市立大 学経済学部 教授 (平5.4)						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
106	その他	講師	サトリ 勉ユキ 佐藤 貴之 ＜令和8年4月＞		博士 （情報科学）		実用数学（計算力）A 実用数学（計算力）B		1①・③ 1②・④	6 6	6 6	北九州市立大 学 基礎教育 センター 教授 （平21.4）						
107	その他	講師	ウチハヤシ トシヒロ 内林 俊洋 ＜令和8年4月＞		博士 （情報科学）		実用数学（計算力）A 実用数学（計算力）B		1③ 1④	2 2	2 2	九州大学情報 基礎研究開発 センター 准教授 （令2.4）						
108	その他	講師	オモタカ カズヒロ 大枝 和浩 ＜令和8年4月＞		博士 （理学）		実用数学（計算力）A 実用数学（計算力）B くらしの中の数学A くらしの中の数学B		1①・③ 1②・④ 1①・③ 1②・④	6 6 8 8	6 6 8 8	九州産業大学 基礎教育セン ター 講師 （平30.4）						
109	その他	講師	ハヤシ マサキ 林 政喜 ＜令和8年4月＞		博士 （情報科学）		実用数学（計算力）A 実用数学（計算力）B 実用数学（活用力） AI導入 プログラミング導入		1①・③ 1②・④ 2①・②・③・④ 1③・④ 1①・②・③・④	3 3 4 2 9	3 3 4 2 9	九州産業大学 基礎教育セン ター 講師 （平23.4）						
110	その他	講師	ハラダ ユウ 原田 優 ＜令和8年4月＞		修士 （心理）		心理学の世界A 心理学の世界B		1①・③ 1②・④	3 3	3 3	臨床心理 i NEXT 研究員 （令6.4）						
111	その他	講師	タカヅ ミホ 高松 美保子 ＜令和8年4月＞		学士 （文学）		人権・同和問題A 人権・同和問題B		1①・③ 1②・④	4 4	4 4	九州産業大学 非常勤講師 （令6.4）						
112	その他	講師	サダナガ マス 貞永 靖 ＜令和8年4月＞		芸術修士		人権・同和問題A 人権・同和問題B		1① 1②	4 4	4 4	田川市教育委 員会 学校教 育課 生徒指導ス タッフ （令6.4）						
113	その他	講師	イノリ タカヤ 磯野 拓也 ＜令和8年4月＞		Associate's degree Arts and Science （米国）		人文科学の世界		1前	12	6	有限会社久和 取締役 （平20.10）						
114	その他	講師	ノダ トオル 野田 徹 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）		世界の歴史A 世界の歴史B		1① 1②	2 2	2 2	九州産業大学 非常勤講師 （平16.4）						
115	その他	講師	マツオ トシコ 松尾 登史子 ＜令和8年4月＞		哲学修士 （ギリシア）※		世界の歴史A 世界の歴史B		1① 1②	2 2	2 2	九州産業大学 非常勤講師 （平23.4）						
116	その他	講師	クバ ケン 久芳 崇 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		世界の歴史A 世界の歴史B		1③ 1④	2 2	2 2	九州産業大学 非常勤講師 （平24.4）						
117	その他	講師	タカハシ ナオキ 高橋 直樹 ＜令和8年4月＞		博士 （農学）		生物の世界A 生物の世界B		1① 1②	4 4	4 4	九州大学総合 研究博物館 専門研究員 （平30.4）						
118	その他	講師	カシワザ タカヒロ 梶原 忠裕 ＜令和8年4月＞		修士 （理学）※		地球環境A 地球環境B		1①・③ 1②・④	5 5	5 5	九州産業大学 非常勤講師 （平24.4）						
119	その他	講師	トクノヨリ シンジ 棟上 俊二 ＜令和8年4月＞		博士 （理学）		地球環境A 地球環境B		1①・③ 1②・④	2 2	2 2	福岡教育大学 教育学部 教授 （平11.4）						
120	その他	講師	オダ ケイイチ 方 大年 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		地理の世界A 地理の世界B		1①・③ 1②・④	6 6	6 6	株式会社SRK 代表取締役 （平23.11）						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調査 番号	教員 区分	職 位	フリガナ 氏 名 ＜就任（予定）年月＞	年 齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の 基 幹 教 員 と し て の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
121	その他	講 師	クニシ ミチカ 國越 道貴 ＜令和8年4月＞		博士 (文学)		哲学の世界A 哲学の世界B		1①・③ 1②・④	6 6	6 6	九州産業大学 非常勤講師 (平31.4)						
122	その他	講 師	コハ トオル 古賀 徹 ＜令和8年4月＞		博士 (文学)		哲学の世界A 哲学の世界B		1① 1②	2 2	2 2	九州大学芸術 工学研究院 教授 (平9.4)						
123	その他	講 師	ゴトリ マリコ 後藤 真理子 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)※		哲学の世界A 哲学の世界B		1① 1②	3 3	3 3	九州大学人文 科学研究院 専門研究員 (令4.4)						
124	その他	講 師	ハラダ サトシ 原田 諭 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)		日本の歴史A 日本の歴史B		1① 1②	5 5	5 5	福岡市経済観 光文化局博物 館市史欄さん 室 職員 (平18.4)						
125	その他	講 師	シロタ ケンタロウ 城下 健太郎 ＜令和8年4月＞		博士 (法学)		日本国憲法A 日本国憲法B		1①・③ 1②・④	4 4	4 4	九州大学大学 院法学研究院 協力研究員 (平29.4)						
126	その他	講 師	ヒガチ カズミ 樋口 和美 ＜令和8年4月＞		修士 (教育学)		美学・美術史A 美学・美術史B		1①・③ 1②・④	2 2	2 2	福岡女子短期 大学子ども学 科 教授 (平30.4)						
127	その他	講 師	タカノ セイジ 高野 誠司 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)※		文化人類学A 文化人類学B		1①・③ 1②・④	4 4	4 4	九州産業大学 非常勤講師 (平14.4)						
128	その他	講 師	ナリエ シゲロウ 成末 繁郎 ＜令和8年4月＞		修士 (教育学)		文化人類学A 文化人類学B		1①・③ 1②・④	3 3	3 3	九州産業大学 非常勤講師 (平11.4)						
129	その他	講 師	オハベ ケンシ 大場 健司 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)		文学の世界A 文学の世界B		1①・③ 1②・④	2 2	2 2	九州女子大学 人間科学部心 理・文化学科 専任講師 (令6.4)						
130	その他	講 師	ニシタ カオル 西谷 郁 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)		文学の世界A 文学の世界B		1①・③ 1②・④	2 2	2 2	九州産業大学 非常勤講師 (平30.4)						
131	その他	講 師	オハタ ミサキ 大谷 美咲 ＜令和8年4月＞		修士 (法学)		法学A 法学B		1①・③ 1②・④	3 3	3 3	西日本短期大 学 ビジネス法学 科 教授 (令3.4)						
132	その他	講 師	キサダ ユウ 岸田 優 ＜令和8年4月＞		修士 (法学)※		法学A 法学B		1① 1②	2 2	2 2	西日本短期大 学ビジネス法 学科 准教授 (平31.4)						
133	その他	講 師	サカガチ シゲユキ 坂口 滋行 ＜令和8年4月＞		法務博士 (専門職)		法学A 法学B		1① 1②	1 1	1 1	坂口繁和法律 事務所 弁護士 (平26.1)						
134	その他	講 師	ナカシマ カズヨシ 中島 一能 ＜令和8年4月＞		修士 (法学)※		法学A 法学B		1① 1②	2 2	2 2	福岡大学法曹 実務研究科 助手 (平19.4)						
135	その他	講 師	ヤマサキ シンジ 山崎 淳司 ＜令和8年4月＞		修士 (法学)※		法学A 法学B		1①・③ 1②・④	2 2	2 2	九州産業大学 非常勤講師 (平27.4)						
136	その他	講 師	ゴトリ ヒロシ 後藤 浩士 ＜令和8年4月＞		博 士 (法学)		法学A 法学B		1③ 1④	2 2	2 2	九州共立大学 経済学部 准教授 (令4.4)						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の 基 幹 教 員 と し て の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
137	その他	講師	ナカム キキス 中村 公泰 ＜令和10年4月＞		Master of Arts (英国)		English Expressions A English Expressions B		3① 3②	1 1	1 1	福岡美術学院 非常勤講師 (令2.4)						
138	その他	講師	アリセア ケビン Alicea Kevin ＜令和8年4月＞		Master of Education (米国)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	3 3 3	3 3 3	九州産業大学 非常勤講師 (平24.4)						
139	その他	講師	ドン ジョイス Dong Joyce ＜令和8年4月＞		修士 (国際関係)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	3 3 2	3 3 2	九州産業大学 非常勤講師 (令4.4)						
140	その他	講師	ジョイス リンダ Joyce Linda ＜令和8年4月＞		Master of Science in Education (米国)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	2 2 2	2 2 2	福岡女子大学 非常勤講師 (平30.4)						
141	その他	講師	ギブソン アーロン レバン Gibson Aaron Le Van ＜令和8年4月＞		Masters of Education (米国)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	1 1 2	1 1 2	九州産業大学 非常勤講師 (平29.4)						
142	その他	講師	メイクト クリスマン 明門 クリスマン ＜令和8年4月＞		修士 (アジア太平 洋学)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	2 2 1	2 2 1	九州産業大学 非常勤講師 (平29.4)						
143	その他	講師	ホワイト ケビン アンダーソン White Kevin Anderson ＜令和8年4月＞		Master of Arts TESOL (英国)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	2 2 2	2 2 2	九州産業大学 非常勤講師 (平27.9)						
144	その他	講師	トンプソン ジェームス Thompson James ＜令和8年4月＞		Master of Education (米国)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	2 2 2	2 2 2	九州産業大学 非常勤講師 (平26.4)						
145	その他	講師	シャレス シェイン Shalles Shane ＜令和8年4月＞		Master of Applied Linguistics (臺灣)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	2 2 1	2 2 1	九州産業大学 非常勤講師 (平27.9)						
146	その他	講師	パラーノ ジェイ Palarino Jay ＜令和8年4月＞		Master of Arts in Applied Linguistics (英国)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	2 2 2	2 2 2	九州産業大学 非常勤講師 (令5.4)						
147	その他	講師	ボストン ジェレミー Boston Jeremy ＜令和8年4月＞		Doctor of Education (英国)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	3 3 2	3 3 2	福岡大学 非常勤講師 (令3.4)						
148	その他	講師	ステファン フォード Stephen Ford ＜令和8年4月＞		Master of Teaching (英国)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	2 2 1	2 2 1	九州産業大学 非常勤講師 (令4.4)						
149	その他	講師	ナット マーティン トマス Nutt Martin Thomas ＜令和8年4月＞		Master of Arts (英国)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	3 3 2	3 3 2	九州産業大学 非常勤講師 (平29.9)						
150	その他	講師	ラフェブ シャン Lefebvre Shannon ＜令和8年4月＞		Masters of Business Administrati on (MBA) (臺灣)※		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	3 3 2	3 3 2	長崎国際大学 非常勤講師 (平28.4)						
151	その他	講師	デビッド スチュワート David Stewart ＜令和8年4月＞		Bachelor of Arts (ニュージー ランド)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	1 1 1	1 1 1	九州産業大学 非常勤講師 (令6.4)						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の 基 幹 教 員 と し て の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
152	その他	講師	デルピノ ダヴィット アンリ モリス Delpiano David Henri Maurice ＜令和8年4月＞		FLE (仏)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	2 2 2	2 2 2	株式会社EQWEL 英語教師 (平26.9)						
153	その他	講師	ズロ ウィリアム Zullo William ＜令和8年4月＞		Master of Arts Applied Linguistics (カナダ)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	2 2 2	2 2 2	九州産業大学 非常勤講師 (令6.4)						
154	その他	講師	マイヤーズ カネムラ フィオナ Myers Kanemura Fiona ＜令和8年4月＞		Master of Arts (米国)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	1 1 1	1 1 1	九州産業大学 非常勤講師 (令7.4)						
155	その他	講師	フェラーリ ロジャー Ferrari Roger ＜令和8年4月＞		Master of Science (英国)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	2 2 2	2 2 2	元 ノートル ダム清心女子 大学附属小学 校 非常勤講師 (令7.3まで)						
156	その他	講師	ローレス トレバラー アレクサンダー Lawless Trevor Alexander ＜令和8年4月＞		Bachelor of Business (豪州)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	2 2 1	2 2 1	元 西南学院 小学校 非常勤講師 (令7.3まで)						
157	その他	講師	ウルフソン ジェフリー Wolfson Geoffrey ＜令和8年4月＞		Bachelor of Fine Arts (米国)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III		1前 1後 2前	2 2 2	2 2 2	九州産業大学 非常勤講師 (令7.4)						
158	その他	講師	ホロウェイ グレゴリー Holloway Gregory ＜令和8年4月＞		Master of Arts (英国)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III Listening & Speaking IV		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	九州産業大学 非常勤講師 (令2.4)						
159	その他	講師	バルマン レズキ Balman Rezky ＜令和8年4月＞		Master of Applied Linguistics (豪州)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III Listening & Speaking IV		1前 1後 2前 2後	1 1 2 1	1 1 2 1	九州産業大学 非常勤講師 (令3.4)						
160	その他	講師	ヒラシマ オラ マティナ Hirashima Orla Martina ＜令和8年4月＞		Bachelor of Arts Honors (アイルランド)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III Listening & Speaking IV		1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	2 2 1 1	九州産業大学 非常勤講師 (平21.4)						
161	その他	講師	パトリシア ブラウン Patricia Brown ＜令和8年4月＞		学士 (文学)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III Listening & Speaking IV		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	九州産業大学 非常勤講師 (令2.4)						
162	その他	講師	ヒギンズ エドモンド フェッセンデン Higgins Edmund Fessenden ＜令和8年4月＞		Master of Science in Education (米国)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III Listening & Speaking IV		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	エルフ英会話 スクール 講師 (令5.12)						
163	その他	講師	テイラー サミュエル TAYLOR Samuel ＜令和8年4月＞		MA TESOL (英国)		Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking IV Overseas Job Training English Pronunciation A English Pronunciation B		1前 1後 2後 1後 1① 1②	3 3 1 4 1 1	3 3 1 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 (平29.4)						
164	その他	講師	モーガン マリヤニラ Morgan Maryanila ＜令和9年4月＞		Master of Arts in Education (フィリピン)		Listening & Speaking III Listening & Speaking IV		2前 2後	3 2	3 2	九州産業大学 非常勤講師 (令6.4)						
165	その他	講師	カール ペイジ Carl Page ＜令和9年4月＞		Bachelor of Arts (米国)		Listening & Speaking III Listening & Speaking IV		2前 2後	2 1	2 1	九州産業大学 非常勤講師 (令4.4)						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の 基 幹 教 員 と し て の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
166	その他	講師	ベラデー トマス Velardi Thomas ＜令和9年4月＞		Master of Education (米国)		Listening & SpeakingⅣ		2後	1	1	九州産業大学 非常勤講師 (平27.4)						
167	その他	講師	デーヴィス マックス Davies Max ＜令和9年4月＞		Bachelor of Science, Internet Technology (豪州)		Listening & SpeakingⅣ		2後	1	1	九州産業大学 非常勤講師 (平27.4)						
168	その他	講師	チヤ トモキ 土屋 智行 ＜令和8年4月＞		博士 (人間・環境 学)		Reading & WritingⅠ Reading & WritingⅡ		1前 1後	2 2	2 2	九州大学言語 文化研究院 准教授 (令3.4)						
169	その他	講師	カマダ ヒロミ 鎌田 裕文 ＜令和8年4月＞		修士 (国際社会文 化)※		Reading & WritingⅠ Reading & WritingⅡ English Expressions A English Expressions B		1前 1前 3①・③ 3②・④	1 1 2 2	1 1 2 2	九州産業大学 非常勤講師 (平7.4)						
170	その他	講師	クハル アレクセイ KUKHARUK Alexey ＜令和8年4月＞		Ph. D in Instructional Design (英国)		Reading & WritingⅠ Reading & WritingⅡ Listening & SpeakingⅠ Listening & SpeakingⅡ Listening & SpeakingⅢ Four SkillsⅠ Four SkillsⅡ Writing Focus A Writing Focus B TOEIC Basic A TOEIC Basic B		1前 1後 1前 1後 2前 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④	2 2 5 5 2 1 1 1 1 1 1	2 2 5 5 2 1 1 1 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 (平28.4)						
171	その他	講師	ミッチェル タイラー MITCHELL Tyler ＜令和8年4月＞		Master of Education Teaching English Learners(米 国)		Reading & WritingⅠ Reading & WritingⅡ Listening & SpeakingⅠ Listening & SpeakingⅡ Listening & SpeakingⅢ Listening & SpeakingⅣ Four SkillsⅠ Four SkillsⅡ Business English A Business English B TOEIC Basic A TOEIC Basic B		1前 1後 1前 1後 2前 2後 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④	2 2 4 4 3 1 1 1 1 1 1 1	2 2 4 4 3 1 1 1 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 (令2.4)						
172	その他	講師	オハベ アサ 大場 明日香 ＜令和8年4月＞		Master of Arts (英国)		Reading & WritingⅠ Reading & WritingⅡ Reading & WritingⅢ		1前 1後 2前	3 2 1	3 2 1	九州産業大学 非常勤講師 (令5.4)						
173	その他	講師	ワタナベ カエ 渡邊 香苗 ＜令和8年4月＞		修士 (経営)※		Reading & WritingⅠ Reading & WritingⅡ Reading & WritingⅢ		1前 1後 2前	2 2 1	2 2 1	九州産業大学 非常勤講師 (令2.4)						
174	その他	講師	カワミ カズヤ 川浪 一也 ＜令和8年4月＞		Master of Arts (米国)		Reading & WritingⅠ Reading & WritingⅡ Reading & WritingⅢ		1前 1後 2前	1 1 1	1 1 1	九州産業大学 非常勤講師 (令7.4)						
175	その他	講師	イワキ ユキ 岩崎 悠葵 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)		Reading & WritingⅠ Reading & WritingⅡ Reading & WritingⅢ		1前 1後 2前	1 1 2	1 1 2	九州産業大学 非常勤講師 (令6.4)						
176	その他	講師	カシヨウジ 空閑 洋始 ＜令和8年4月＞		Master of Advanced Translation and Interpreting Studies(豪 州)		Reading & WritingⅠ Reading & WritingⅡ Reading & WritingⅢ		1前 1後 2前	2 2 2	2 2 2	九州産業大学 非常勤講師 (令5.4)						
177	その他	講師	ワタナベ アキコ 渡部 明子 ＜令和8年4月＞		Doctor of Philosophy (米国)		Reading & WritingⅠ Reading & WritingⅡ Reading & WritingⅢ		1前 1後 2前	2 2 1	2 2 1	九州産業大学 非常勤講師 (平31.4)						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の 基 幹 教 員 と し て の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
178	その他	講師	ヒラキ キミ 平川 公子 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)※		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III		1前 1後 2前	3 3 2	3 3 2	九州産業大学 非常勤講師 (平31.4)						
179	その他	講師	ヤカベ アカリ 矢ヶ部 あかり ＜令和8年4月＞		博士 (文学)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III		1前 1後 2前	2 2 1	2 2 1	九州産業大学 非常勤講師 (平31.4)						
180	その他	講師	モリ ミホ 毛利 美穂子 ＜令和8年4月＞		修士 (英語学)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III		1前 1後 2前	2 2 2	2 2 2	久留米大学 非常勤講師 (令5.4)						
181	その他	講師	ノカ アンディ(アキコ) 野中 アンディ(昭彦) ＜令和8年4月＞		博士 (文学)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III		1前 1後 2前	1 1 2	1 1 2	株式会社コム スキル 代表取締役 (平28.4)						
182	その他	講師	ナカマ ナミ 中山 奈美 ＜令和8年4月＞		Master of Education (米国)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III		1前 1後 2前	2 2 2	2 2 2	九州産業大学 非常勤講師 (平19.4)						
183	その他	講師	オキ ユウコ 沖 洋子 ＜令和8年4月＞		Master of Arts (英国)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III		1前 1後 2前	3 3 2	3 3 2	九州産業大学 非常勤講師 (平21.4)						
184	その他	講師	マツカ ヒロシ 松中 完二 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III		1前 1後 2前	1 1 1	1 1 1	久留米工業大 学 工学部 共通教育科 准教授 (平27.4)						
185	その他	講師	トミタ ミホ 富岡 美穂 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)※		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III		1前 1後 2前	1 1 2	1 1 2	九州産業大学 非常勤講師 (平31.4)						
186	その他	講師	セオ アキ 瀬尾 亜紀 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III		1前 1後 2前	2 2 3	2 2 3	西南学院大学 非常勤講師 (令3.4)						
187	その他	講師	オギノ ナルミ 黄木 成美 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III		1前 1後 2前	1 1 2	1 1 2	九産産業大学 非常勤講師 (令2.4)						
188	その他	講師	オカ トシヲ 岡 俊房 ＜令和8年4月＞		Ph. D (米国)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III		1前 1後 2前	2 2 1	2 2 1	福岡教育大学 非常勤講師 (令7.4)						
189	その他	講師	ヨシダ アサミ 吉田 一美 ＜令和8年4月＞		教育学修士 (英語教育)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III		1前 1後 2前	2 2 2	2 2 2	九州産業大学 非常勤講師 (令2.4)						
190	その他	講師	マツバラ ルミ 松原 留美 ＜令和8年4月＞		博士 (比較社会文 化)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III		1前 1後 2前	1 1 2	1 1 2	九州女子大学 人間科学部 准教授 (令5.4)						
191	その他	講師	ヲサキ ミケコ 洲上 啓子 ＜令和8年4月＞		修士 (教育)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III		1前 1後 2前	2 1 1	2 1 1	福岡フオリ ン リレーシ ョンズ 派遣職員 (平8.5)						
192	その他	講師	ヨコオ ケイコ 横尾 聡子 ＜令和8年4月＞		Master of Arts (米国)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III English Expressions A English Expressions B		1前 1後 2前 3㉓ 3㉔	1 1 2 1 1	1 1 2 1 1	久留米大学 非常勤講師 (平30.4)						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の基幹教員として の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
193	その他	講師	ワタベ アキコ 渡邊 晶子 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III English Expressions A English Expressions B		1前 1後 2前 3③ 3④	1 2 3 1 1	1 2 3 1 1	中村学園大学 非常勤講師 （平17.4）						
194	その他	講師	シャクター ジョナサン SHACHTER Jonathan ＜令和8年4月＞		修士 （教育学） （英語教授法）		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III English Plus A English Plus B Four Skills I Four Skills II Writing Focus A Writing Focus B TOEIC Basic A TOEIC Basic B		1前 1後 2前 1前 1後 2前 3①・③ 3②・④ 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④	2 2 1 3 4 1 2 2 1 1 1 1 1 1	2 2 1 3 4 1 2 2 1 1 1 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 （平30.4）						
195	その他	講師	ジョー ハーディ Joe Hardy ＜令和8年4月＞		Master of Arts （英国）		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III Four Skills I Four Skills II Business English A Business English B TOEIC Basic A TOEIC Basic B		1前 1後 2前 1前 1後 2前 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④	1 1 1 4 5 4 1 1 1 1 1 1	1 1 1 4 5 4 1 1 1 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 （令7.4）						
196	その他	講師	アロン パスマア Arron Passmore ＜令和8年4月＞		MEd Applied Linguistics （英国）		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III Four Skills I Four Skills II Global Perspectives A Global Perspectives B Reading Focus A Reading Focus B		1前 1後 2前 1前 1後 2前 1③ 1④ 1① 1② 1③ 1④	2 2 1 3 4 2 1 1 1 1 1 1	2 2 1 3 4 2 1 1 1 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 （平31.4）						
197	その他	講師	ダグナル イアン DAGNALL Ian ＜令和8年4月＞		修士 （TESOL）		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III Four Skills I Four Skills II Reading Focus A Reading Focus B TOEIC Basic A TOEIC Basic B		1前 1後 2前 1前 1後 2前 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④	2 2 1 4 3 4 1 1 1 1 1 1	2 2 1 4 3 4 1 1 1 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 （令4.4）						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の基幹教員として の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
198	その他	講師	ソク パロ SOK Pharo ＜令和8年4月＞		Master of Arts (歴史学) (カナダ)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III Four Skills I Four Skills II Writing Focus A Writing Focus B TOEIC Basic A TOEIC Basic B		1前 1後 2前 1前 1後 2前 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④	2 2 1 4 3 3 1 1 1 1 2 2 2	2 2 1 4 3 3 1 1 1 1 2 2 2	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 (令5.4)						
199	その他	講師	ジョンソン デビッド JOHNSON David ＜令和8年4月＞		MA TESOL (英国)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III Four Skills I Four Skills II Writing Focus A Writing Focus B TOEIC Basic A TOEIC Basic B		1前 1後 2前 1前 1後 2前 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④	2 2 1 5 3 1 1 1 1 1 1 1 1	2 2 1 5 3 3 1 1 1 1 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 (平28.4)						
200	その他	講師	ホランド トーマス HOLLAND Thomas ＜令和8年4月＞		Master of Arts (米国)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III Listening & Speaking IV Four Skills I Four Skills II Business English A Business English B TOEIC Basic A TOEIC Basic B		1前 1後 2前 1前 1後 2前 2後 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④	1 1 2 4 3 4 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 2 4 3 4 1 1 1 1 1 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 (令5.4)						
201	その他	講師	シャム デビス SHUM Davis ＜令和8年4月＞		Master of Education (米国)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III Listening & Speaking IV Four Skills I Four Skills II Business English A Business English B TOEIC Basic A TOEIC Basic B		1前 1後 2前 1前 1後 2前 2後 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④	2 2 1 3 4 3 1 1 1 1 1 1 1 1	2 2 1 3 4 3 1 1 1 1 1 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 (令3.4)						
202	その他	講師	ベイカー マシュー BAKER Matthew ＜令和8年4月＞		MA TEFL/TESL (英国)		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III Listening & Speaking IV Four Skills I Four Skills II Introduction to Translation A Introduction to Translation B TOEIC Basic A TOEIC Basic B		1前 1後 2前 1前 1後 2前 2後 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④	1 1 2 2 2 7 1 1 1 1 1 1 1	1 1 2 2 2 7 1 1 1 1 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 (平28.4)						

教 員 の 氏 名 等																			
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																			
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の基幹教員として の 勤 務 状 況	
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称				
203	その他	講師	マイケル マウリフ Michael McAuliffe ＜令和8年4月＞		MA in English Language Teaching （英国）		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & WritingIII Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & SpeakingIII Listening & SpeakingIV Four Skills I Four Skills II Reading Focus A Reading Focus B TOEIC Basic A TOEIC Basic B		1前 1後 2前 1前 1後 2前 2後 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④	2 2 1 3 4 3 1 1 1 1 1 1 1	2 2 1 3 4 3 1 1 1 1 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 （平31.4）							
204	その他	講師	ハヤシ ハルカ 早瀬 はるか ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & WritingIII Reading & WritingIV		1前 1後 2前 2後	6 7 5 1	6 7 5 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 （令3.4）							
205	その他	講師	ハヤシ レミ 林 麗美 ＜令和8年4月＞		修士 （比較社会文 化）		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & WritingIII Reading & WritingIV		1前 1後 2前 2後	6 4 6 4	6 4 6 4	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 （令6.4）							
206	その他	講師	イノ アサ 磯野 翌加 ＜令和8年4月＞		博士 （言語文化学）		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & WritingIII Reading & WritingIV		1前 1後 2前 2後	5 7 6 2	5 7 6 2	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 （令2.4）							
207	その他	講師	タカ サコ 田中 早代 ＜令和8年4月＞		Master of Education （豪州）		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & WritingIII Reading & WritingIV		1前 1後 2前 2後	4 4 7 5	4 4 7 5	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 （令4.4）							
208	その他	講師	オカ シンタロウ 保家 信太郎 ＜令和8年4月＞		教育学修士		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & WritingIII Reading & WritingIV		1前 1後 2前 2後	2 2 2 1	2 2 2 1	九州産業大学 非常勤講師 （平17.9）							
209	その他	講師	イシ イコ 石井 征子 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）※		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & WritingIII Reading & WritingIV		1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	2 2 1 1	九州産業大学 非常勤講師 （平16.4）							
210	その他	講師	ミミ コウイチロウ 三角 耕一郎 ＜令和8年4月＞		M.A. in TESOL （米国）		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & WritingIII Reading & WritingIV		1前 1後 2前 2後	1 1 2 2	1 1 2 2	K Y スミス株 式会社 代表取締役 （平25.5）							
211	その他	講師	オハベ チコ 大場 智恵子 ＜令和8年4月＞		Master of Education （米国）		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & WritingIII Reading & WritingIV English Expressions A English Expressions B		1前 1後 2前 2後 3③ 3④	2 2 2 1 1 1	2 2 2 1 1 1	九州産業大学 非常勤講師 （平18.4）							
212	その他	講師	タッカー リッチー TUCKER Ritchie ＜令和8年4月＞		Master of Arts （英国）		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & WritingIII Reading & WritingIV Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & SpeakingIII Listening & SpeakingIV Four Skills I Four Skills II Business English A Business English B TOEIC Basic A TOEIC Basic B		1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④ 1③ 1④	1 1 2 1 3 3 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 2 1 3 3 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 （令4.4）							

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の 基 幹 教 員 と し て の 勤 務 状 況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
213	その他	講師	バークー リサ BARKER Lisa ＜令和8年4月＞		修士 （言語学）		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III Reading & Writing IV Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III Listening & Speaking IV Four Skills I Four Skills II Reading Focus A Reading Focus B TOEIC Basic A TOEIC Basic B		1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④	1 1 2 1 2 2 4 3 1 1 1 1 1 1	1 1 2 1 2 2 4 3 1 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 （平30.4）						
214	その他	講師	マシューズ ポール MATTHEWS Paul ＜令和8年4月＞		Master of Arts （英国）		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III Reading & Writing IV Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III Listening & Speaking IV Four Skills I Four Skills II Reading Focus A Reading Focus B TOEIC Basic A TOEIC Basic B		1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1① 1② 1③ 1④ 1③ 1④	1 1 2 1 2 4 2 1 1 1 1 1 1	1 1 2 1 2 4 2 1 1 1 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 （平30.4）						
215	その他	講師	エマーソン ニコラス EMERSON Nicolas ＜令和8年4月＞		Master of Education （英国）		Reading & Writing I Reading & Writing II Reading & Writing III Reading & Writing IV Listening & Speaking I Listening & Speaking II Listening & Speaking III Listening & Speaking IV Four Skills I Four Skills II TOEIC Plus A TOEIC Plus B Writing Focus A Writing Focus B TOEIC Basic A TOEIC Basic B		1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1① 1② 1①・③ 1②・④ 1③ 1④ 1③ 1④	1 1 2 1 2 2 3 2 2 1 1 2 2 1 1 1 1	1 1 2 1 2 2 3 2 1 1 2 2 1 1 1 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 （令4.4）						
216	その他	講師	セキグチ（ワカ） ナツ 関口（我妻） 奈津恵 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）※		Reading & Writing II Reading & Writing IV		1後 2後	1 1	1 1	九州産業大学 非常勤講師 （平27.4）						
217	その他	講師	グレンマ ユミ 郡嶋 由美子 ＜令和9年4月＞		Master of Arts （英国）		Reading & Writing III English Expressions A English Expressions B		2前 3①・③ 3②・④	1 3 3	1 3 3	九州産業大学 非常勤講師 （平20.4）						
218	その他	講師	ミヅ アキ 三瀬 亜紀 ＜令和9年4月＞		修士 （教育学）		Reading & Writing III Reading & Writing IV		2前 2後	4 1	4 1	九州産業大学 非常勤講師 （平30.4）						
219	その他	講師	ワタ ナツミ 尾張 睦 ＜令和8年4月＞		博士 （人間・環境 学）		ドイツ語 I		1前・後	4	4	九州産業大学 非常勤講師 （令4.4）						
220	その他	講師	カク マサキ 古賀 正之 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）※		ドイツ語 I ドイツ語 II		1前・後 1後	5 1	5 1	九州産業大学 非常勤講師 （平3.4）						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の 基 幹 教 員 と し て の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
221	その他	講師	リキ タカハル 脇 崇晴 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ		1前・後 1後	4 1	4 1	九州大学人文 科学研究院 学術研究員 （令6.4）						
222	その他	講師	シノヰキ ハジメ 篠崎 元 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）※		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅲ		1前・後 2前	5 1	5 1	福岡大学 非常勤講師 （平14.4）						
223	その他	講師	シゲタ ヨシエ 重竹 芳江 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		ドイツ語Ⅰ ドイツ語会話Ⅱ		1前・後 1後	3 1	3 1	佐賀大学全学 教育機構 准教授 （平26.10）						
224	その他	講師	ナカハラ アヤ 中原 綾 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）※		ドイツ語Ⅱ ドイツ語会話Ⅰ ドイツ語会話Ⅱ		1前・後 1前 1後	2 1 1	2 1 1	九州産業大学 非常勤講師 （令6.4）						
225	その他	講師	マチン シュトロートホフ Martin Strodthoff ＜令和8年4月＞		Bachelor of Arts （ドイツ）		ドイツ語会話Ⅰ ドイツ語会話Ⅱ		1前・後 1後	5 1	5 1	九州産業大学 非常勤講師 （令6.4）						
226	その他	講師	ミニノ ミイワルド Minino Maiwald ＜令和8年4月＞		学士 （社会科学） （ドイツ）		ドイツ語会話Ⅰ ドイツ語会話Ⅱ		1前・後 1前・後	2 2	2 2	九州産業大学 非常勤講師 （平13.4）						
227	その他	講師	タスコビッチ イェヰツァ Taskovic Ivica ＜令和8年4月＞		Master of Arts （ドイツ）		ドイツ語会話Ⅰ ドイツ語会話Ⅲ ドイツ語会話Ⅳ		1前・後 2前 2後	4 1 1	4 1 1	九州産業大学 非常勤講師 （令4.4）						
228	その他	講師	カワノ アツコ 河野 敦子 ＜令和8年4月＞		文学修士 ※		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ		1前 1後	1 1	1 1	九州産業大学 非常勤講師 （平15.4）						
229	その他	講師	ノモ ミチコ 野母 倫子 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ		1前・後 1後	5 1	5 1	西南学院大学 非常勤講師 （平13.4）						
230	その他	講師	カイ ハルカ 甲斐 春香 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ		1前・後 1後	3 1	3 1	九州大学 非常勤講師 （平25.4）						
231	その他	講師	ヤマト(リカ) タカヨ 山本(和田) 崇代 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）※		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ		1前 1前 2前	1 1 1	1 1 1	九州産業大学 非常勤講師 （平15.4）						
232	その他	講師	ハラタ ユリ 原田 裕里 ＜令和8年4月＞		修士 （比較社会文 化）※		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅳ フランス語会話Ⅰ フランス語会話Ⅱ		1前・後 1後 2後 1前 1後	2 1 1 1 1	2 1 1 1 1	九州産業大学 非常勤講師 （平27.4）						
233	その他	講師	ボシール シャンクロード Beausir Claude ＜令和8年4月＞		文学修士 （仏）		フランス語会話Ⅰ フランス語会話Ⅱ		1前・後 1後	3 1	3 1	福岡大学 非常勤講師 （平29.4）						
234	その他	講師	プ ロー セバステイアン Plaut Se'bastien ＜令和8年4月＞		FLE （仏）		フランス語会話Ⅰ フランス語会話Ⅱ		1前・後 1後	3 1	3 1	九州産業大学 非常勤講師 （平15.4）						
235	その他	講師	トレス ベルナル Torres Bernard ＜令和8年4月＞		FLE （仏）		フランス語会話Ⅰ フランス語会話Ⅱ		1前・後 1後	4 2	4 2	産業能率大学 非常勤講師 （平29.4）						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の基幹教員として の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
236	その他	講師	ガンドリヨン ファビアン Gandrillon Fabien ＜令和8年4月＞		Master in Psychology (仏)		フランス語会話Ⅰ フランス語会話Ⅱ フランス語会話Ⅲ フランス語会話Ⅳ		1前 1前・後 2前 2後	1 2 1 1	1 2 1 1	九州日仏学館 非常勤講師 (平20.1)						
237	その他	講師	チュ リヨン 崔 秀蓮 ＜令和8年4月＞		修士 (音楽)		韓国語Ⅰ		1後	2	2	九州産業大学 非常勤講師 (平27.4)						
238	その他	講師	アン ションジュ 安 游珠 ＜令和8年4月＞		Master of political science (韓国)※		韓国語Ⅰ		1後	3	3	九州産業大学 非常勤講師 (平27.4)						
239	その他	講師	オカワ タイスケ 大川 大輔 ＜令和8年4月＞		博士 (文学) (韓国)		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ		1前 1後	2 2	2 2	九州産業大学 非常勤講師 (平19.4)						
240	その他	講師	シライ ミホ 白岩 美穂 ＜令和8年4月＞		修士 (文学) (韓国)		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ		1前・後 1後	4 2	4 2	九州産業大学 非常勤講師 (平28.4)						
241	その他	講師	バリ スイ 朴 順伊 ＜令和8年4月＞		博士 (文学)		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ		1前・後 1後	4 1	4 1	久留米大学 非常勤講師 (平14.4)						
242	その他	講師	ヒヤマ(リ) アサキ(タイネン) 平山(李) 彩音(大年) ＜令和8年4月＞		博士 (言語)		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ		1前・後 1前・後	4 2	4 2	九州大学 非常勤講師 (平23.4)						
243	その他	講師	イ タヒ 李 多喜 ＜令和8年4月＞		修士 (政策・メ ディア)		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ		1前・後 1後	3 1	3 1	九州産業大学 非常勤講師 (令7.4)						
244	その他	講師	タカキ ノブコ 高木 伸子 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ		1前・後 1前	5 1	5 1	九州産業大学 非常勤講師 (令3.4)						
245	その他	講師	タハタ ミコ 田畑 光子 ＜令和8年4月＞		博士 (文学)		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ		1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	2 2 1 1	九州産業大学 非常勤講師 (令2.4)						
246	その他	講師	イクムシキ 李 今淑 ＜令和8年4月＞		英文文学士		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 韓国語会話Ⅰ		1前・後 1後 1前・後	3 1 2	3 1 2	九州産業大学 非常勤講師 (平29.4)						
247	その他	講師	ホシ ションヒ 洪 鍾燾 ＜令和8年4月＞		修士 (美術教育)		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 韓国語会話Ⅰ		1前・後 1前 1前	4 1 1	4 1 1	九州産業大学 非常勤講師 (平9.4)						
248	その他	講師	リ ション 李 始恩 ＜令和8年4月＞		修士 (教育学)		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 韓国語会話Ⅰ 韓国語会話Ⅱ		1前 1後 1前 1後	2 2 1 1	2 2 1 1	九州産業大学 非常勤講師 (令2.4)						
249	その他	講師	キム キョンヒ 金 京姫 ＜令和8年4月＞		修士 (芸術)※		韓国語Ⅰ 韓国語会話Ⅰ		1前・後 1前・後	2 2	2 2	九州産業大学 非常勤講師 (平24.4)						
250	その他	講師	チョン ミヤン 鄭 美京 ＜令和8年4月＞		博士 (比較文学)		韓国語Ⅰ 韓国語会話Ⅰ 韓国語会話Ⅱ		1前・後 1前・後 1後	3 2 1	3 2 1	九州産業大学 非常勤講師 (平29.4)						
251	その他	講師	シン ホ 申 嬌 ＜令和8年4月＞		修士 (比較社会文 化)		韓国語会話Ⅰ 韓国語会話Ⅱ		1前・後 1後	5 1	5 1	九州産業大学 非常勤講師 (平13.4)						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の 基 幹 教 員 と し て の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
252	その他	講師	ハン キョンア 韓 京我 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)		韓国語会話Ⅰ 韓国語会話Ⅱ		1前・後 1前・後	4 2	4 2	九州産業大学 非常勤講師 (平12.4)						
253	その他	講師	キム ションファ 金 静和 ＜令和8年4月＞		修士 (教育学) (韓国)		韓国語会話Ⅰ 韓国語会話Ⅱ		1前・後 1前・後	4 2	4 2	九州産業大学 非常勤講師 (令3.4)						
254	その他	講師	ヨト・キリ アイリン 淀川 藍凛 ＜令和8年4月＞		修士 (社会学)		韓国語会話Ⅰ 韓国語会話Ⅱ		1前・後 1後	3 1	3 1	九州産業大学 非常勤講師 (令4.4)						
255	その他	講師	カン ヒキ・ヨン 姜 希京 ＜令和8年4月＞		修士 (芸術)		韓国語会話Ⅰ 韓国語会話Ⅱ		1前・後 1前	3 1	3 1	九州産業大学 非常勤講師 (平15.4)						
256	その他	講師	フジ チヨン 藤 知映 ＜令和8年4月＞		修士 (家政学) (韓国)		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 韓国語会話Ⅰ 韓国語会話Ⅱ		1前 1後 1前・後 1後	2 1 2 1	2 1 2 1	九州産業大学 非常勤講師 (平12.4)						
257	その他	講師	キム ファルラン 金 活蘭 ＜令和8年4月＞		修士 (教育学) (韓国)		韓国語Ⅲ 韓国語会話Ⅰ 韓国語会話Ⅱ 韓国語会話Ⅲ 韓国語会話Ⅳ		2前 1前 1後 2前 2後	1 1 1 2 1	1 1 1 2 1	九州産業大学 非常勤講師 (平31.4)						
258	その他	講師	ウド・ウ ショウコ 有働 彰子 ＜令和8年4月＞		博士 (国際文化)		中国語Ⅰ		1前・後	6	6	西南学院大学 非常勤講師 (平17.4)						
259	その他	講師	スギモト(ナカム) チエコ 杉本(中村) 知栄子 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)		中国語Ⅰ		1前・後	6	6	九州産業大学 非常勤講師 (平9.4)						
260	その他	講師	タネムラ ユキコ 種村 由季子 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)※		中国語Ⅰ		1後	6	6	元 九州産業 大学 非常勤講師 (令7.3まで)						
261	その他	講師	チョリ キン 张 欣 ＜令和8年4月＞		修士 (法律)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前・後 1後	5 1	5 1	九州産業大学 非常勤講師 (平23.4)						
262	その他	講師	ジ・ムン キ・ヨリリ 苟 曉崢 ＜令和8年4月＞		修士 (経済学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前・後 1前・後	3 3	3 3	九州産業大学 非常勤講師 (平13.4)						
263	その他	講師	アナム カイ 海村 佳惟 ＜令和8年4月＞		博士 (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前 1後	3 3	3 3	九州産業大学 非常勤講師 (平31.4)						
264	その他	講師	コハ・カヤサ 古賀 崇雅 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前・後 1後	3 2	3 2	九州産業大学 非常勤講師 (平24.4)						
265	その他	講師	ソウ ムカ 宋 宥佳 ＜令和8年4月＞		修士 (語学) (中国)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ		1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	2 2 1 1	九州残業大学 非常勤講師 (平30.4)						
266	その他	講師	チョウ ロ 張 璐 ＜令和8年4月＞		修士 (経済)※		中国語Ⅰ 中国語会話Ⅰ		1前 1前・後	1 4	1 4	九州産業大学 非常勤講師 (平25.4)						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の基幹教員として の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
267	その他	講師	コ コウエイ 顧 紅英 ＜令和8年4月＞		博士 (文学)		中国語Ⅰ 中国語会話Ⅰ 中国語会話Ⅱ		1前 1前 1前	4 1 1	4 1 1	九州産業大学 非常勤講師 (平28.4)						
268	その他	講師	オカム マスミ 岡村 真寿美 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)※		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前 1前・後	1 3	1 3	九州大学 非常勤講師 (平10.4)						
269	その他	講師	オウ シン 王 晨 ＜令和8年4月＞		修士 (経済)※		中国語会話Ⅰ		1前・後	6	6	九州産業大学 非常勤講師 (平25.4)						
270	その他	講師	オウ (ナカミ) シュウリン (トモ) 王(中里見) 秀珍(友子) ＜令和8年4月＞		修士 (文学)※		中国語会話Ⅰ		1前・後	4	4	九州産業大学 非常勤講師 (平17.4)						
271	その他	講師	カワ キンコン 葛 欣燕 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)		中国語会話Ⅰ		1前・後	2	2	福岡大学 非常勤講師 (令7.4)						
272	その他	講師	オウ キョウカ 王 晓芳 ＜令和8年4月＞		修士 (文学) ※		中国語会話Ⅰ 中国語会話Ⅱ		1前・後 1後	4 2	4 2	九州産業大学 非常勤講師 (平11.6)						
273	その他	講師	オウ イクワン 王 毓雯 ＜令和8年4月＞		博士 (文学)		中国語会話Ⅰ 中国語会話Ⅱ		1前 1後	1 1	1 1	九州産業大学 非常勤講師 (令7.4)						
274	その他	講師	リ イェン 李 岩 ＜令和8年4月＞		修士 (経営学)		中国語会話Ⅰ 中国語会話Ⅱ		1前・後 1後	4 2	4 2	九州産業大学 非常勤講師 (平15.4)						
275	その他	講師	アイ ブンテイ 艾 文婷 ＜令和8年4月＞		修士 (学術)※		中国語会話Ⅰ 中国語会話Ⅱ		1前・後 1前	5 1	5 1	九州産業大学 非常勤講師 (令4.4)						
276	その他	講師	チュウ ケイリン 张 景珊 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)		中国語会話Ⅰ 中国語会話Ⅱ		1前・後 1後	3 1	3 1	九州産業大学 非常勤講師 (令4.4)						
277	その他	講師	リ キ 于 佳 ＜令和8年4月＞		博士 (経営学)		中国語会話Ⅰ 中国語会話Ⅱ		1前 1後	3 3	3 3	九州産業大学 非常勤講師 (令5.9)						
278	その他	講師	チン(イノウエ) セイカ 陳(井上) 青鳳 ＜令和8年4月＞		文学博士		中国語会話Ⅰ 中国語会話Ⅱ 中国語会話Ⅲ 中国語会話Ⅳ		1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	2 2 1 1	九州産業大学 非常勤講師 (令6.4)						
279	その他	講師	タケチ ヒロコ 滝内 ひろ子 ＜令和8年4月＞		修士 (言語学)		アカデミック日本語Ⅰ（読む・書く） アカデミック日本語Ⅰ（聞く・話す） アカデミック日本語Ⅱ（聞く・話す） 実践アカデミック日本語（読む・書く） 実践アカデミック日本語（聞く・話す） ビジネス日本語 グローバル日本語		1前 1前 1後 2前 2前 2後 3前	1 4 4 1 2 2 1	1 4 4 1 2 2 1	九州産業大学 語学教育研究 センター 講師 (令3.4)						
280	その他	講師	ゴトリ ノリコ 後藤 典子 ＜令和8年4月＞		学士 (学術)		アカデミック日本語Ⅰ（読む・書く） アカデミック日本語Ⅱ（読む・書く）		1前 1後	3 3	3 3	九州大学 非常勤講師 (平25.4)						
281	その他	講師	タケバナ ナオ 立花 奈央 ＜令和8年4月＞		法学部学士		アカデミック日本語Ⅰ（読む・書く） アカデミック日本語Ⅱ（読む・書く） アカデミック日本語Ⅰ（聞く・話す） アカデミック日本語Ⅱ（聞く・話す）		1前 1後 1前 1後	2 2 1 1	2 2 1 1	九州産業大学 非常勤講師 (平28.4)						

教 員 の 氏 名 等																		
(理工学部 スマートコミュニケーション工学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等 以外の組織（他の 大学等に置かれる 学部等を含む）で の 勤 務 状 況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
282	その他	講師	カサキ チェ 香月 智恵 ＜令和8年4月＞		文学士		アカデミック日本語Ⅰ（読む・書く） アカデミック日本語Ⅱ（読む・書く） アカデミック日本語Ⅰ（聞く・話す） アカデミック日本語Ⅱ（聞く・話す）		1前 1後 1前 1後	1 1 2 2	1 1 2 2	九州産業大学 非常勤講師 （平27.4）						
283	その他	講師	シタ スミ 塩田 寿美子 ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）		アカデミック日本語Ⅰ（読む・書く） アカデミック日本語Ⅱ（読む・書く） 実践アカデミック日本語（読む・書く）		1前 1後 2前	1 2 1	1 2 1	九州産業大学 非常勤講師 （平29.4）						
284	その他	講師	マサダ マサヒコ 増田 正彦 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		アカデミック日本語Ⅰ（聞く・話す） アカデミック日本語Ⅱ（聞く・話す）		1前 1後	2 2	2 2	九州大学人文 科学研究院 学術研究員 （令4.12）						
285	その他	講師	ハタノ マリコ 波多野 真理子 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）※		日本の文化ⅠA 日本の文化ⅠB 日本の文化ⅡA 日本の文化ⅡB		1① 1② 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州産業大学 非常勤講師 （平13.4）						
286	その他	講師	マツキ トシアキ 松木 俊暁 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		日本の歴史ⅠA 日本の歴史ⅠB 日本の歴史ⅡA 日本の歴史ⅡB		1① 1② 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州産業大学 非常勤講師 （平16.4）						
287	その他	助教	フナダ（フキト）エリコ 福田（穂本）枝里子 ＜令和8年4月＞		博士 （工学）		融合理工学導入 融合理工学基礎A 融合理工学基礎B 融合理工学応用A 融合理工学応用B		1休 1③ 1④ 2① 2②	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州産業大学 理工学部 助教 （令2.4）						
288	その他	助教	ミズノ ヒロシ 水野 宏真 ＜令和9年4月＞		博士 （数理学）		微分積分Ⅱ 微分方程式		2前 2後	2 2	1 1	九州産業大学 理工学部 助教 （令6.9）						
289	その他	助教	モリヤマ キヨカ 本山 清喬 ＜令和8年4月＞		博士 （体育学）		スポーツ科学演習A スポーツ科学演習B		1①・③ 1②・④	11 11	11 11	九州産業大学 健康・スポー ツ科学セン ター 助教 （平30.4）						
290	その他	助教	ハマカワ カズヒロ 濱川 和洋 ＜令和8年4月＞		修士 （芸術）		教養講座		1後	2	1	九州産業大学 伝統みらい研 究センター 助教 （平29.4）						

基幹教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	4 人	人	1 人	人	5 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	人	2 人	人	人	人	2 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	1 人	人	人	人	人	人	1 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	1 人	人	6 人	人	1 人	人	8 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	